

第2次白岡市環境基本計画改訂等に  
係るアンケート調査

報告書

令和7年1月

白 岡 市



# 目 次

1. 調査の目的.....	- 1 -
2. 市民アンケート調査.....	- 2 -
2-1 アンケート調査票の作成.....	- 2 -
2-2 アンケート調査票.....	- 2 -
2-3 調査概要.....	- 13 -
2-4 集計結果.....	- 14 -
3. 事業者アンケート調査.....	- 124 -
3-1 アンケート調査票の作成.....	- 124 -
3-2 アンケート調査票.....	- 124 -
3-3 調査概要.....	- 135 -
3-4 集計結果.....	- 136 -

## 1. 調査の目的

---

白岡市（以下、本市）は埼玉県東部に位置しており、南東部をさいたま市及び春日部市、南西部を蓮田市、北部を久喜市、東部を宮代町とそれぞれ接している。本市は元荒川、見沼代用水、隼人堀川、柴山沼などの水辺や、屋敷林、社寺林、里山などの樹林、水田、梨園などの田園といった自然環境に恵まれている。本市では、2011年1月に白岡町環境基本条例（現白岡市環境基本条例）を施行し、同条例に基づき2011年3月に白岡町環境基本計画を、2016年3月に改定版となる白岡市環境基本計画【改訂版】を、2021年に第2次白岡市環境基本計画を策定している。

本調査は、第2次白岡市環境基本計画の改訂に当たり、市民や事業者を対象にアンケートを実施し、環境に対する意識の現状把握及び分析することを目的として実施した。

## 2. 市民アンケート調査

### 2-1 アンケート調査票の作成

調査票の作成に当たり、過年度（H22～R2）のアンケート実施状況を整理し、今年度（R6）において「継続的に実施する設問」、「継続の実施を再検討する設問」を検討した。

調査票については、下表に示すように、「問9 市民の自主的な環境づくりへの参加意欲」について、年々参加意欲の低下が見られたため、どのような環境づくり活動が市民に求められているのかを把握し、関連する施策の検討に活用できるよう、参加してみたい自主的な環境づくり活動は何かを問う設問への変更を行った。また、現行計画の改訂版では地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の追加を予定しているため、脱炭素に関連するEVや再エネ発電設備等の導入状況に関する設問として、「(5) 地球温暖化対策について」という項目を新設し、下記の間17から問21までを追加した。

表 2-1-1 設問の実施状況と追加・変更理由

設問	内容	R6	R2	H27	H22	追加・変更理由/アウトプットイメージ
(1) 属性	性別、年齢、居住地区	継続	○	○	○	
(2) 回答者の生活を取り巻く環境について	問1 居住する地域を中心とした環境の快適さ	継続	○	○	○	
	問2 白岡市において気にかかる環境問題	継続	○	○	○	
	問3 白岡市の自然を守るために進めるべき取組	継続	○	○	○	
	問4 リサイクルや省エネルギーについての関心	継続	○	○	○	
	問5 リサイクルや省エネルギーに関して行っている取組	継続	○	○	○	
	問6 リサイクルや省エネルギーに関する取組を行わない理由	継続	○	○	○	
	問7 リサイクルや省エネルギーを進める上で行うべき取組	継続	○	○	○	
	問8 SDGsの認知度	継続	○			
(3) 環境づくりへの参加や役割について	問9 市民の自主的な環境づくりへの参加意欲 ⇒変更案：参加してみたい自主的な環境づくり活動	変更	○	○	○	年々参加意欲が低下しているため、問い方を工夫してどのような環境づくり活動が市民に求められているのかを把握し、関連する施策の検討に活用
	問10 市民の自主的な環境づくりに参加したいと思わない理由	継続	○	○	○	
	問11 市民が白岡市の環境づくりに参加するために、市が重点的に取り組むべきこと	継続	○	○	○	
	問12 白岡市の環境を守り改善していくために望ましい役割分担	継続	○	○	○	
(4) 市の環境行政の在り方について	問13 環境基本計画の取組の効果	継続	○			
	問14 重点的に取り組むべき環境基本計画の施策	継続	○			
	問15 環境基本計画で位置付けられた市民の取組に関する実施状況	継続	○			
	問16 環境基本条例及び環境基本計画の認知度	継続	○			
(5) 地球温暖化対策について	問17 省エネ家電（冷蔵庫、テレビ、エアコン）の導入状況	新規				現在の省エネ機器・設備、再エネ設備等の保有状況と、今後の導入の意向を把握し、特に区域施策編の目標設定や施策の検討に活用
	問18 再エネ設備（太陽光発電、蓄電池、太陽熱温水器、高効率給湯器）の導入状況	新規				
	問19 次世代自動車（ハイブリッド車、PHV・EV、FCV）への買い替えの意向	新規				
	問20 家庭の電気やガス等のエネルギー使用状況	新規				
	問21 市で実施している補助メニューの認知度	新規				
(6) 自由記述		継続	○	○	○	補助メニューの浸透度を把握しつつ普及啓発にも活用

### 2-2 アンケート調査票

次頁以降にアンケート調査票を示す。なお、アンケートは、回答率向上を狙い、郵送とWEBを併用した。

## 環境に関する市民アンケート調査のお願い

日頃、市政に深いご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

本市では、水と緑が織りなす恵まれた自然環境を次世代に引き継ぎ、持続可能な社会を構築するため、「白岡市環境基本条例」に基づく「第2次白岡市環境基本計画」を策定し、環境保全の取組を推進しています。現在は、脱炭素社会の実現に向けた機運の高まりやライフスタイルの変化に対応するため、計画の見直しの基礎調査等の準備作業を進めております。

環境基本計画は、市民・事業者・行政が協力し、協働によって、誰もが住みやすい快適な環境を築き上げるための、本市における環境行政の根幹となる計画となります。このため、策定・見直しに当たっては、皆様の貴重なご意見やご要望を計画に反映させていただきたいと考えております。

つきましては、本調査の趣旨をご理解の上、今回の市民アンケート調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和6年8月 白岡市長 藤井 栄一郎

### <本アンケートについて>

- ・このアンケートは、本市の「環境基本計画」に、市民の皆さまのご意見を反映するために行うもので、他の目的に使用することは一切ありません。
- ・すべての調査は無記名で行います。個人のお名前や情報が外部に公表されることはありません。

### <アンケートのご記入に当たって>

- ・ご回答方法は、「①本アンケート用紙に直接ご記入」または、「②ウェブでのご入力」のどちらか一方をお選びください。

#### 【①本アンケート用紙に直接ご記入いただく場合】

- ・アンケートにお答えいただき、**8月23日（金）**までに、ポストへ投函するか、市役所2階の環境課までお持ちください。

#### 【②ウェブでのご入力いただく場合】

- ・右のQRコードから、**8月23日（金）**までに、回答してください。



#### ■問合せ先

担当課 白岡市 生活経済部 環境課  
電話番号 0480-92-1111（内線：284・285）

【参考】

## 第2次白岡市環境基本計画の概要

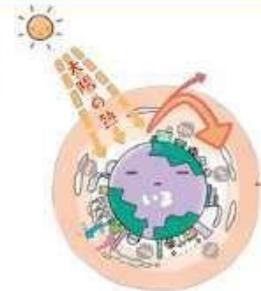
第2次白岡市環境基本計画では、望ましい環境像として、『**青空が広がる自然と豊かな心を育む “持続可能” なまち しらおか**』を定め、その達成に向け3つのプロジェクトを推進しています。



白岡市では、この望ましい環境像を目指し、「市・市民・事業者」の三者協働により、持続可能な環境づくりに取り組んでいます。

## ゼロカーボン（脱炭素）とは？

近年、猛暑日の増加や、大型台風・ゲリラ豪雨の頻発などの気候変動が問題となっています。このような気候変動は、私たちが排出した二酸化炭素による地球温暖化が原因とされています。



地球温暖化のイメージ図  
(環境省 こども環境白書を編集)

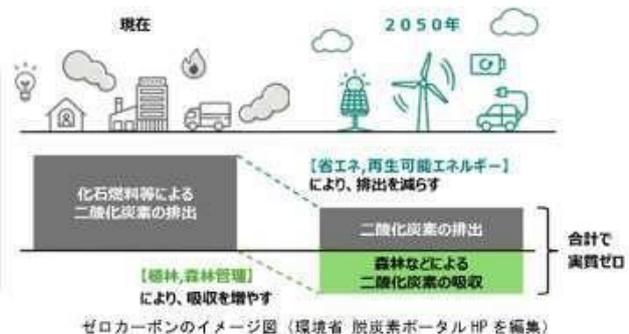
### ＜地球温暖化のメカニズム＞

- ① 太陽からの熱で地上が温まり、一部は宇宙に反射する
- ② 反射した熱を二酸化炭素などが吸収・再反射する（温室効果）
- ③ 二酸化炭素などが増えると、地球に跳ね返る熱が増え、気温が上がる

白岡市では、地球温暖化を抑制するために、令和5年6月に『**白岡市ゼロカーボンシティ宣言**』を行い、2050年までに温室効果ガスの排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を実現するための取組を推進しています。

### ＜ゼロカーボンシティとは＞

図のように二酸化炭素の排出量から吸収量を差し引いて合計が実質ゼロになった状態を**ゼロカーボン（脱炭素）**と呼びます。市の全域でこの状態を達成することを、『**ゼロカーボンシティ**』と呼びます。



温室効果ガスは、日常生活や経済活動に伴って排出されるため、ゼロカーボンの実現に向けては、**私たち一人ひとりの取組**が大切です。

1. はじめにあなたのことについてお伺いします。あてはまる番号を○で囲んでください。

性別	1 : 男性	2 : 女性	3 : 無回答		
年齢	1 : 10 歳代	2 : 20 歳代	3 : 30 歳代	4 : 40 歳代	5 : 50 歳代
	6 : 60 歳代	7 : 70 歳以上			
居住地区	1 : 岡泉	2 : 実ヶ谷	3 : 千駄野	4 : 小久喜	5 : 上野田
	6 : 下野田	7 : 爪田ヶ谷	8 : 太田新井	9 : 彦兵衛	10 : 篠津
	11 : 野牛	12 : 高岩	13 : 新白岡	14 : 寺塚	15 : 白岡
	16 : 白岡東	17 : 西	18 : 柴山	19 : 荒井新田	20 : 下大崎

2. 次に、あなたの生活を中心とする身近な環境のことについてお伺いします。

問1 : あなたがお住まいの地域を中心とした、現在の環境（身の回りの自然の豊かさや、生活をする上での住み心地など）の快適さについて、どのように感じておられますか。あてはまる番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

- 1 : 快適な環境である
- 2 : どちらかと言えば、快適な環境である
- 3 : どちらかと言えば、快適な環境ではない
- 4 : 快適な環境ではない

問2 : 白岡市において、気にかかる環境問題の番号を全て選んで○で囲んでください。

- 1 : 空気の汚れ（自動車の排気ガスや野焼きによる煙など）
- 2 : 川や水路の汚れ
- 3 : 騒音や振動（鉄道、自動車、工場など）
- 4 : 化学物質（ダイオキシン類など）による汚染
- 5 : ポイ捨てやごみの不法投棄
- 6 : 景観を損ねる看板や建物
- 7 : その他（ )

問3 : 白岡市の自然を守るために、進めるべき取組だと思ふ番号を2つまで選んで○で囲んでください。

- 1 : 市民が主体となった、緑や生き物の保護活動の推進
- 2 : 河川、水路や地下水など水環境の汚染防止の推進
- 3 : 残された自然や生き物の調査や監視の実施
- 4 : 自然保護のための規制や条例の強化
- 5 : 市の自然環境の現状についての、情報公開の推進
- 6 : 自然保護に関する学習会の開催やPRなど、市民の保護意識の高揚
- 7 : その他（ )

問4 : あなたはリサイクル活動や省エネルギー活動について関心がありますか。あてはまる番号を1つだけ選んで○で囲んでください（具体的な活動事例は問5をご参照ください）。

- |                           |              |
|---------------------------|--------------|
| 1 : 関心があり、日常生活で実践している     | } 問5へ進んでください |
| 2 : 関心はないが、日常生活では実践している   |              |
| 3 : 関心はあるが、日常生活は特に実践していない | } 問6へ進んでください |
| 4 : 関心はなく、日常生活でも特に実践していない |              |



3. 次に、環境づくりへの参加についてお伺いします。

問9：市民の自主的な環境づくり活動が実践された場合、どのような活動に参加したいと思いますか。あてはまる番号を全て選んで○で囲んでください。

1：自然観察会や環境学習会	}	問11へ進んでください
2：環境保全団体等が主催する自然保護活動		
3：田畑の管理・保全や農業体験		
4：植樹やガーデニング等の地域の緑化活動		
5：河川等の水辺周辺の保全やボランティア活動		
6：ごみゼロ・クリーン運動等の地域の清掃・美化活動		
7：文化財保護活動や学習会		
8：脱炭素社会構築のためのキャンペーンへの参加		
9：グリーンツーリズムなどのエコツアー		
10：地域の防災活動		
11：その他（		
12：参加したいとは思わない	}	問10へ進んでください

問10：問9で「参加したいとは思わない」と回答した方にお伺いします。それはどのような理由によるものですか。あてはまる番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

1：興味がない
2：多忙であり、時間がとれない
3：体力的に無理
4：市民よりも行政や企業が解決すべき問題である
5：その他（

問11：あなたを含め、市民が白岡市の環境づくりに参加するために、市が重点的に取り組むべきだと思う番号を2つまで選んで○で囲んでください。

1：市の環境の状況や環境問題に関する情報公開
2：環境問題に関する講演会や学習講座の開催
3：各行政区や自治会等によるごみゼロ・クリーン運動などの清掃活動、美化活動の促進
4：環境活動のリーダーとなる人材の育成や協力
5：自主的に環境問題に取り組む企業や組織、サークル等への積極的支援
6：市民が集まったり、活動できる場の提供
7：環境問題を討議するため市民、事業者、市からなる活動組織の構築
8：その他（

問12：白岡市の環境を守り、改善していくための役割分担について、あなたが望ましいと思う番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

1：市が主体となって環境を守るための仕事をし、市民や事業者は協力する
2：市民や事業者が主体となって環境を守るための活動を行い、市はその支援をする
3：環境を破壊している個人や事業者が責任を持って環境を守る
4：市民、事業者、市がそれぞれの責任を果たすとともに、三者が協力しながら環境を守り、育てる
5：その他（

4. 次に、市の環境行政の在り方についてお伺いします。

問 13：白岡市の環境基本計画で実施している主な環境施策は以下のとおりです。それぞれの施策の効果について、設問ごとにあてはまる番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

項目		効果があったと思う	効果があったとは思えない	よくわからない
自然環境	歴史に息づく緑の保全と創造	1	2	3
	生活とともに育まれた水路の保全と創造	1	2	3
	健全な生物多様性の保全	1	2	3
生活環境	大気環境の保全	1	2	3
	水質環境の保全	1	2	3
	騒音・振動の防止	1	2	3
	総合的な公害の防止	1	2	3
快適環境	すぐれた景観の確保	1	2	3
	快適でくつろげる空間の確保	1	2	3
	歴史・文化の保護	1	2	3
	計画的なまちづくりの推進	1	2	3
	まちの安全対策の推進	1	2	3
	ごみの不法投棄の防止	1	2	3
	環境美化活動の推進	1	2	3
地球環境	温暖化対策に向けた緩和策の推進*	1	2	3
	温暖化対策に向けた適応策の推進*	1	2	3
	3R（リユース、リデュース、リサイクル）の推進	1	2	3
	安心安全で環境にやさしいごみ処理の推進	1	2	3
人づくり	環境教育・学習の推進	1	2	3
	環境保全のための意識啓発活動の推進	1	2	3

【※参考】温暖化対策に向けた「緩和策」と「適応策」について

温暖化の対策には、省エネ・再エネ導入などにより温室効果ガス排出量を削減する「緩和策」と、気候変動の悪影響（気温上昇による農作物への影響、頻発化する台風などによる自然災害）を軽減する「適応策」の2つの取組が重要です。

市の「緩和策」の推進事例	市の「適応策」の推進事例
<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネ行動の推進</li> <li>・再エネの導入・活用の推進</li> <li>・公共交通機関の利用やエコドライブの推進</li> <li>・脱炭素社会構築のための行動促進キャンペーンの周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水路改修等の流水対策の推進</li> <li>・ハザードマップの周知徹底</li> <li>・市民の防災意識向上の推進</li> <li>・熱中症予防の呼びかけ</li> <li>・公共施設を涼み処として開放</li> </ul>



緩和と適応のイメージ図（気候変動適応情報プラットフォームより）



II. 生物多様性の保全・創出

項目	実施している	時々実施している	あまり実施していない	まったく実施していない
⑨敷地内に実のなる木を植えるなど鳥や昆虫を守っている	1	2	3	4
⑩市内の生き物について、在来種の保全、外来種の駆除に協力したり、心掛けるようにしている	1	2	3	4
⑪市のきれいな水環境を守ることを意識し、台所や風呂など、日常生活から出る排水に気を配っている	1	2	3	4
⑫環境保全団体が主催する自然保護活動に参加している	1	2	3	4
⑬農業を営んでいる、または農業体験などに参加している	1	2	3	4
⑭市内に生息する生き物の状況や保全に関心を持っている	1	2	3	4

III. 環境を学び行動する市民の増加

項目	実施している	時々実施している	あまり実施していない	まったく実施していない
⑮市の環境保全に対する取組や、環境関連のイベントや行事に参加している	1	2	3	4
⑯自然観察会や、ごみ問題、地球環境問題など環境学習の機会に参加するようにしている	1	2	3	4
⑰家庭で環境問題について話し合うことがある	1	2	3	4
⑱環境に関連する団体に参加したり、交流を持ったりしている	1	2	3	4
⑲グリーンツーリズムなどのエコツアーに参加している	1	2	3	4
⑳食に関する正しい知識を身につける「食育」に取り組んでいる	1	2	3	4

問 16：白岡市の環境基本条例や環境基本計画について、知っていますか。あてはまる番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

条例・計画	名前も内容も知っている	名前は知っているが内容は知らない	名前も内容も知らない
白岡市環境基本条例	1	2	3
白岡市環境基本計画	1	2	3

5. 最後に、地球温暖化対策についてお伺いします。

問 17：あなたのご家庭で使用している家電（冷蔵庫・テレビ・エアコン）の購入時期について、あてはまる番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

家電	購入時期				
	1年未満	1～3年前	3～10年前	10年以上前	わからない
①普段使用している冷蔵庫	1	2	3	4	5
②普段使用しているテレビ	1	2	3	4	5
③普段使用しているエアコン	1	2	3	4	5

問 18：ご家庭の再生可能エネルギー等の設備に関して、現在の導入状況や今後の導入予定について、あてはまる番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

設備		すでに導入済み	今後導入予定	予定はないが、導入してみたい	導入するつもりなし
①太陽光発電		1	2	3	4
②蓄電池（電気を蓄える機能を持った充電装置）		1	2	3	4
③太陽熱温水器（太陽の熱を利用してお湯を作る装置）		1	2	3	4
高効率給湯器	④自然冷媒ヒートポンプ給湯器（エコネット等）	1	2	3	4
	⑤家庭用コージェネレーション（エコファーム等）	1	2	3	4
	⑥潜熱回収型給湯器（エコウォース等）	1	2	3	4

問 19：ご家庭の車両について、現在の所有状況にあてはまる番号を1つだけ選んで○で囲んでください。また、現在の所有台数と将来の予定台数がわかる方は、台数をご記入ください。（将来については、予定を含めた希望的観測でも構いません。わからない場合は空欄のままご提出ください。）

車両	所有している	所有していない	現在の保有台数 (2024年)	将来の予定台数 (2030年頃)
例) ガソリン・ディーゼル車（普通）	①	②	2台	1台
①ガソリン・ディーゼル車（普通）	1	2	__台	__台
②ガソリン・ディーゼル車（軽）	1	2	__台	__台
③ハイブリッド車※1	1	2	__台	__台
④PHV・EV（電気自動車）※2	1	2	__台	__台
⑤燃料電池自動車（FCV）※3	1	2	__台	__台

※1：ハイブリッド車は、ガソリン・ディーゼルエンジンと電気モーター等の複数の動力源を組み合わせて走る自動車。外部から補充できるエネルギーは、ガソリン・ディーゼルのみ。

※2：PHVは、ハイブリッド車に対し、充電スタンドなどの外部電源から車両のバッテリー（蓄電池）に充電できる自動車。EVは、動力が電気のみで、バッテリー（蓄電池）に蓄えた電気でモーターを回転させて走る自動車。

※3：燃料電池自動車は、充填した水素と空気中の酸素を反応させて燃料電池で発電し、その電気でモーターを回転させて走る自動車。

問 20：ご家庭で使用しているエネルギーについてお聞きします。エネルギーの使用状況について、あてはまる番号を1つだけ選んで○で囲んでください。また、直近の年間使用量（1月～12月）がわかればご記入ください。（直近の月明細からおおよその年間使用量を計算して記入いただいても構いません。わからない場合は空欄のままでご提出ください。）

エネ種	使用状況		年間使用量 【1月～12月】	参考
	使用している	使用していない		
例) 電気	①	②	約 4,000 kWh	
①電気	1	2	約 _____ kWh	1か月の電気代約 11,000 円で、年間約 4,000kWh の使用量
②都市ガス	1	2	約 _____ m <sup>3</sup>	1か月の都市ガス料金 7,000 円で、年間約 480m <sup>3</sup> の使用量
③プロパンガス	1	2	約 _____ m <sup>3</sup>	1か月のプロパンガス料金 8,000 円で、年間約 120m <sup>3</sup> の使用量
④灯油	1	2	約 _____ ㍒	灯油 18L タンクあたり約 1,900 円
⑤ガソリン	1	2	約 _____ ㍒	自動車に満タンに給油した場合、1回あたり軽自動車約 30L、普通車約 50L の使用量
⑥軽油	1	2	約 _____ ㍒	
⑦重油	1	2	約 _____ ㍒	
⑧木材(薪・ペレット)	1	2	約 _____ Kg	

問 21：白岡市では、省エネ機器や再エネを積極的に導入することで温室効果ガスの排出削減や脱炭素社会への推進に寄与する方に対し、補助金を交付しています。あなたは、白岡市で実施している補助メニューについて知っていますか。あてはまる番号を①・②のそれぞれ1つだけ選んで○で囲んでください。

補助メニュー	①認知	②利用状況・意向				
		A 知っている			B 知らない	
		利用したことがある	利用してみたい	利用する予定はない	利用してみたい	利用する予定はない
1. 白岡市住宅用創エネ・省エネ機器設置補助金* (実施中)	1：知っている→Aへ 2：知らない→Bへ	③	④	⑤	⑥	⑦
2. 重点対策加速化事業 太陽光発電設備等設置費補助金 (実施中)	1：知っている→Aへ 2：知らない→Bへ	③	④	⑤	⑥	⑦

【※参考】白岡市住宅用創エネ・省エネ機器設置補助金（その他詳しい情報は、白岡市 HP をご覧ください）

○住宅用太陽光発電システム：3万円 ○住宅用 LED 照明機器：最大 5 千円

○定置用リチウムイオン蓄電池：3万円 ○V2H 充放電設備：3万円 ○EV・PH(E)V：5万円

●最後に、白岡市の環境へのご要望や、あなた自身のお考えをご自由にお聞かせください。

該当する番号を選んで○で囲み、余白にご要望やお考えをご記入ください。

1：自然環境      2：生活環境      3：快適環境      4：地球環境・脱炭素  
5：人づくり（普及啓発等）      6：環境づくり活動      7：補助金      8：市の環境行政

これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

## 2-3 調査概要

### ■調査対象

・調査対象地域	白岡市全域
・調査対象	市内在住の市民
・サンプル数	1,500 票
・抽出方法	住民基本台帳からの無作為抽出
・調査方法	郵送配送・郵送回収 + web アンケート方式
・調査期間	令和 6 年 7 月 31 日～8 月 23 日
・調査結果（回収数）	480 票（郵送:348+web:132） /1,500 票【前回(R2)：427 票/1,000 票】
・調査結果（回収率）	32.0%【前回(R2)：42.7%】

### ■調査内容（設問項目）

#### (1) 属性

性別、年齢、居住地区

#### (2) 回答者の生活を取り巻く環境について

- 問 1 居住する地域を中心とした環境の快適さ  
問 2 白岡市において気にかかる環境問題  
問 3 白岡市の自然を守るために進めるべき取組  
問 4 リサイクルや省エネルギーについての関心  
問 5 リサイクルや省エネルギーに関して行っている取組  
問 6 リサイクルや省エネルギーに関する取組を行わない理由  
問 7 リサイクルや省エネルギーを進める上で行うべき取組  
問 8 SDGs の認知度

#### (3) 環境づくりへの参加や役割について

- 問 9 参加してみたい自主的な環境づくり活動  
問 10 市民の自主的な環境づくりに参加したいと思わない理由  
問 11 市民が白岡市の環境づくりに参加するために、市が重点的に取り組むべきこと  
問 12 白岡市の環境を守り改善していくために望ましい役割分担

#### (4) 市の環境行政の在り方について

- 問 13 環境基本計画の施策の効果  
問 14 重点的に取り組むべき環境基本計画の施策  
問 15 環境基本計画で位置付けられた市民の取組に関する実施状況  
問 16 環境基本条例及び環境基本計画の認知度

#### (5) 地球温暖化対策について

- 問 17 省エネ家電（冷蔵庫、テレビ、エアコン）の導入状況  
問 18 再エネ設備（太陽光発電、蓄電池、太陽熱温水器、高効率給湯器）の導入状況  
問 19 次世代自動車（ハイブリッド車、PHV・EV、FCV）への買い替えの意向  
問 20 家庭の電気やガス等のエネルギー使用状況  
問 21 市で実施している補助メニューの認知度

#### (6) 自由記述

## 2-4 集計結果

### (1) 属性

#### ■性別【単独回答】

- ・今回から選択肢に無回答を追加した。
- ・回答者は男性が 40.6%、女性が 53.3%と女性が若干多くなっている。

※令和 6 年 7 月 1 日時点の総人口では、男性 49.6%、女性 50.4%となっている。

※過去の傾向や昨今の社会情勢から、男女別のクロス集計は行わない。

※以降のグラフ、表については、四捨五入の関係によりパーセンテージの合計が 100%にならない場合がある。

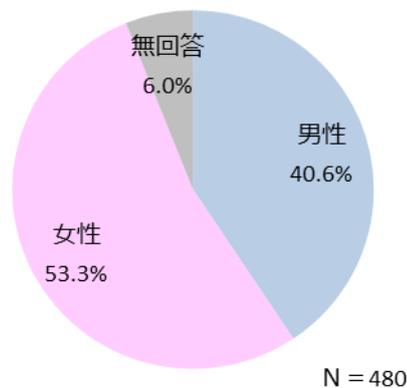


図 2-4-1 回答者の性別

#### ■年齢【単独回答】

- ・回答人数の構成比は、70 代以上が 22.3%と最も多く、次いで 60 代が 20.4%、50 代が 18.8%と 50 代以上が全体の 50%以上を占めている。
- ・令和 6 年 7 月 1 日時点での年齢別人口構成比に対し、おおよそ同程度の比率となるような送付人数となっている。
- ・若年層は回答率が低く、高齢者層ほど回答率が高いため、年齢別人口構成比に対し、回答者の構成比は若年層が小さく、高齢者層は大きくなっている。

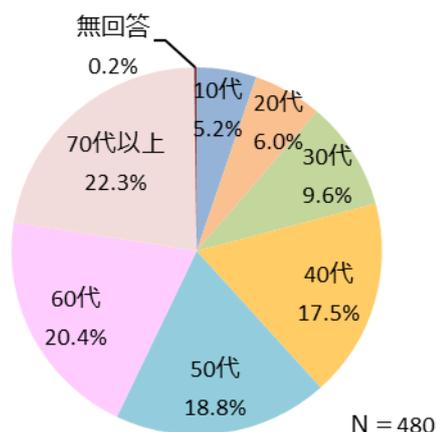


図 2-4-2 回答者の年齢

表 2-4-1 年齢別送付状況と回答状況

年代	総人口 (R6/7/1)		送付人数		回答人数		
	総人口	構成比	送付人数	構成比	回答人数	構成比	回答率
10代未満	3,970	-	-	-	-	-	-
10代	4,498	9.3%	124	8.3%	25	5.2%	20.2%
20代	5,114	10.5%	178	11.9%	29	6.0%	16.3%
30代	6,033	12.4%	201	13.4%	46	9.6%	22.9%
40代	7,015	14.4%	259	17.3%	84	17.5%	32.4%
50代	7,798	16.1%	284	18.9%	90	18.8%	31.7%
60代	6,151	12.7%	218	14.5%	98	20.4%	45.0%
70代以上	11,940	24.6%	236	15.7%	107	22.3%	45.3%
合計	52,519	100.0%	1,500	100.0%	480	100.0%	32.0%

### ■居住地区（大字別）【単独回答】

- ・回答人数の構成比は、大字別では、小久喜地区が22.5%と最も多く、次いで新白岡地区が17.1%、西地区が12.7%となっている。
- ・送付は、令和6年7月1日時点での居住地区別人口構成比を踏まえ実施。
- ・回答率が低い岡泉地区、彦兵衛地区等で居住地区別人口構成比に対し、回答人数の構成比が小さくなっている。

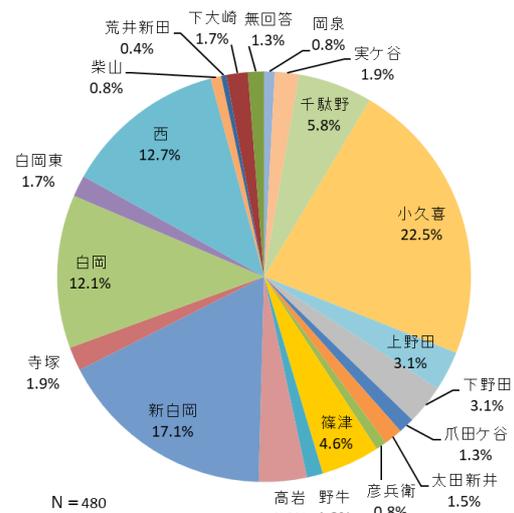


図 2-4-3 回答者の居住地区（大字別）

表 2-4-2 居住地区別送付状況と回答状況（大字別）

居住地区		総人口 (R6/7/1)		送付人数		回答人数		
大字名	地域名	総人口	構成比	送付人数	構成比	回答人数	構成比	回答率
岡泉	F	768	1.5%	22	1.5%	4	0.8%	18.2%
実ケ谷	F	863	1.6%	23	1.5%	9	1.9%	39.1%
千駄野	D	2,659	5.1%	77	5.1%	28	5.8%	36.4%
小久喜	D	11,410	21.7%	343	22.9%	108	22.5%	31.5%
上野田	F	2,171	4.1%	52	3.5%	15	3.1%	28.8%
下野田	F	1,245	2.4%	30	2.0%	15	3.1%	50.0%
爪田ケ谷	F	414	0.8%	14	0.9%	6	1.3%	42.9%
太田新井	F	1,041	2.0%	32	2.1%	7	1.5%	21.9%
彦兵衛	F	938	1.8%	21	1.4%	4	0.8%	19.0%
篠津	B	3,444	6.6%	95	6.3%	22	4.6%	23.2%
野牛	E	420	0.8%	12	0.8%	6	1.3%	50.0%
高岩	E	1,902	3.6%	54	3.6%	18	3.8%	33.3%
新白岡	E	9,028	17.2%	267	17.8%	82	17.1%	30.7%
寺塚	B	407	0.8%	11	0.7%	9	1.9%	81.8%
白岡	D	6,475	12.3%	180	12.0%	58	12.1%	32.2%
白岡東	D	822	1.6%	26	1.7%	8	1.7%	30.8%
西	C	7,167	13.6%	201	13.4%	61	12.7%	30.3%
柴山	A	494	0.9%	16	1.1%	4	0.8%	25.0%
荒井新田	A	226	0.4%	6	0.4%	2	0.4%	33.3%
下大崎	A	625	1.2%	18	1.2%	8	1.7%	44.4%
無回答	-	-	-	-	-	6	1.3%	-
合計	-	52,519	100.0%	1,500	100.0%	480	100.0%	32.0%

■居住地区（地域別）【単独回答】

地域別集計は、回答者が居住する地区を、下表のとおり 6 地域にまとめて集計した。以降、居住地区別のクロス集計を行う場合、この 6 地域でのクロス集計を行う。

表 2-4-3 地域区分

地域	居住地区
A	柴山、新井新田、下大崎
B	篠津、寺塚
C	西
D	千駄野、小久喜、白岡、白岡東
E	野牛、高岩、新白岡
F	岡泉、実ヶ谷、上野田、下野田、爪田ヶ谷、太田新井、彦兵衛

- ・回答人数の構成比は、D 地域が最も多く 42.1%、次いで E 地域が 22.1%、C 地域が 12.7%となっている。

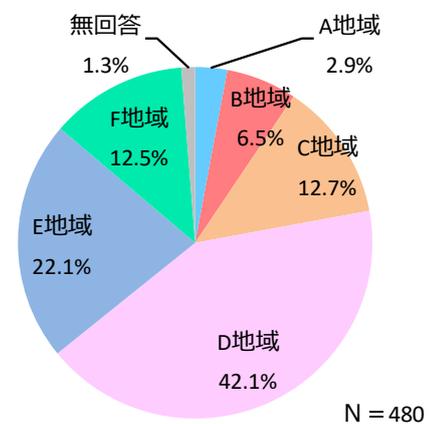


図 2-4-4 回答者の居住地区（地域別）

表 2-4-4 居住地区別送付状況と回答状況（地域別）

地域名	総人口 (R6/7/1)		送付人数		回答人数		
	総人口	構成比	送付人数	構成比	回答人数	構成比	回答率
A 地域	1,345	2.6%	40	2.7%	14	2.9%	35.0%
B 地域	3,851	7.3%	106	7.1%	31	6.5%	29.2%
C 地域	7,167	13.6%	201	13.4%	61	12.7%	30.3%
D 地域	21,366	40.7%	626	41.7%	202	42.1%	32.3%
E 地域	11,350	21.6%	333	22.2%	106	22.1%	31.8%
F 地域	7,440	14.2%	194	12.9%	60	12.5%	30.9%
無回答	-	-	-	-	6	1.3%	-
合計	52,519	100.0%	1,500	100.0%	480	100.0%	32.0%

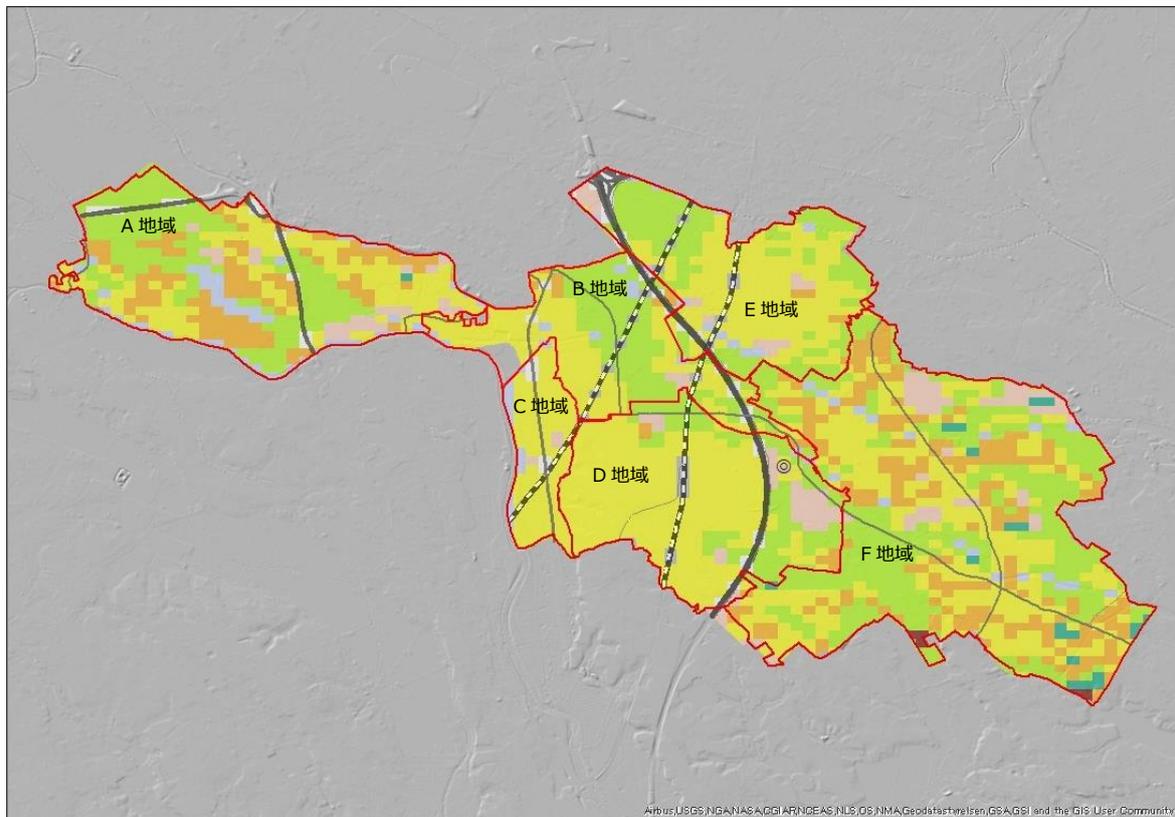
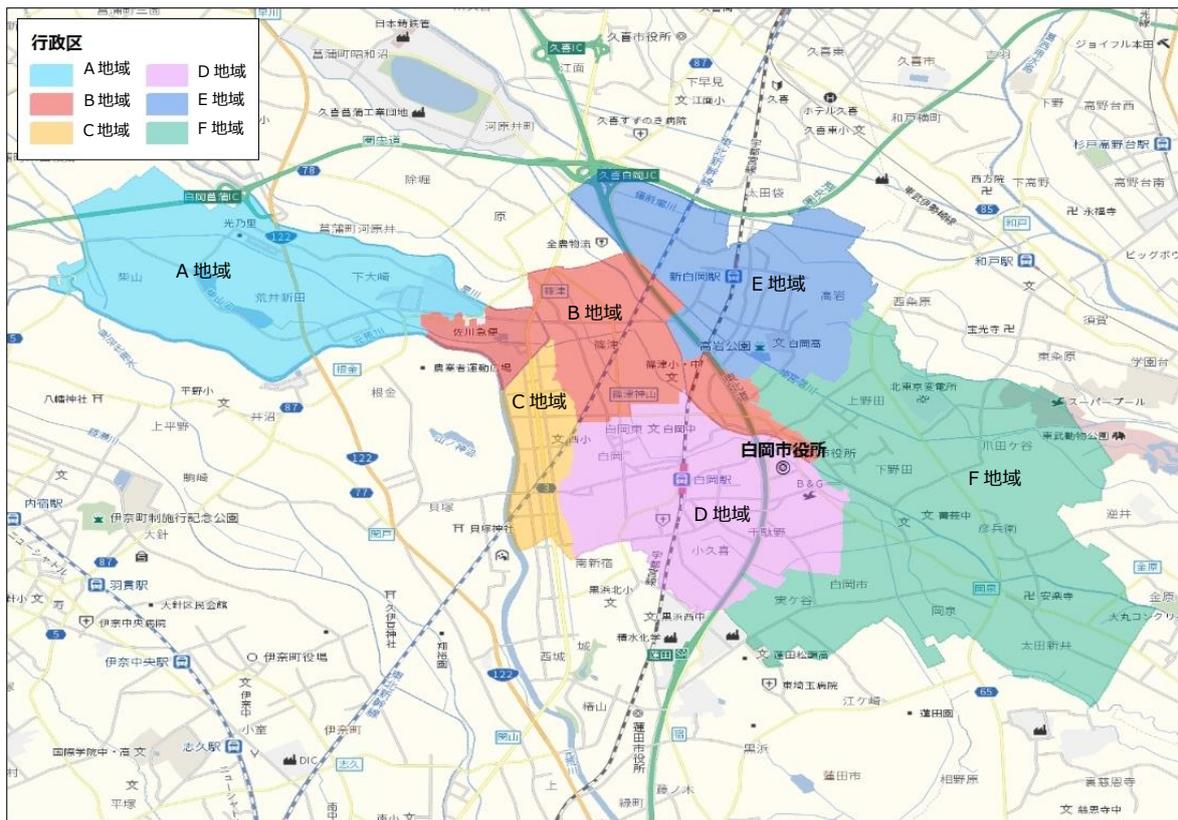
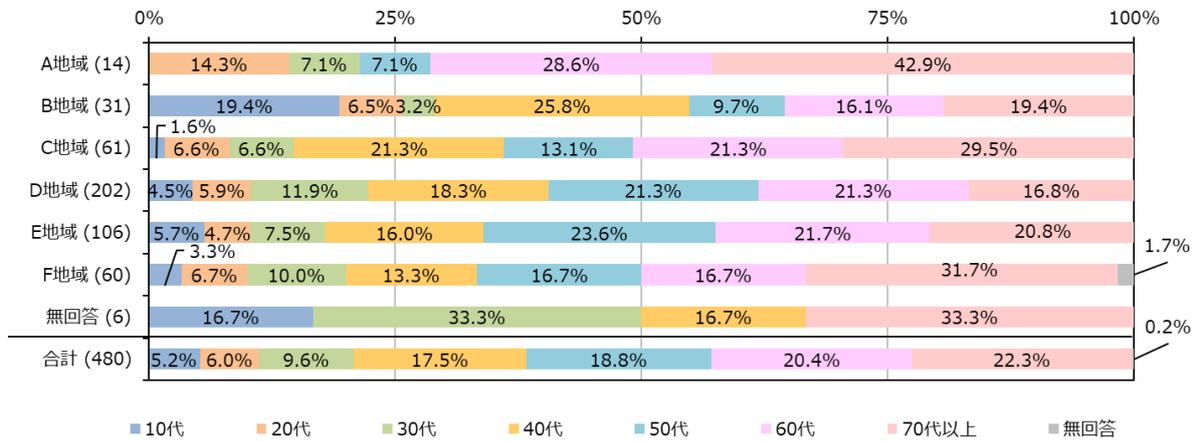


図 2-4-5 各地域の位置と土地利用

## ■年齢と居住地区（地域別）のクロス集計

居住地区での年齢構成比は下図のようになる。C、D、E、F 地域は人口が多く、全体の年齢構成比とおおむね一致しているが、A 地域は 10 代、40 代の回答が無く、70%以上を 60 代以上が占めており年齢構成が高齢者層に偏っている。一方で B 地域は 10 代、40 代の回答割合が高く、比較的年齢構成が若年層に偏っている。



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-6 地域別の回答者の年齢構成

(2) 回答者の生活を取り巻く環境について

問1 居住する地域を中心とした環境の快適さ【単独回答】

<単純集計>

「快適な環境である」が22.3%、「どちらかと言えば、快適な環境である」が64.0%と80%以上の市民が身近な環境を快適であると感じている。

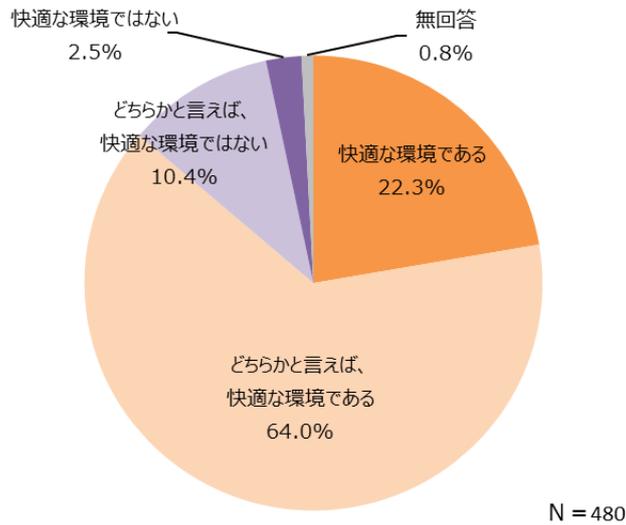
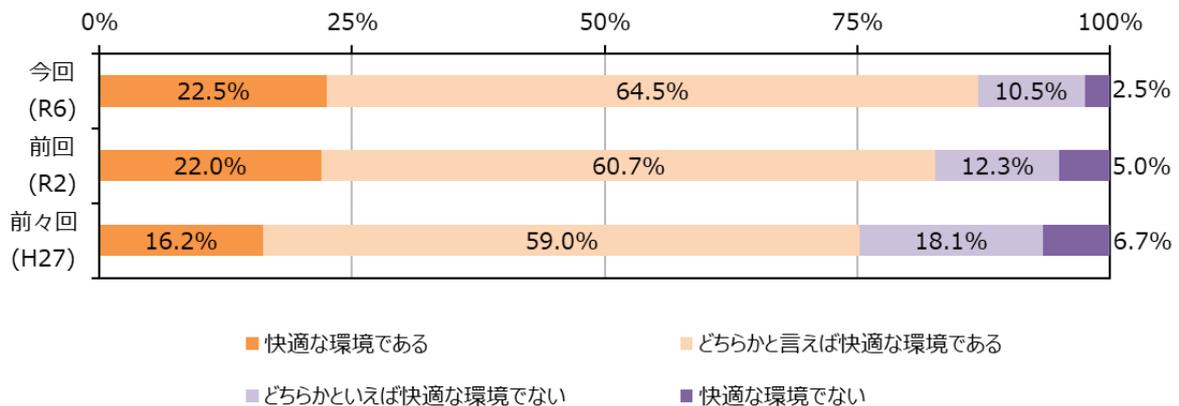


図 2-4-7 問1の単純集計結果

<経年比較>

前回(R2)、前々回(H27：第1次環境基本計画(改訂版)策定時)と比較すると、「快適な環境である」「どちらかと言えば、快適な環境である」が年々増加している。

※下図は過年度との比較のため、無回答抜きの比率を表示(以下同様)



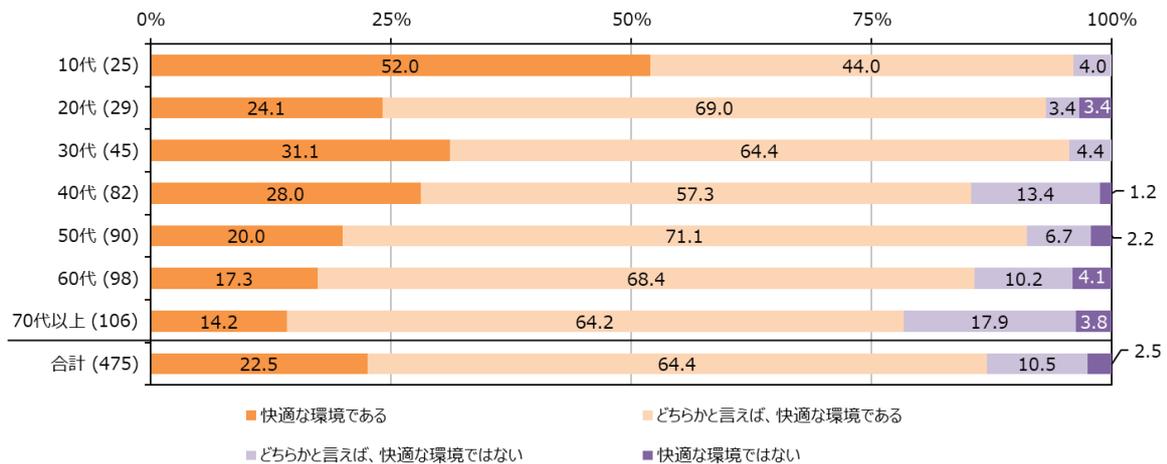
有効回答者数：今回476 前回422 前々回315

図 2-4-8 問1の過年度比較

<クロス集計>

■年代別クロス集計

年代別では、10代の52.0%が「快適な環境である」と回答しており、他の年代と比較して、2倍程度多くなっている。年代が上がるにつれて「快適な環境である」と回答する割合が減少し、「快適な環境ではない」、「どちらかと言えば、快適な環境ではない」が増加する傾向にある。

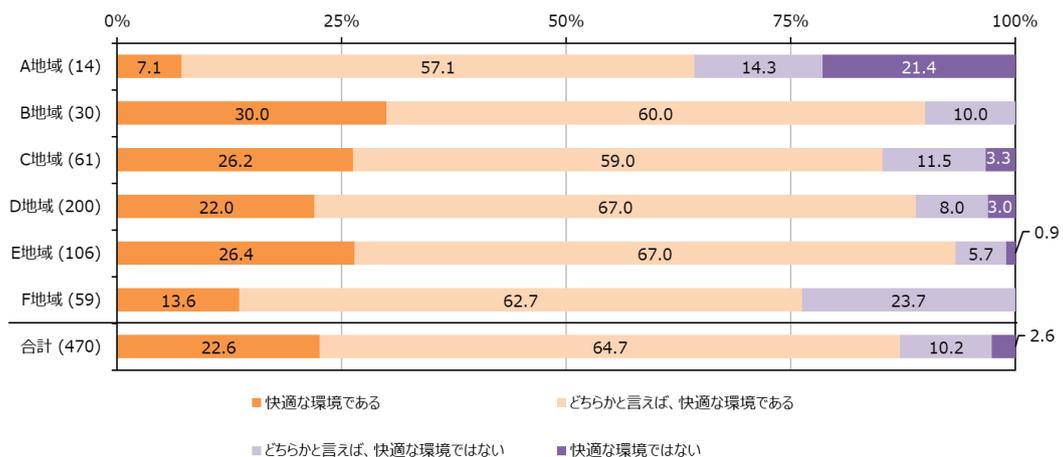


( )内数値：有効回答者数

図 2-4-9 問1のクロス集計結果（年代別）

■地域別クロス集計

地域別では、A地域の21.4%が「快適な環境ではない」と回答しており、「快適な環境である」と回答した割合はわずか7.1%にとどまっている。



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-10 問1のクロス集計結果（地域別）

※年齢、居住地域の無回答数が異なるため、有効回答者数が一致しない場合がある。

※年代や地域によっては、有効回答数が少ない場合がある。

## 問 2 白岡市において気にかかる環境問題【複数回答】

### <単純集計>

「ポイ捨てやごみの不法投棄」が 54.8%と最も多く、次いで「川や水路の汚れ」が 49.0%、「空気の汚れ」が 21.0%、「騒音や振動」が 19.8%となっている。「その他」の回答としては、街路樹や側溝の管理不足などが挙げられた。

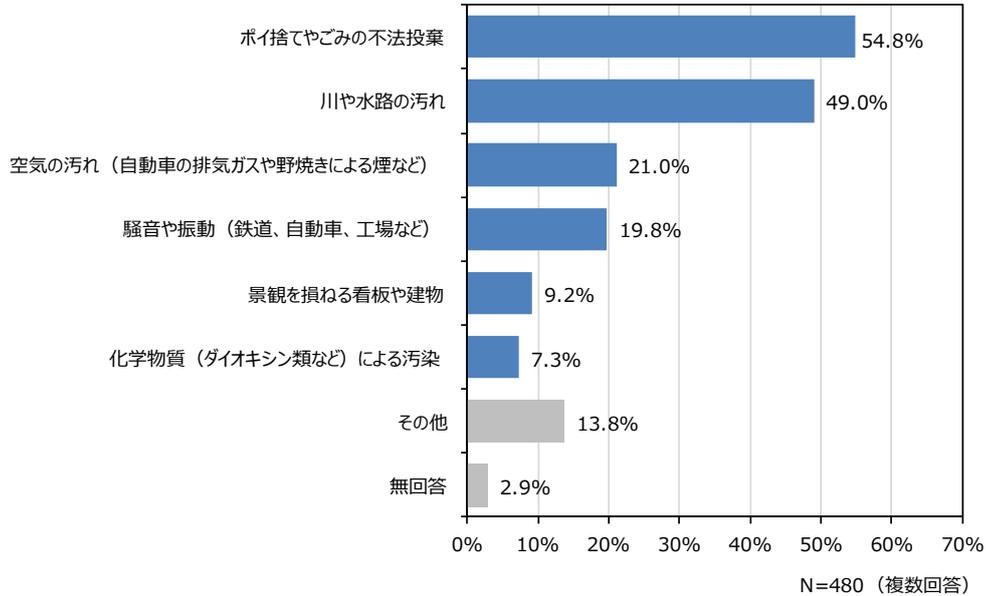
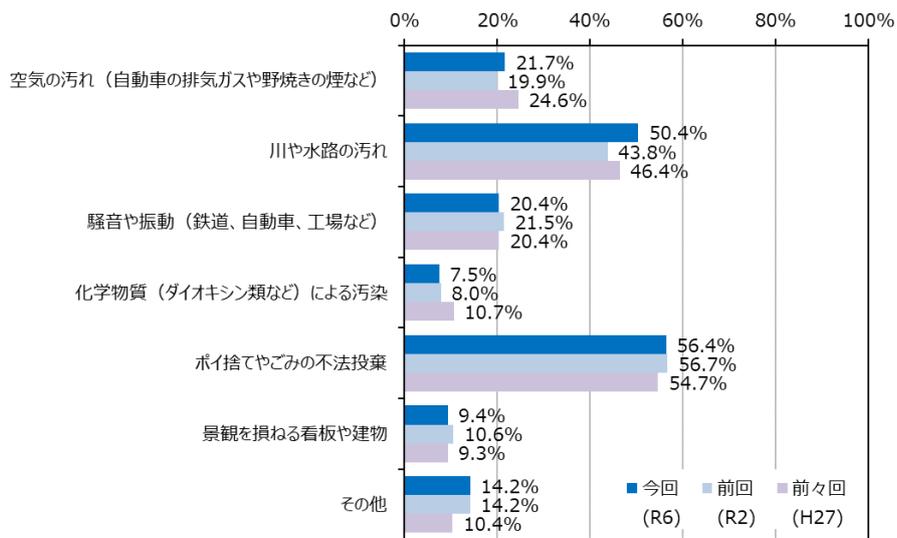


図 2-4-11 問 2 の単純集計結果

### <経年比較>

前回、前々回と比較すると、「ポイ捨てやごみの不法投棄」は、わずかに減少しているが、50%以上の市民が気にかけている。「川や水路の汚れ」、「空気の汚れ」は、前回までは減少傾向にあったが、今回は増加した。



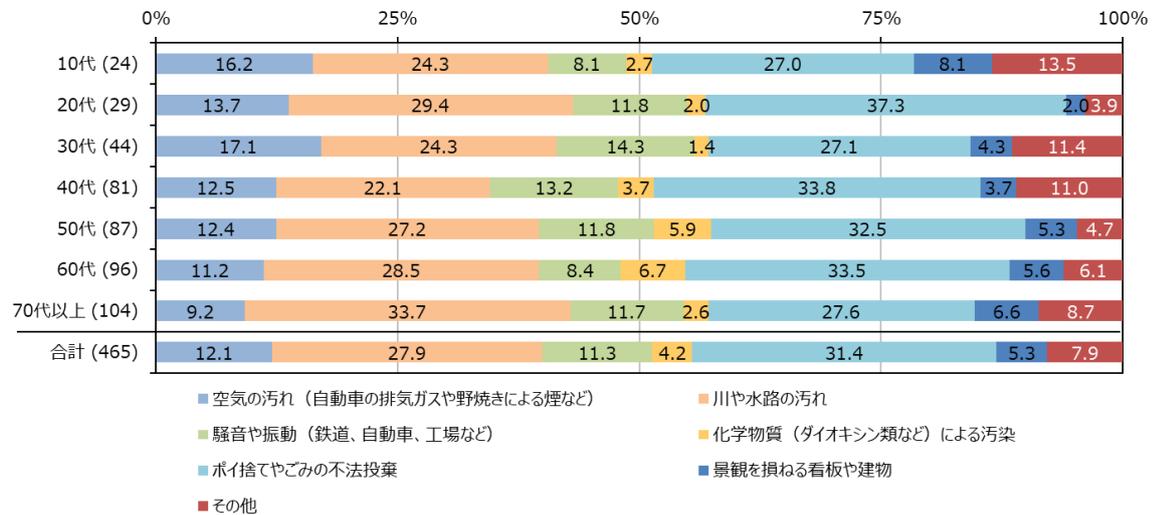
有効回答者数：今回466 前回386 前々回289

図 2-4-12 問 2 の過年度比較

## <クロス集計>

### ■年代別クロス集計

年代別では、20代の「ポイ捨てやごみの不法投棄」と回答した割合が他の年代よりも高い。

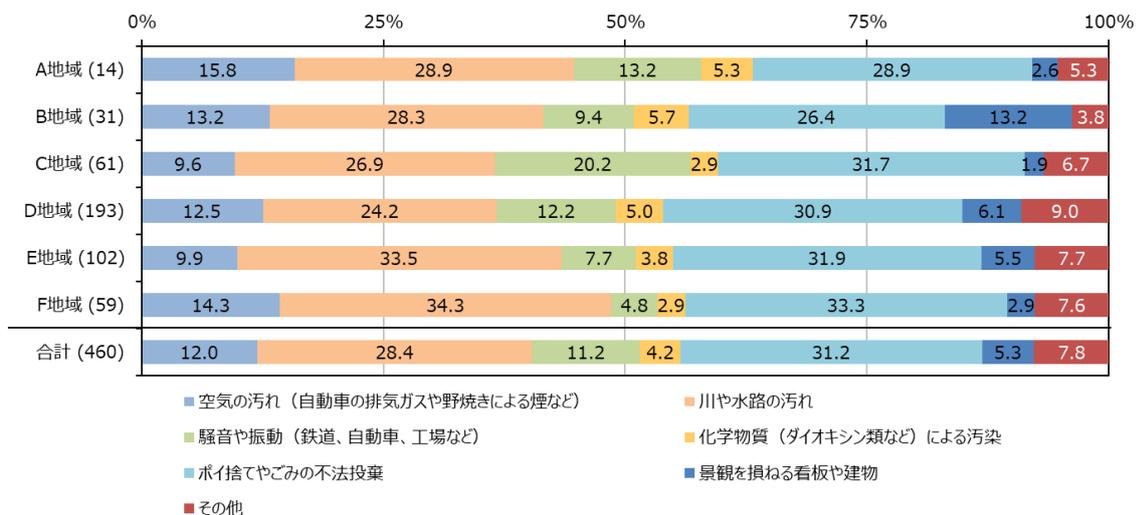


( )内数値：有効回答者数 (複数回答)

図 2-4-13 問2のクロス集計結果 (年代別)

### ■地域別クロス集計

地域別では、田園が広がるB地域において、「景観を損ねる看板や建物」と回答した割合が高く、住宅が密集しているC地域では「騒音や振動」と回答した割合が高い。地域内に立地する新幹線や幹線道路、工業団地など、地域特性に合わせた対策が課題となる。



( )内数値：有効回答者数 (複数回答)

図 2-4-14 問2のクロス集計結果 (地域別)

### 問3 白岡市の自然を守るために進めるべき取組【複数回答（2つまで）】

#### <単純集計>

「河川、水路や地下水など水環境の汚染防止の推進」が65.2%と特に関心が高い。「その他」としては、街路樹や耕作放棄地、雑草などの管理についての意見があった。

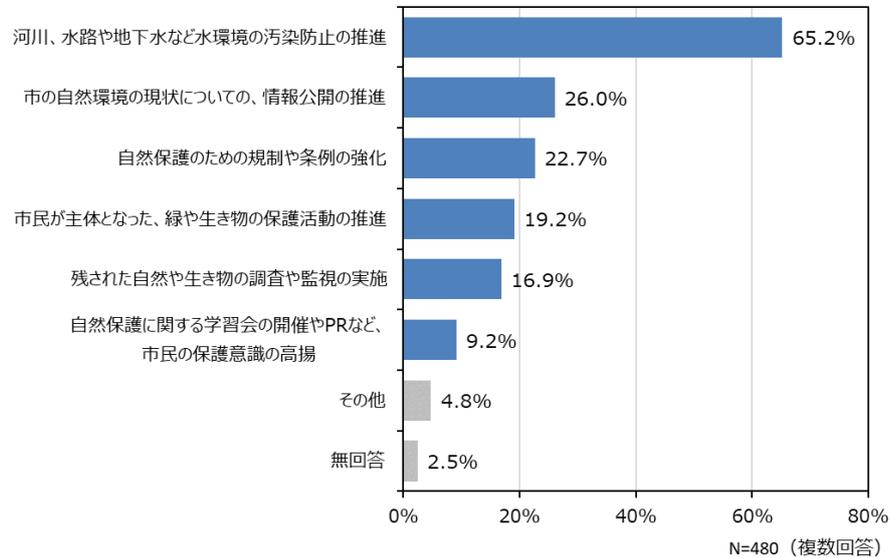
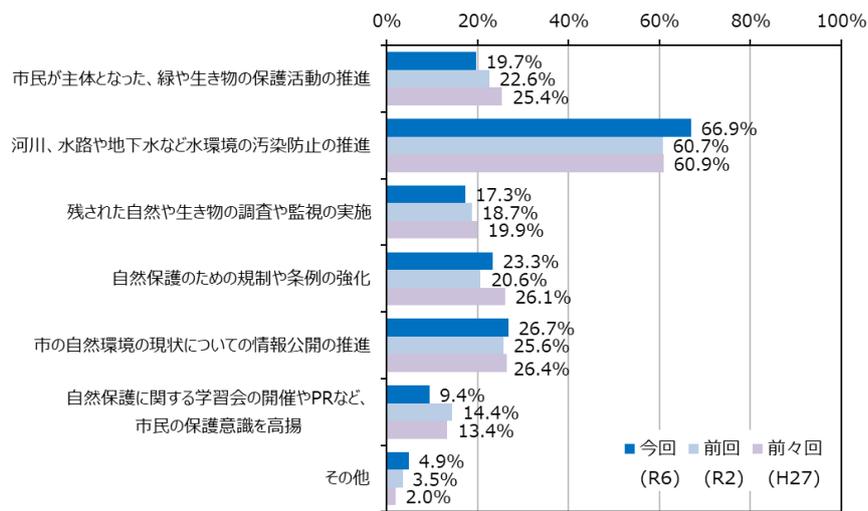


図 2-4-15 問3の単純集計結果

#### <経年比較>

問2と連動し、「河川、水路や地下水など水環境の汚染防止の推進」が増加傾向にある。他の項目は全体的に減少傾向にあるが、特に「自然保護に関する学習会の開催やPRなど、市民の保護意識を高揚」することに関しては大幅に減少している。



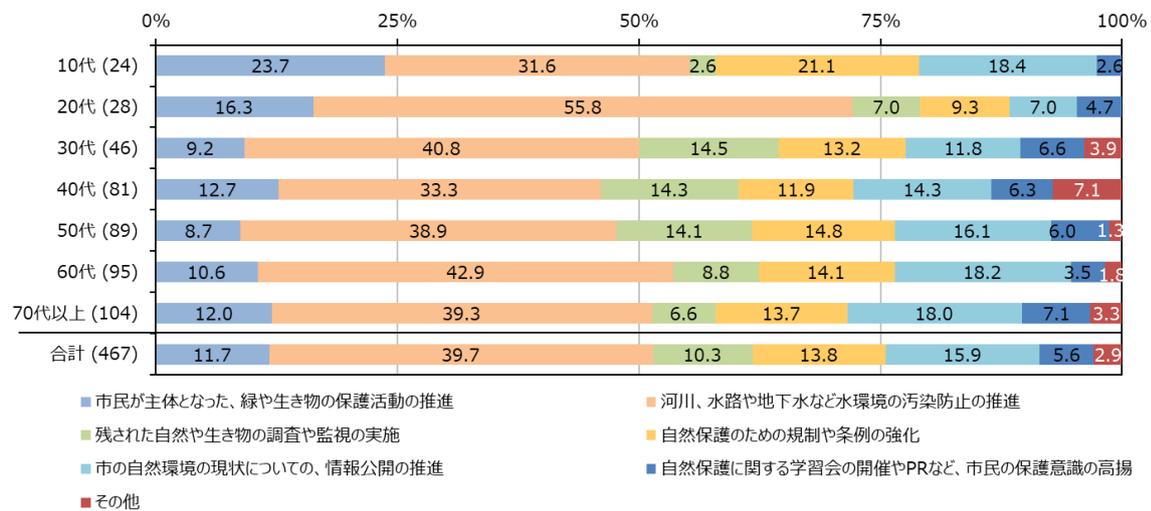
有効回答者数：今回468 前回402 前々回307

図 2-4-16 問3の過年度比較

## <クロス集計>

### ■年代別クロス集計

年代別では、20代で「河川、水路や地下水など水環境の汚染防止の推進」と回答した割合が高く、水環境に対する関心が高い。「残された自然や生き物の調査や監視の実施」は10代・20代で回答した割合が低く、「市の自然環境の現状についての情報公開の推進」は、20・30代で他の年代よりも回答した割合が低い。

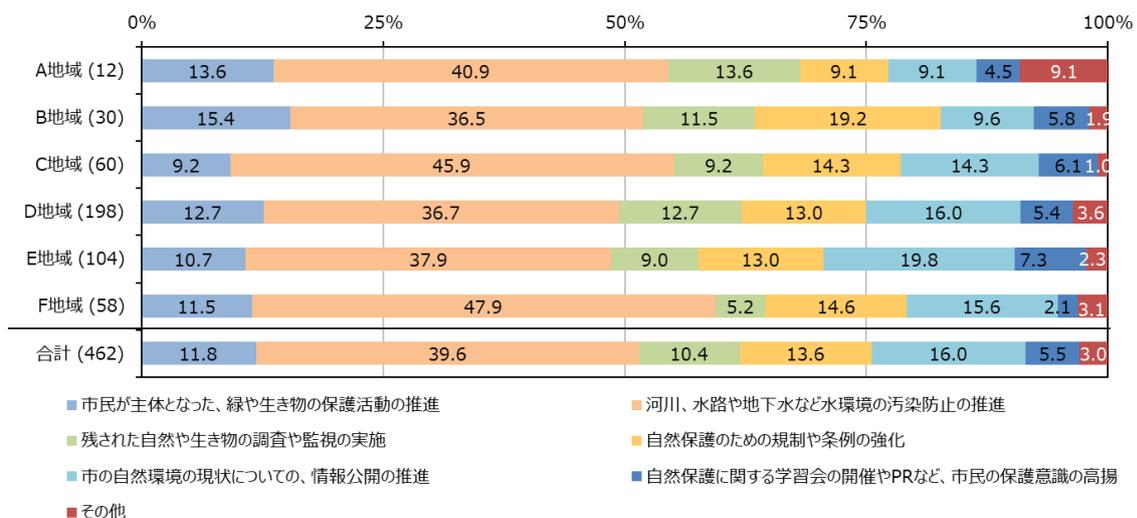


( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-17 問3のクロス集計結果（年代別）

### ■地域別クロス集計

地域別では、どの地域も「河川、水路や地下水など水環境の汚染防止の推進」と回答した割合が高く、隼人堀川、姫宮落川周辺に田畑と住宅地が入り組んでいるF地域においてはその傾向が顕著に見られた。



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-18 問3のクロス集計結果（地域別）

#### 問4 リサイクルや省エネルギーについての関心【単独回答】

##### <単純集計>

「関心があり、日常生活で実践している」が56.7%、「関心はないが、日常生活で実践している」が24.8%と80%以上の市民がリサイクルの取組を実施している。

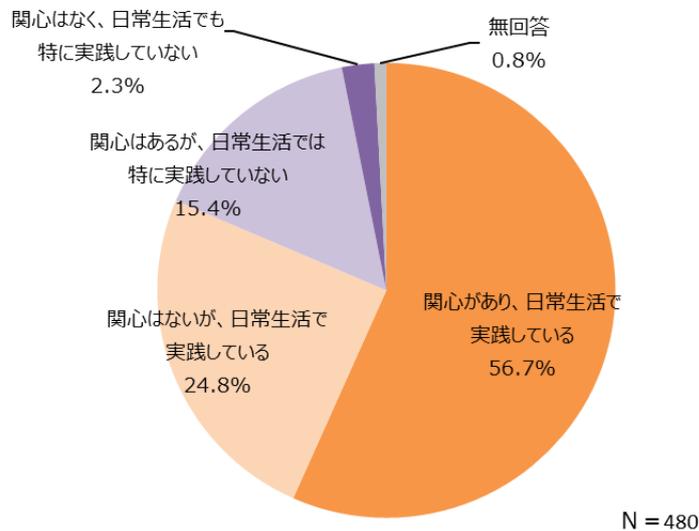
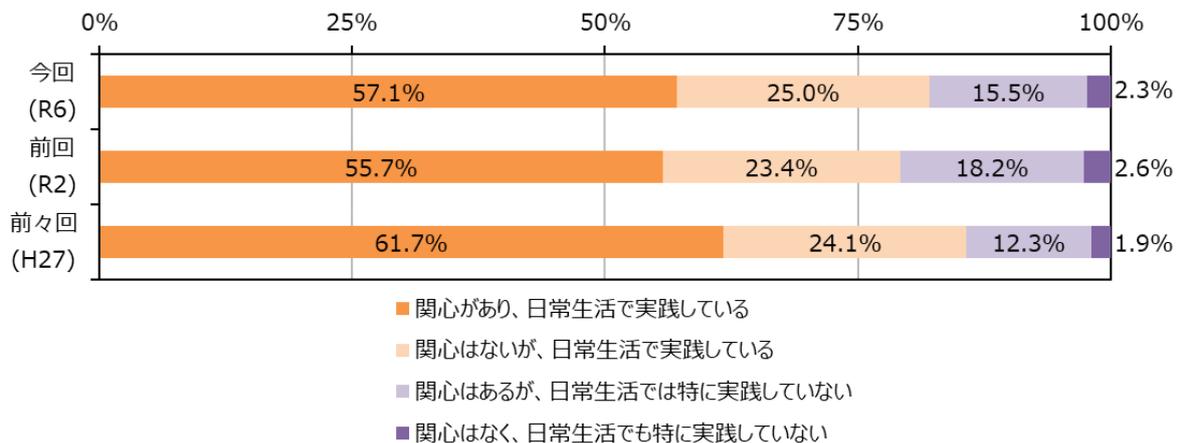


図 2-4-19 問4の単純集計結果

##### <経年比較>

前回までは、「関心があり、日常生活で実践している」「関心はないが、日常生活で実践している」と回答した市民の割合は減少傾向にあったが、今回は前々回と近い水準まで回復した。



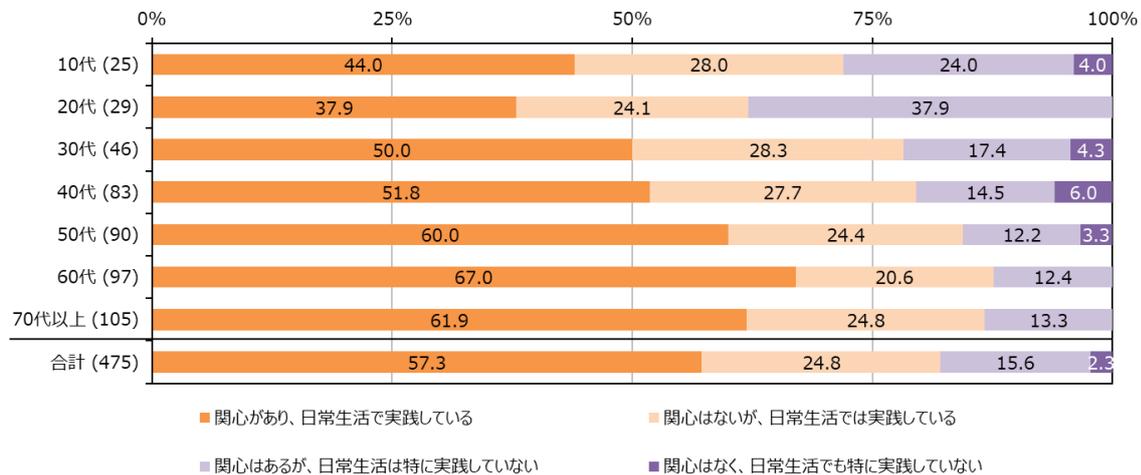
有効回答者数：今回476 前回418 前々回316

図 2-4-20 問4の過年度比較

## <クロス集計>

### ■年代別クロス集計

年代別では、若年層ほど「関心があり、日常生活で実践している」と回答する割合が低く、「関心はあるが、日常生活は特に実践していない」と回答する割合が高くなっている。関心はないと回答した割合は、世代間でほとんど変わらず30%程度となっている。

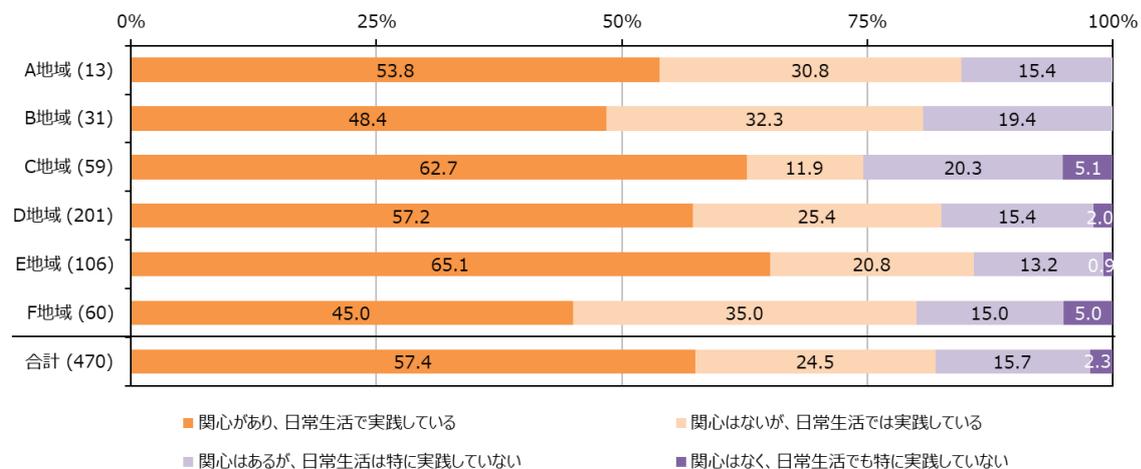


( )内数値：有効回答者数

図 2-4-21 問4のクロス集計結果（年代別）

### ■地域別クロス集計

地域別では、C地域において、「関心があり、日常生活で実践している」と「関心はないが、日常生活では実践している」を合算した割合が75%を下回っており、「関心はあるが、日常生活は特に実践していない」と回答した割合が他地域と比べ高く、日常生活でできる取組の啓発が課題となる。



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-22 問4のクロス集計結果（地域別）

### 問5 リサイクルや省エネルギーに関して行っている取組【複数回答】

※問4で「関心があり、日常生活で実践している」、「関心はないが、日常生活で実践している」と回答した場合  
 <単純集計>

「買い物袋の持参や過剰包装を断る」が83.9%と最も多く、次いで「油や食べ残しを排水溝へ流さない」が65.5%、「節電」が62.4%となった。

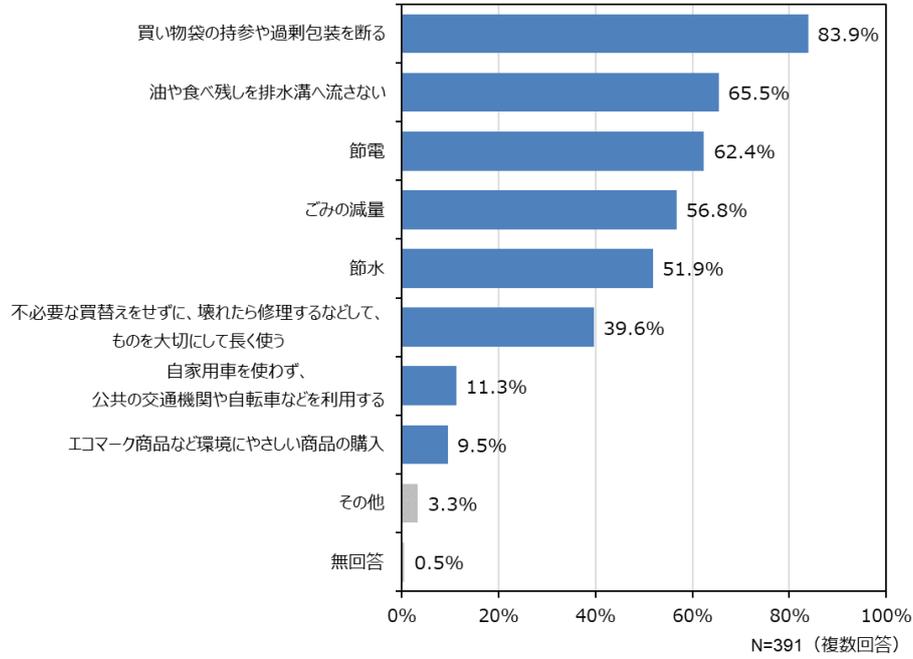


図 2-4-23 問5の単純集計結果

### <経年比較>

全体的に減少傾向にあるが、令和2年7月の買い物袋有料化の影響もあり、「買い物袋の持参や過剰包装を断る」が84.3%と多くの市民が取り組んでいる。

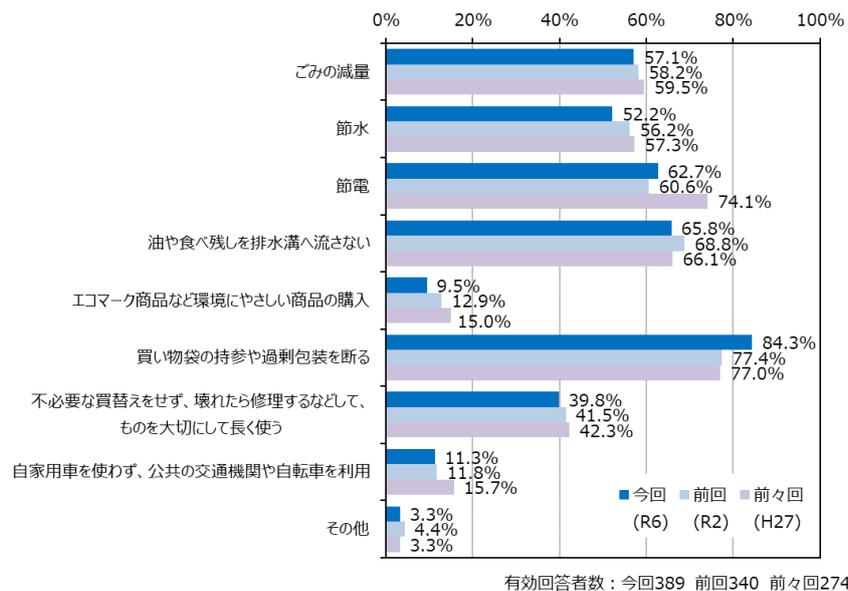
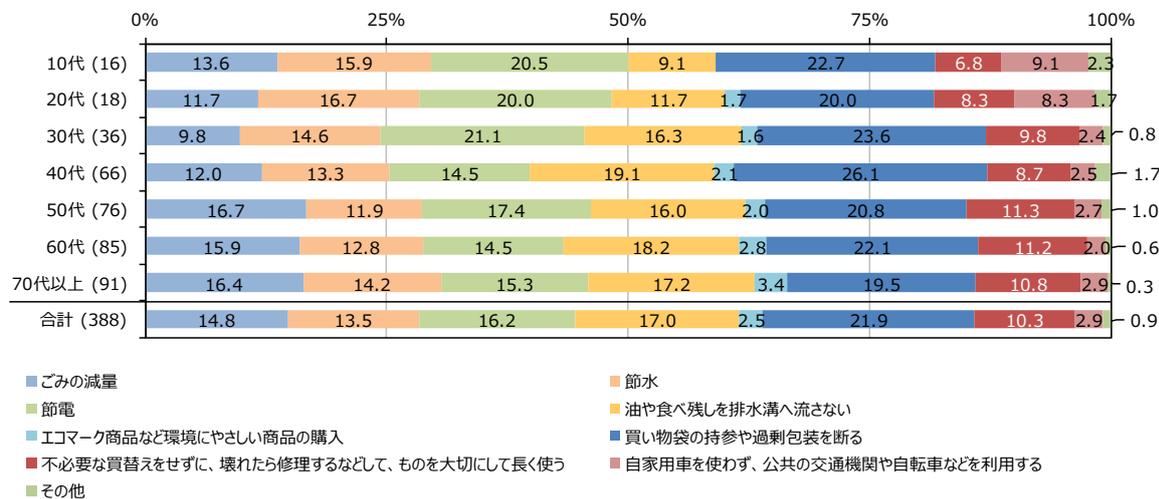


図 2-4-24 問5の過年度比較

<クロス集計>

■年代別クロス集計

年代別では、自動車の保有割合が高くなる30代以上において、「自家用車を使わず、公共の交通機関や自転車などを利用する」と回答した割合が低く、スマートムーブ等の普及が課題となる。

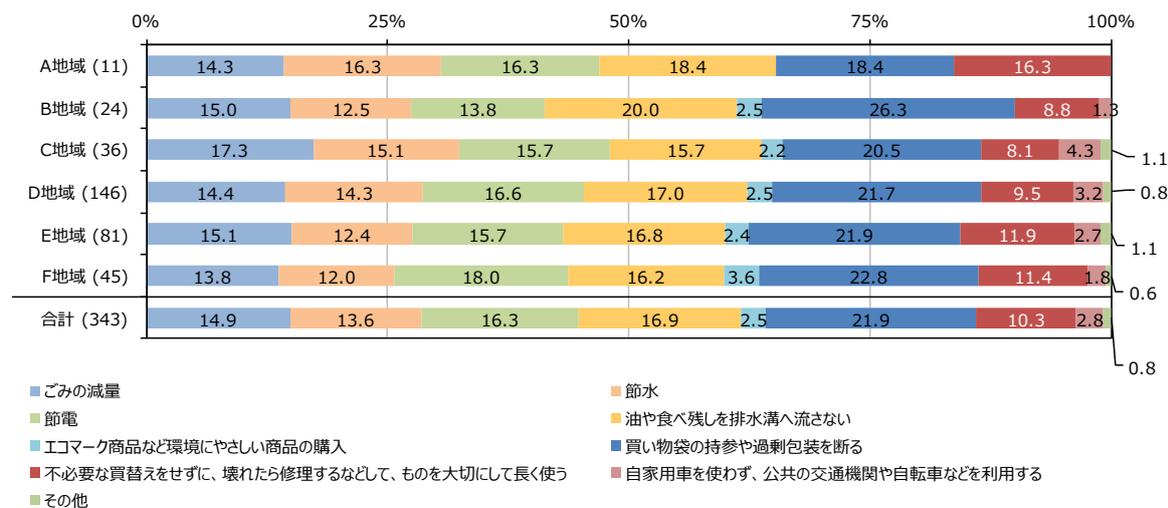


( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-25 問5のクロス集計結果（年代別）

■地域別クロス集計

地域別では、白岡・新白岡駅から距離が遠く、白岡・新白岡駅への路線バスが通っていない、A・B・F地域において、「自家用車を使わず、公共の交通機関や自転車などを利用する」と回答した割合が低い傾向が見られた。



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-26 問5のクロス集計結果（地域別）

### 問6 リサイクルや省エネルギーに関する取組を行わない理由【単独回答】

※問4で「関心はあるが、日常生活では特に実践していない」、「関心はなく、日常生活でも特に実践していない」と回答した場合

#### <単純集計>

「どのような取組をすれば良いのかわからない」が52.9%で最多となっている。

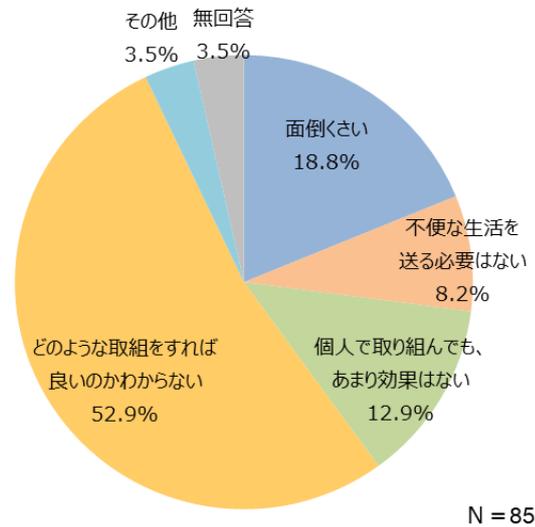
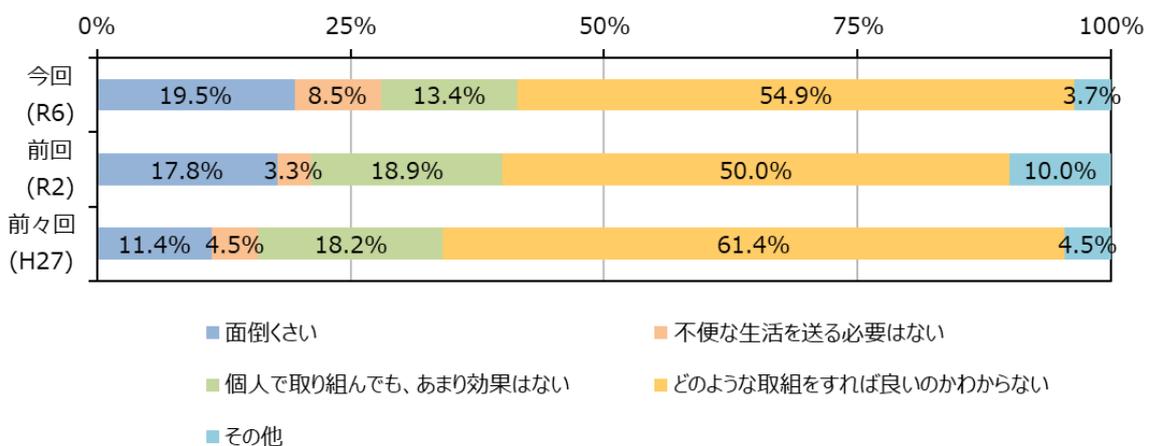


図 2-4-27 問6の単純集計結果

#### <経年比較>

「どのような取組をすれば良いのかわからない」が3回のアンケートを通じて50%以上を占めている。加えて、「面倒くさい」、「不便な生活を送る必要はない」という否定的な意見が増加していることから、リサイクル・省エネルギーで得られるメリットなどの情報提供や大きな負担とならないような取組の検討が重要である。



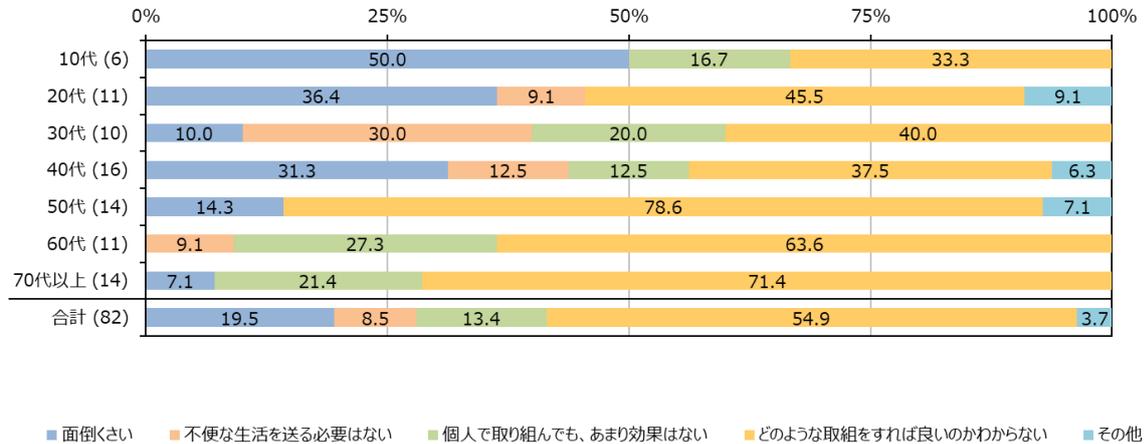
有効回答者数：今回82 前回90 前々回44

図 2-4-28 問6の過年度比較

## <クロス集計>

### ■年代別クロス集計

年代別では、若年層ほど「面倒くさい」と回答した割合が高く、高齢者層ほど「どのような取組をすれば良いのかわからない」と回答した割合が高くなる傾向が見られた。

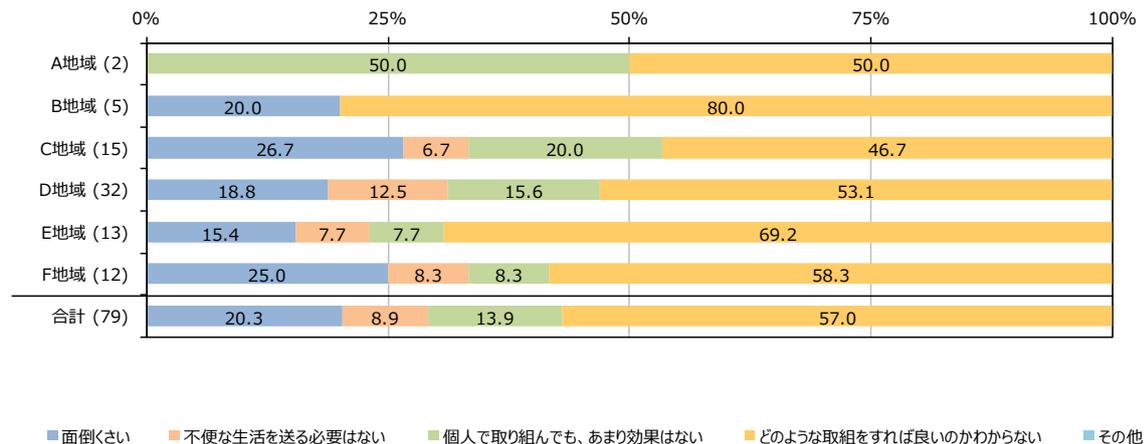


( )内数値：有効回答者数

図 2-4-29 問 6 のクロス集計結果（年代別）

### ■地域別クロス集計

地域別では、どの地域も「どのような取組をすれば良いのかわからない」と回答した割合が50%以上を占めている。特にB・E地域では、その回答が顕著に見られた。



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-30 問 6 のクロス集計結果（地域別）

## 問7 リサイクルや省エネルギーを進める上で行うべき取組【複数回答（2つまで）】

### <単純集計>

「ごみの分別収集を強化し、資源の再利用を図る」が31.5%と最も多く、次いで「一人ひとりが節水、節電などに積極的に取り組む」が29.6%、「企業や商店などが再利用できる廃品の回収を積極的に進める」が22.7%となった。

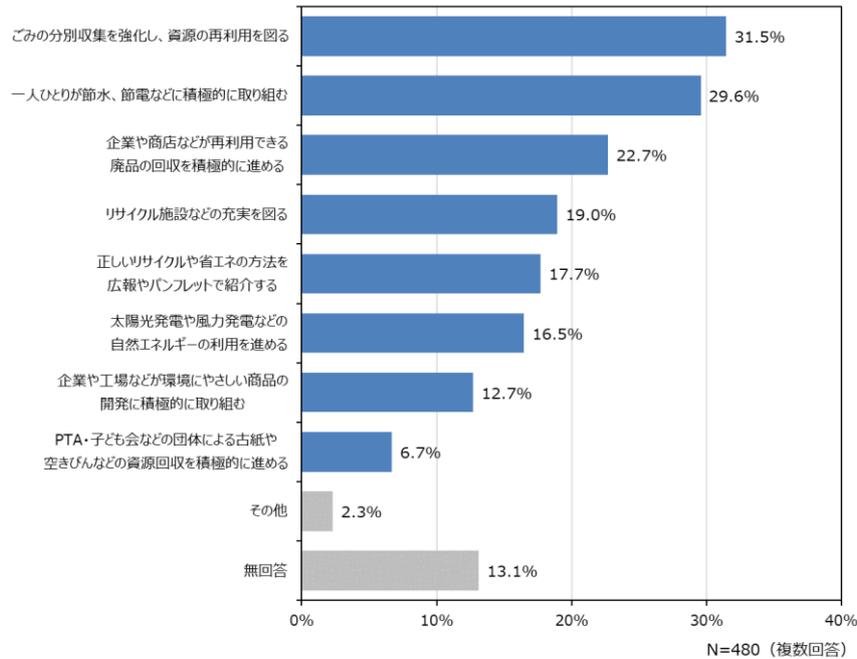


図 2-4-31 問7の単純集計結果

### <経年比較>

増減を繰り返している項目が多いが、「一人ひとりが節水、節電などに積極的に取り組む」と、「正しいリサイクルや省エネの方法を広報やパンフレットで紹介する」は減少傾向にある。

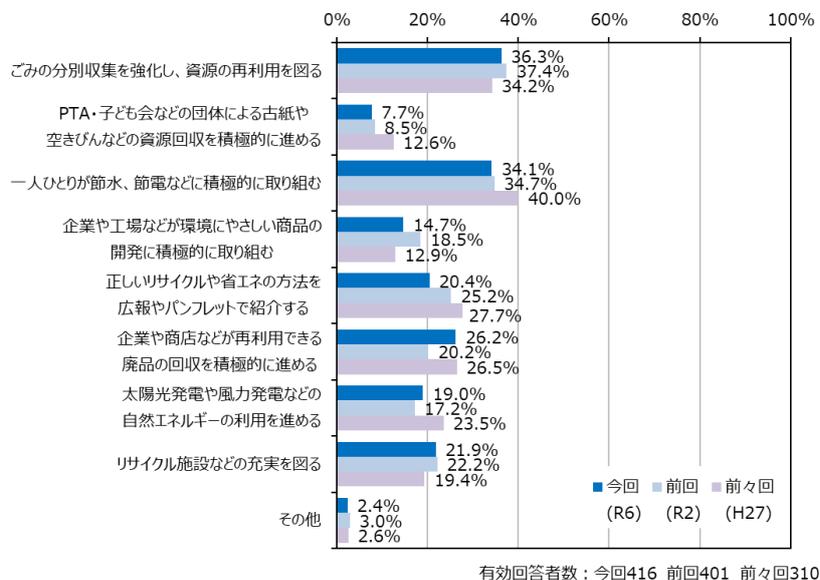
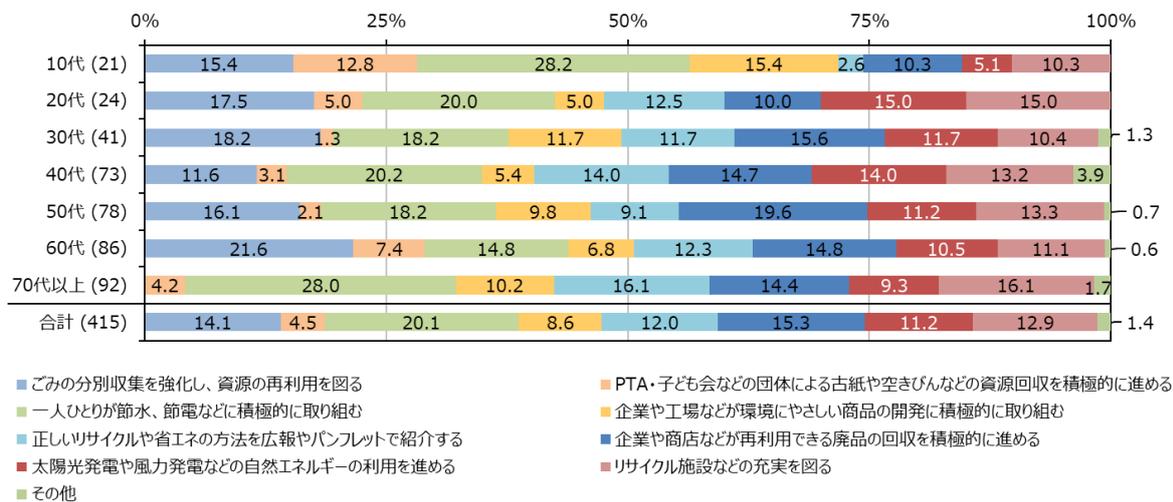


図 2-4-32 問7の過年度比較

<クロス集計>

■年代別クロス集計

年代別では、70代以上で「ごみの分別収集を強化し、資源の再利用を図る」と回答した市民は見られなかった。「PTA・子供会などの団体による古紙や空きびんなどの資源回収を積極的に進める」は、PTA や子供会が身近な 10 代で回答した割合が高い。一方で親世代に当たる 30～50 代の回答割合は低い。

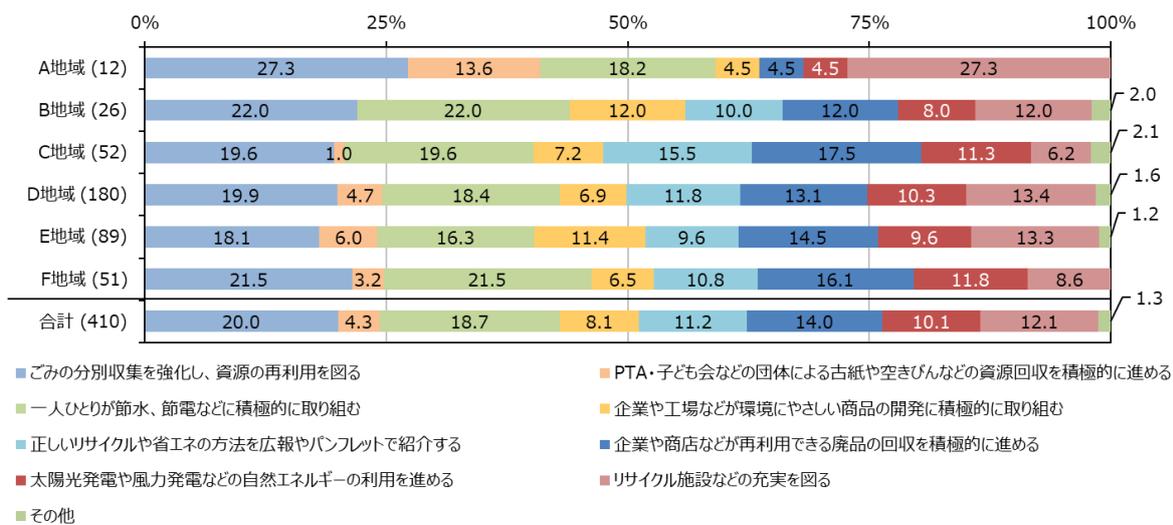


( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-33 問7のクロス集計結果（年代別）

■地域別クロス集計

地域別では、A 地域において「ごみの分別収集を強化し、資源の再利用を図る」、「リサイクル施設などの充実を図る」と回答した割合が高く、リサイクルのニーズが高い。



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-34 問7のクロス集計結果（地域別）

## 問 8 SDGs の認知度

### <単純集計>

「言葉も内容や意味も知っている」が 65.2%、「言葉だけは知っている（聞いたことがある）」が 25.6%と、90%以上の市民が SDGs を認知している。

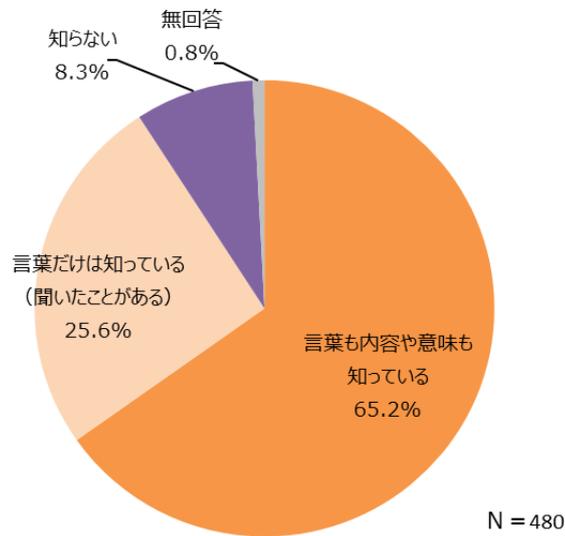
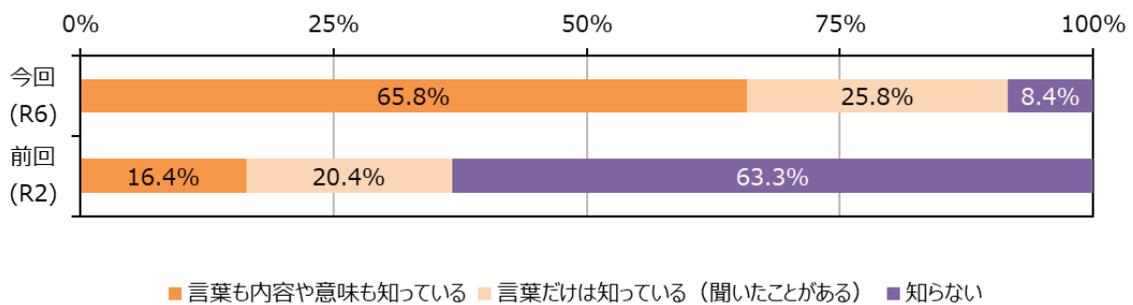


図 2-4-35 問 8 の単純集計結果

### <経年比較>

「言葉も内容や意味も知っている」が 65.8%と前回の約 4 倍に増加した。メディアなどでも取り上げられていることから、認知度が大幅に上昇したと考えられる。

※前々回は未実施



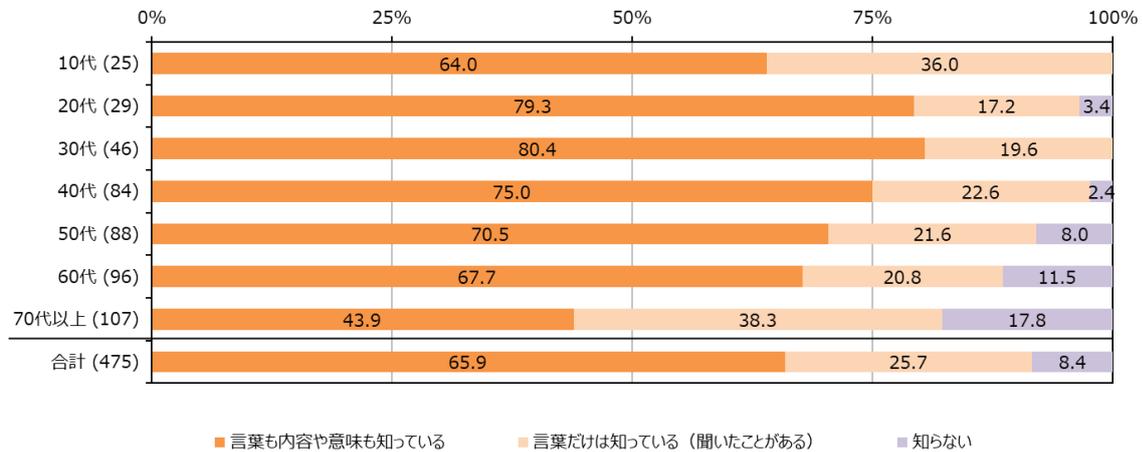
有効回答者数：今回476 前回422

図 2-4-36 問 8 の過年度比較

## <クロス集計>

### ■年代別クロス集計

年代別では、20～30代でSDGsについて「言葉も内容も知っている」と回答した割合が高く、年代が上がるにつれて回答した割合が下がる。10代も「言葉も内容も知っている」と回答した割合が低く、学校での環境教育を行うことで、認知度を上げることが重要である。

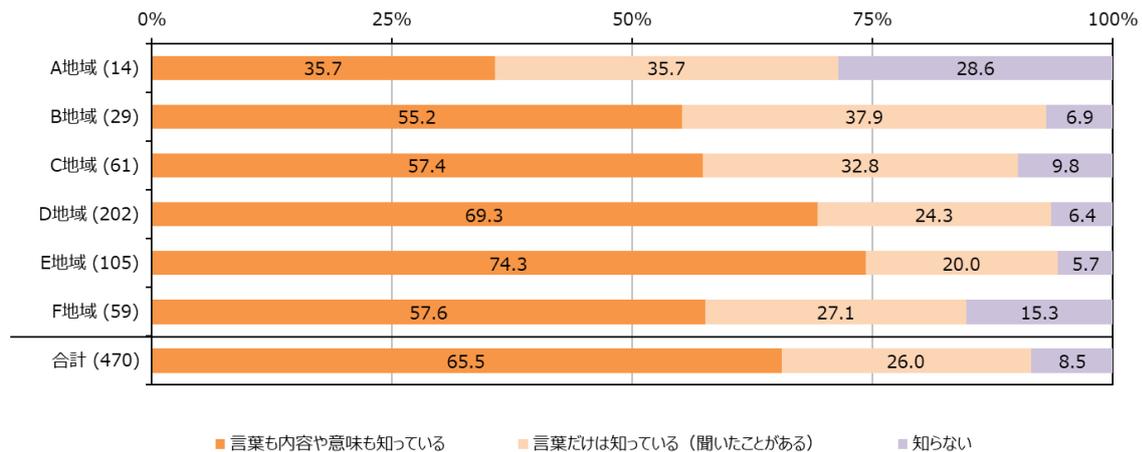


( )内数値：有効回答者数

図 2-4-37 問 8 のクロス集計結果 (年代別)

### ■地域別クロス集計

地域別では、年代別同様に高齢者の多い A 地域での認知度が低い。



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-38 問 8 のクロス集計結果 (地域別)

### (3) 環境づくりへの参加や役割について

#### 問9 参加してみたい自主的な環境づくり活動【複数回答】

##### <単純集計>

「ごみゼロ・クリーン活動等の地域の清掃・美化活動」が35.0%と最も多く、次いで「植樹やガーデニング等の地域の緑化活動」が25.2%、「地域の防災活動」が17.7%と、地域に根付いた活動の得票率が高い。一方で、「文化財保護活動や学習会」、「脱炭素社会構築のためのキャンペーンへの参加」といった活動は得票率が低い。また、「参加したいとは思わない」も25.6%あり、環境づくり活動への参加を促す必要がある。「その他」ではSDGsに関する取組の紹介やビオトープの保全などの意見があった。

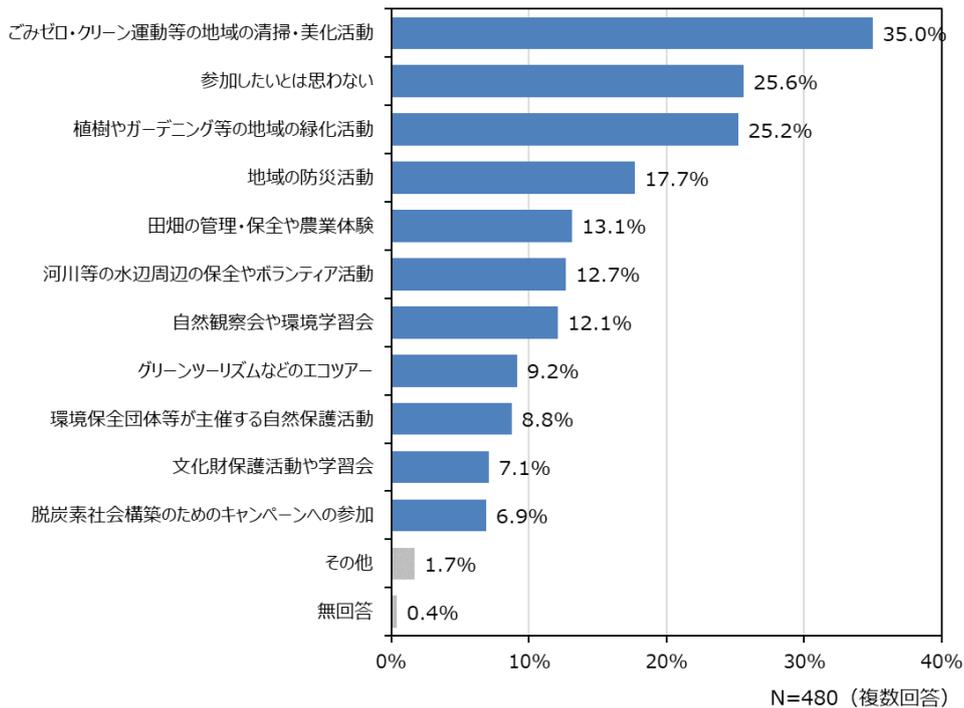
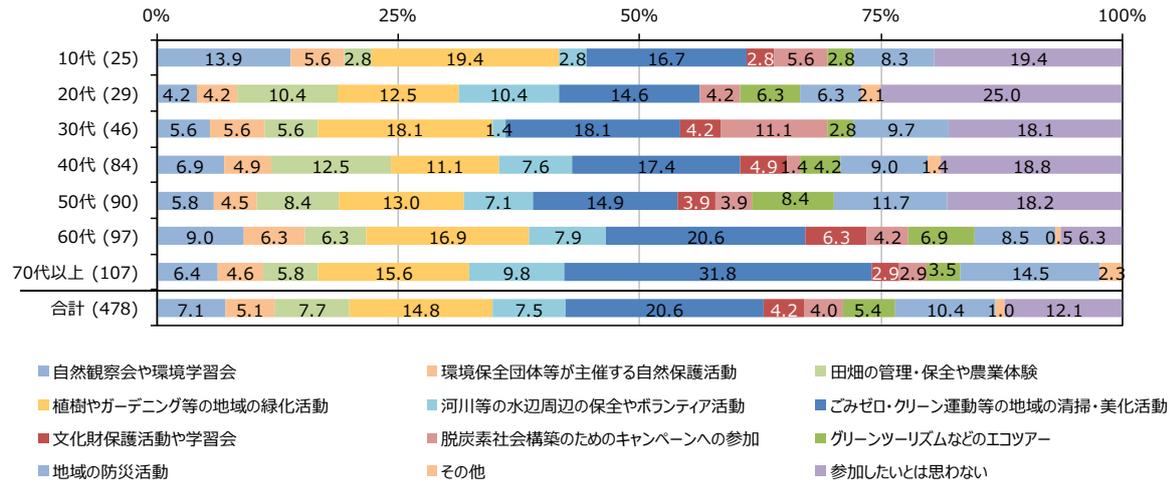


図 2-4-39 問9の単純集計結果

## <クロス集計>

### ■年代別クロス集計

年代別では、60代以上で「ごみゼロ・クリーン活動等の地域の清掃・美化活動」、「地域の防災活動」の回答率が高い。「植樹やガーデニング等の地域の緑化活動」については、世代間の差異が少ない。また、自然に触れる機会の多い10代では、「自然観察会や環境学習会」と回答した割合が高い。生活と時間にゆとりが生まれる60代以降では、「参加したいとは思わない」と回答した市民がほとんどいない。

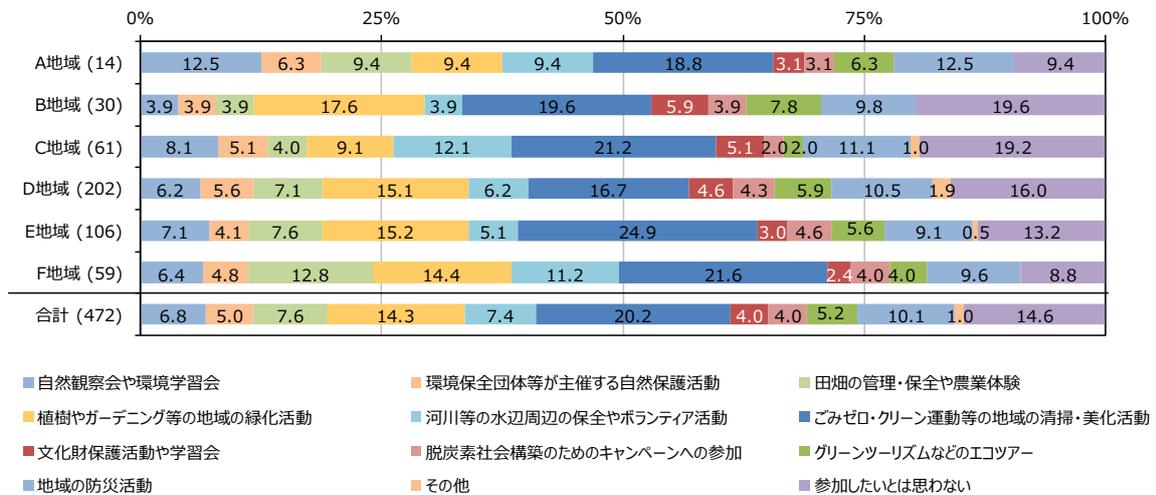


( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-40 問9のクロス集計結果（年代別）

### ■地域別クロス集計

地域別では、どの地域も「地域の清掃・美化活動」の回答率が高い。なお、B・C・D地域は、市平均よりも「参加したくない」の回答率が高い。



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-41 問9のクロス集計結果（地域別）

### 問 10 市民の自主的な環境づくりに参加したいと思わない理由【単独回答】

※問 9 で「参加したいとは思わない」と回答した場合

#### <単純集計>

「多忙であり時間が取れない」が 39.8%と最も多く、次いで「体力的に無理」が 22.8%となっている。

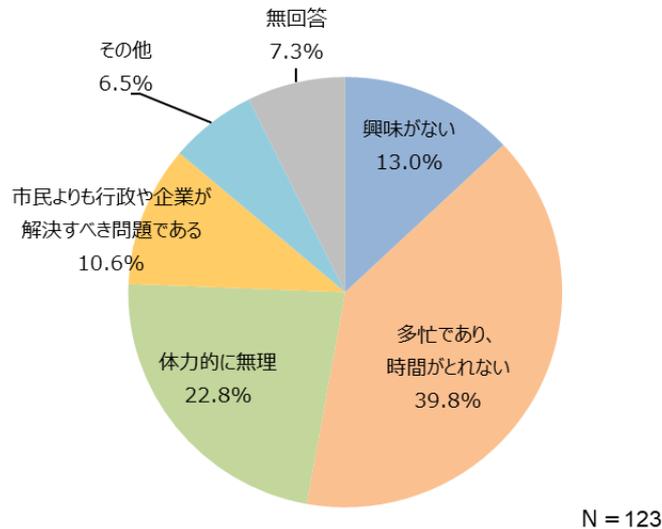
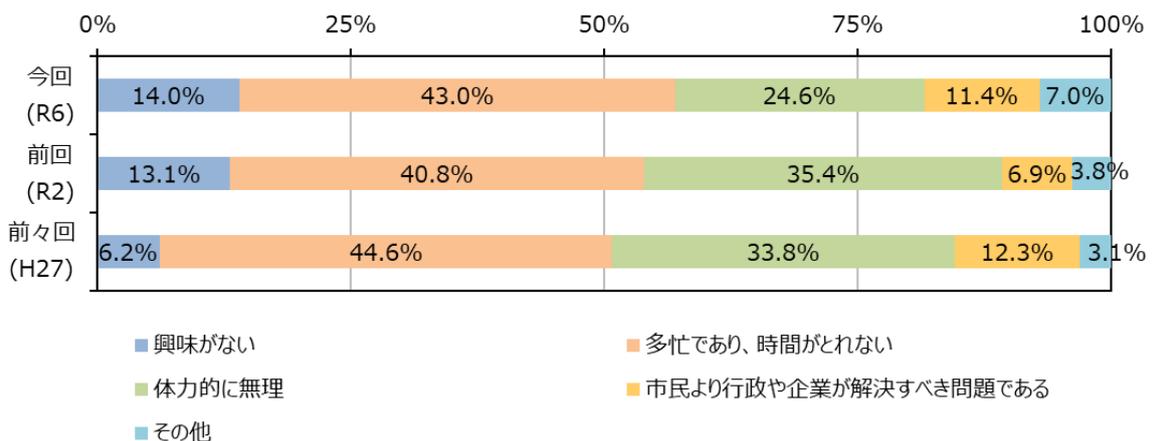


図 2-4-42 問 10 の単純集計結果

#### <経年比較>

「多忙であり時間が取れない」がどの年度においても最も高くなっている。「興味がない」の割合が増加傾向にあり、市民に求める活動の周知や内容を検討していく必要がある。



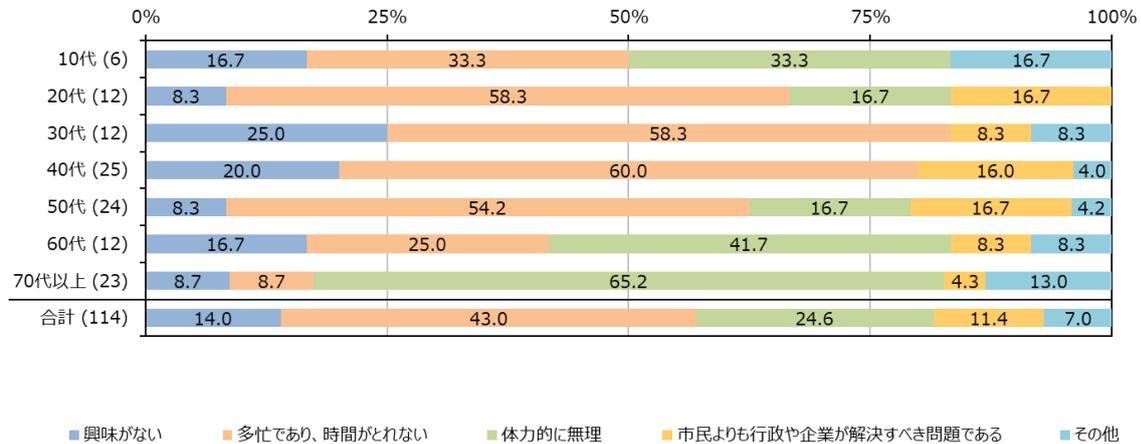
有効回答者数：今回114 前回130 前々回65

図 2-4-43 問 10 の過年度比較

## <クロス集計>

### ■年代別クロス集計

年代別では、20～50代で「多忙であり、時間が取れない」と回答した割合が50%以上を占めている。また、30・40代では「興味がない」と回答した割合が他の世代よりも高い。

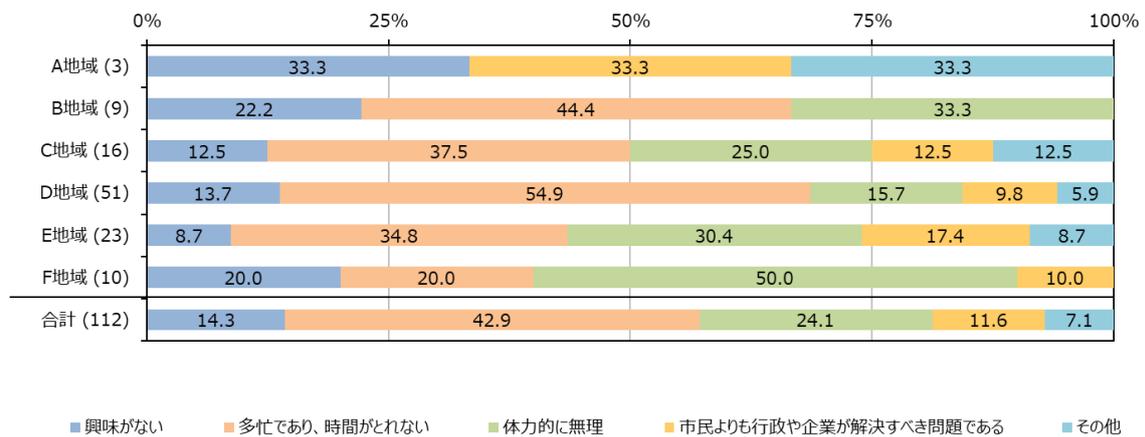


( )内数値：有効回答者数

図 2-4-44 問 10 のクロス集計結果（年代別）

### ■地域別クロス集計

地域別では、D地域において、「多忙であり、時間が取れない」と回答した割合が高い。



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-45 問 10 のクロス集計結果（地域別）

**問 11 市民が白岡市の環境づくりに参加するために、市が重点的に取り組むべきこと【複数回答（2 つまで）】**

**<単純集計>**

「市の環境の状況や環境問題に関する情報公開」が 45.2%と最も多く、次いで「各行政区や自治会等によるごみゼロ・クリーン運動などの清掃活動・美化活動の促進」が 36.3%、「自主的に環境問題に取り組む企業や組織・サークル等への積極的支援」が 27.3%と続く。

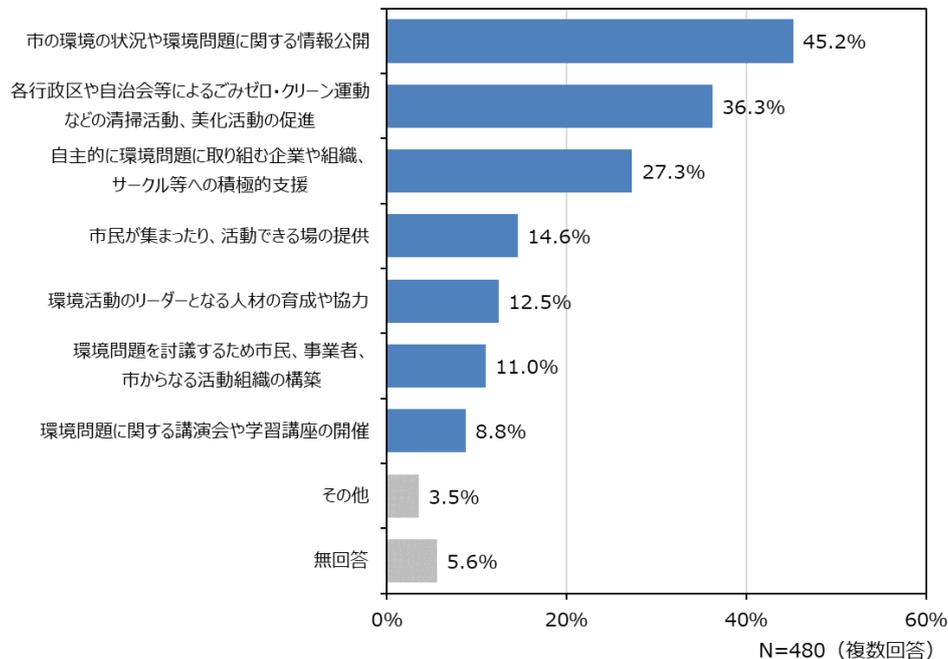


図 2-4-46 問 11 の単純集計結果

**<経年比較>**

「市の環境の状況や環境問題に関する情報公開」では、前々回よりも増加し、最も求められる取組となった。増減を繰り返している項目が多いが、「市民が集まったり、活動できる場の提供」は一貫して減少傾向にある。

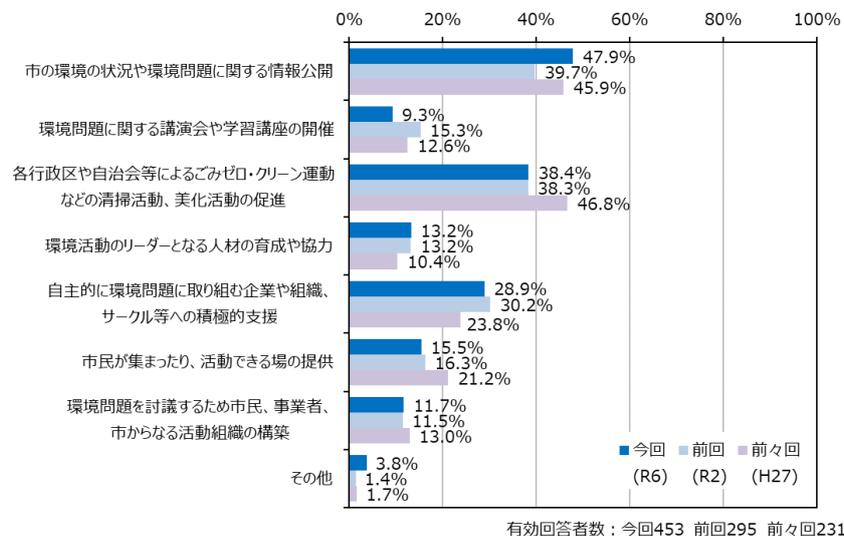
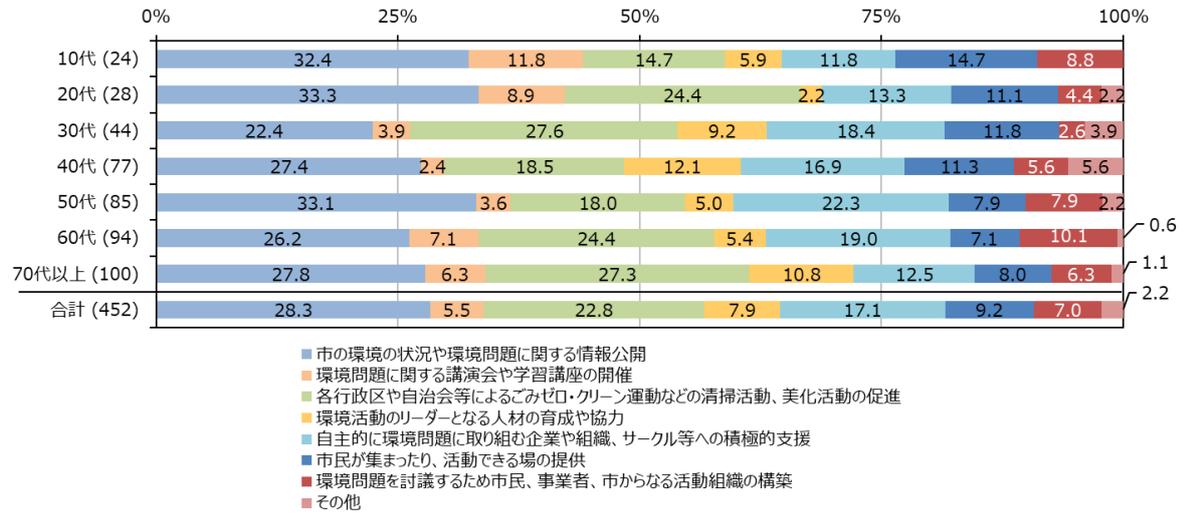


図 2-4-47 問 11 の過年度比較

## <クロス集計>

### ■年代別クロス集計

年代別では、「市の環境の状況や環境問題に関する情報公開」、「各行政区や自治会等によるごみゼロ・クリーン運動などの清掃活動・美化活動の促進」は全ての世代で回答した割合が高い。「環境問題に関する講演会や学習講座の開催」は10・20代で他の年代よりも回答した割合が高い。

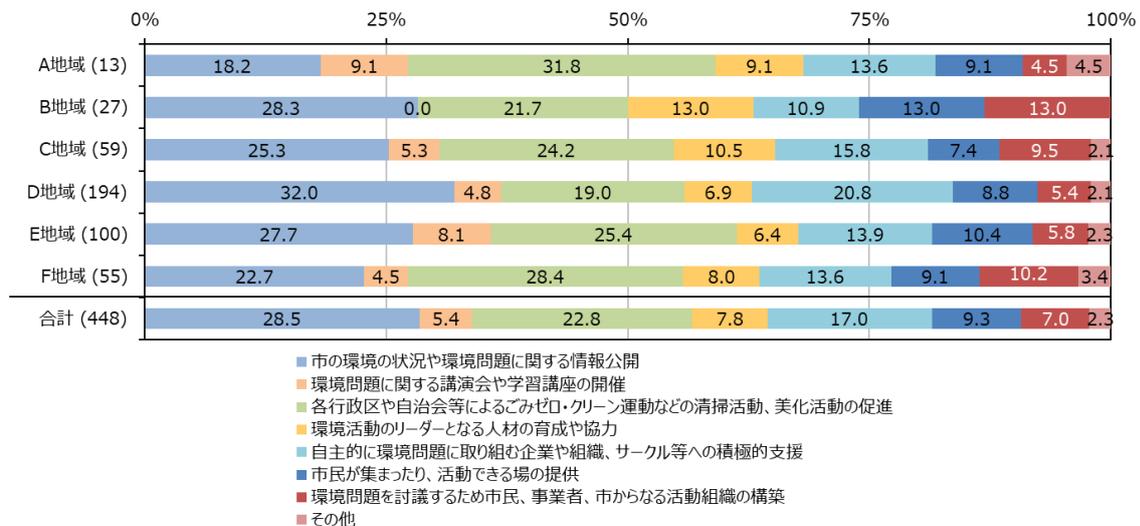


( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-48 問 11 のクロス集計結果（年代別）

### ■地域別クロス集計

地域別では、比較的若年層の多いB・D地域において、「市の環境の状況や環境問題に関する情報公開」と回答した割合が高い。



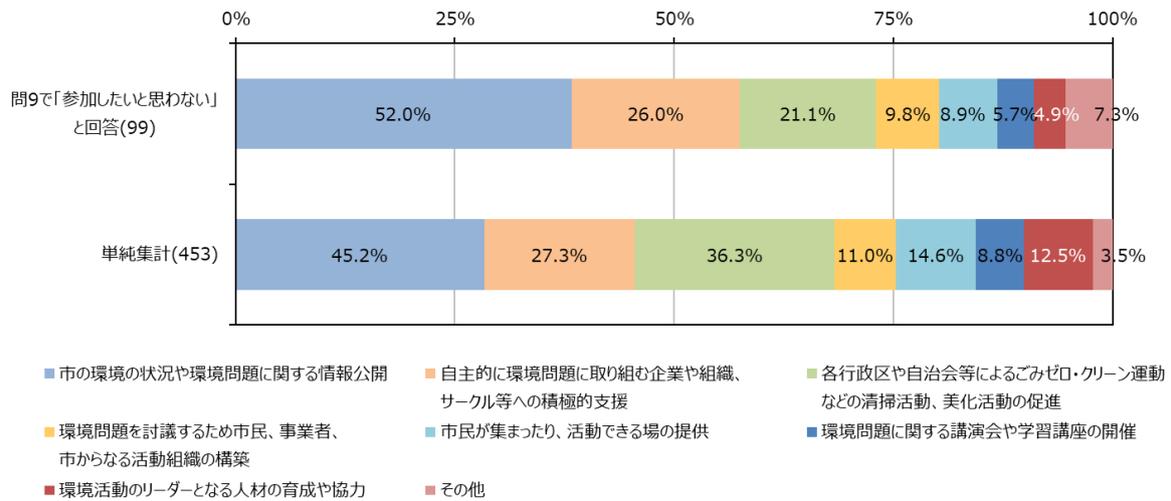
( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-49 問 11 のクロス集計結果（地域別）

### ■参加してみたい自主的な環境づくり活動（問9）とのクロス集計

環境づくり活動への参加を促すために、問9において環境づくり活動に「参加したくない」と回答した市民が、問11において、市民が環境づくりに参加するために市が重点的に取り組むべきこととしている活動を分析する。

下図より、問9において環境づくり活動に「参加したくない」と回答した市民の52.0%が、市の環境の状況や環境問題に関する情報公開を求めており、これは単純集計の結果よりも多い割合となっている。



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

N = 123（複数回答）

図 2-4-50 環境づくりに参加したくない（問9）と環境づくりに参加するために市がすべきこと（問11）のクロス集計結果

問 12 白岡市の環境を守り改善していくために望ましい役割分担【単独回答】

＜単純集計＞

「市民、事業者、市がそれぞれの責任を果たすとともに、三者が協力しながら環境を守り、育てる」が最も多く 40.4%、次いで「市が主体となって環境を守るための仕事をし、市民や事業者は協力する」が 39.4%となった。

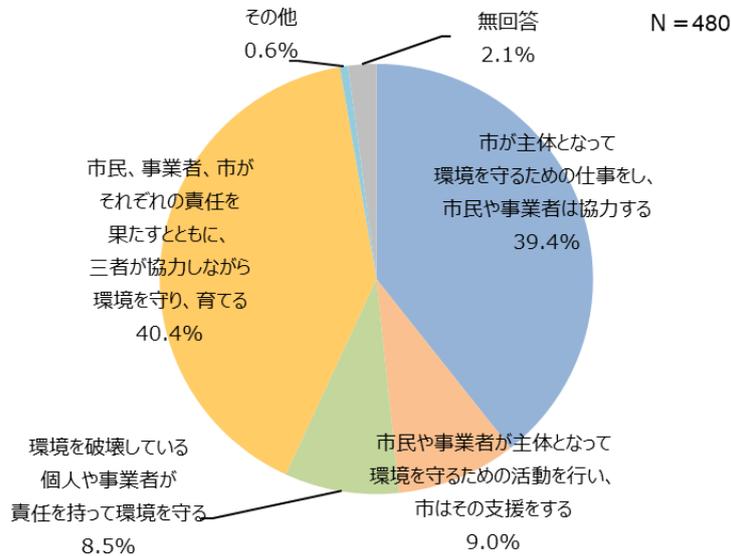


図 2-4-51 問 12 の単純集計結果

＜経年比較＞

「市民、事業者、市がそれぞれの責任を果たすとともに、三者が協力しながら環境を守り、育てる」がどの回も最も多いが、今回は「市が主体となって環境を守るための仕事をし、市民や事業者は協力する」の割合が上がっており、市への期待が高まっている。



- 市が主体となって環境を守るための仕事をし、市民や事業者は協力する
- 市民や事業者が主体となって環境を守るための活動を行い、市はその支援をする
- 環境を破壊している個人や事業者が責任を持って環境を守る
- 市民、事業者、市がそれぞれの責任を果たすとともに、三者が協力しながら環境を守り、育てる
- その他

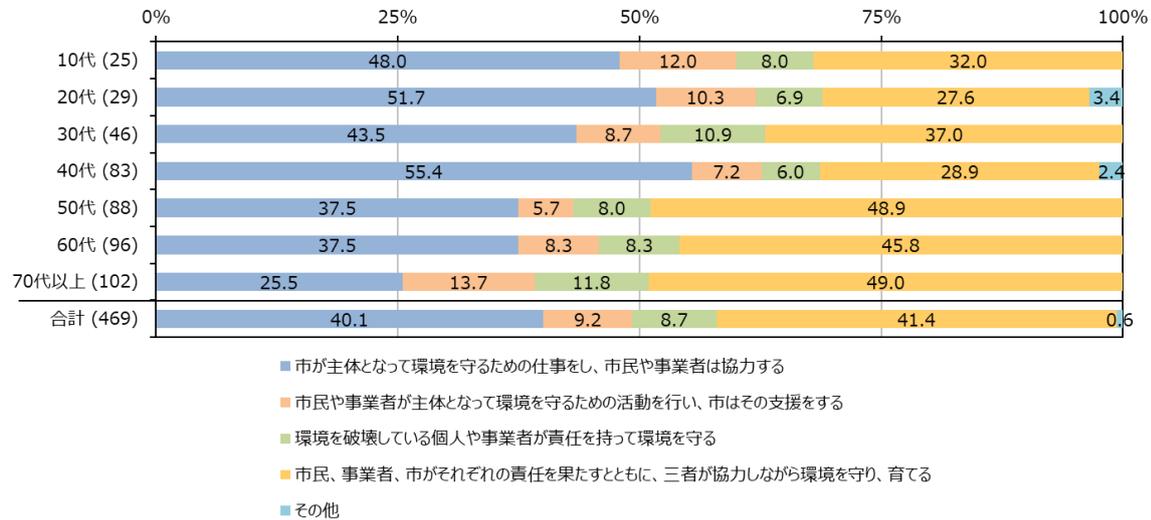
有効回答者数：今回470 前回416 前々回310

図 2-4-52 問 12 の過年度比較

## <クロス集計>

### ■年代別クロス集計

年代別では、10～40代では「市が主体となって環境を守るための仕事をし、市民や事業者は協力する」が最も多く、50代以上では「市民、事業者、市がそれぞれの責任を果たすとともに、三者が協力しながら環境を守り、育てる」が最も多い。

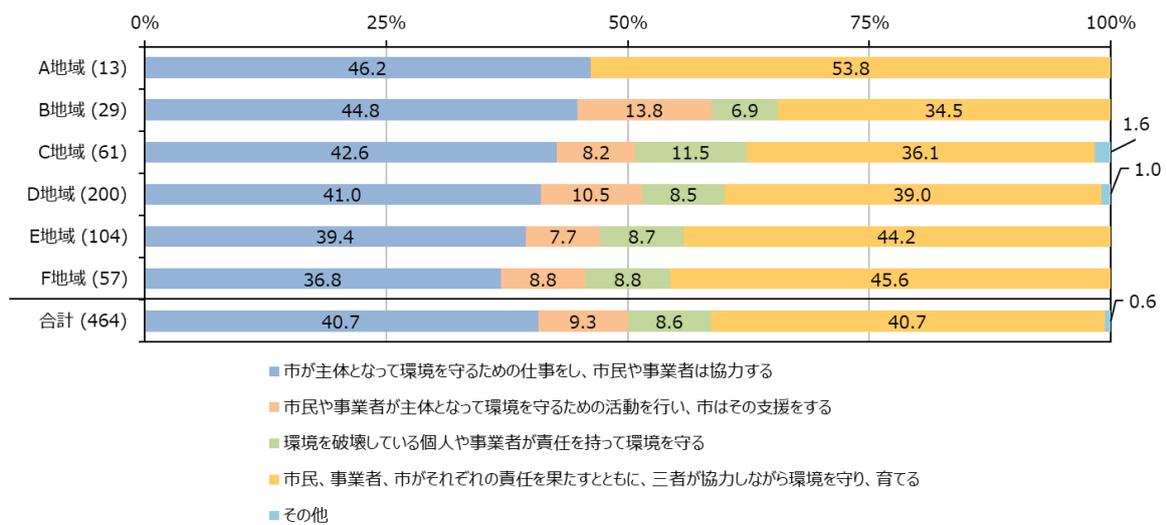


( )内数値：有効回答者数

図 2-4-53 問 12 のクロス集計結果（年代別）

### ■地域別クロス集計

地域別では、「市が主体となって環境を守るための仕事をし、市民や事業者は協力する」、「市民、事業者、市がそれぞれの責任を果たすとともに、三者が協力しながら環境を守り、育てる」を回答する割合は年齢で差が出たにもかかわらず、ほとんど差がない。



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-54 問 12 のクロス集計結果（地域別）

(4) 市の環境行政の在り方について

問 13 環境基本計画の施策の効果【単独回答】

<単純集計>

全ての項目で「よくわからない」が50%以上となっており、施策の効果に関する情報の周知が課題となる。「安心安全で環境にやさしいごみ処理の推進」、「3R（リユース、リデュース、リサイクル）の推進」、「歴史・文化の保護」に関しては、「効果があったと思う」と回答した割合が、「効果があったとは思えない」よりも20%近く高く、効果を実感している市民が多い。一方、「水質環境の保全」、「すぐれた景観の確保」、「温暖化対策に向けた緩和策の推進」、「騒音・振動の防止」、「ごみの不法投棄の防止」については「効果があったとは思えない」と回答した割合の方が「効果があったと思う」と回答した割合よりも多い。

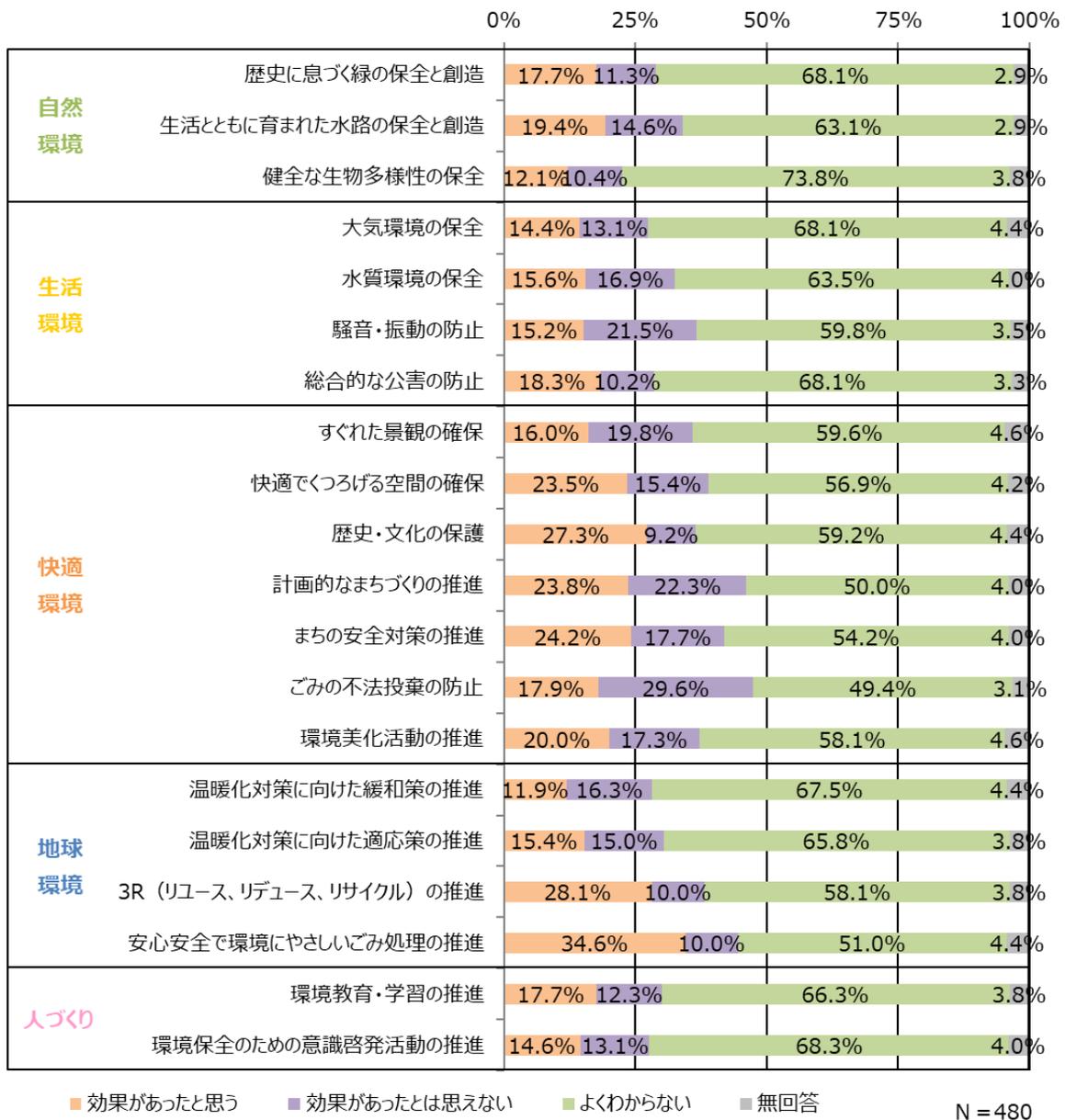


図 2-4-55 問 12 の単純集計結果

それぞれの施策について、「効果があったと思う」と回答した割合が、「効果があったとは思えない」に着目すると、特に安心安全で環境にやさしいごみ処理の推進、3R（リユース、リデュース、リサイクル）の推進、歴史・文化の保護では「効果があったと思う」と回答した割合の方が「効果があったとは思えない」と回答した割合よりも15%以上高い。一方で、水質環境の保全、すぐれた景観の確保、温暖化対策に向けた緩和策の推進、騒音・振動の防止、ごみの不法投棄の防止に関しては「効果があったと思う」と回答した割合よりも「効果があったとは思えない」と回答した割合の方が高い。

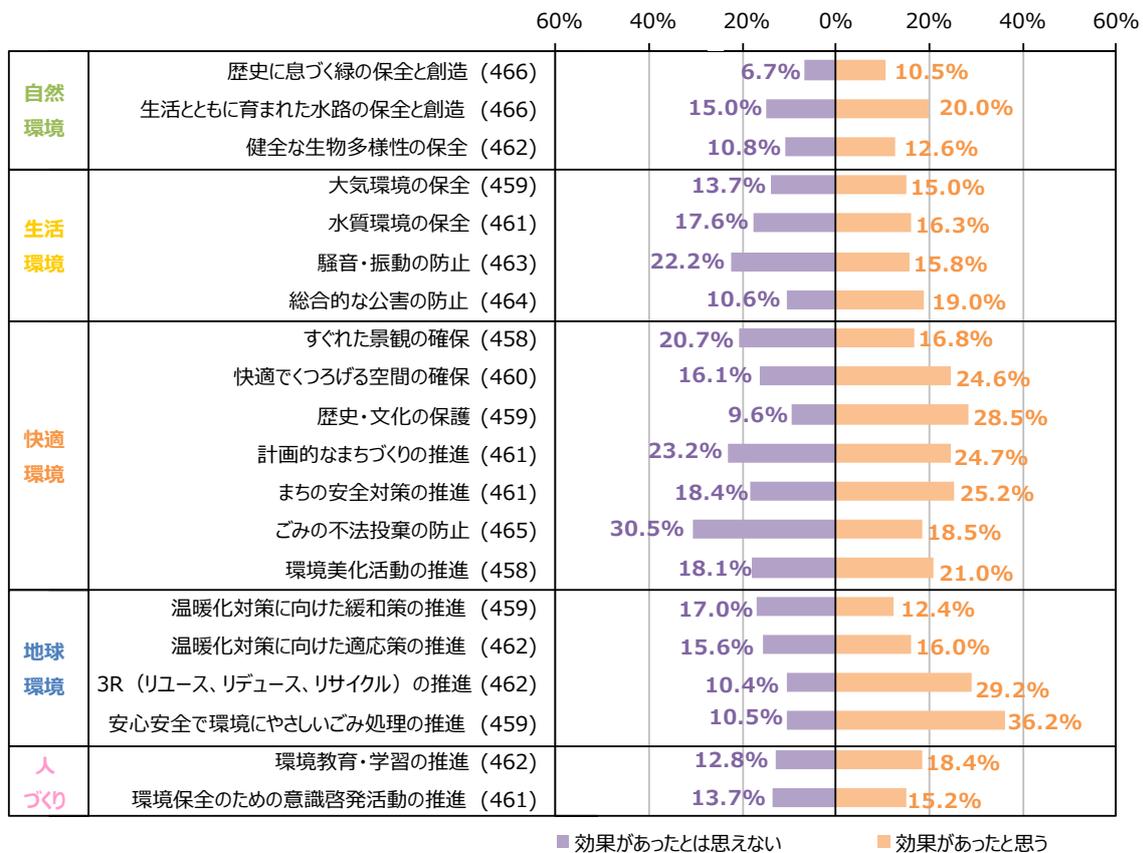
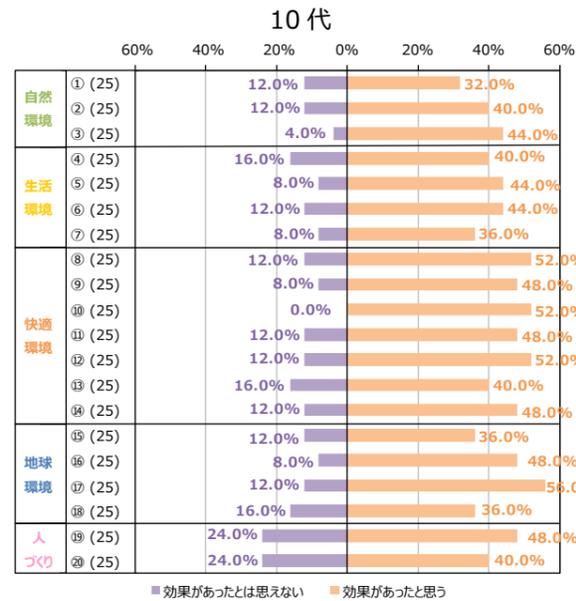


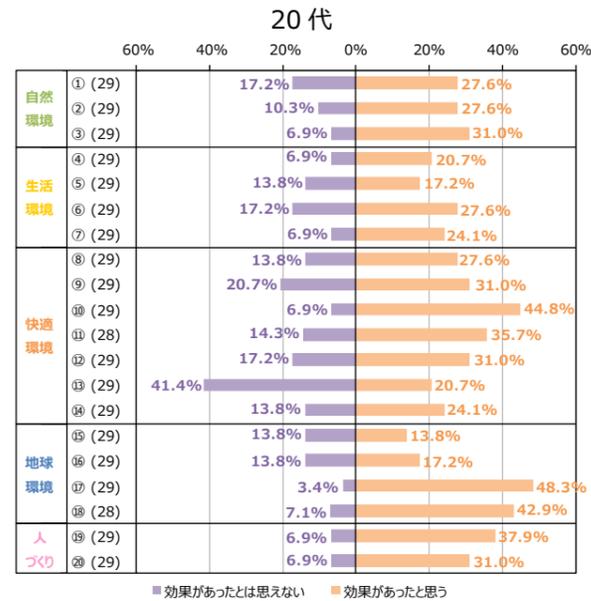
図 2-4-56 問 12 の単純集計結果（抜粋）

<クロス集計>

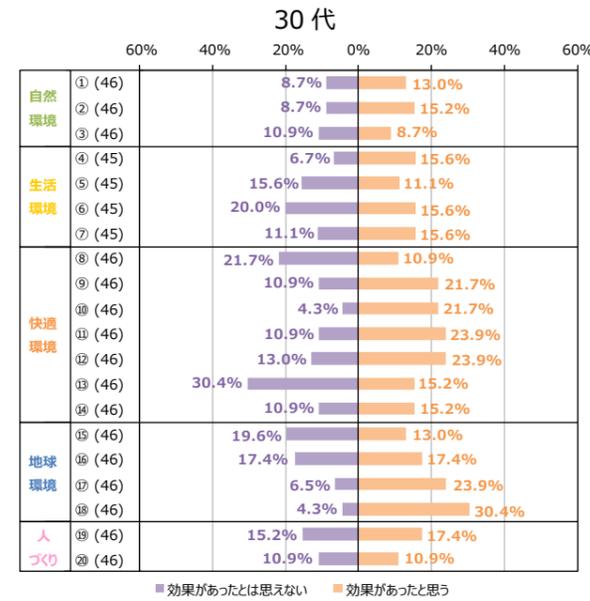
■年代別クロス集計（年代ごと）



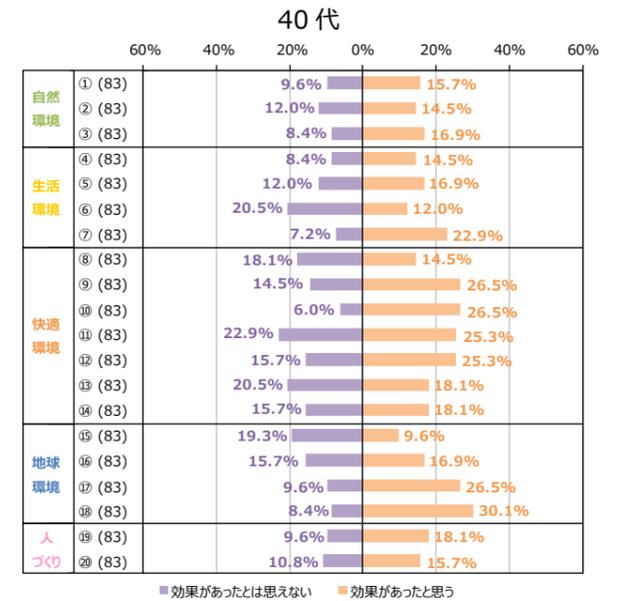
10代では全ての施策において、「効果があったと思う」と回答した割合が高いが、⑱、⑳の人づくりでは、他の年代に比べ「効果があったと思えない」と回答した割合が高く、次世代への教育・啓発が課題となる。



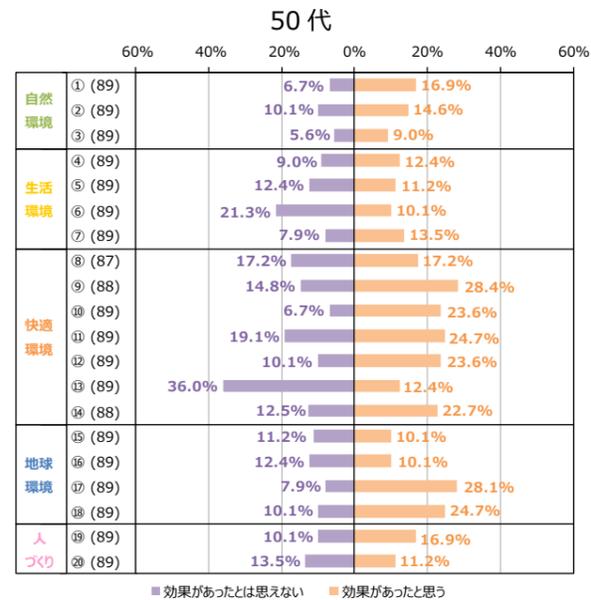
20代では、⑮、⑯の緩和策、適応策の推進において、「効果があったと思う」と回答した割合が低い。⑱、⑳の人づくりでは、10代の結果とは異なり、「効果があったと思う」と回答した割合が高い。



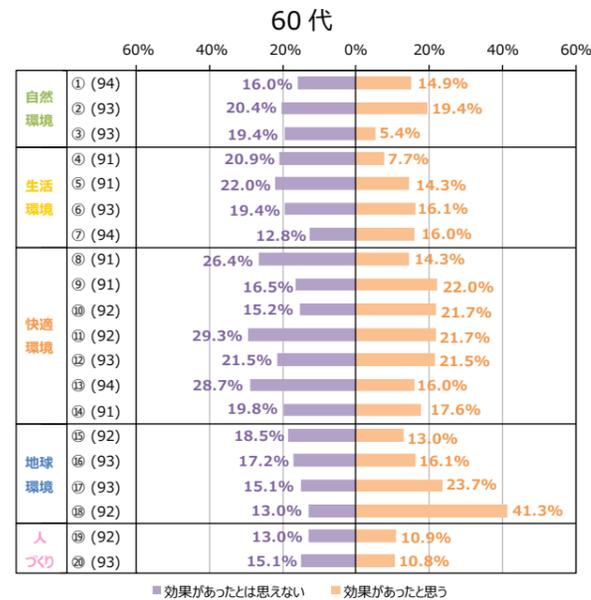
30代では、20代と同様の傾向が見られたが、⑧の優れた景観の確保において、「効果があったと思えない」と回答した割合が「効果があったと思う」と回答した割合よりも高い。なお、30代以上でも⑧において同様の傾向が見られる。



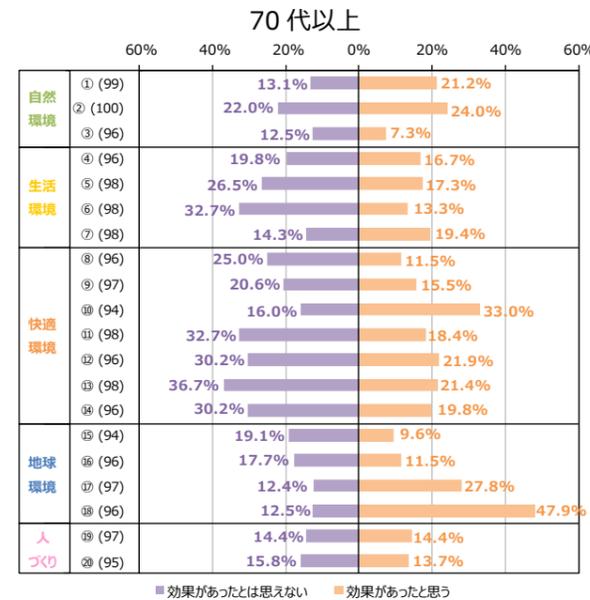
40代では、⑥の騒音・振動の防止、⑪の計画的なまちづくりの推進において、「効果があったと思えない」と回答した割合が高い。なお、40代以上でも同様の傾向が見られる。



50代では、⑬のごみの不法投棄の防止において、他の施策に比べ「効果があったと思えない」と回答した割合が特に高い。⑨の快適でくつろげる空間の確保では30代から50代において「効果があったと思う」と回答した割合が高い。



60代では、③の健全な生物多様性の保全において、「効果があったと思う」と回答した割合が低い。⑱の安心安全で環境にやさしいごみ処理の推進では、「効果があったと思う」と回答する割合が特に高い。



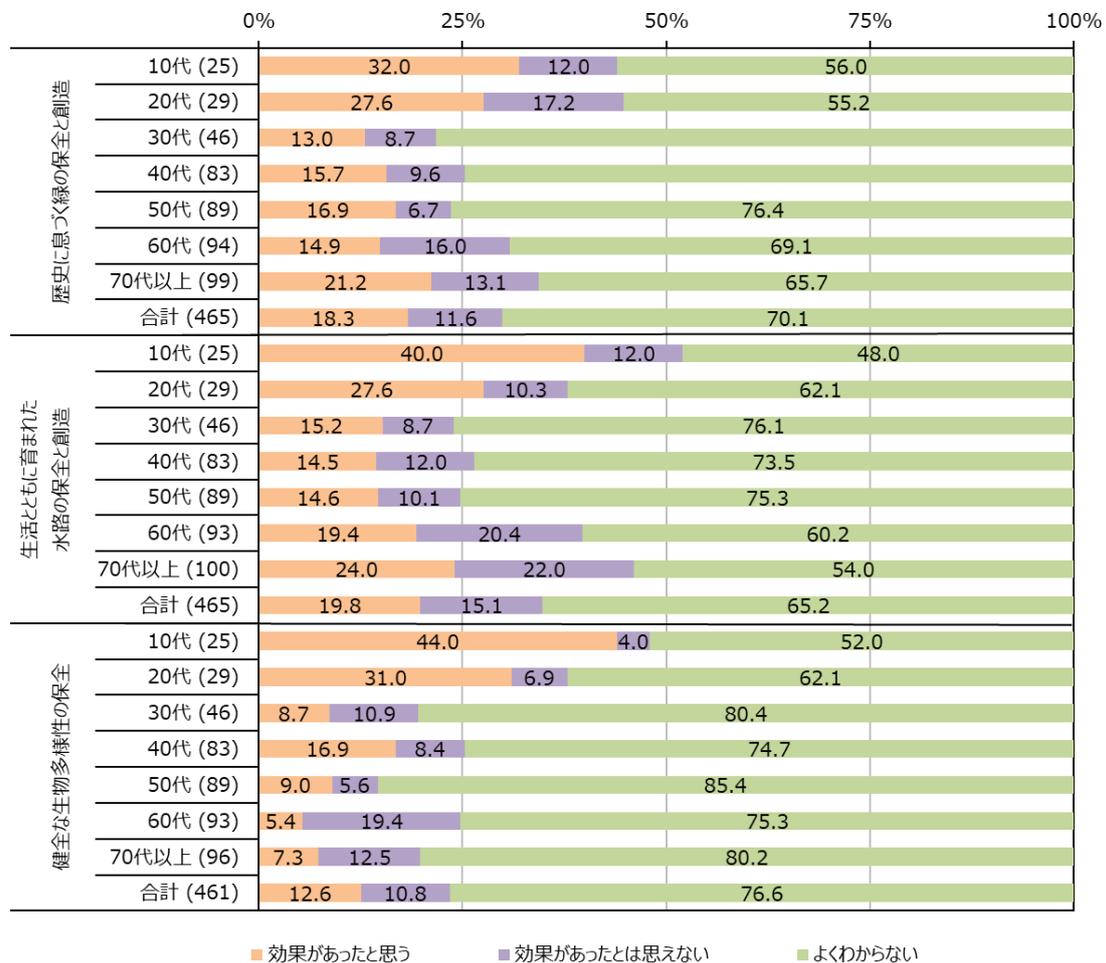
70代以上では、⑩の歴史・文化の保護を除く快適環境において、「効果があったと思う」と回答した割合が低く、「効果があったと思えない」と回答する割合が高い。

①	歴史に息づく緑の保全と創造
②	生活とともに育まれた水路の保全と創造
③	健全な生物多様性の保全
④	大気環境の保全
⑤	水質環境の保全
⑥	騒音・振動の防止
⑦	総合的な公害の防止
⑧	すぐれた景観の確保
⑨	快適でくつろげる空間の確保
⑩	歴史・文化の保護
⑪	計画的なまちづくりの推進
⑫	まちの安全対策の推進
⑬	ごみの不法投棄の防止
⑭	環境美化活動の推進
⑮	温暖化対策に向けた緩和策の推進
⑯	温暖化対策に向けた適応策の推進
⑰	3R（リユース、リデュース、リサイクル）の推進
⑱	安心安全で環境にやさしいごみ処理の推進
⑲	環境教育・学習の推進
⑳	環境保全のための意識啓発活動の推進

図 2-4-57 問 13 のクロス集計結果（年代ごと）

■年代別クロス集計（施策ごと）

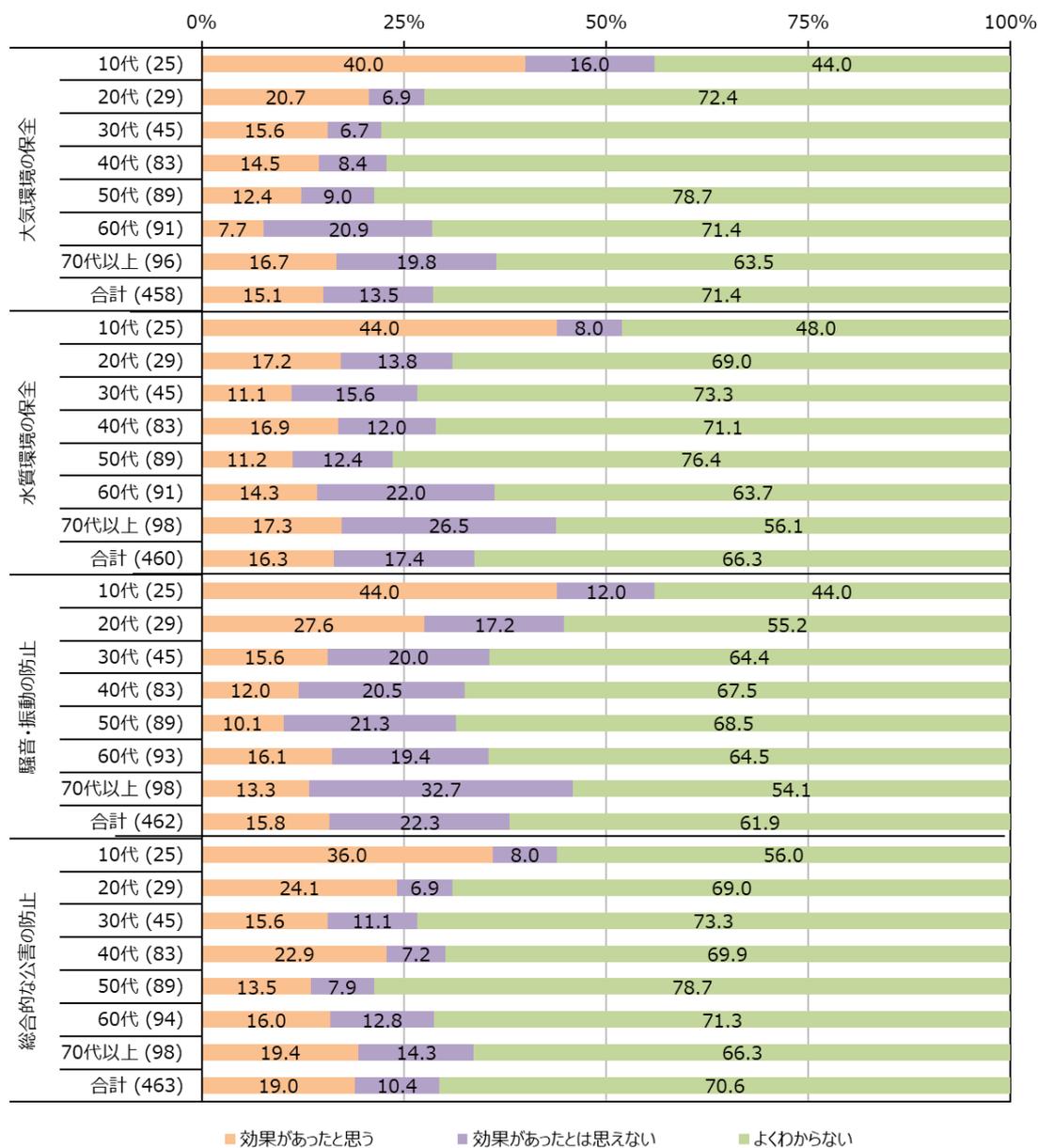
年代別では、自然環境については、10・20代で「効果があったと思う」と回答した割合が多い傾向にある。



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-58 問 13 のクロス集計結果（年代別,自然環境）

生活環境については、全年代で「効果があったと思う」と回答した割合が多い総合的な公害の防止を除き、60代以上では「効果があったとは思えない」と回答した割合の方が「効果があったと思う」と回答した割合よりも多い。

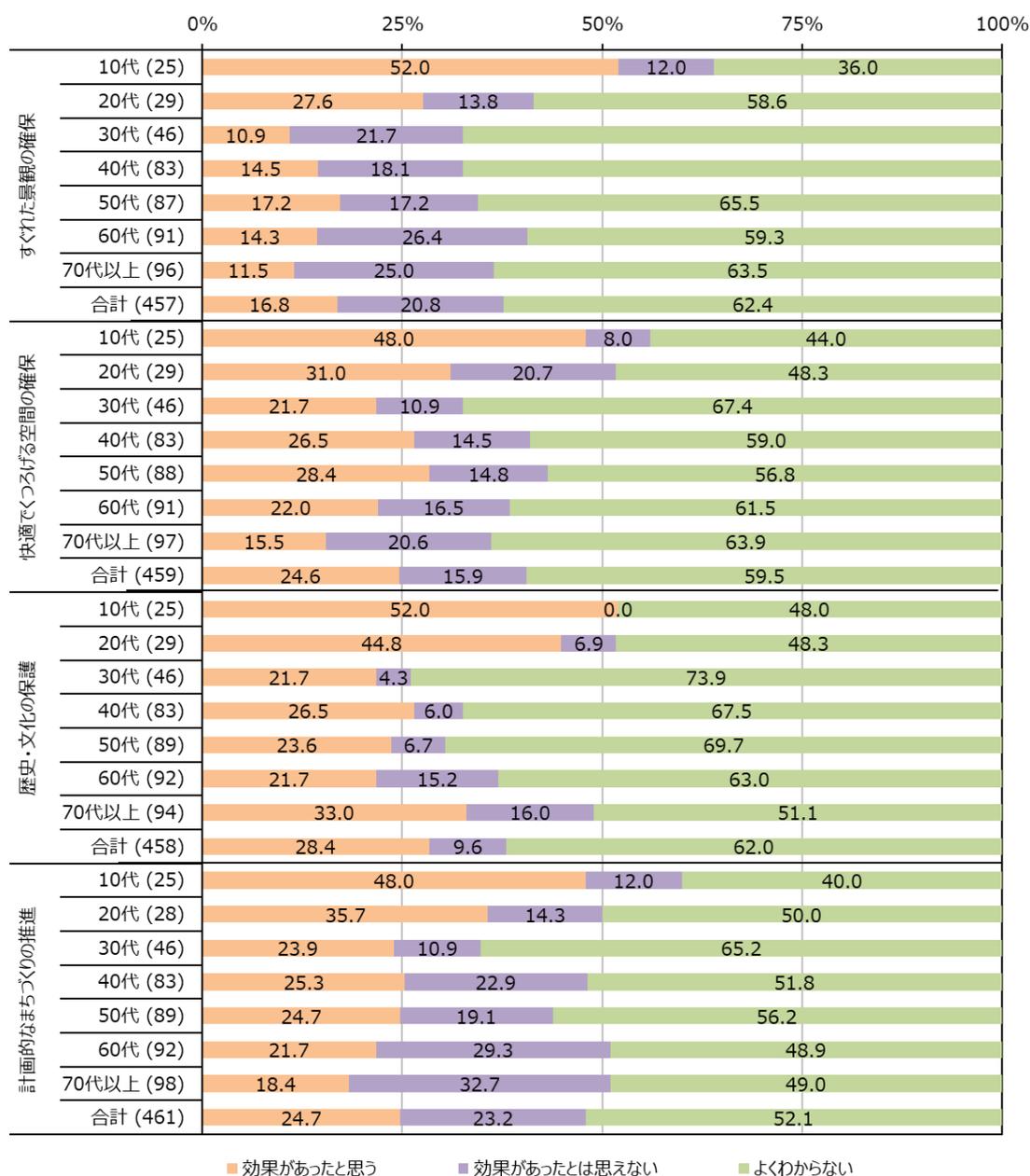


( )内数値：有効回答者数

図 2-4-59 問 13 のクロス集計結果 (年代別,生活環境)

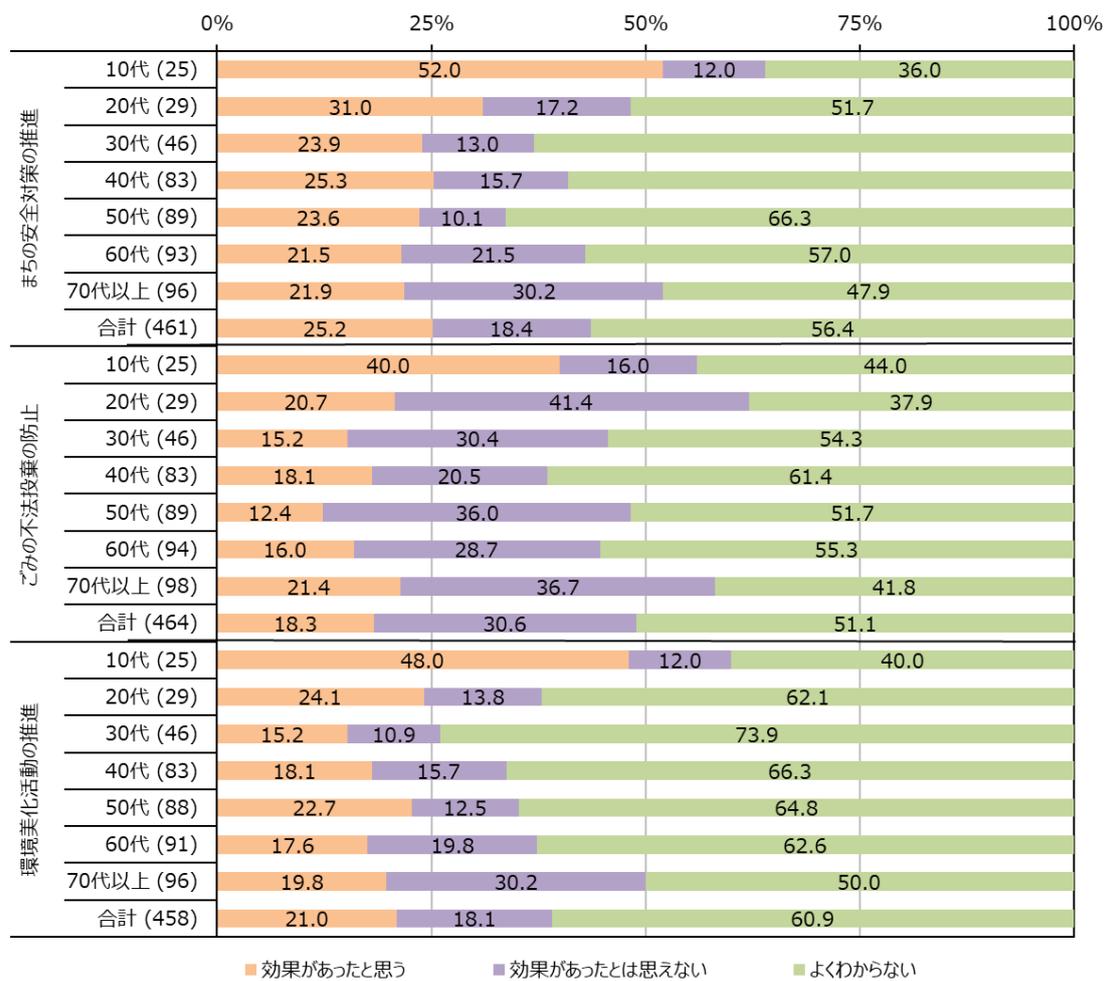
快適環境については、全年代で「効果があったと思う」と回答した割合が多い歴史・文化の保護、快適でくつろげる空間の確保を除き、60代以上では「効果があったとは思えない」と回答した割合の方が「効果があったと思う」と回答した割合よりも多い。

ごみの不法投棄の防止では20代以上、優れた景観の確保では30代以上、計画的なまちづくりの推進では40代以上において「効果があったとは思えない」と回答した割合が高くなる。



( )内数値：有効回答者数

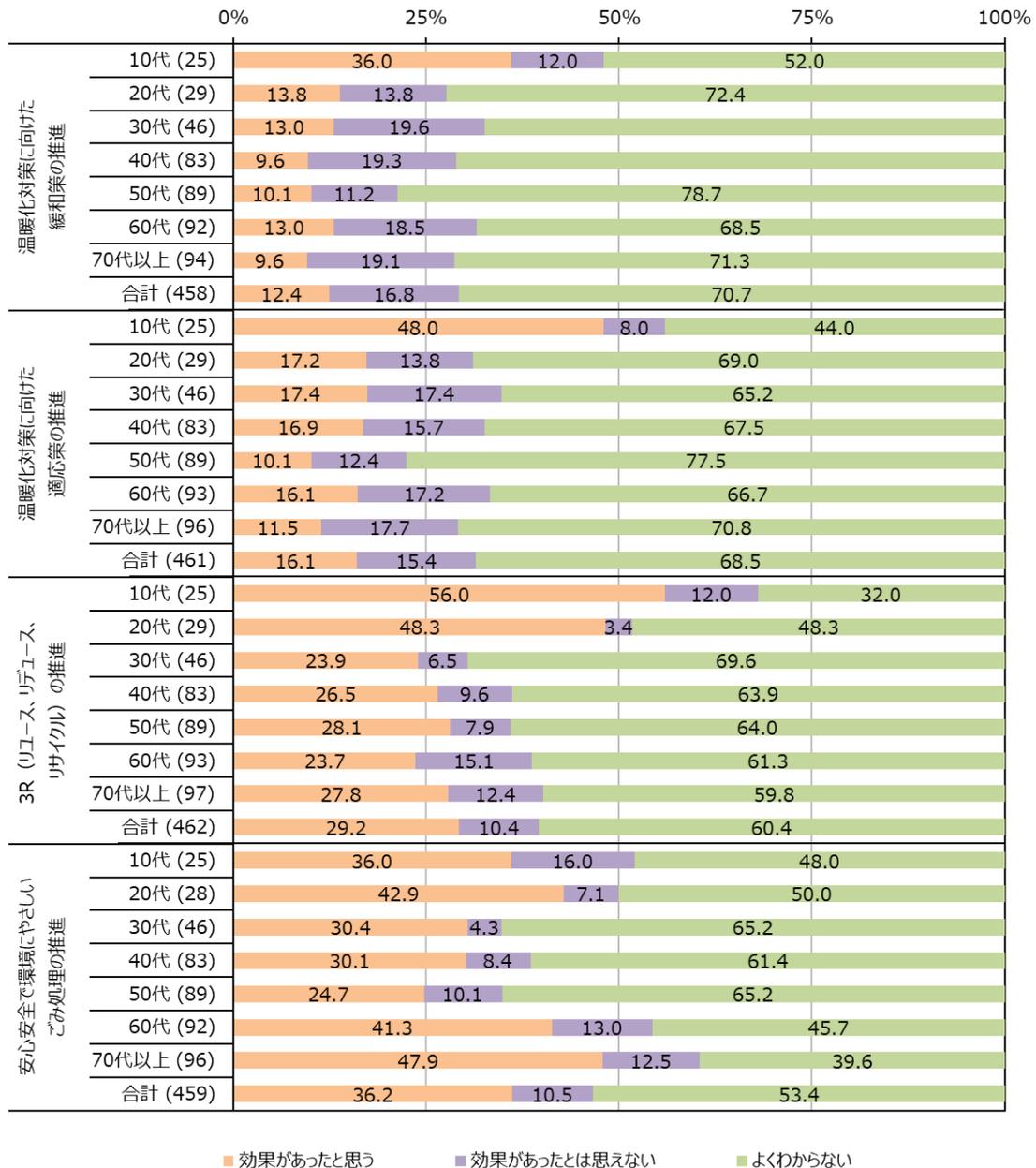
図 2-4-60 問 13 のクロス集計結果 (年代別,快適環境-I)



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-61 問 13 のクロス集計結果 (年代別,快適環境-Ⅱ)

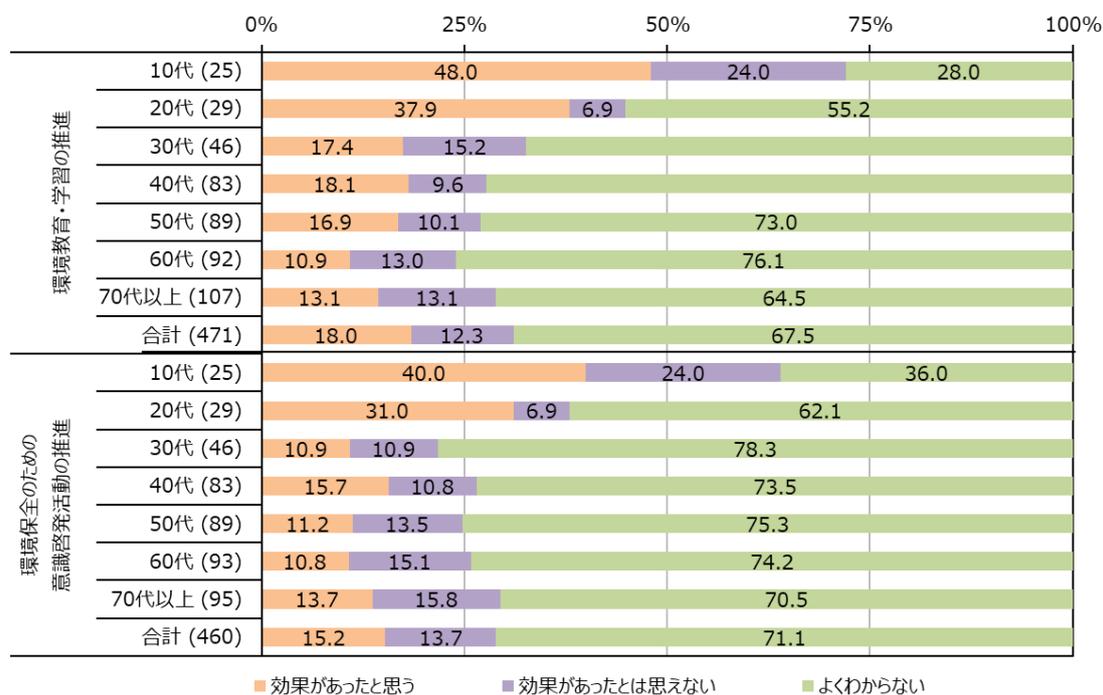
地球環境については、緩和策の推進、適応策の推進共に、10代を除いた全年代で「効果があったと思う」と回答した割合と「効果があったとは思えない」と回答した割合が拮抗している。安心安全で環境にやさしいごみ処理の推進では、全年代で「効果があったと思う」と回答した割合の方が「効果があったとは思えない」と回答した割合よりも多い。



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-62 問 13 のクロス集計結果 (年代別,地球環境)

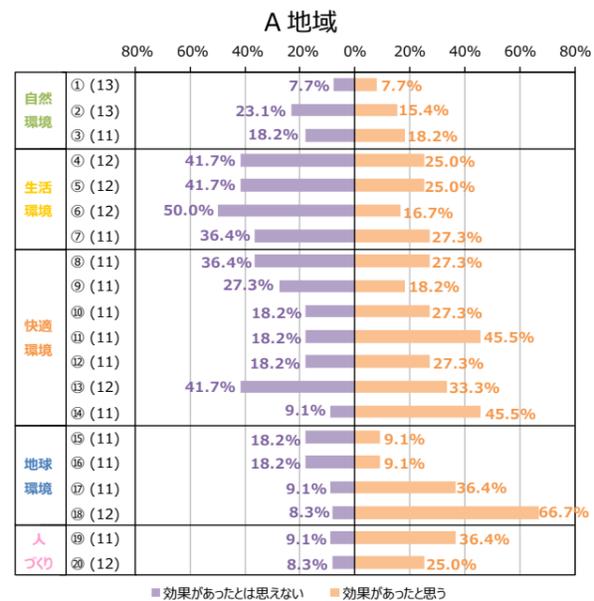
人づくりについては、10・20代で「効果があったと思う」と回答した割合が高いが、10代では「効果があったとは思えない」と回答した割合も他の年代と比べて高い。



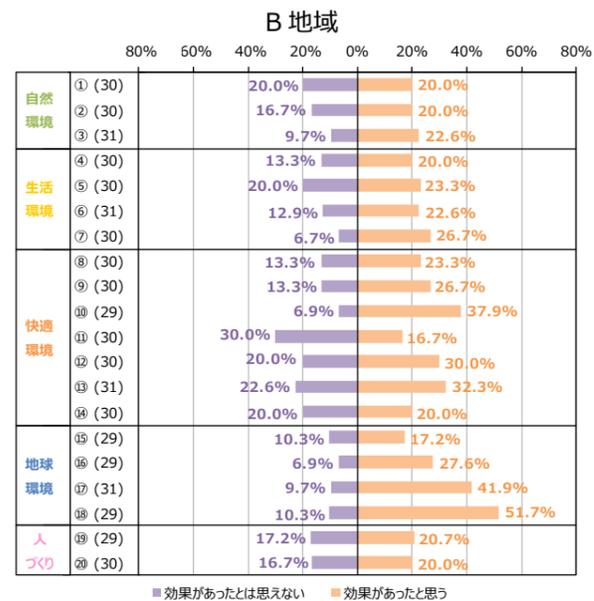
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-63 問 13 のクロス集計結果 (年代別,人づくり)

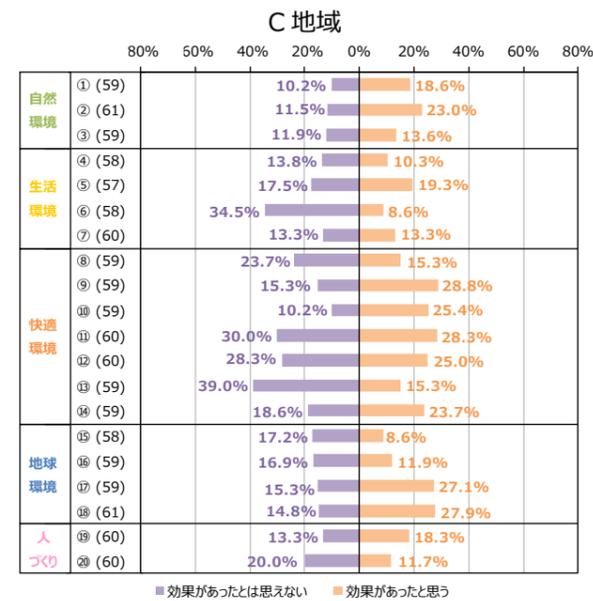
■地域別クロス集計（地域ごと）



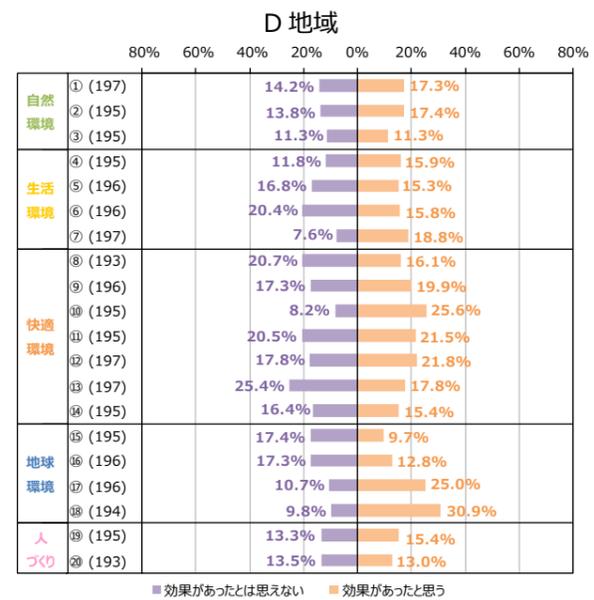
A 地域では④から⑦の生活環境において、「効果があったと思えない」と回答した割合が高い。一方で、⑩の計画的なまちづくりの推進、⑭の環境美化活動の推進では、「効果があったと思う」と回答した割合が高い。



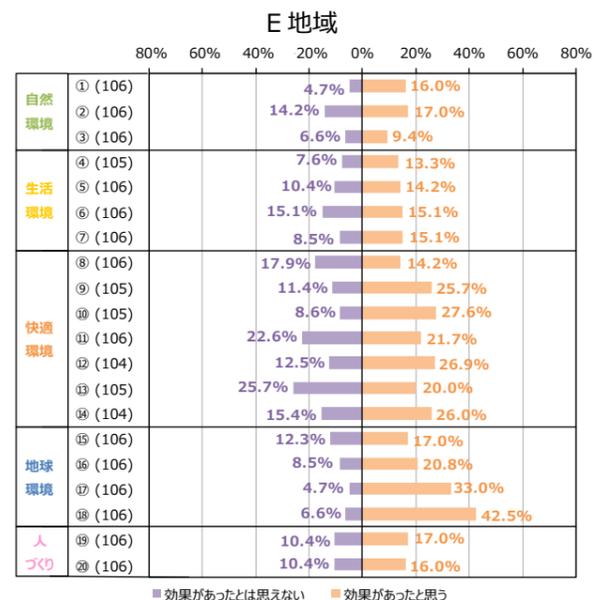
B 地域では、⑩の計画的なまちづくりの推進において、「効果があったと思えない」と回答した割合が高い。一方で、⑩の歴史・文化の保護では、「効果があったと思う」と回答した割合が高い。



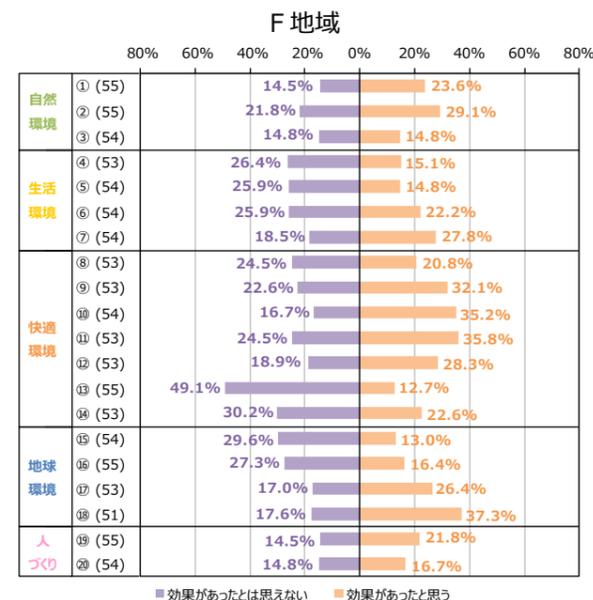
C 地域では、⑥の騒音・振動の防止において、「効果があったと思えない」と回答した割合が高い。⑰、⑱の3R（リユース、リデュース、リサイクル）の推進、安心安全で環境にやさしいごみ処理の推進では「効果があったと思う」と回答した割合が低い。



D 地域では、全ての施策において、「効果があったと思う」も「効果があったと思えない」も回答した割合が低く、「よくわからない」と回答した割合が高い。



E 地域では、①の歴史に息づく緑の保全と創造において、「効果があったと思う」と回答する割合が高く、「効果があったと思えない」と回答した割合が低い。



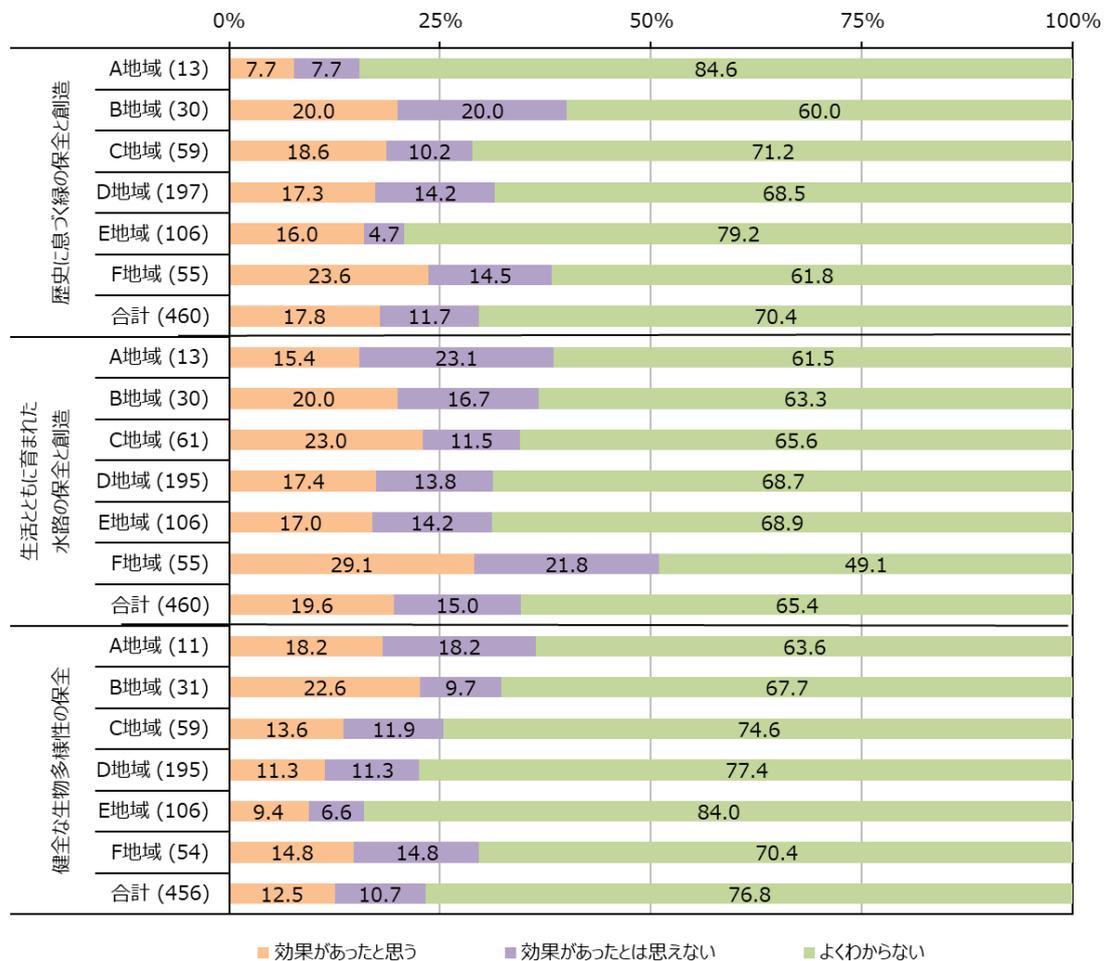
F 地域では、⑬のごみの不法投棄の防止において、「効果があったと思う」と回答した割合が低く、「効果があったと思えない」と回答する割合が高い。⑮、⑯の温暖化対策に向けた緩和策、適応策において、「効果があったと思えない」と回答した割合が高い。

①	歴史に息づく緑の保全と創造
②	生活とともに育まれた水路の保全と創造
③	健全な生物多様性の保全
④	大気環境の保全
⑤	水質環境の保全
⑥	騒音・振動の防止
⑦	総合的な公害の防止
⑧	すぐれた景観の確保
⑨	快適でくつろげる空間の確保
⑩	歴史・文化の保護
⑪	計画的なまちづくりの推進
⑫	まちの安全対策の推進
⑬	ごみの不法投棄の防止
⑭	環境美化活動の推進
⑮	温暖化対策に向けた緩和策の推進
⑯	温暖化対策に向けた適応策の推進
⑰	3R（リユース、リデュース、リサイクル）の推進
⑱	安心安全で環境にやさしいごみ処理の推進
⑲	環境教育・学習の推進
⑳	環境保全のための意識啓発活動の推進

図 2-4-64 問 13 のクロス集計結果（地域別）

### ■地域別クロス集計（施策ごと）

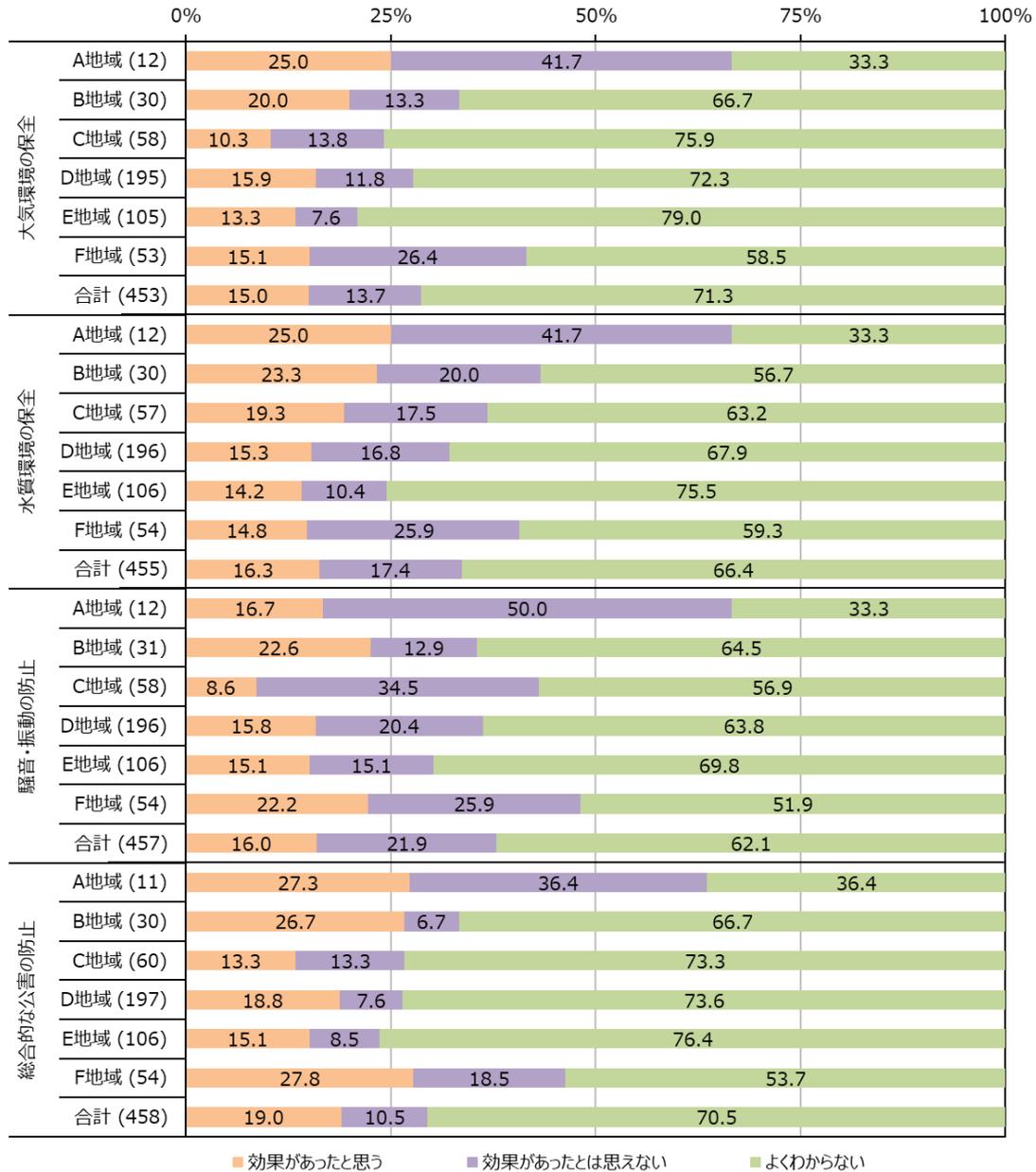
地域別では、隼人堀川、姫宮落川周辺に田畑と住宅地が入り組んでいる F 地域において、生活と共に育まれた水路の保全と創造で「効果があったと思う」と回答した割合が高い。



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-65 問 13 のクロス集計結果（地域別,自然環境）

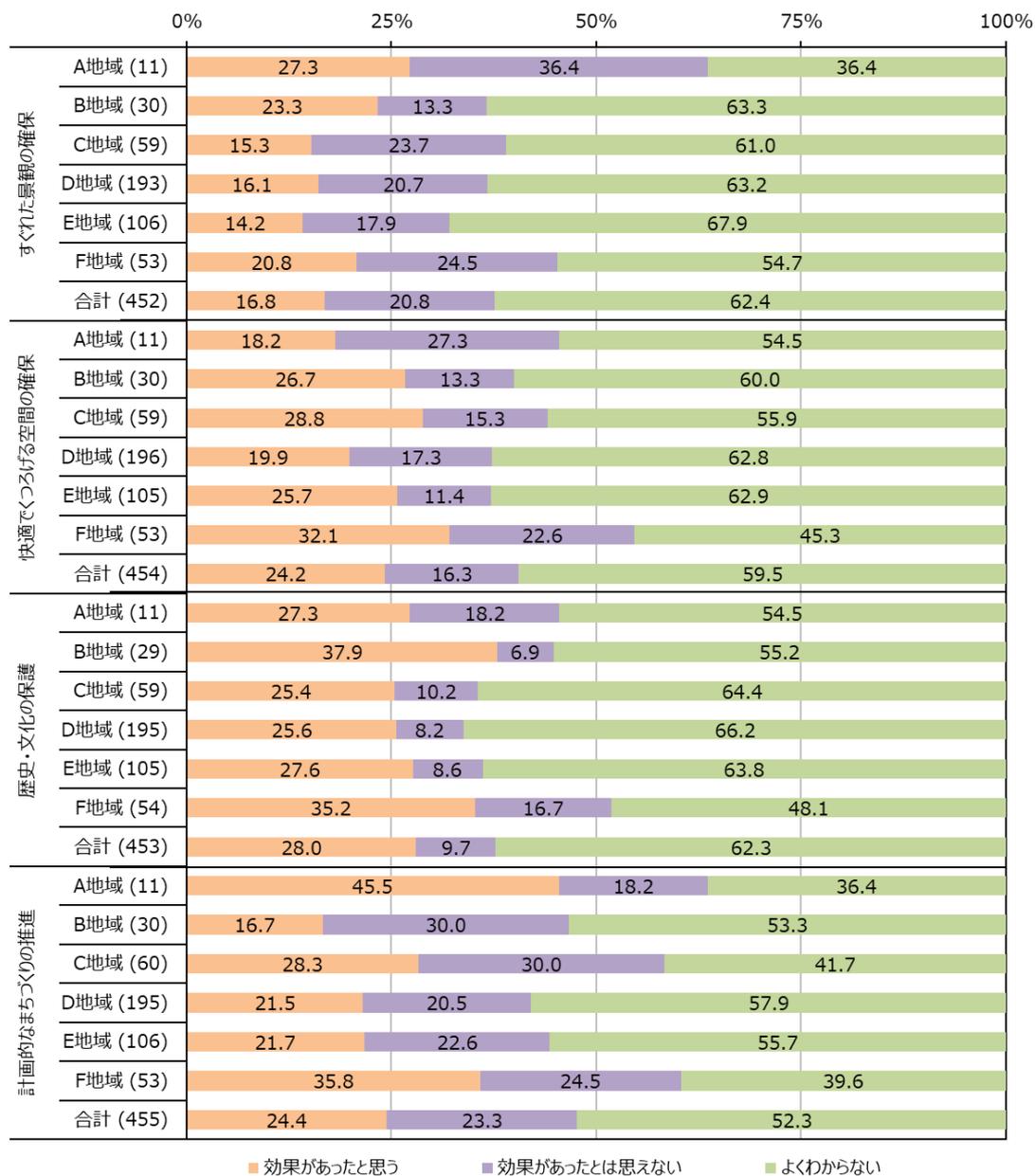
生活環境では、60代以上が多いA地域において「効果があったとは思えない」と回答した割合が高い傾向が見られた。



( )内数値：有効回答者数

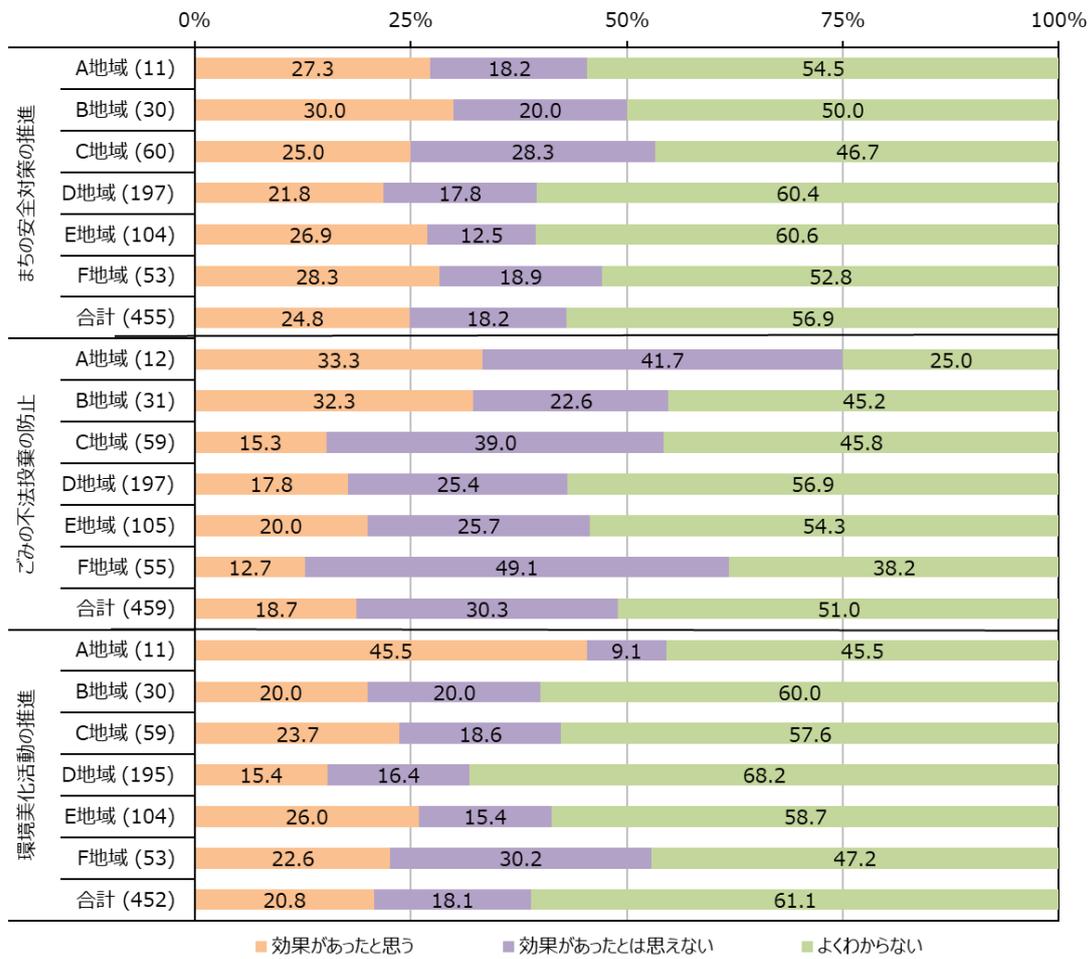
図 2-4-66 問 13 のクロス集計結果 (地域別,生活環境)

快適環境では、60代以上が多いA地域において優れた景観の確保で「効果があったとは思えない」と回答した割合が高く、計画的なまちづくりの推進、環境美化活動の推進で「効果があったと思う」と回答した割合が高い傾向が見られた。



( )内数値：有効回答者数

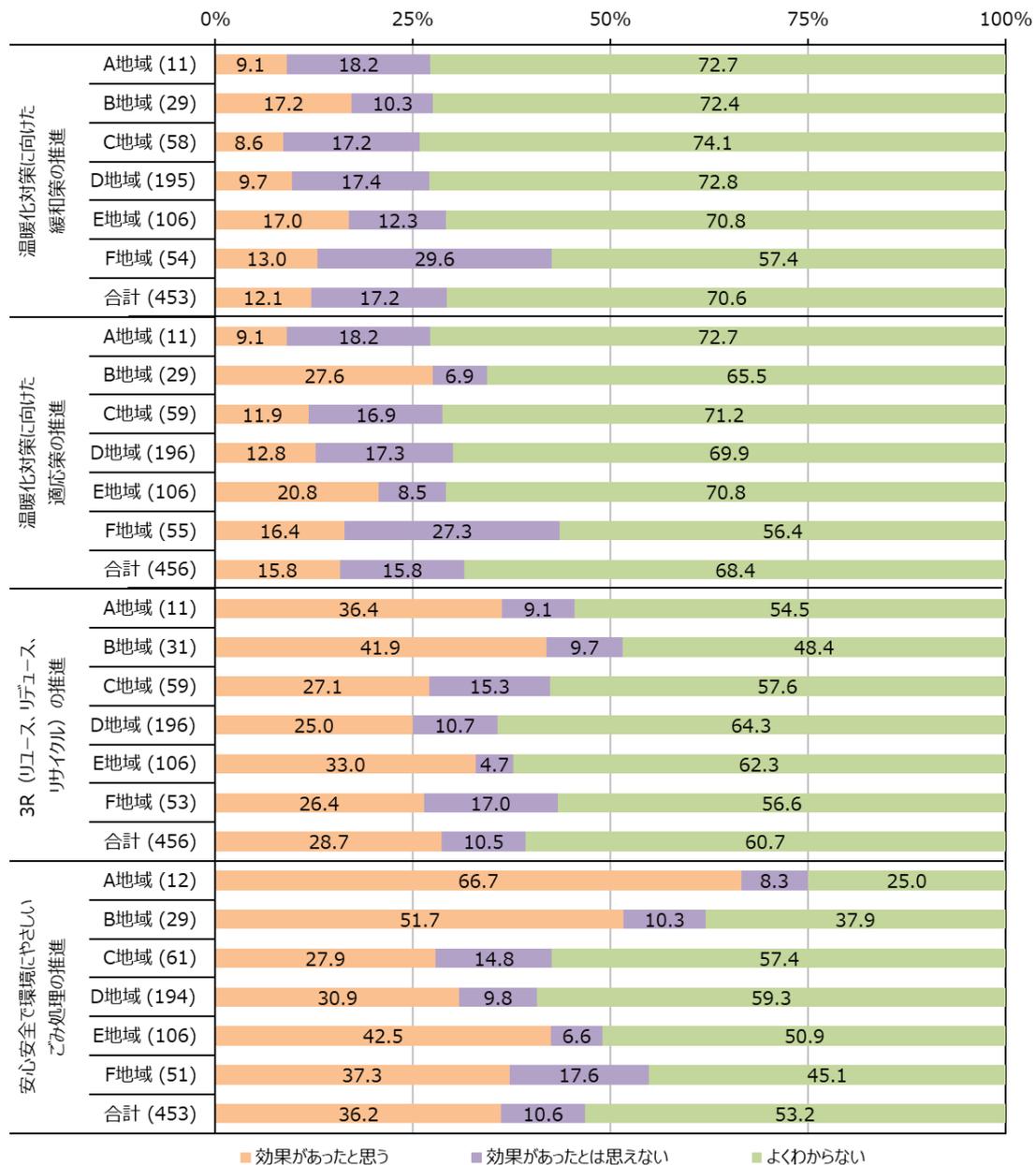
図 2-4-67 問 13 のクロス集計結果 (地域別, 快適環境-I)



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-68 問 13 のクロス集計結果（地域別,快適環境-Ⅱ）

地球環境では、60代以上が多いA地域において、安全安心で環境にやさしいごみ処理の推進で「効果があったと思う」と回答した割合が高い傾向が見られた。また、温暖化対策に向けた緩和策、適応策では、F地域において「効果があったとは思えない」と回答した割合が高い。



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-69 問 13 のクロス集計結果 (地域別,地球環境)

人づくりについては、環境教育・学習の推進では A 地域において「効果があったと思う」と回答した割合が高く、環境保全のための意識啓発活動の推進では A 地域・B 地域において「効果があったと思う」と回答した割合が高い。

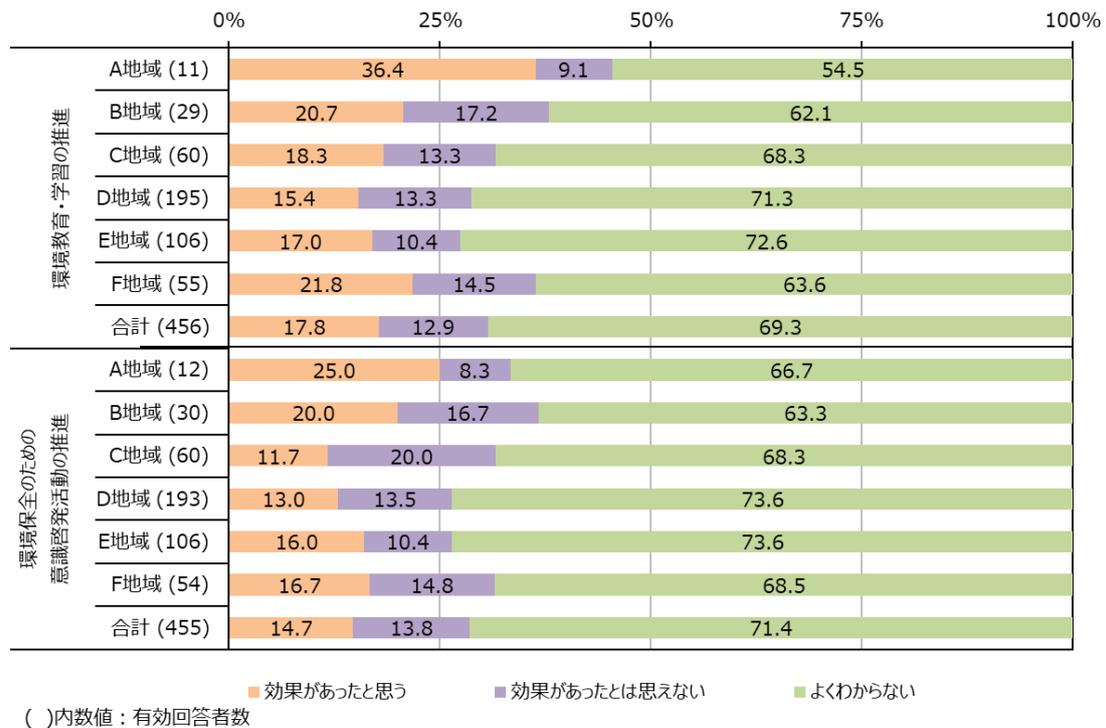


図 2-4-70 問 13 のクロス集計結果 (地域別,人づくり)

■居住する地域を中心とした環境の快適さ（問 1）と施策の効果（問 13）のクロス集計

より良い環境とするために、問 1 において居住する地域を中心とした環境の快適さが、「快適な環境でない」、「どちらかと言えば、快適な環境でない」と回答した市民が、問 13 において、効果を実感していない施策は何か分析する。

下図より、問 1 において「快適な環境でない」、「どちらかと言えば、快適な環境でない」と回答した市民は、全ての施策で「効果があったとは思えない」と回答した割合が高い。

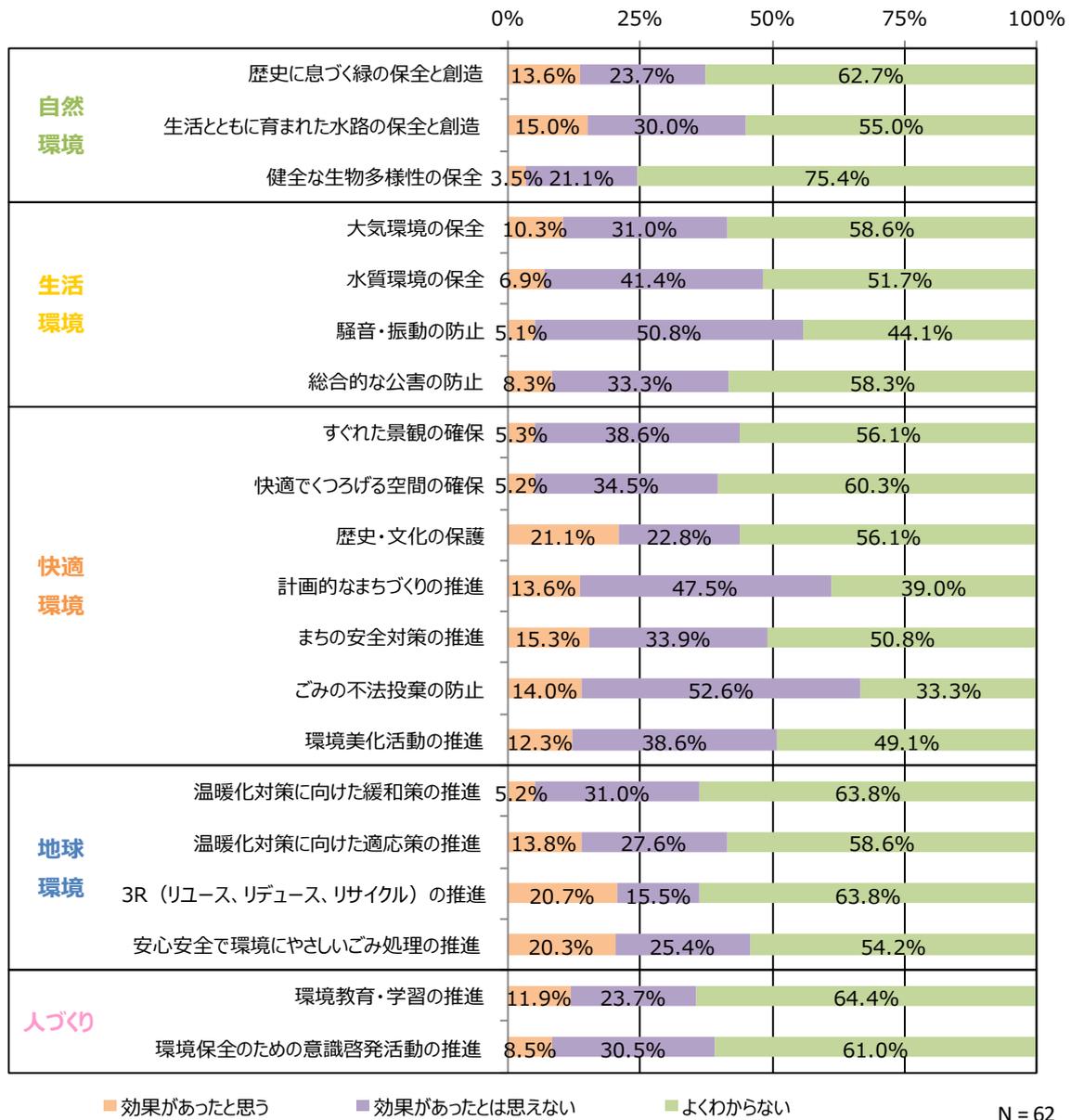


図 2-4-71 居住する地域が快適ではない（問 1）と施策の効果（問 13）のクロス集計結果

前頁より、「効果があったとは思えない」のみを抽出し、回答率が高い順に並べた。下図より、快適環境、生活環境に関する施策で、「効果があったとは思えない」と回答した割合が高く、特に「ごみの不法投棄の防止」「騒音・振動の防止」では、「効果があったとは思えない」と回答した割合が50%を超えており、市の環境を改善するためにこれらの施策を重点的に行う必要がある。

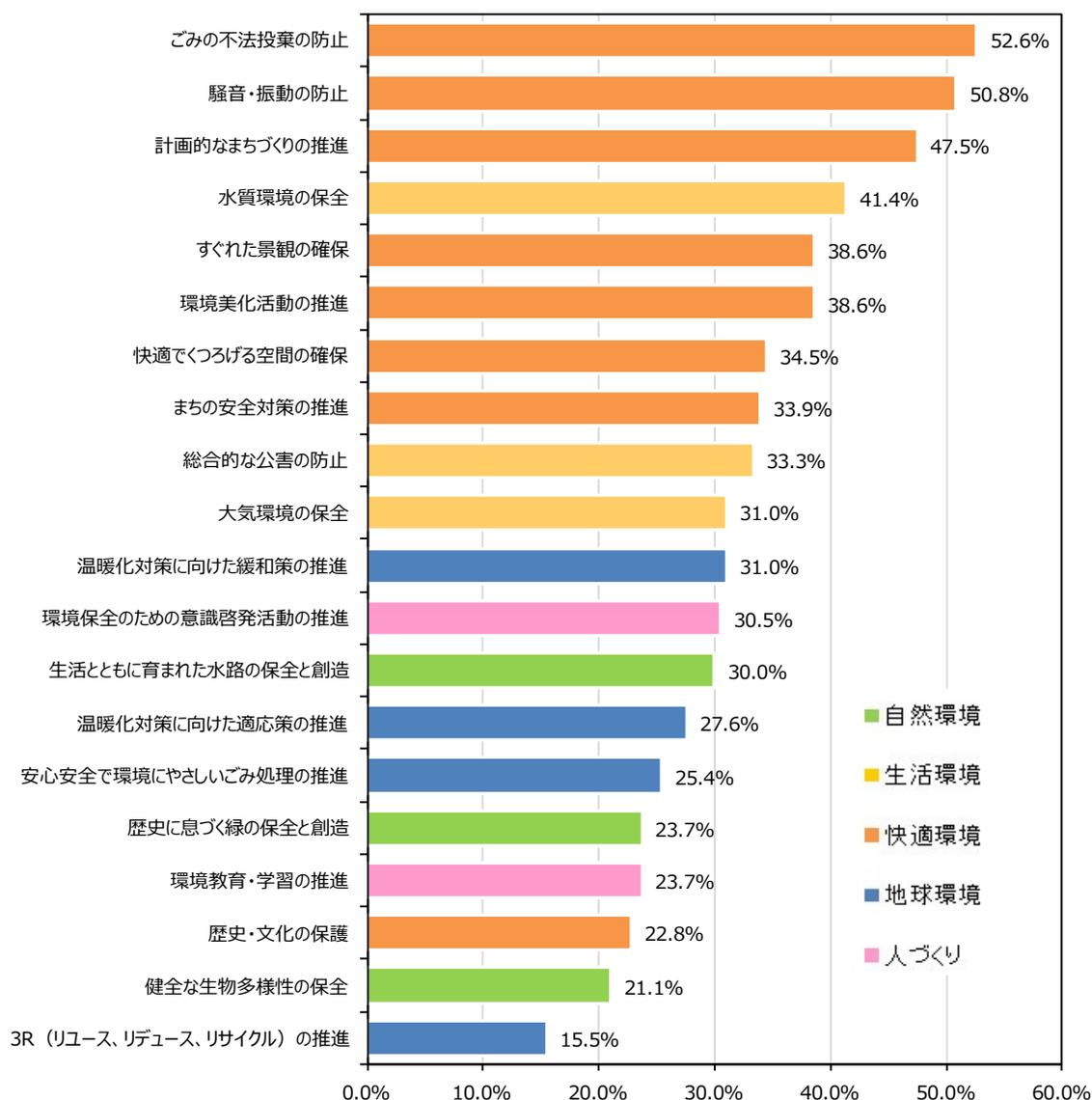


図 2-4-72 居住する地域が快適ではない（問1）と施策の効果（問13）のクロス集計結果（詳細版）

問 14 重点的に取り組むべき環境基本計画の施策【複数回答（3 つまで）】

＜単純集計＞

「計画的なまちづくりの推進」が最も多く 37.9%、次いで「水環境の保全」が 27.3%、「ごみの不法投棄の防止」が 25.2%、「まちの安全対策の推進」が 23.1%となった。上位 5 施策中 4 施策は快適環境に関する施策となっており、市民の快適な生活に向けた施策が求められている。また、「水質環境の保全」、「生活とともに育まれた水路の保全と創造」が上位にあり、水質環境に関して市民の問題意識の高さがうかがえる。一方で、地球環境、人づくりに関する施策について軒並み下位にあり、この分野に関する施策の周知や市民の関心の向上が課題となる。

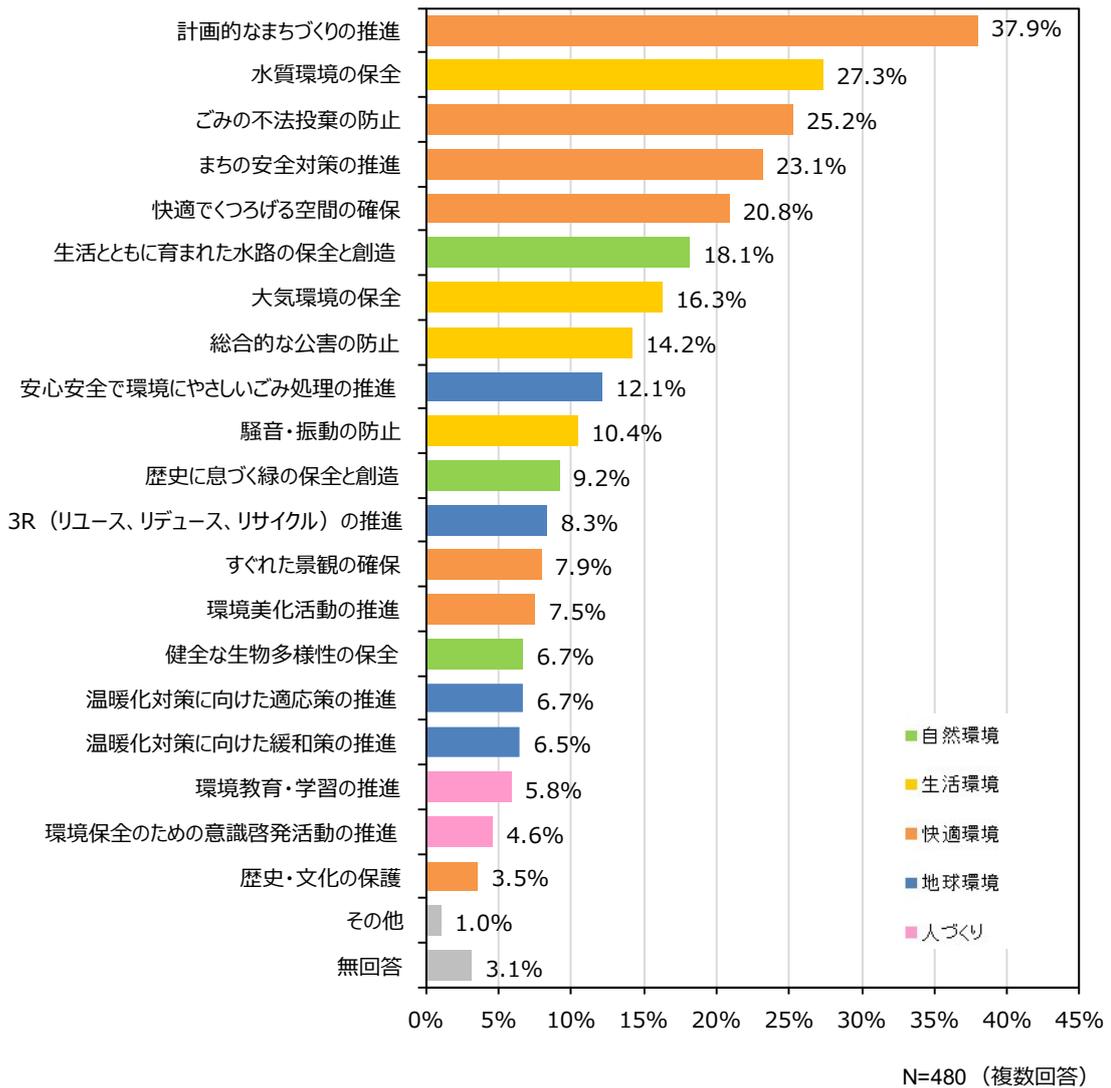
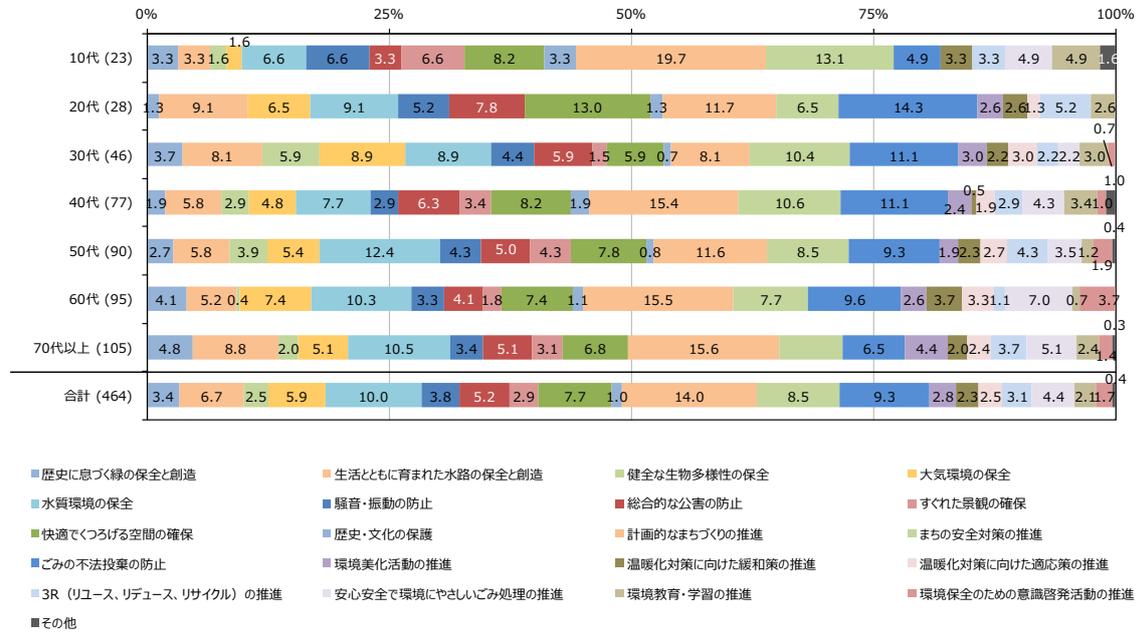


図 2-4-73 問 14 の単純集計結果

<クロス集計>

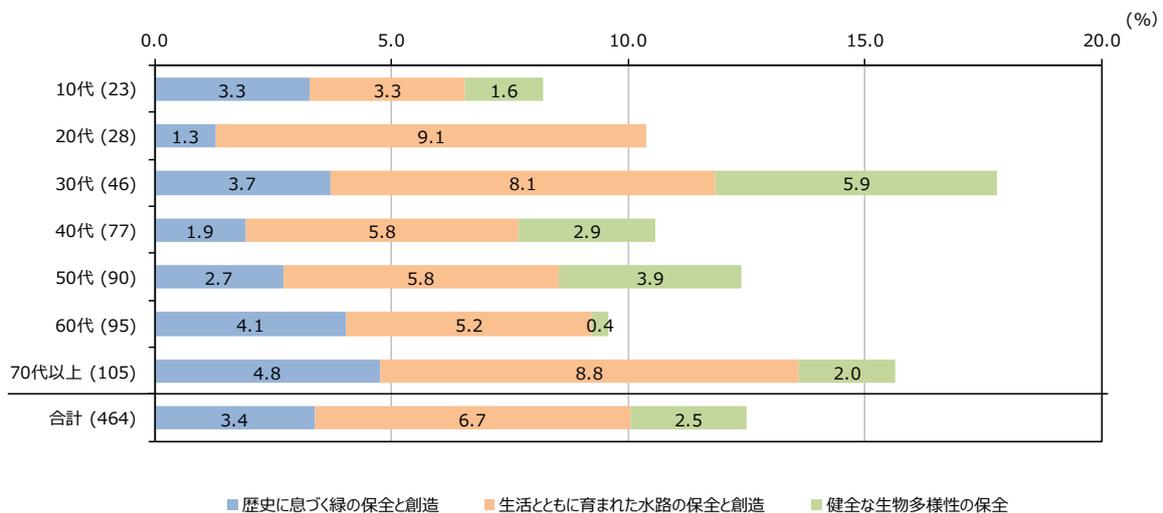
■年代別クロス集計

年代別では、自然環境に着目すると、20代では歴史に息づく緑の保全と創造を回答した割合が低く、健全な生物多様性の保全を回答した市民がいない。



( )内数値：有効回答者数 (複数回答)

図 2-4-74 問 14 のクロス集計結果 (年代別)

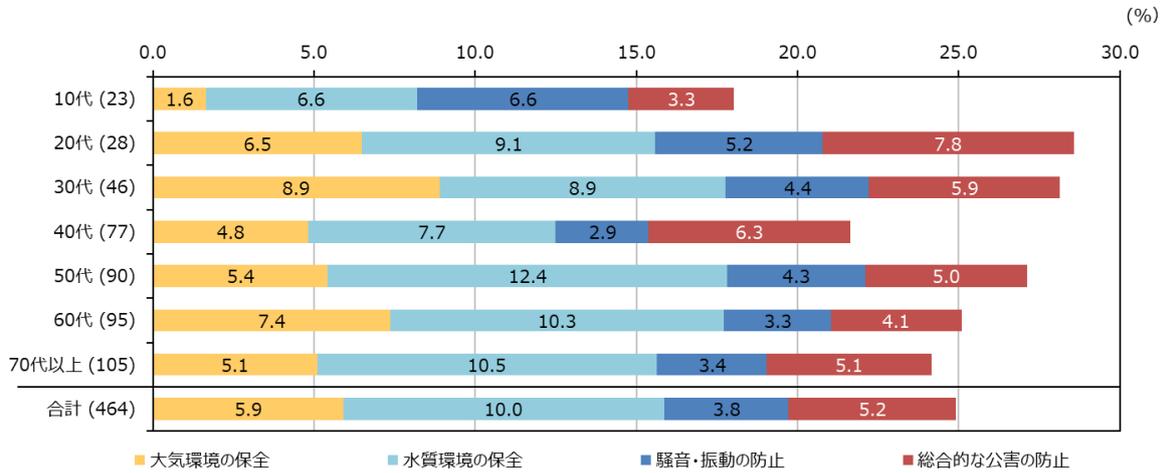


( )内数値：有効回答者数 (複数回答)

図 2-4-75 問 14 のクロス集計結果 (年代別,自然環境)

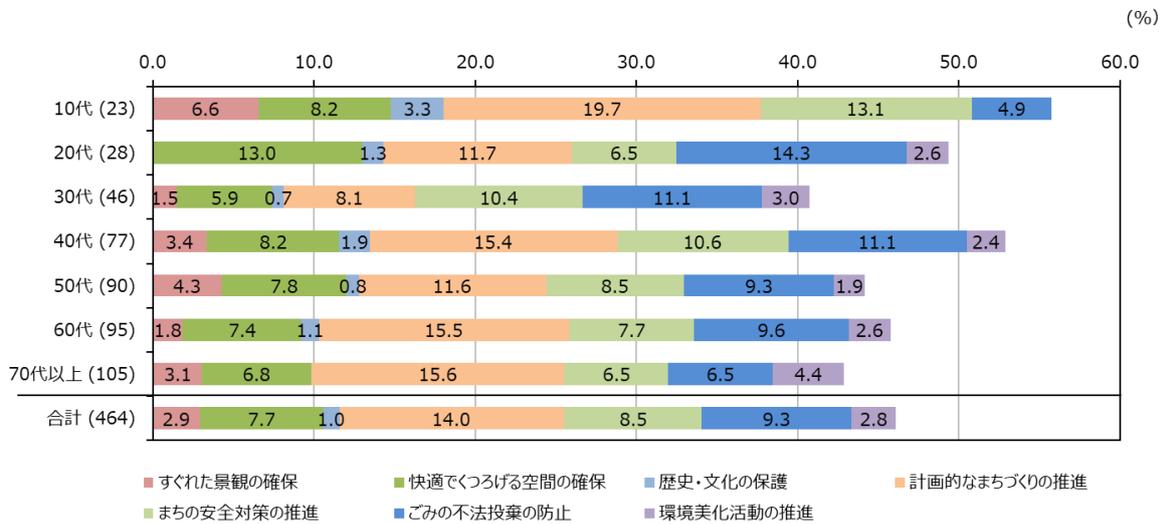
生活環境に着目すると、10代のみ大気環境の保全を回答した割合が低い。また、40代では水質環境の保全、騒音振動の防止を回答した割合が低い。

快適環境に着目すると、20代では快適でくつろげる空間の確保を回答した市民の割合が高く、30代では計画的なまちづくりの推進と回答した割合が低い。



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-76 問 14 のクロス集計結果（年代別,生活環境）

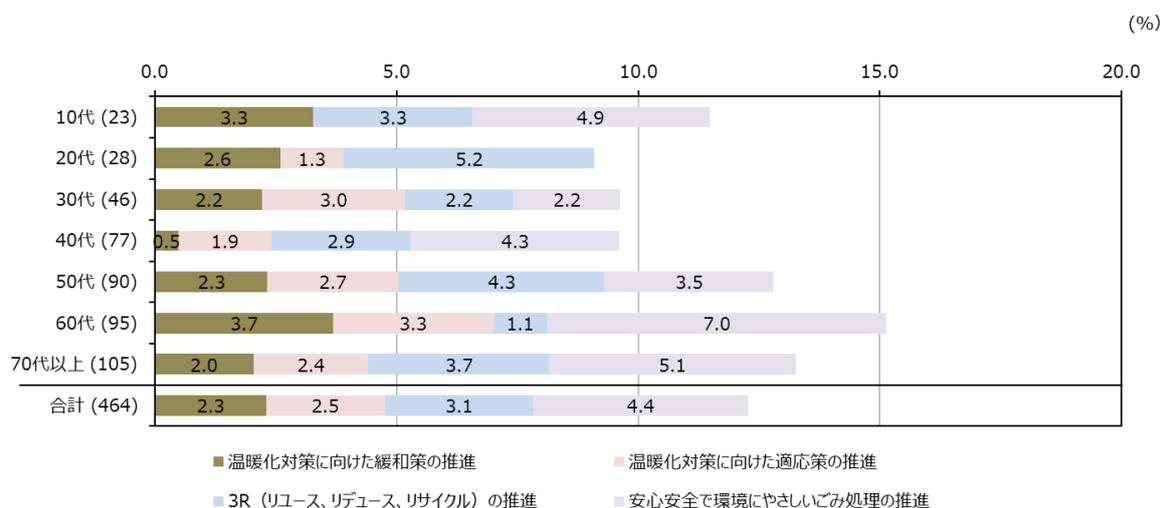


( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-77 問 14 のクロス集計結果（年代別,快適環境）

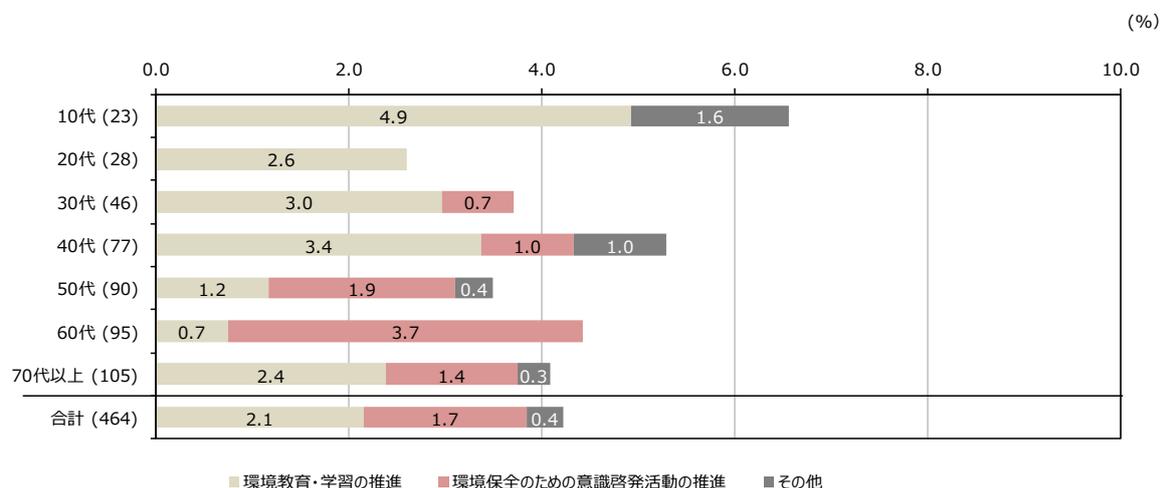
地球環境に着目すると、40代において地球温暖化に向けた緩和策の推進を回答した市民の割合が低い。また、10代では地球温暖化に向けた適応策の推進と回答した市民がおらず、緩和策と適応策の違いなど、若い世代に向けた普及啓発が課題となる。

人づくりに着目すると、10代、20代では環境教育・学習の推進が多く、50代以上は環境保全のための意識啓発活動の推進が多くなっている。



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-78 問 14 のクロス集計結果（年代別,地球環境）

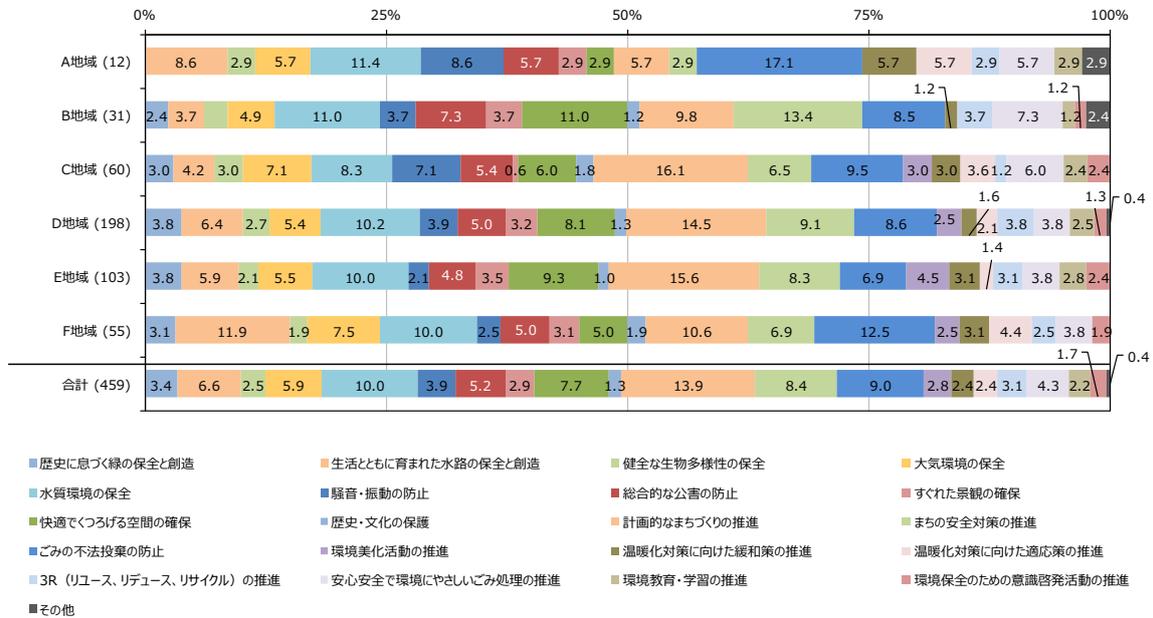


( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-79 問 14 のクロス集計結果（年代別,人づくり）

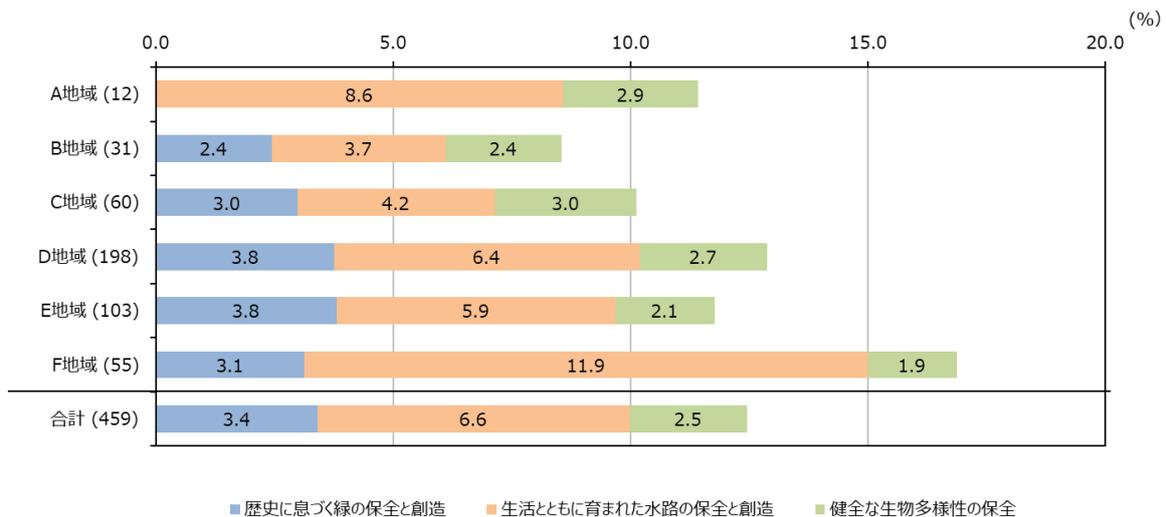
## ■地域別クロス集計

地域別では、自然環境に着目すると、隼人堀川、姫宮落川周辺に田園と住宅地が入り組んでいるF地域では生活と共に育まれた水路の保全と創造と回答した割合が高い。



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-80 問 14 のクロス集計結果（地域別）

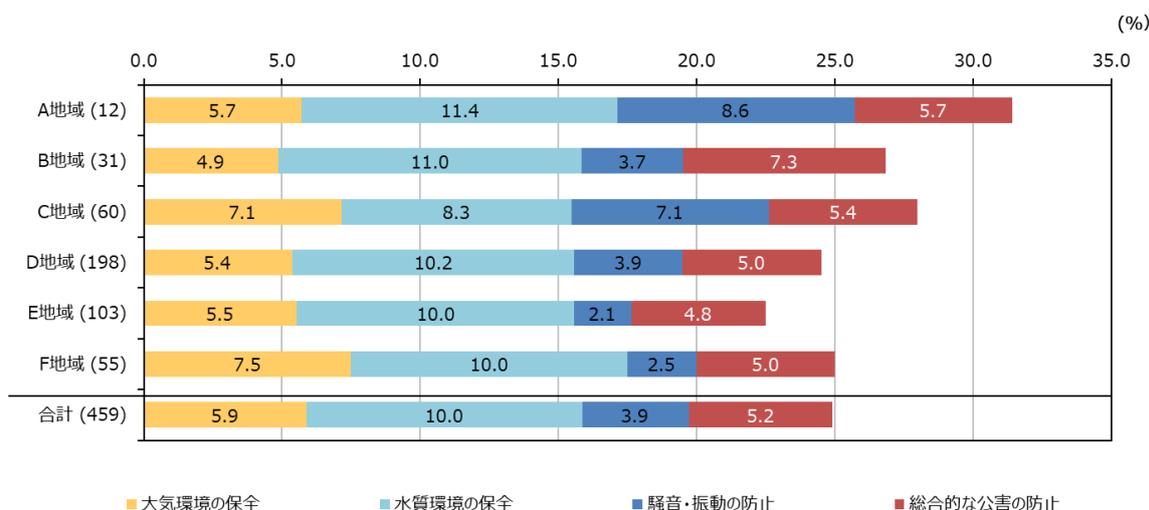


( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-81 問 14 のクロス集計結果（地域別,自然環境）

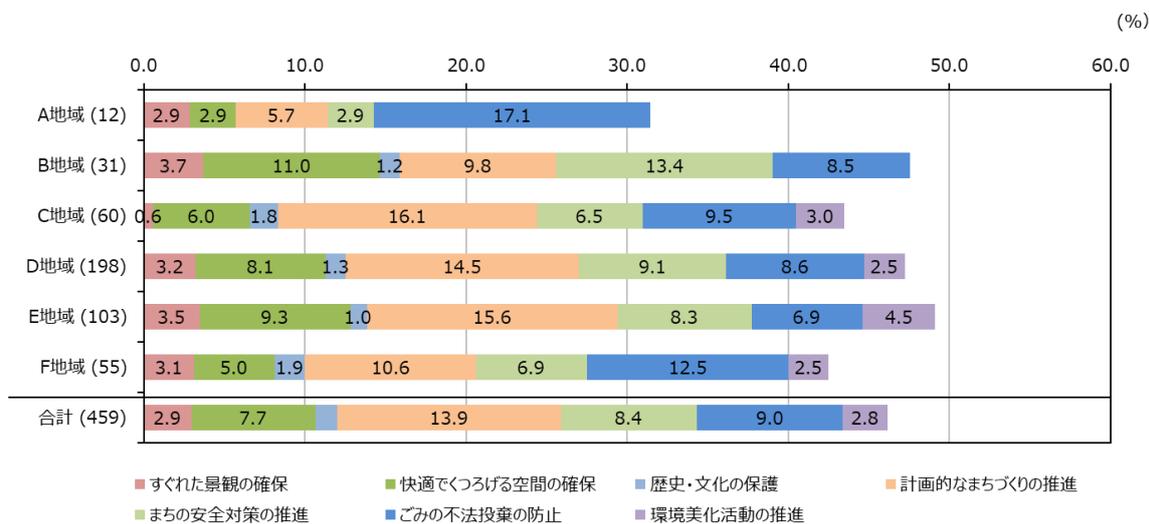
生活環境に着目すると、比較的高齢者層の多い A 地域、新幹線が住宅地を横切る C 地域では騒音・振動の防止と回答した割合が高い。

快適環境に着目すると、人口が多く都市化されている C 地域では優れた景観の確保と回答した割合が低い。ごみの不法投棄の防止では、柴山沼のある A 地域、隼人堀川、姫宮落川の流れる F 地域では回答した割合が高い。



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-82 問 14 のクロス集計結果（地域別,生活環境）

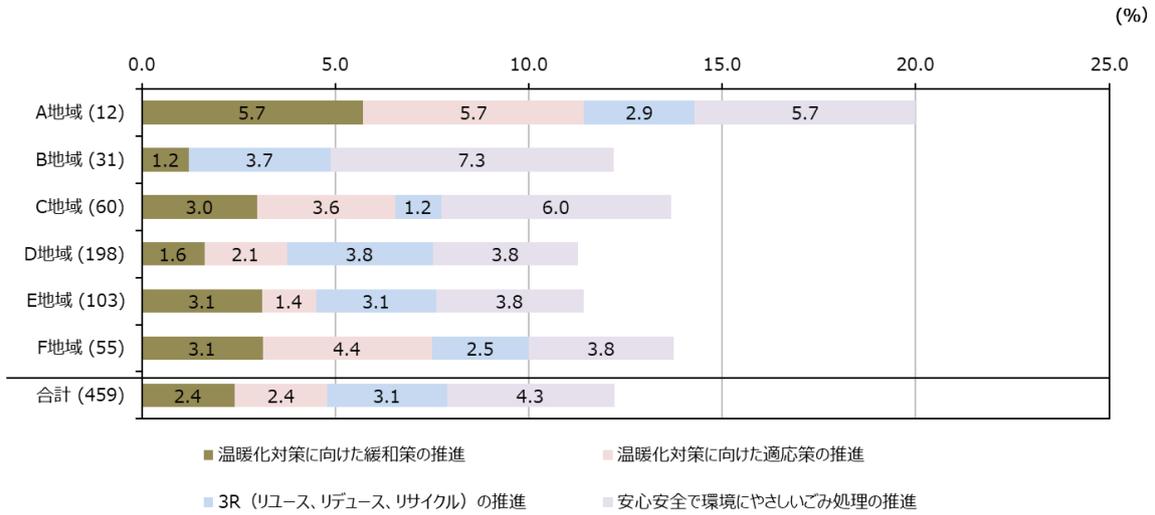


( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-83 問 14 のクロス集計結果（地域別,快適環境）

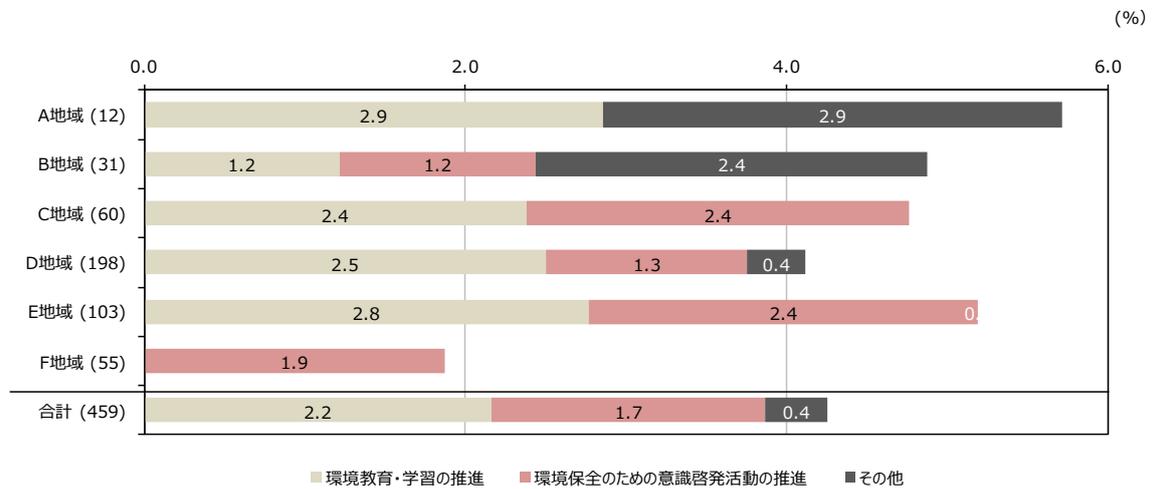
地球環境に着目すると、比較的高齢者層の多い A 地域で温暖化対策に向けた緩和策の推進と回答した割合が高い。

人づくりに着目すると、A 地域では環境教育・学習の推進と回答した市民はおらず、F 地域では環境保全のための意識啓発活動の推進と回答した市民がいない。



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-84 問 14 のクロス集計結果（地域別,地球環境）



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 2-4-85 問 14 のクロス集計結果（地域別,人づくり）

### ■環境基本計画の施策の効果（問 13）とのクロス集計

環境基本計画のそれぞれの施策について、重要度と満足度の分布から、今後重点的に改善すべき施策やそのまま維持していくべき施策を分析する。

「重要度」は問 14 におけるそれぞれの施策の得票数とし、「満足度」は、問 13 においてそれぞれの施策について「効果があったと思う」と回答した割合とした。それぞれの平均値を赤破線で示しており、重要度も満足度も高い第 1 象限を今後も重点的に維持すべき「重点維持施策」、重要度は高いが満足度は低い第 2 象限を今後重点的に改善すべき「重点改善施策」、重要度も満足度も低い第 3 象限を「改善施策」、重要度は低いが満足度は高い第 4 象限を「維持施策」としている。

下図より、重点維持施策は快適環境のうち、まちづくり関連の施策のみとなっており、重点改善施策は水質、大気環境の保全、公害の防止、水路の保全といった生活環境寄りの施策となっている。生物多様性の保全や緩和策・適応策、人づくりといった施策は重要度も満足度も低く、今後の意識啓発が課題となる。リサイクルやごみ処理、環境美化については、重要視はされていないが、満足度が高い。

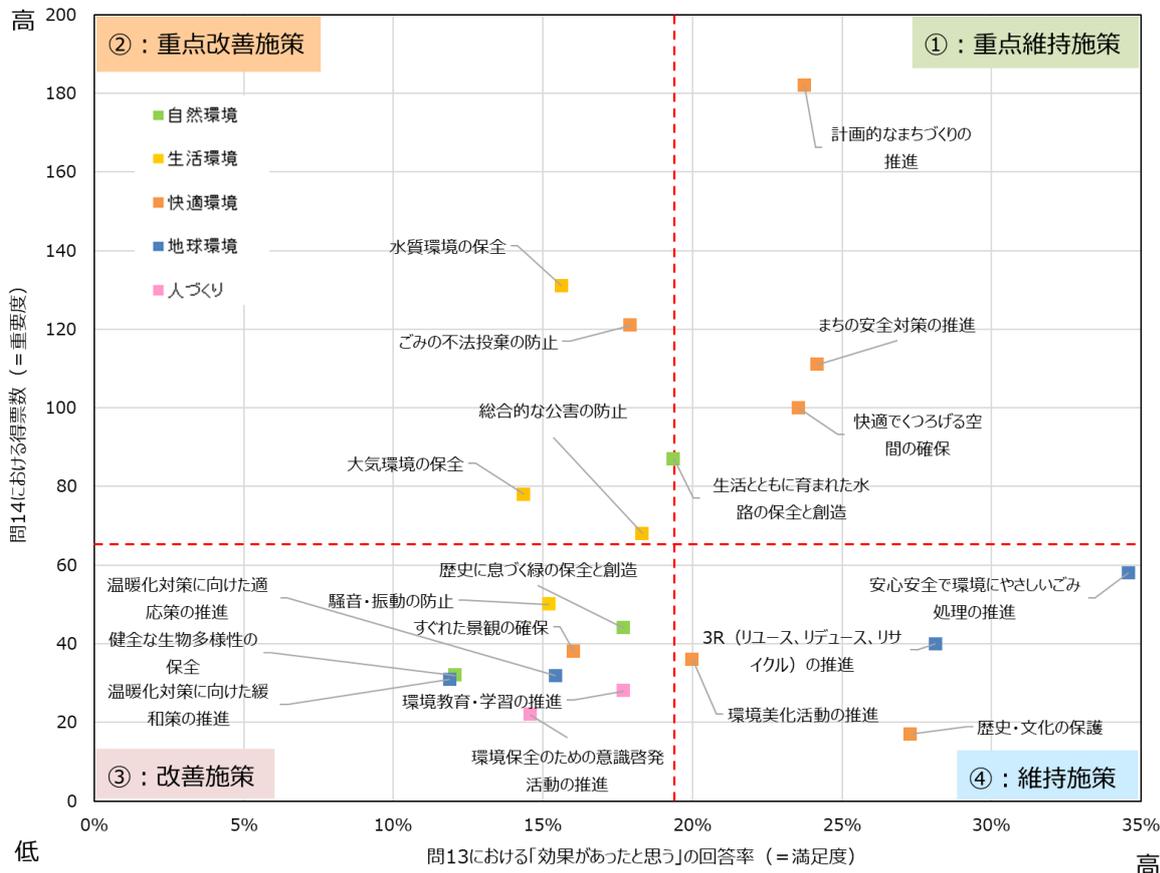


図 2-4-86 問 13 と問 14 のクロス集計結果

問 15 環境基本計画で位置付けられた市民の取組に関する実施状況【単独回答】

I. 脱炭素社会の実現

<単純集計>

「買い物をするときには、不要なものは買わず、エコバックを携帯し、過剰な包装は断っている」では「実施している」の回答率が75.8%と最も多くの市民に取り組まれている。また、「自動車で外出する際には、アイドリングストップを心掛けるなど、エコドライブに努めている」や「ごみの抑制や3R（リユース、リデュース、リサイクル）に努めている」、「自宅や庭等の緑化に努めている」のような取り組みやすい取組は実施している市民の割合が高い。一方で、「緑のカーテンを自宅に設置している」や「自宅に省エネルギー、再生可能エネルギーの設備を設置している」といった金銭的負担を伴う取組や、「国、県、市等で行う脱炭素社会構築のためのキャンペーンなどに参加している」のような時間的負担が伴う取組については「全く実施していない」の割合が高く、メリットの周知などが課題となる。

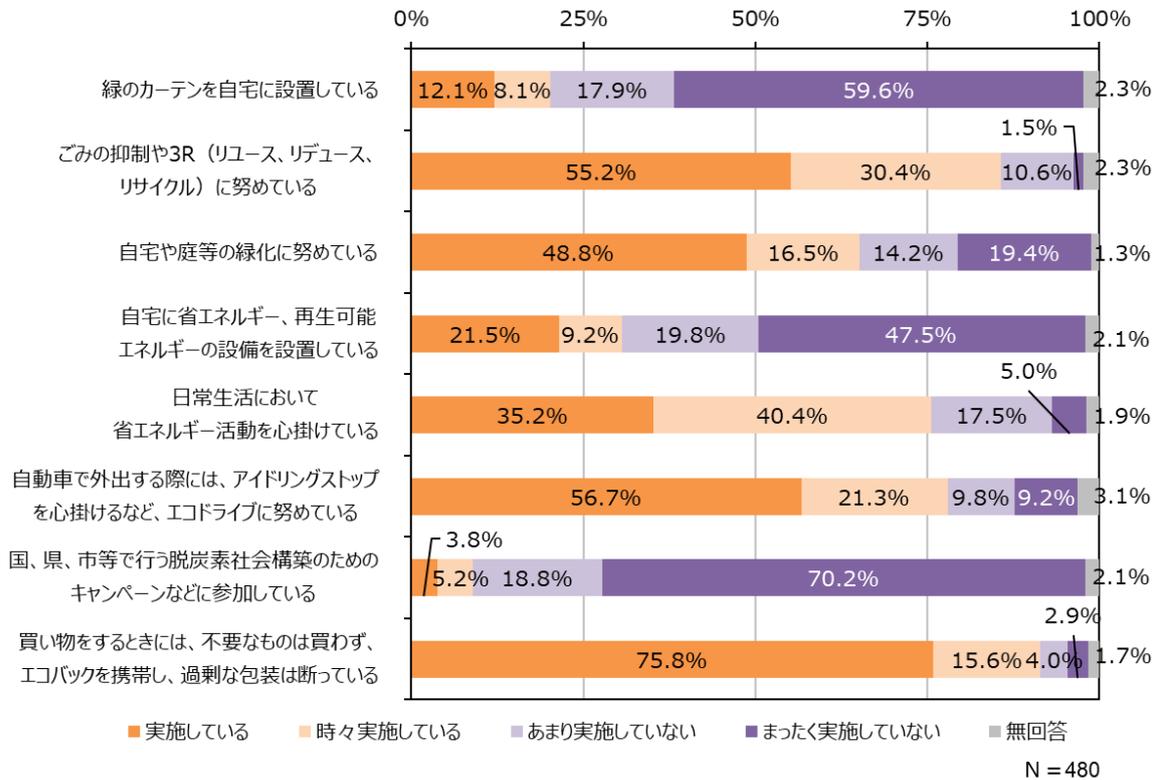
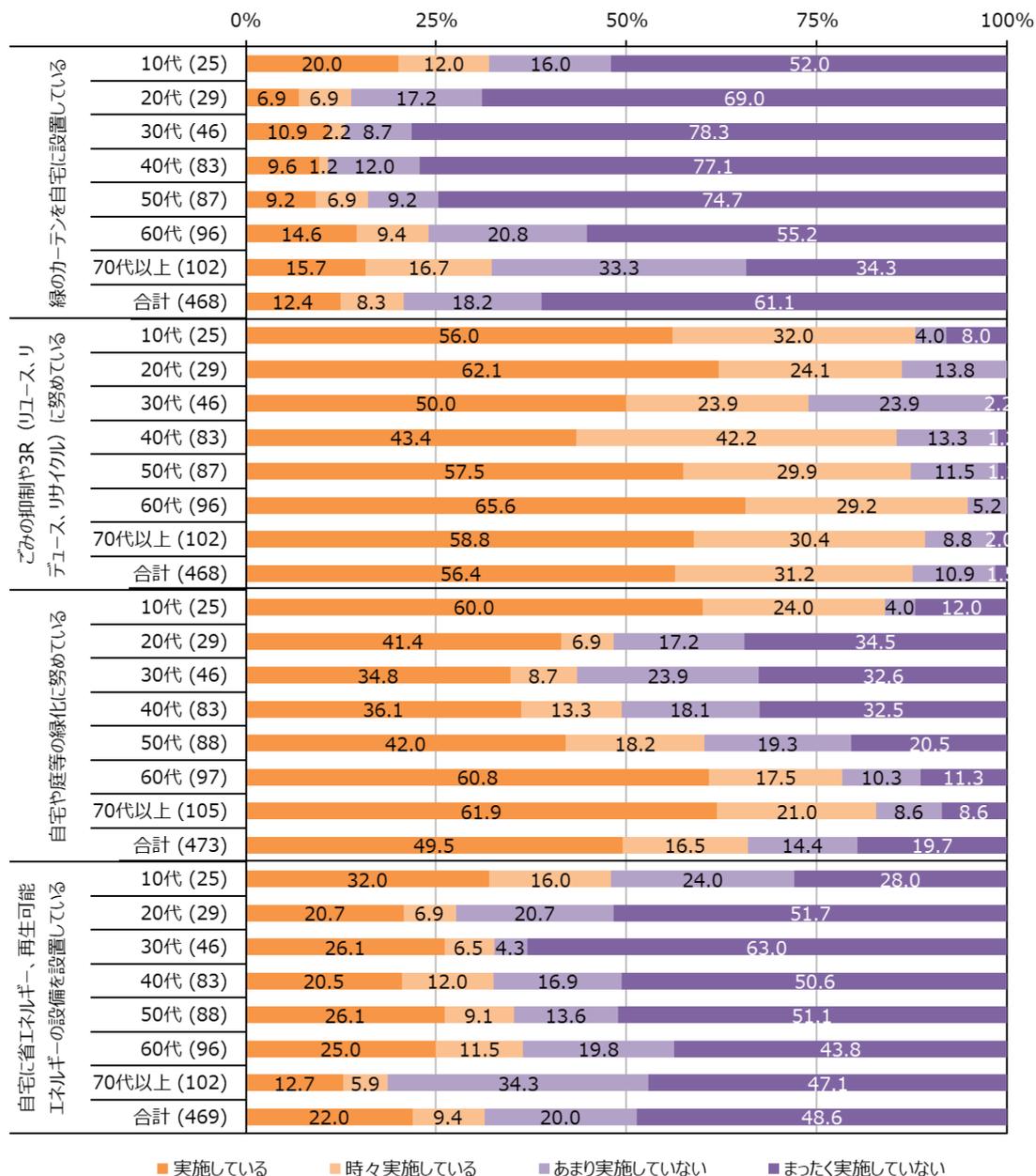


図 2-4-87 問 15-I の単純集計結果

<クロス集計>

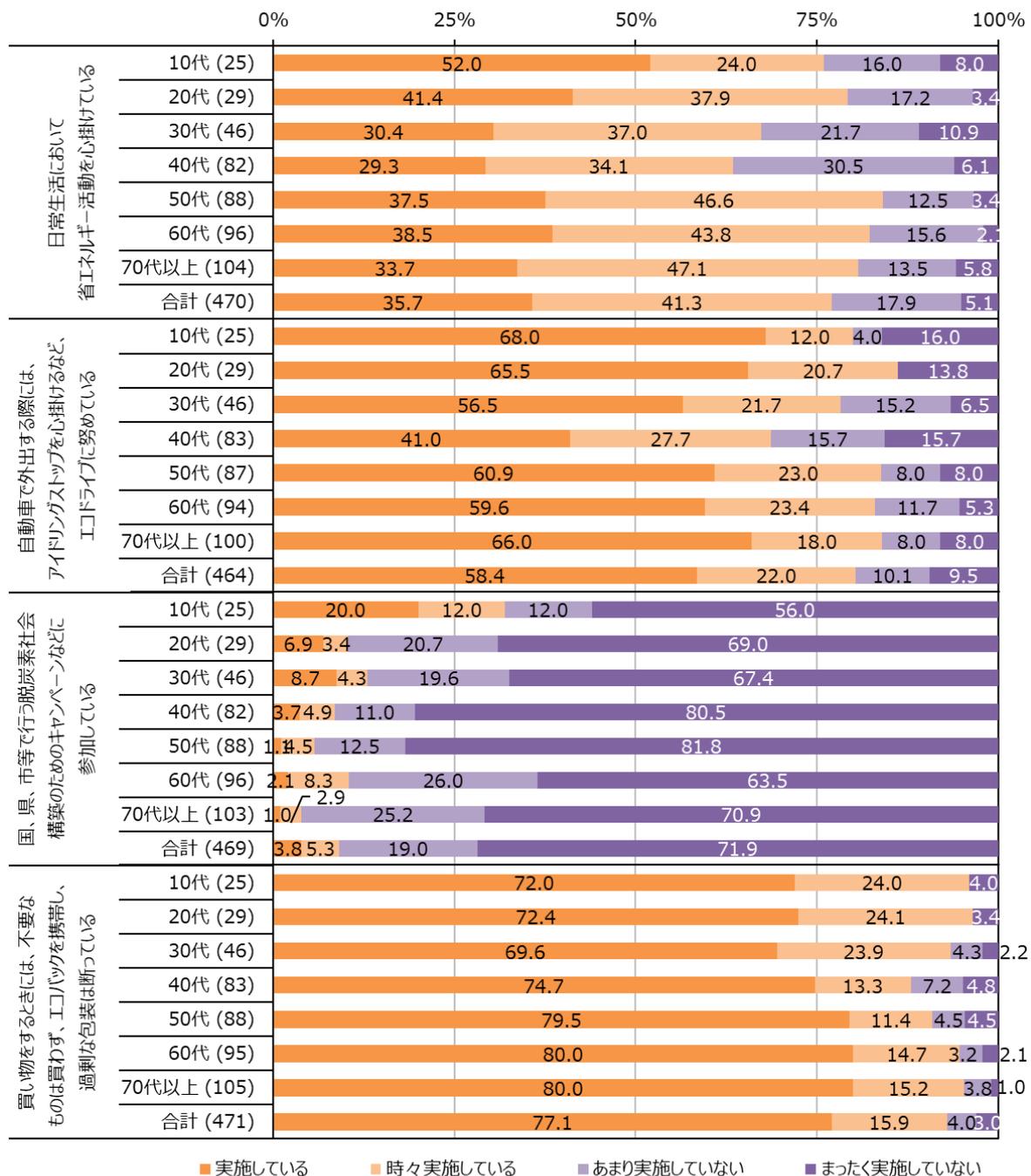
■年代別クロス集計

年代別では、「自宅や庭等の緑化に努めている」について、10代と60代以上で「実施している」、「時々実施している」と回答した割合が高い。また、再エネ・省エネ機器の設置では、70代以上では、他の年代に比べ、「実施している」、「時々実施している」と回答した割合が低い。「国、県、市等で行う脱炭素社会構築のためのキャンペーンなどに参加している」については、10代で「実施している」、「時々実施している」と回答した割合が高い。



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-88 問 15-I のクロス集計結果 (年代別-I)

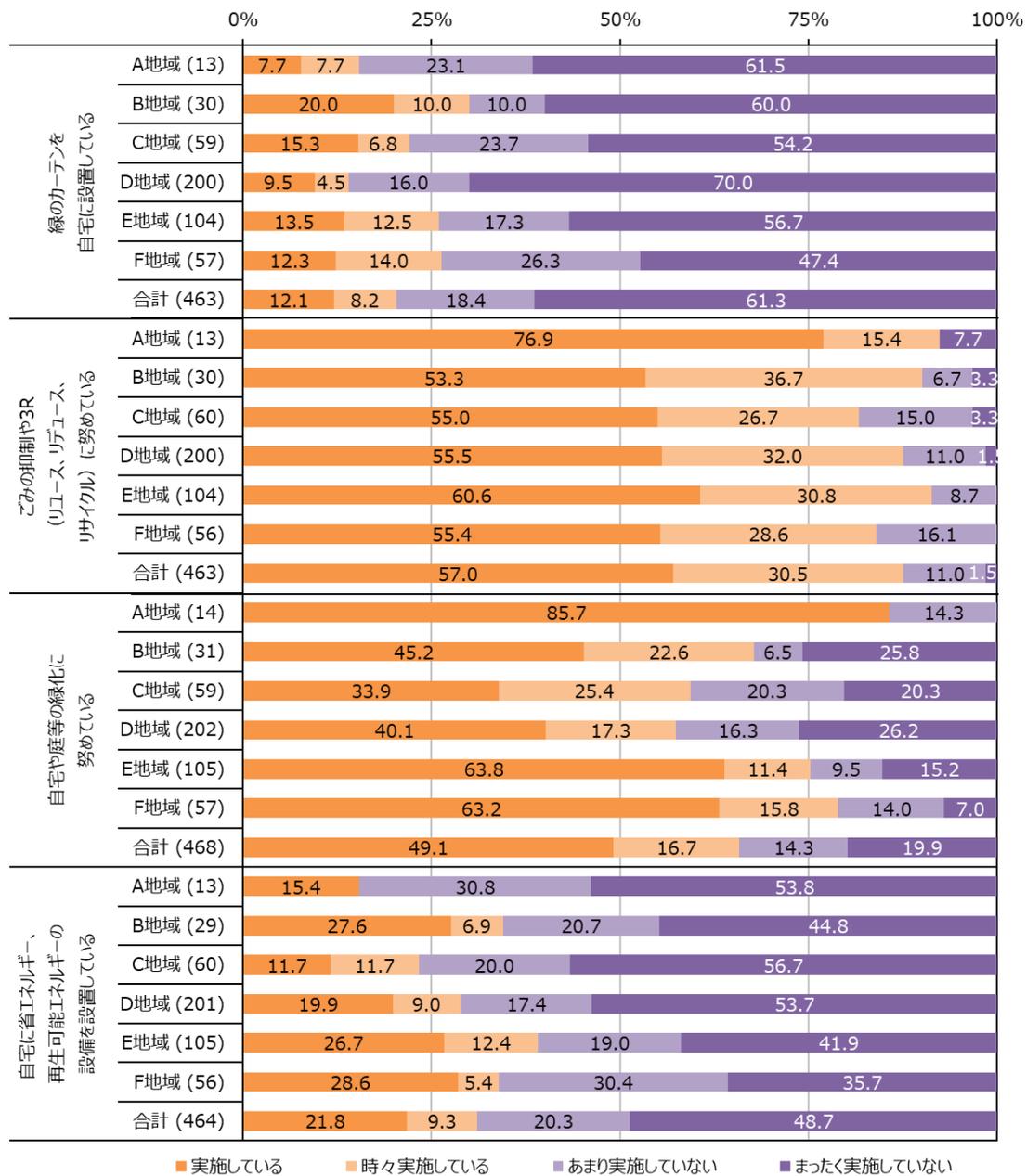


( )内数値：有効回答者数

図 2-4-89 問 15-I のクロス集計結果 (年代別-II)

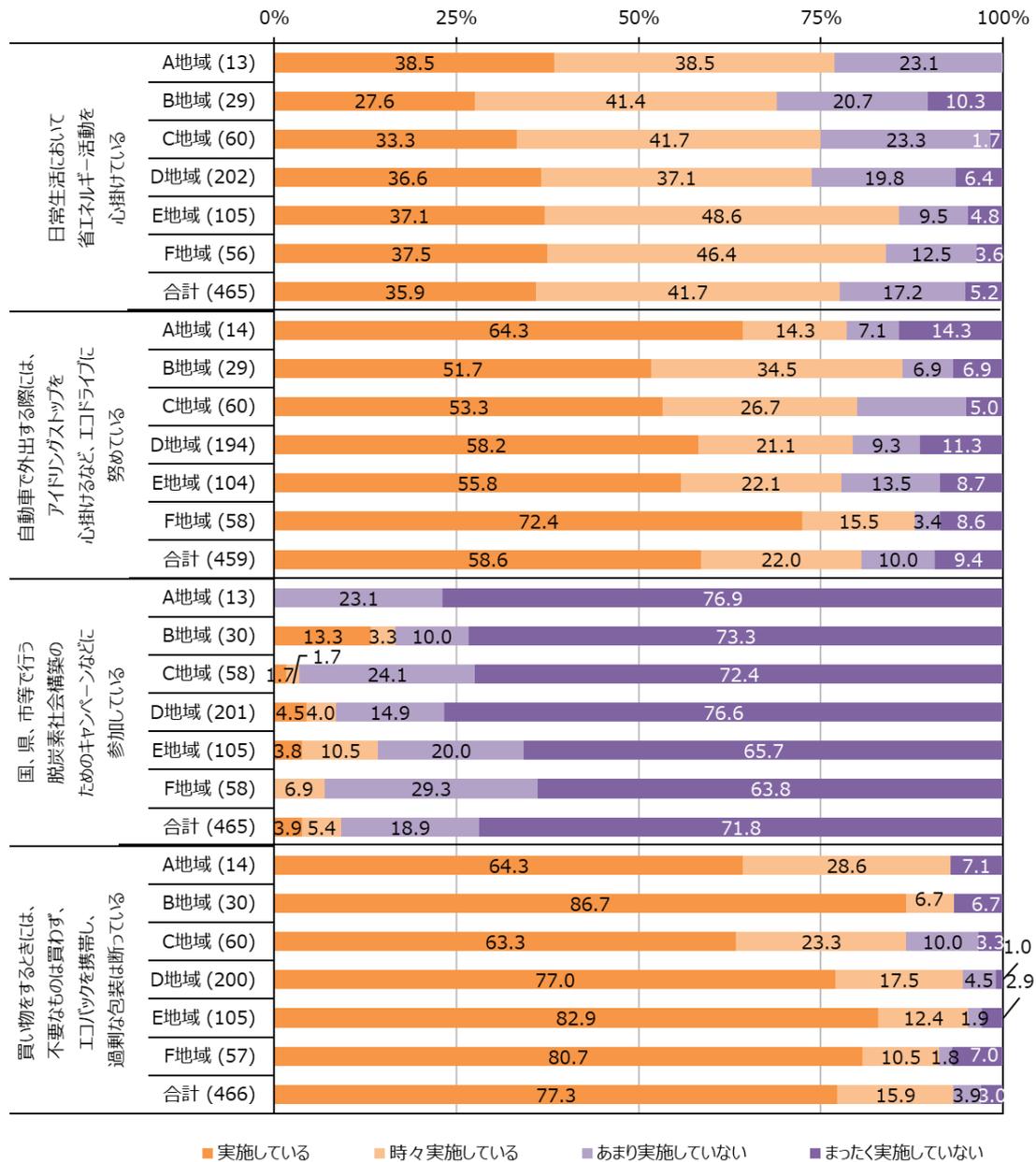
## ■地域別クロス集計

地域別では、「自宅や庭等の緑化に努めている」に関して、A、E、F 地域では他地域に比べて「実施している」の回答率が高い。



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-90 問 15-I のクロス集計結果 (地域別-I)



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-91 問 15-I のクロス集計結果 (地域別-II)

## II. 生物多様性の保全・創出

### <単純集計>

「市のきれいな水環境を守ることを意識し、台所や風呂など、日常生活から出る排水に気を配っている」では、「実施している」の回答率が45.6%と最も高く、「時々実施している」と合わせて75%の市民が取り組んでおり、水環境への意識の高さがうかがえる。次いで「敷地内に実のなる木を植えるなど鳥や昆虫を守っている」では「実施している」の割合が40.6%となっており、緑化を行う市民が多い。一方で、「環境保全団体が主催する自然保護活動に参加している」や「農業を営んでいる、または農業体験などに参加している」といった時間的な負担がかかる取組については「全く実施していない」の割合が高い。

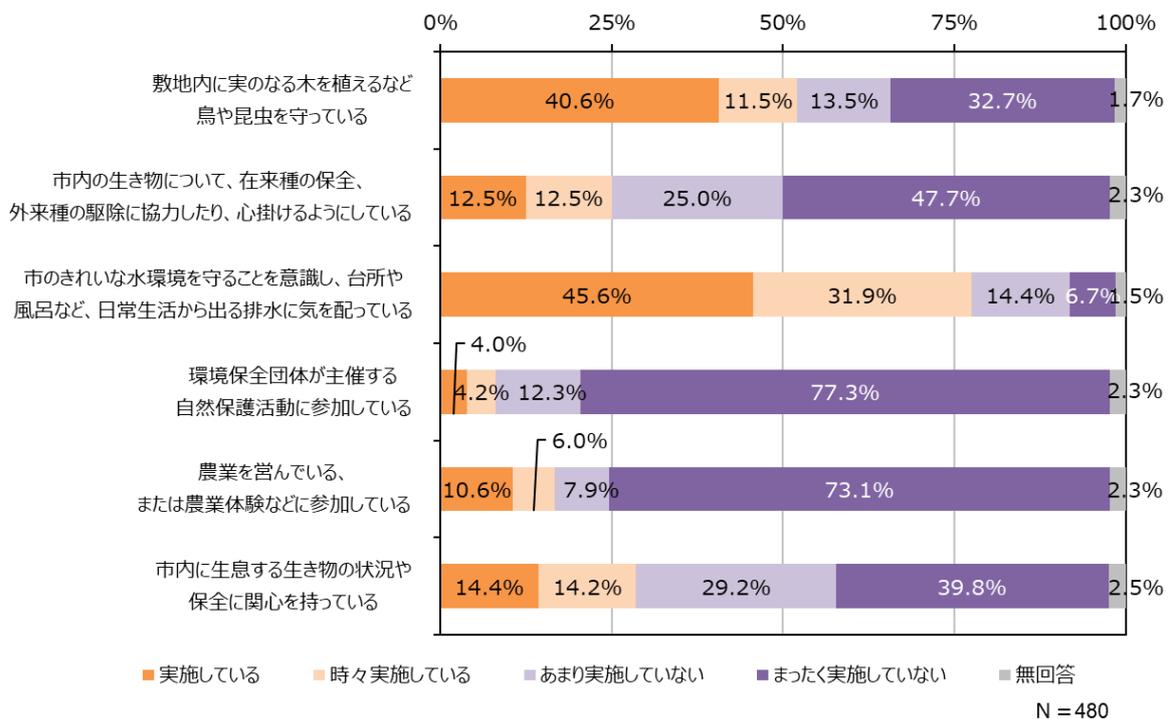
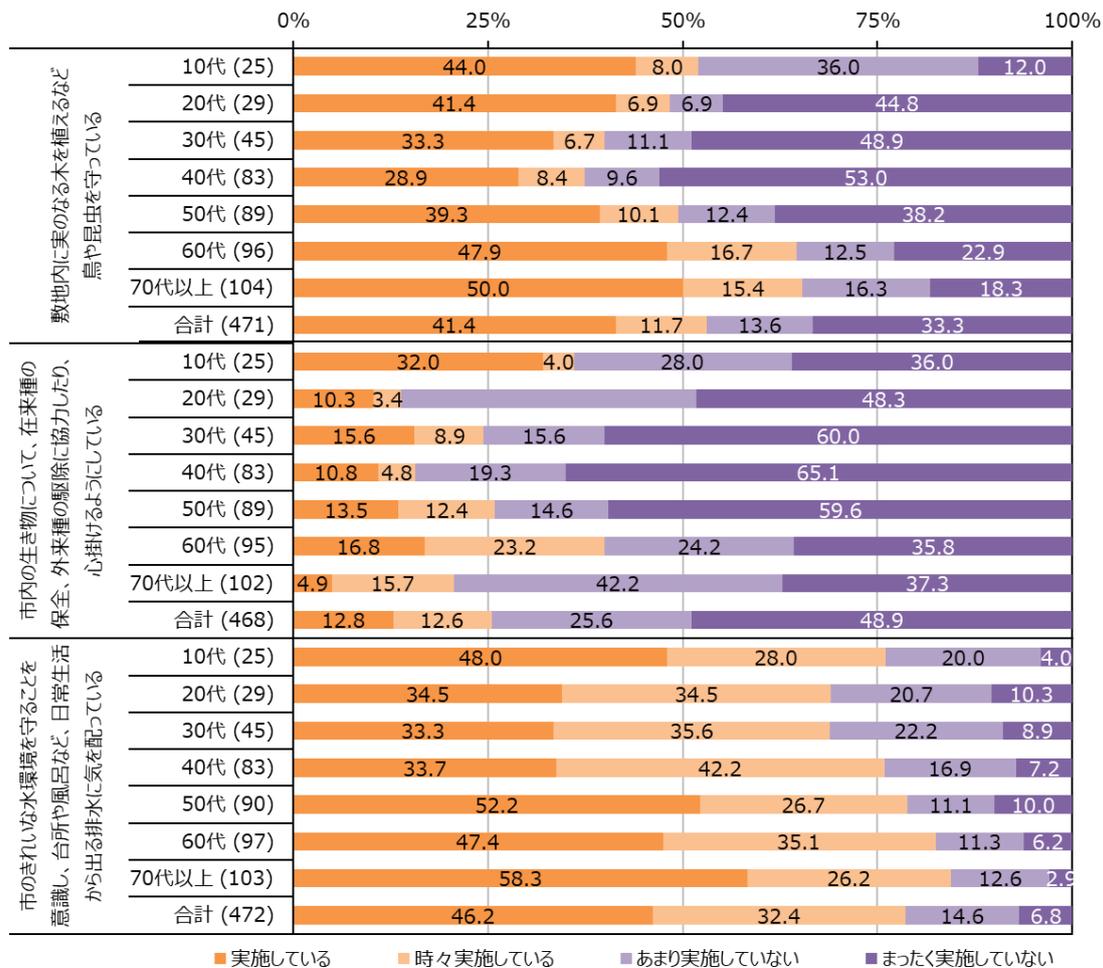


図 2-4-92 問 15-II の単純集計結果

<クロス集計>

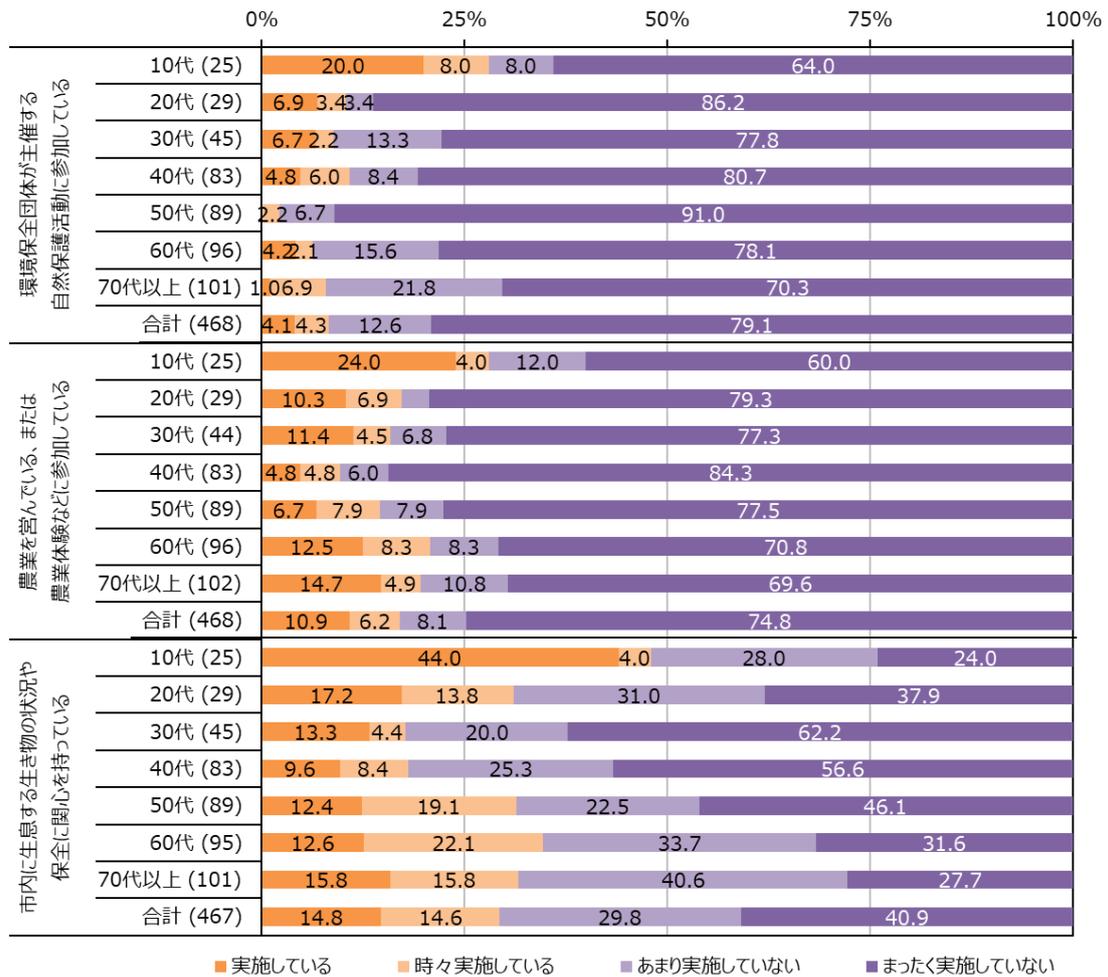
■年代別クロス集計

年代別では、全年代で「敷地内に実のなる木を植えるなど鳥や昆虫を守っている」、「市のきれいな水環境を守ることを意識し、台所や風呂など、日常生活から出る排水に気を配っている」について「実施している」、「時々実施している」の回答率が高く、それ以外の取組については10代で「実施している」、「時々実施している」と回答した割合が高い傾向が見られた。



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-93 問 15-II のクロス集計結果 (年代別-I)

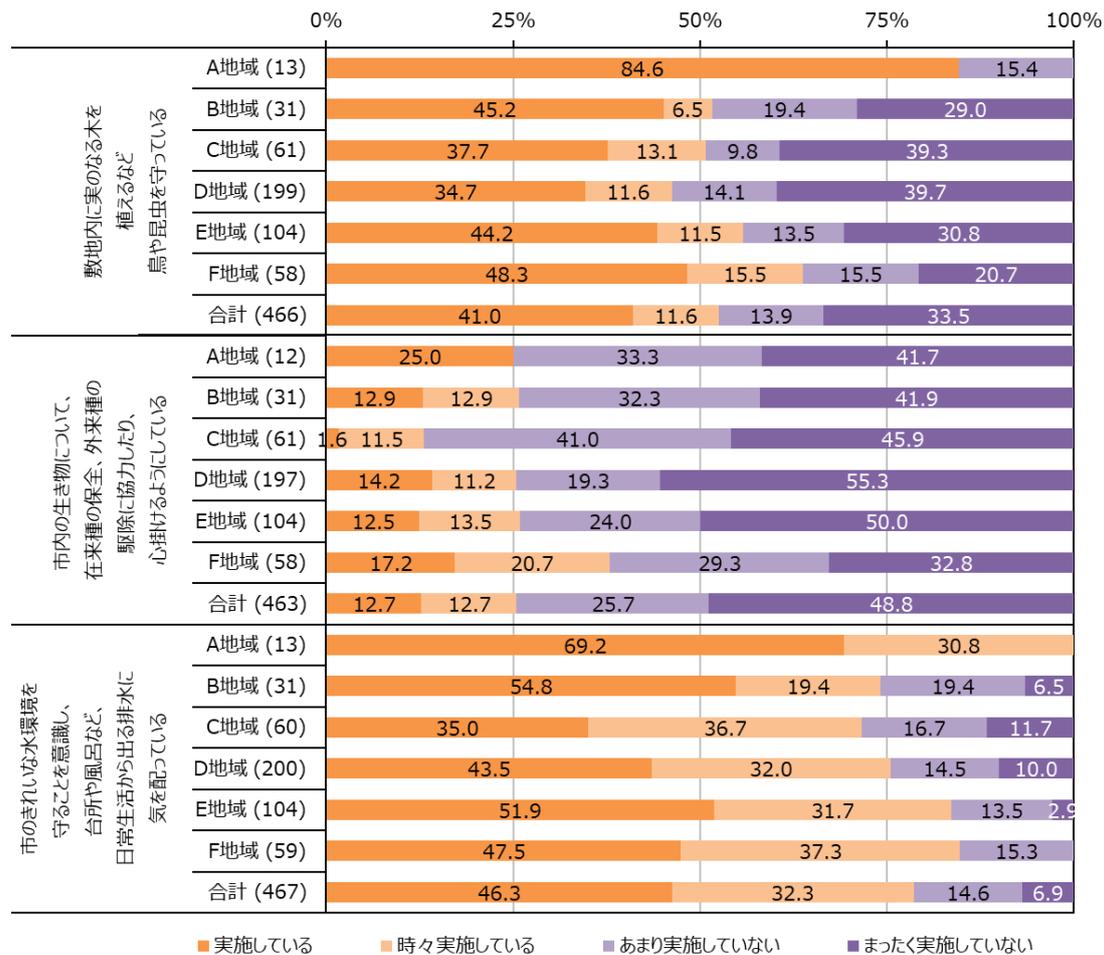


( )内数値：有効回答者数

図 2-4-94 問 15-II のクロス集計結果 (年代別-II)

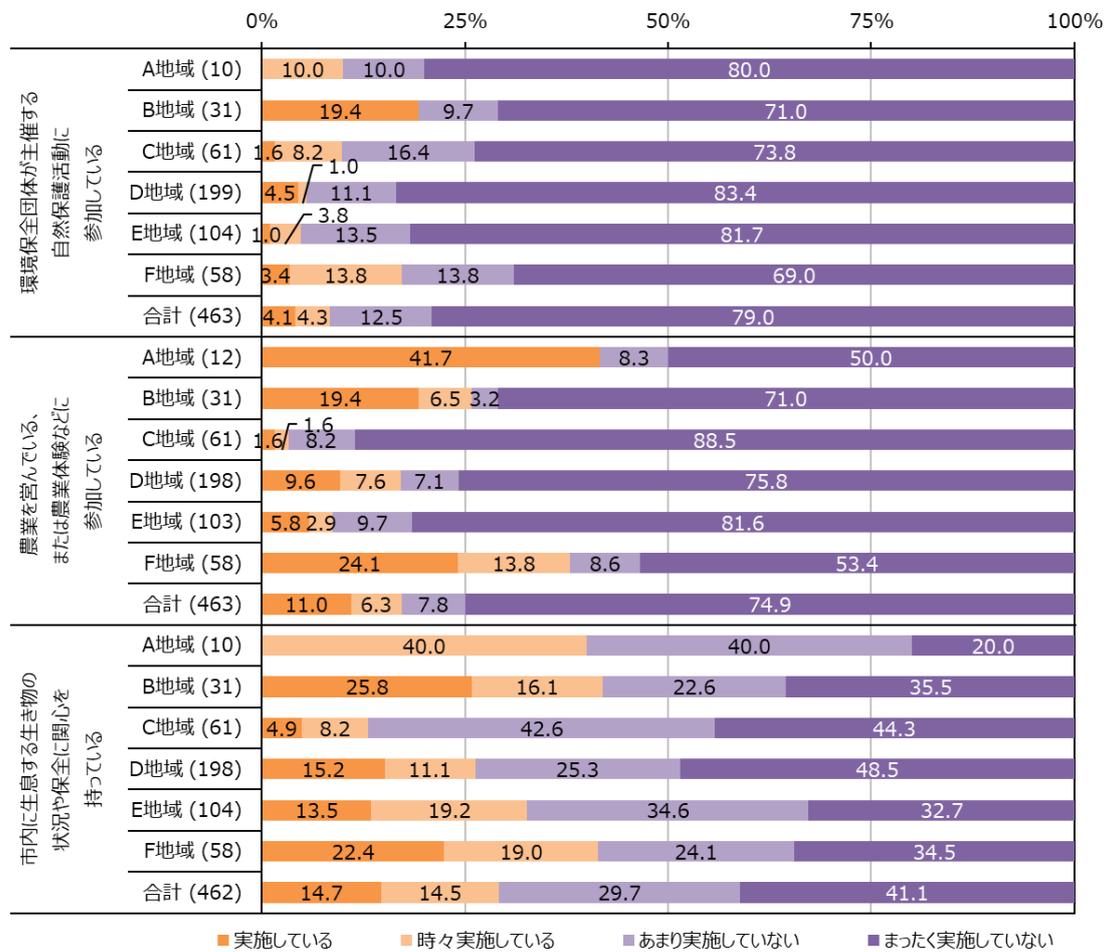
## ■地域別クロス集計

地域別では、「市内の生き物について、在来種の保全、外来種の駆除に協力したり、心掛けるようにしている」について、C 地域で「実施している」の回答率が他地域と比べて少ない。また、「環境保全団体が主催する自然保護活動に参加している」、「農業を営んでいる、または農業体験などに参加している」、「市内に生息する生き物の状況や保全に関心を持っている」については、B、F 地域で「実施している」、「時々実施している」の回答率が高い傾向が見られた。



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-95 問 15-II のクロス集計結果 (地域別-I)



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-96 問 15-II のクロス集計結果 (地域別-II)

### III. 環境を学び行動する市民の増加

#### <単純集計>

「食に関する正しい知識を身につける「食育」に取り組んでいる」と「家庭で環境問題について話し合うことがある」を除き、全体的に「全く実施していない」の割合が高く、家庭以外での環境を学ぶ機会の創出が課題となる。

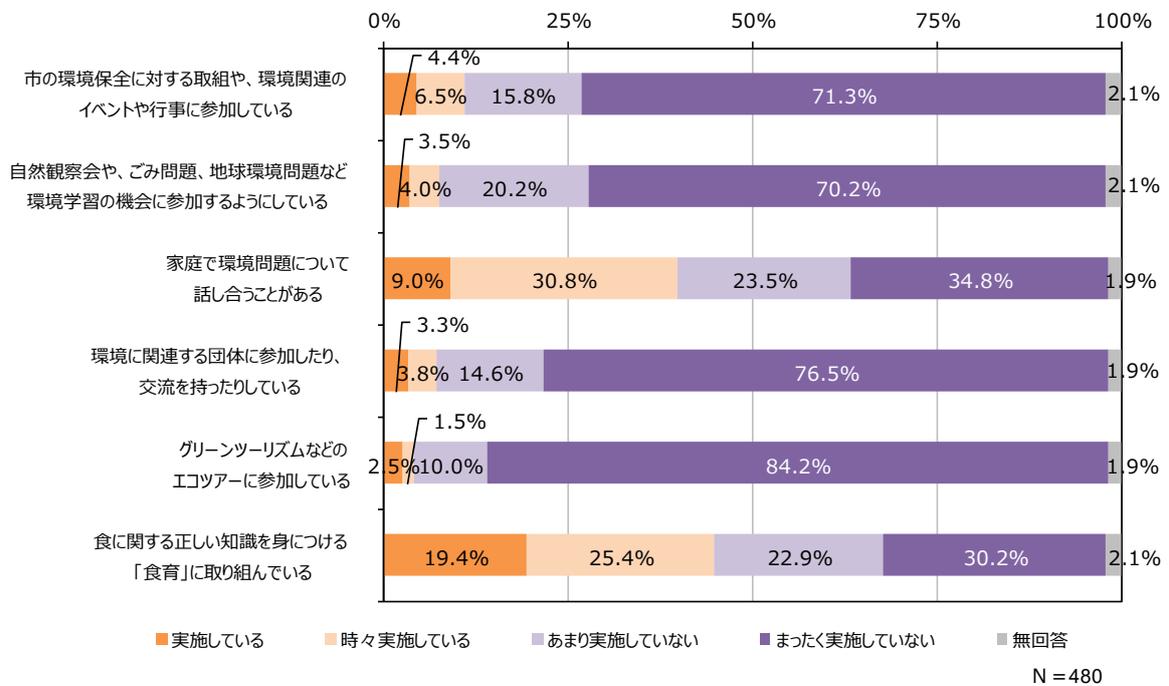
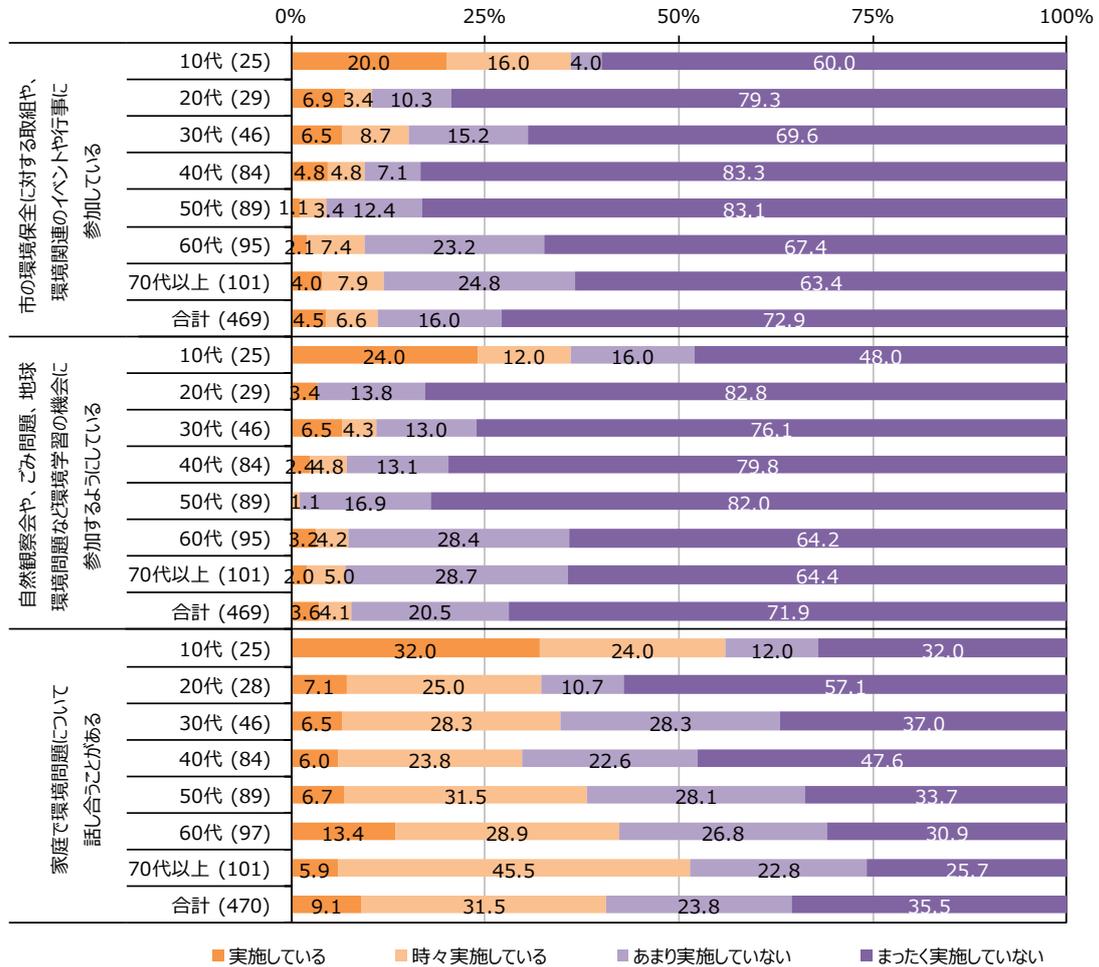


図 2-4-97 問 15-Ⅲの単純集計結果

<クロス集計>

■年代別クロス集計

年代別では、10代で「実施している」、「時々実施している」と回答した割合が高い。



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-98 問 15-Ⅲのクロス集計結果（年代別-I）

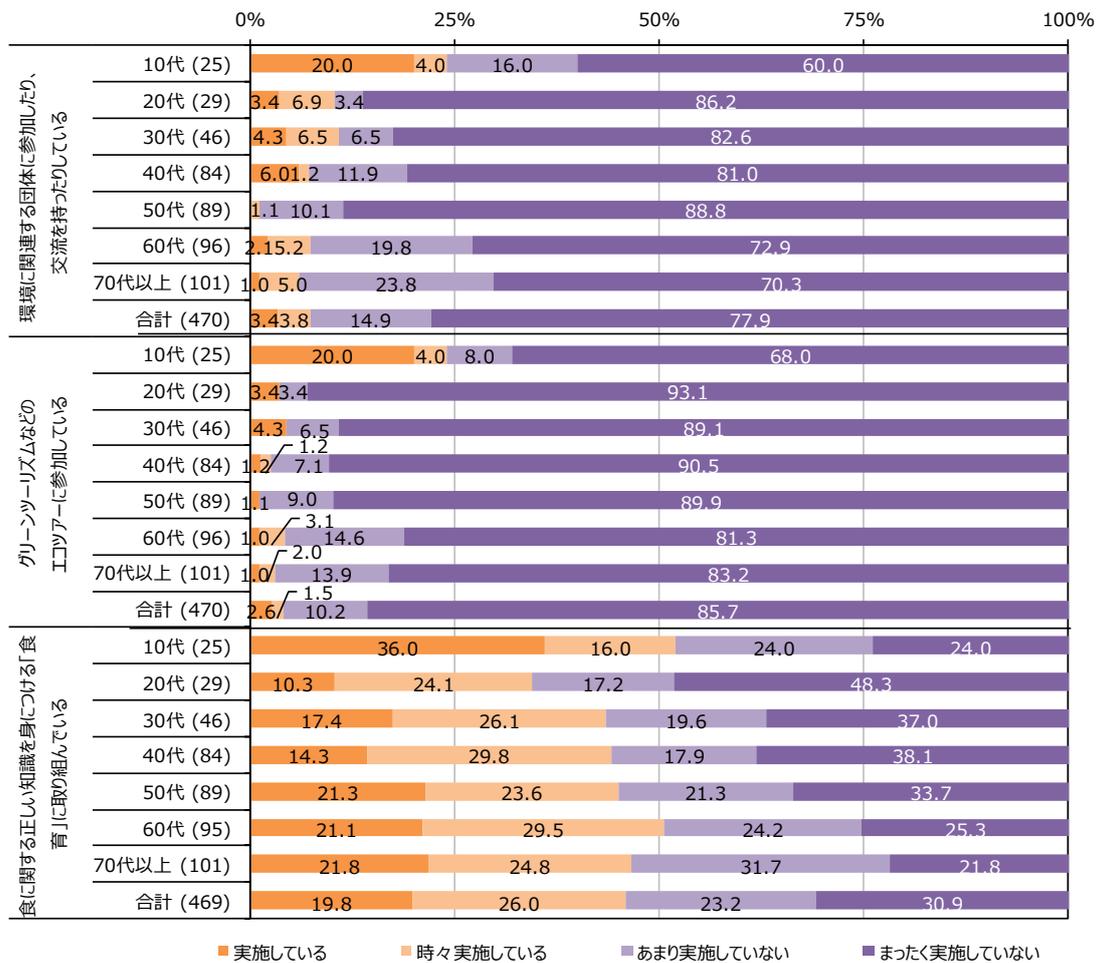
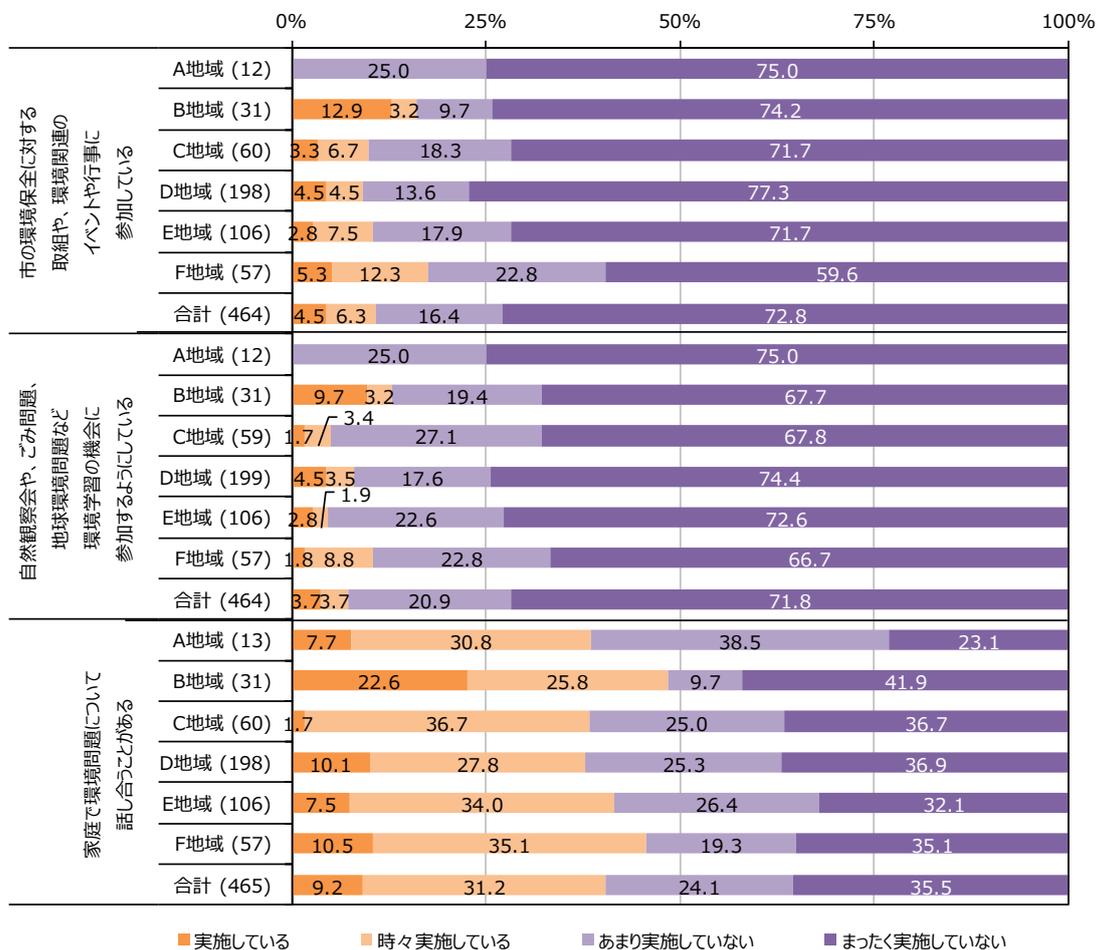


図 2-4-99 問 15-Ⅲのクロス集計結果（年代別-Ⅱ）

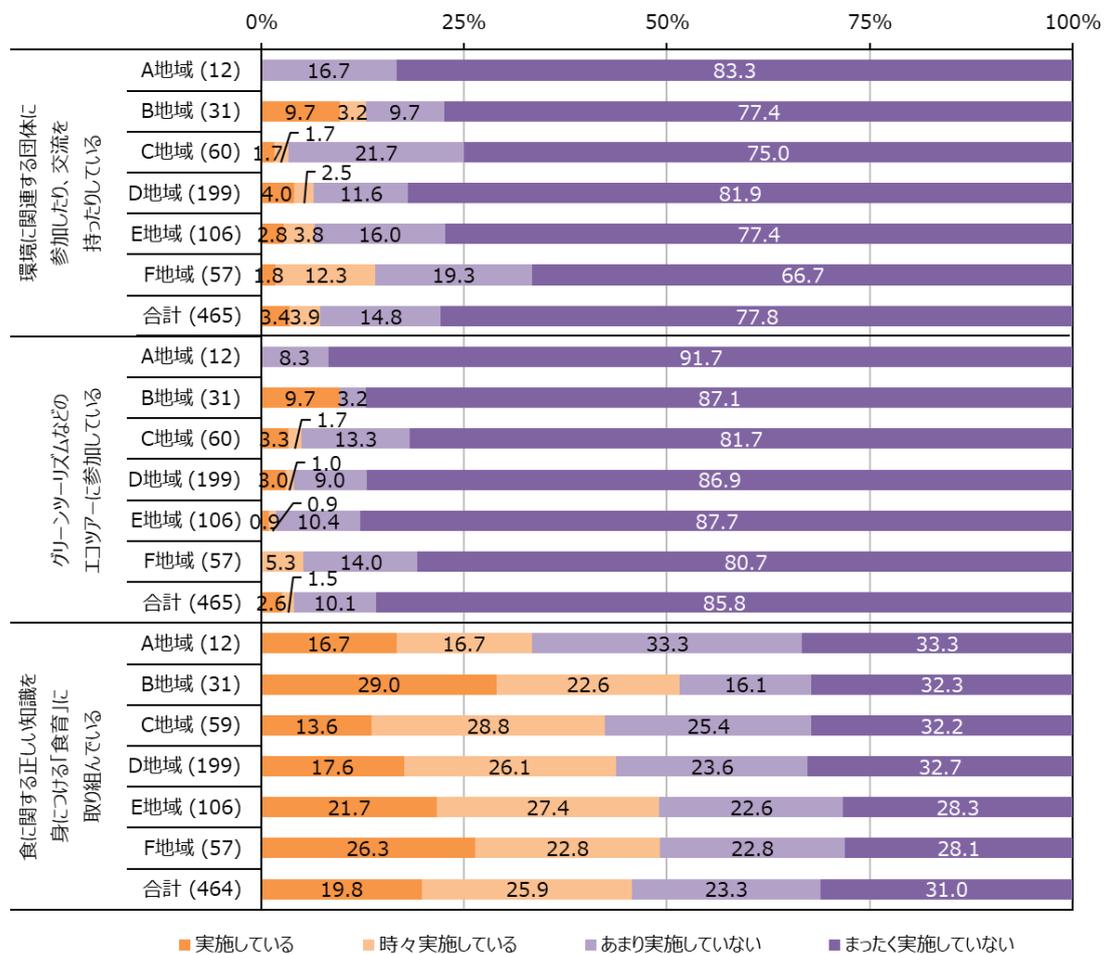
## ■地域別クロス集計

地域別では、比較的回答者の年齢層が若いB地域で、「実施している」、「時々実施している」と回答した割合が高い。



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-100 問 15-I のクロス集計結果 (地域別-I)



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-101 問 15-I のクロス集計結果 (地域別-II)

問 16 白岡市の環境基本条例や環境基本計画の認知度【単独回答】

<単純集計>

環境基本条例、環境基本計画のどちらも、60%以上の市民が「名前も内容も知らない」と回答しており、情報の周知が課題となる。

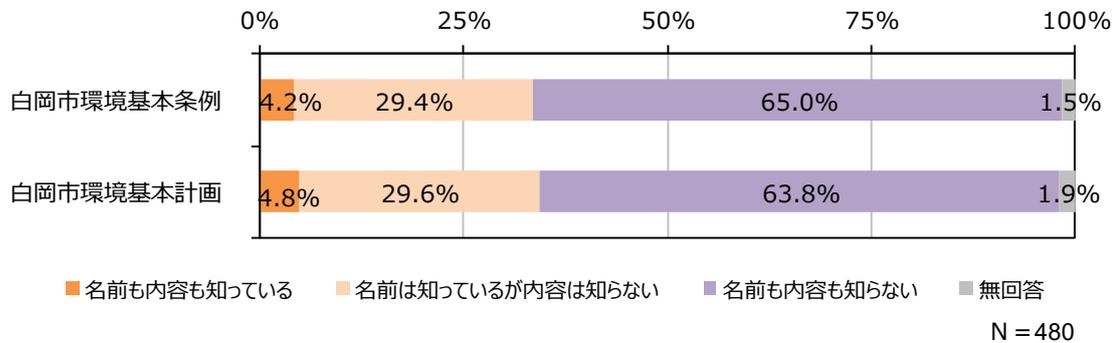


図 2-4-102 問 16 の単純集計結果

<経年比較>

過去 3 回で認知度に大きな変化は見られない。

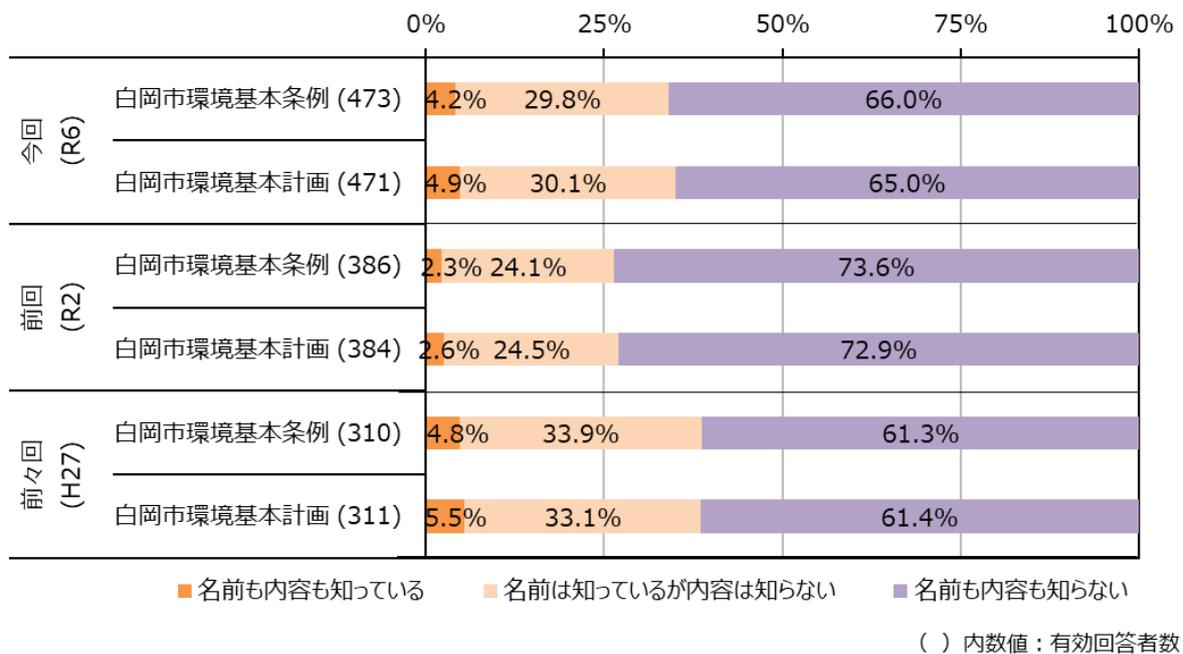
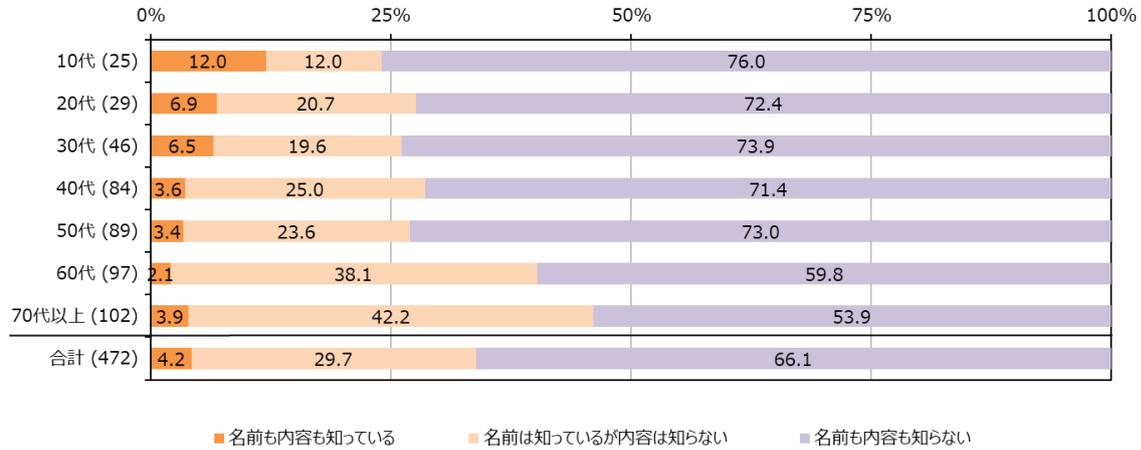


図 2-4-103 問 16 の過年度比較

<クロス集計>

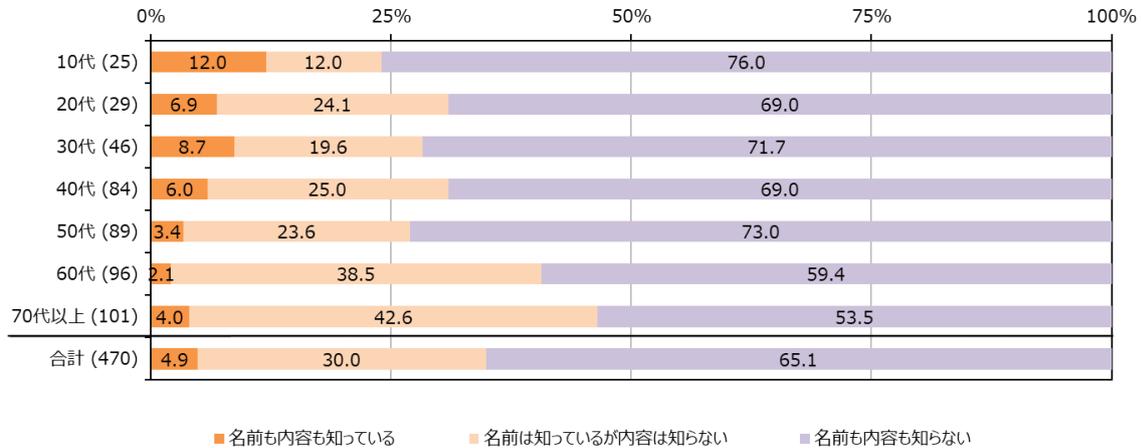
■年代別クロス集計

年代別では、若年層ほど「名前も内容も知っている」の割合が高く、「名前は知っているが内容までは知らない」の割合は低くなる傾向が見られた。



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-104 問 16 のクロス集計結果（年代別、環境基本計画）

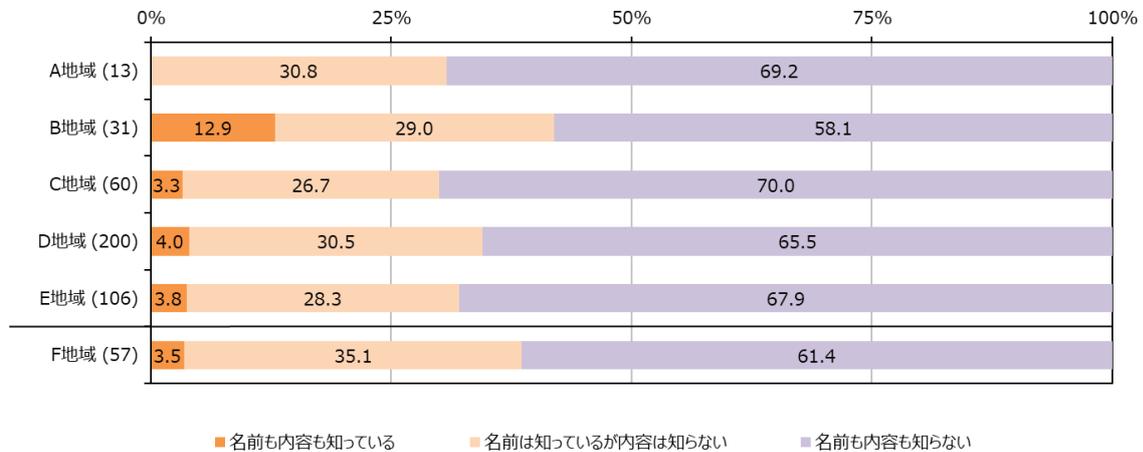


( )内数値：有効回答者数

図 2-4-105 問 16 のクロス集計結果（年代別、環境基本条例）

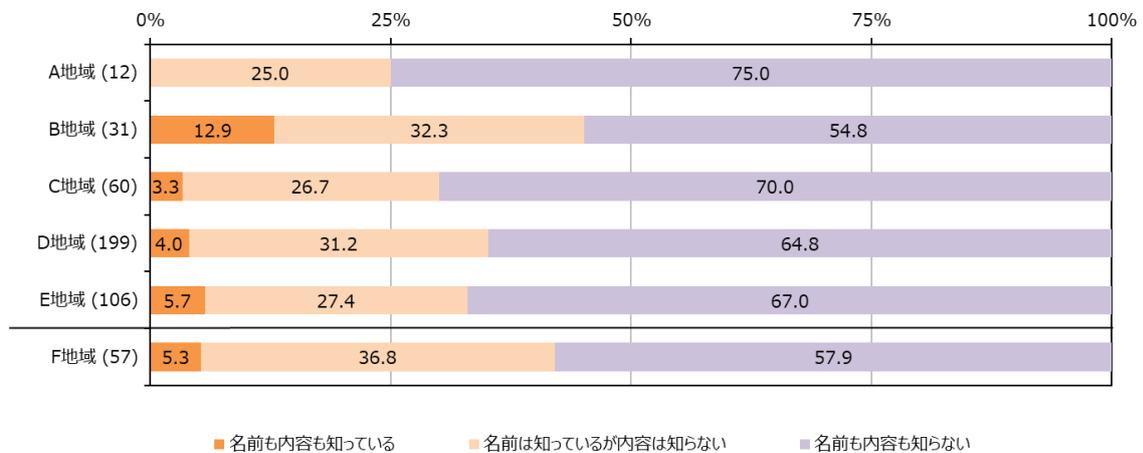
## ■地域別クロス集計

地域別では、比較的若年層が多いB地域で「名前も内容も知っている」の割合が高く、高齢者層の多いA地域では「名前も内容も知っている」と回答した市民はいなかった。なお、「名前は知っているが内容は知らない」と回答した割合はどの地域も変わらない。



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-106 問 16 のクロス集計結果（地域別、環境基本計画）



( )内数値：有効回答者数

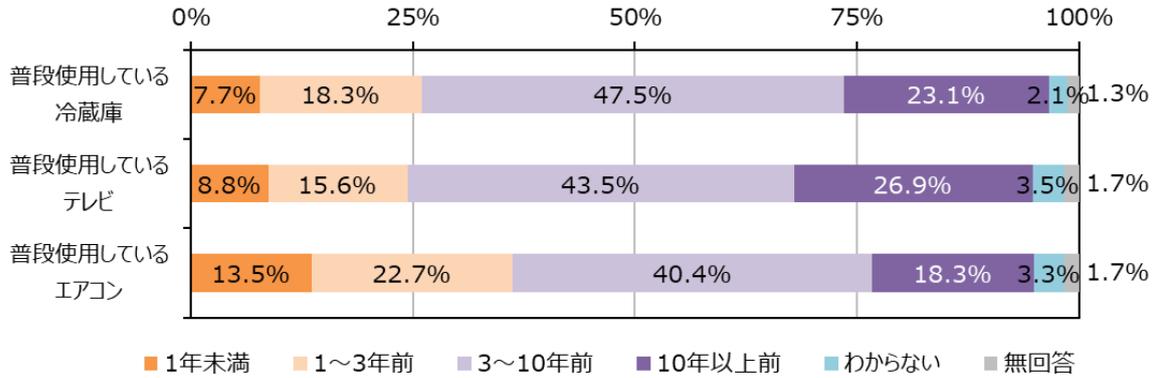
図 2-4-107 問 16 のクロス集計結果（地域別、環境基本条例）

(5) 地球温暖化対策について

問 17 省エネ家電（冷蔵庫、テレビ、エアコン）の導入状況【単独回答】

<単純集計>

どの家電も約 25%の市民が「1 年未満」「1～3 年前」と回答しており、約 75%の市民が 10 年以内には購入している。市全体では省エネ性能の高い家電はある程度導入されていることがうかがえる。



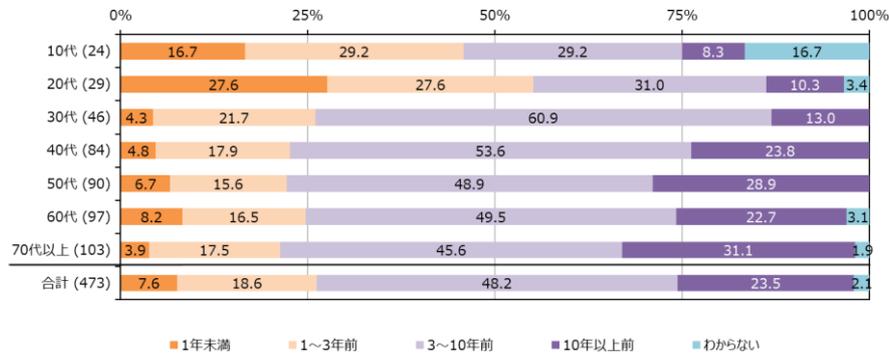
N = 480

図 2-4-108 問 17 の単純集計結果

<クロス集計>

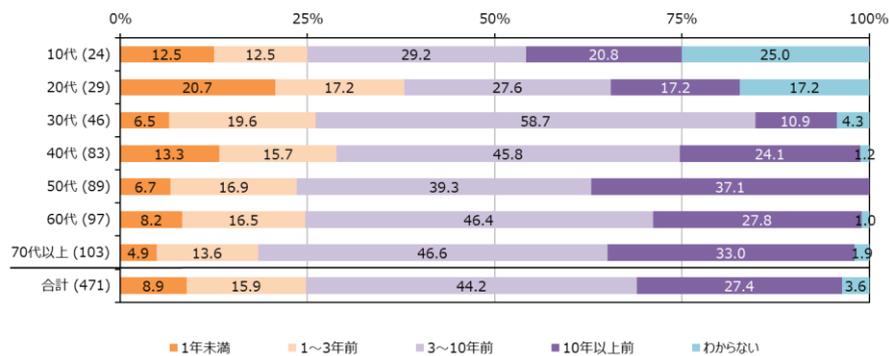
■年代別クロス集計

年代別では、10代、20代で「1年未満」「1～3年前」と回答した割合が高く、「わからない」と回答した割合も高い。50代以上では、「10年以上前」と回答した割合が高い。



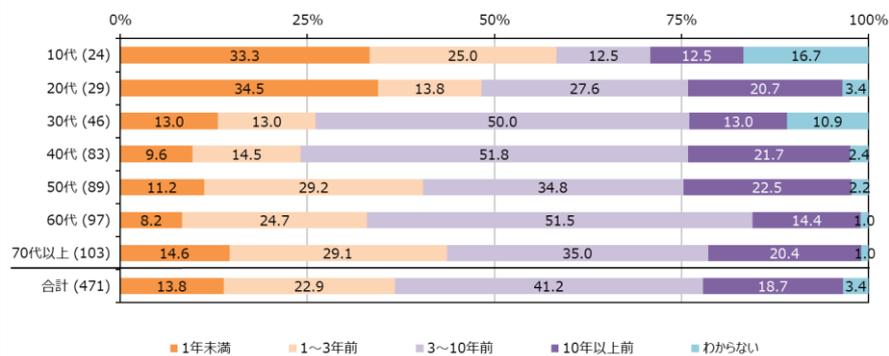
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-109 問 17 (冷蔵庫) のクロス集計結果 (年代別)



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-110 問 17 (テレビ) のクロス集計結果 (年代別)

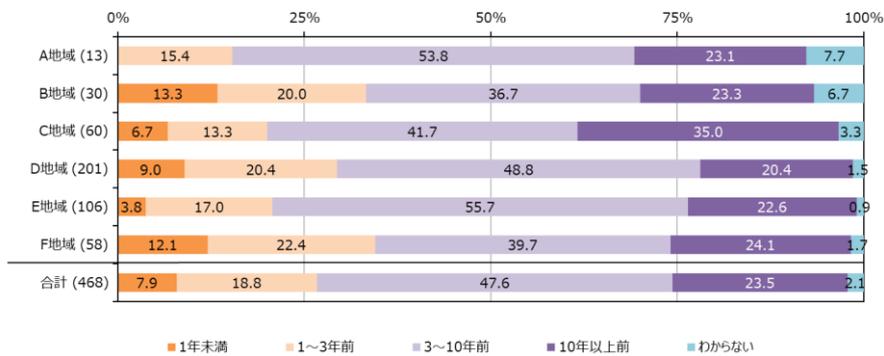


( )内数値：有効回答者数

図 2-4-111 問 17 (エアコン) のクロス集計結果 (年代別)

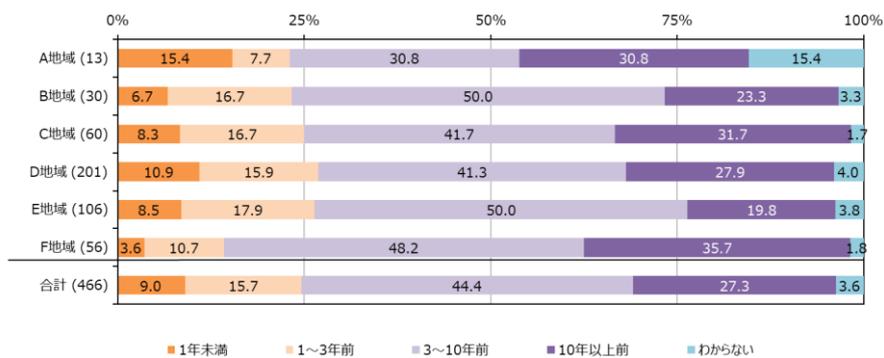
## ■地域別クロス集計

地域別では、冷蔵庫、エアコンにおいて、A地域では「1年未満」の回答はない。また、高齢者層の多いA地域、若年層の多いB地域では「わからない」と回答した割合が高い。



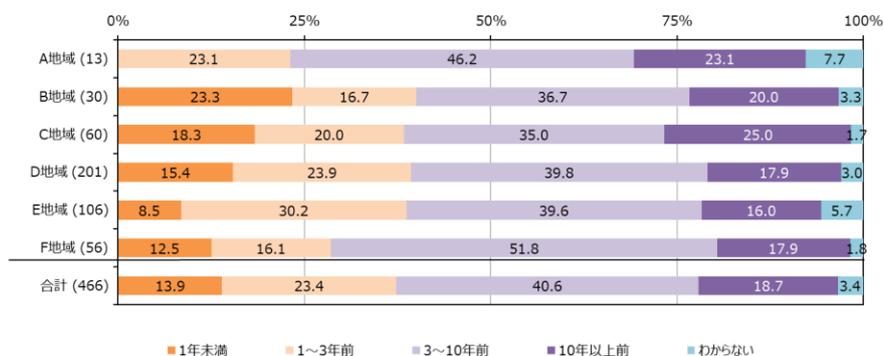
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-112 問 17 (冷蔵庫) のクロス集計結果 (地域別)



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-113 問 17 (テレビ) のクロス集計結果 (地域別)



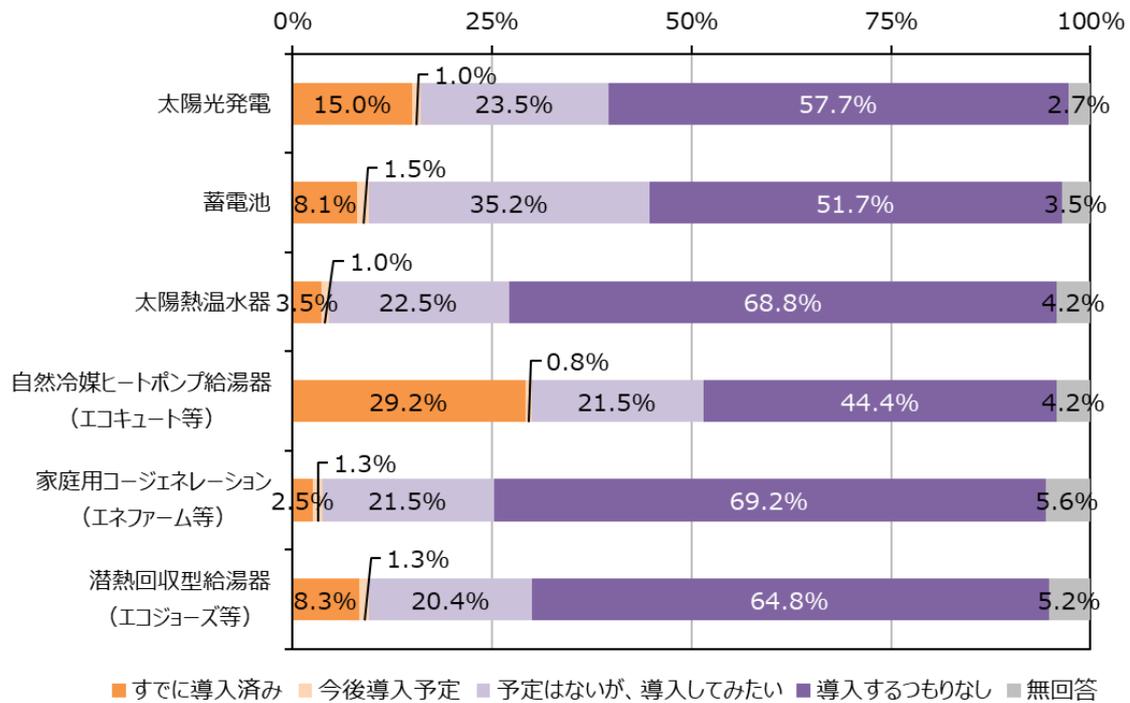
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-114 問 17 (エアコン) のクロス集計結果 (地域別)

### 問 18 再エネ設備の導入状況【単独回答】

#### <単純集計>

約 30%の市民が「自然冷媒ヒートポンプ給湯器（エコキュート等）」を導入しているが、その他の設備の導入率は 10%以下となっている。どの設備についても、20%以上の市民が「予定はないが、導入してみたい」と回答しており、この層に補助制度などの周知を行うことが課題となる。



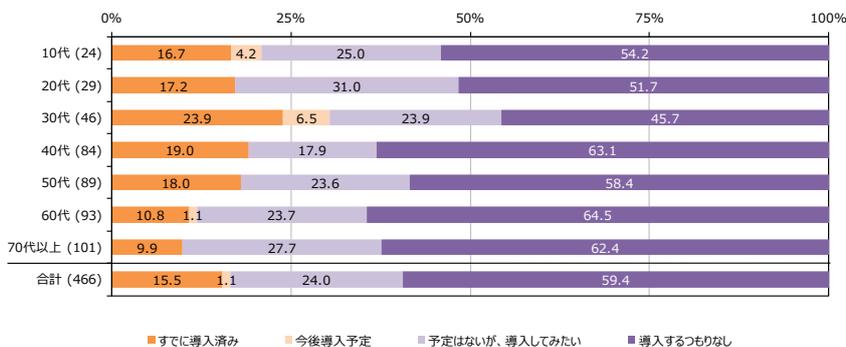
N = 480

図 2-4-115 問 18 の単純集計結果

<クロス集計>

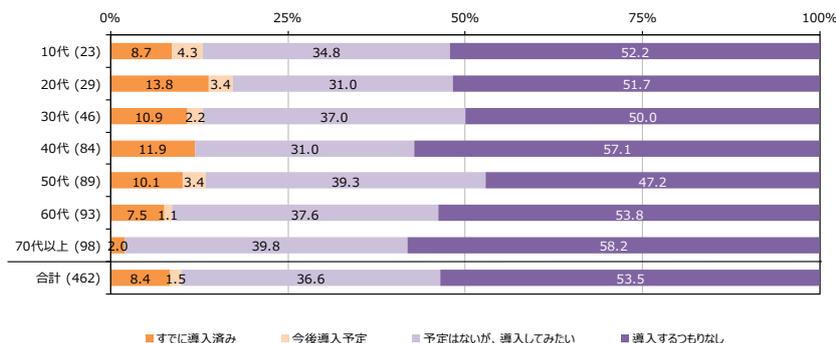
■年代別クロス集計

年代別では、太陽光発電は30代において「すでに導入済み」と回答した割合が高く、年代が上がるにつれ回答した割合が低くなる。一方、太陽熱温水器では30代で「すでに導入済み」と回答した市民はいない。



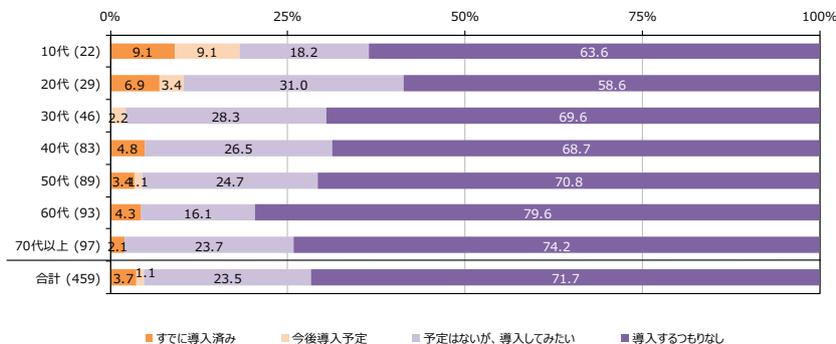
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-116 問 18 (太陽光発電) のクロス集計結果 (年代別)



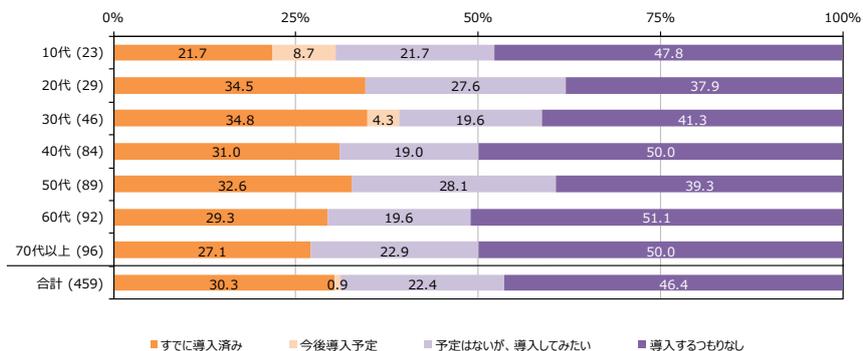
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-117 問 18 (蓄電池) のクロス集計結果 (年代別)



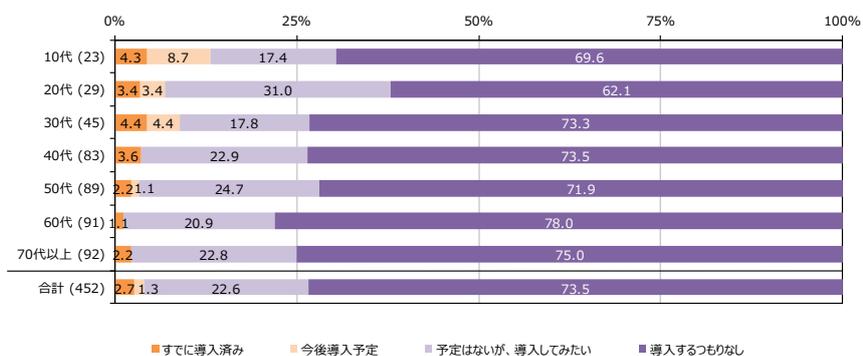
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-118 問 18 (太陽熱温水器) のクロス集計結果 (年代別)



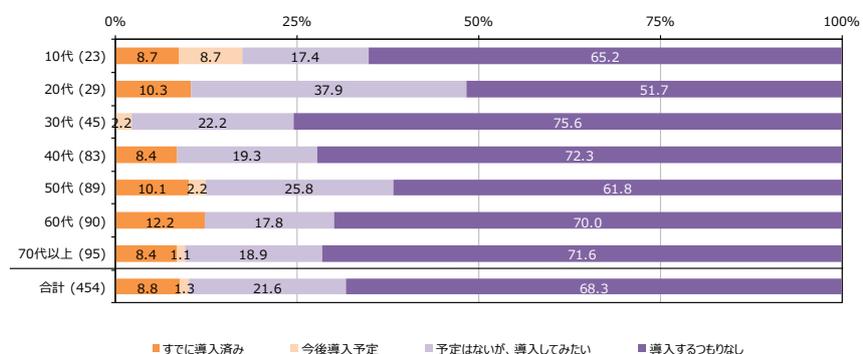
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-119 問 18（自然冷媒ヒートポンプ給湯器）のクロス集計結果（年代別）



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-120 問 18（家庭用コージェネレーション）のクロス集計結果（年代別）

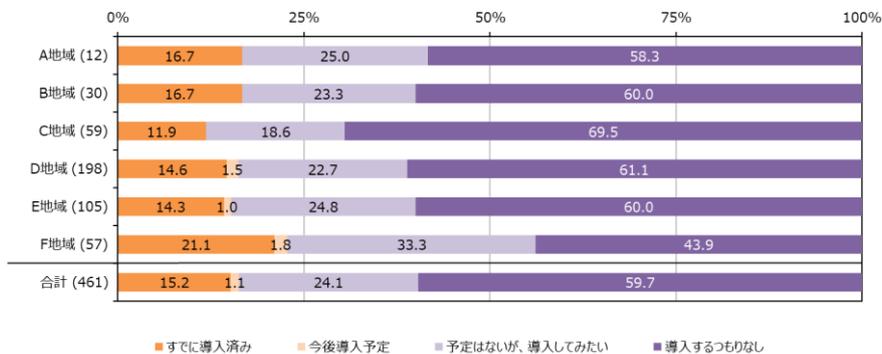


( )内数値：有効回答者数

図 2-4-121 問 18（潜熱回収型給湯器）のクロス集計結果（年代別）

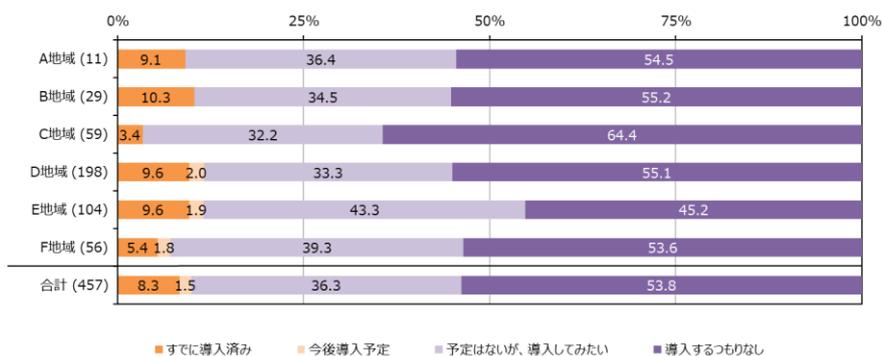
## ■地域別クロス集計

地域別では、A・B地域において自然冷媒ヒートポンプ給湯器を「すでに導入済み」と回答した割合が高い。



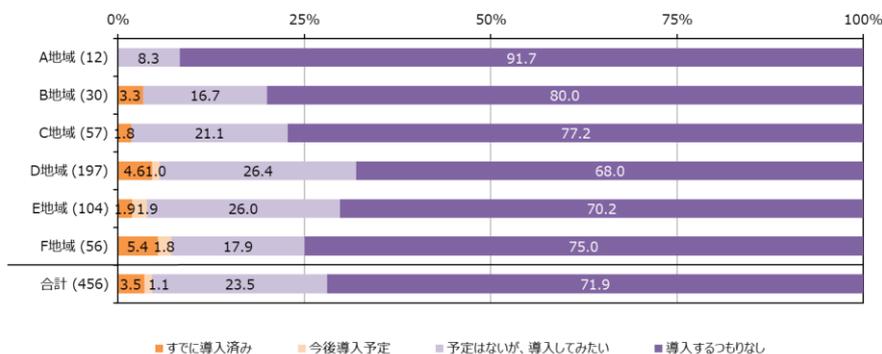
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-122 問 18 (太陽光発電) のクロス集計結果 (地域別)



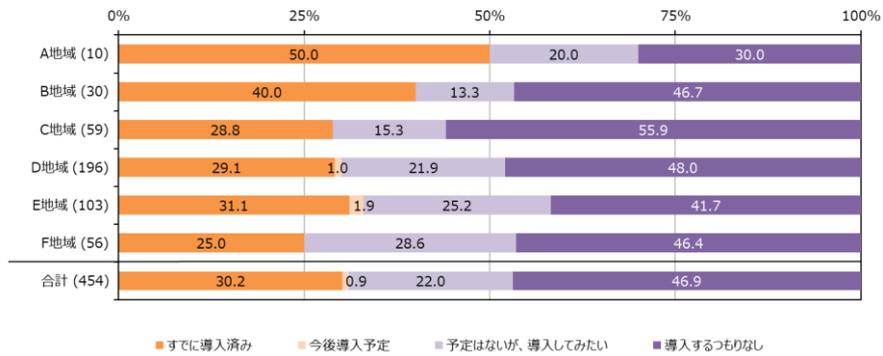
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-123 問 18 (蓄電池) のクロス集計結果 (地域別)



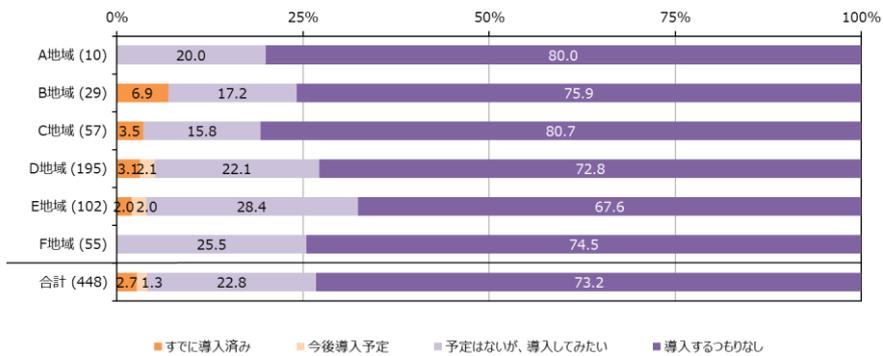
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-124 問 18 (太陽熱温水器) のクロス集計結果 (地域別)



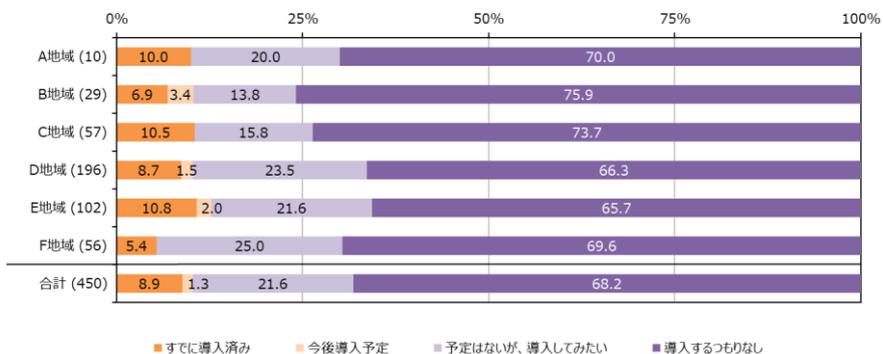
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-125 問 18（自然冷媒ヒートポンプ給湯器）のクロス集計結果（地域別）



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-126 問 18（家庭用コージェネレーション）のクロス集計結果（地域別）



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-127 問 18（潜熱回収型給湯器）のクロス集計結果（地域別）

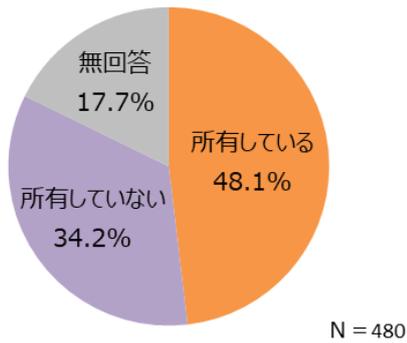
問 19 次世代自動車（ハイブリッド車、PHV・EV、FCV）への買い替えの意向【単独回答】

I. 所有状況

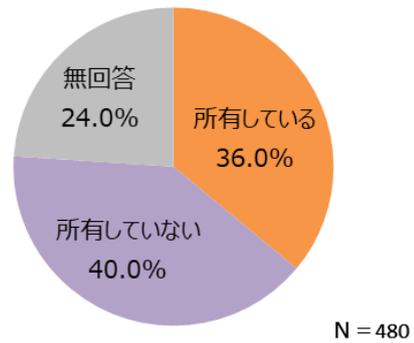
<単純集計>

ガソリン・ディーゼル車、ハイブリッド車の所有率は比較的高いが、電気自動車、燃料電池自動車といった次世代自動車の所有率は非常に低い。次世代型自動車の普及に向けては、購入補助や、充電・充てんインフラの整備が課題となる。

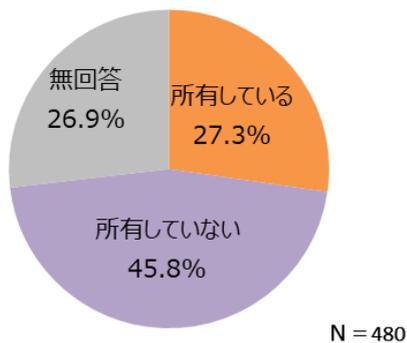
【ガソリン・ディーゼル車（普通）】



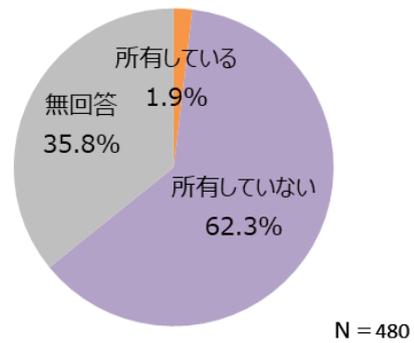
【ガソリン・ディーゼル車（軽）】



【ハイブリッド車】



【PHV・EV（電気自動車）】



【燃料電池自動車】

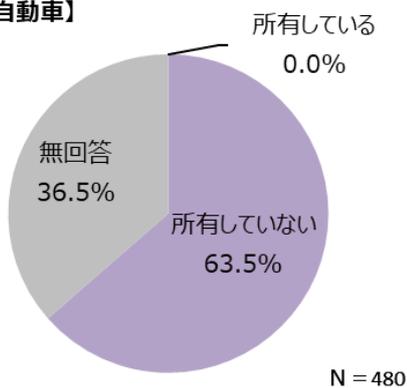
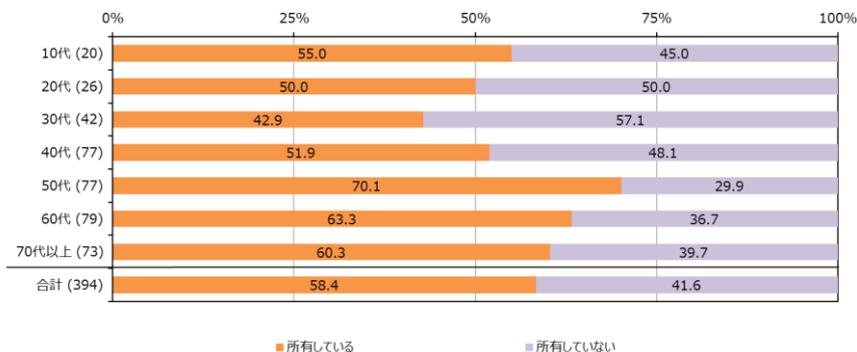


図 2-4-128 問 19-I の単純集計結果

<クロス集計>

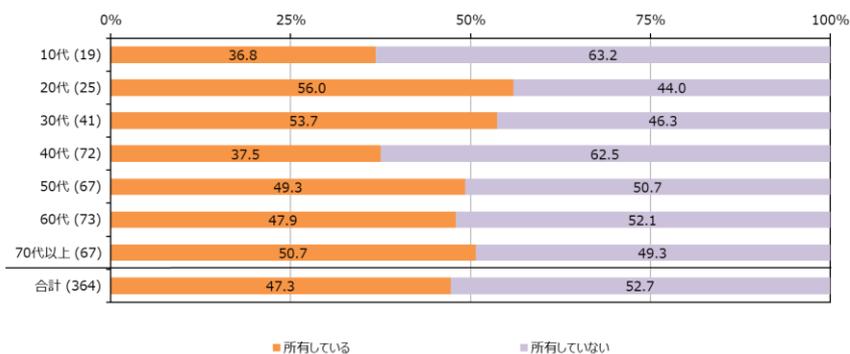
■年代別クロス集計

年代別では、ガソリン車（普通）では50代以上の所有率が高く、ハイブリッド車については高齢者層になるほど所有率が高い。



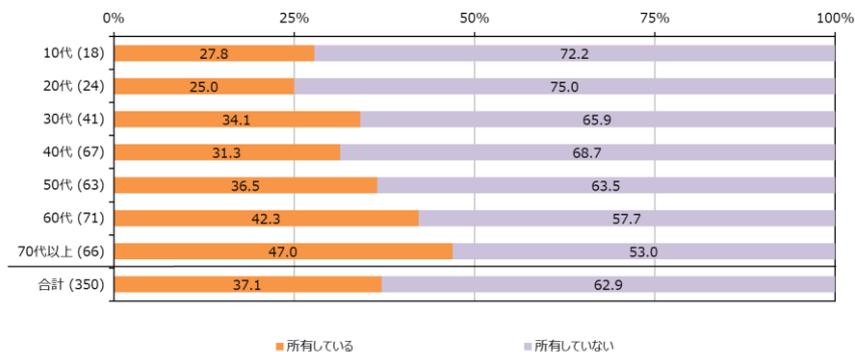
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-129 問 19-I (ガソリン車(普通)) のクロス集計結果 (年代別)



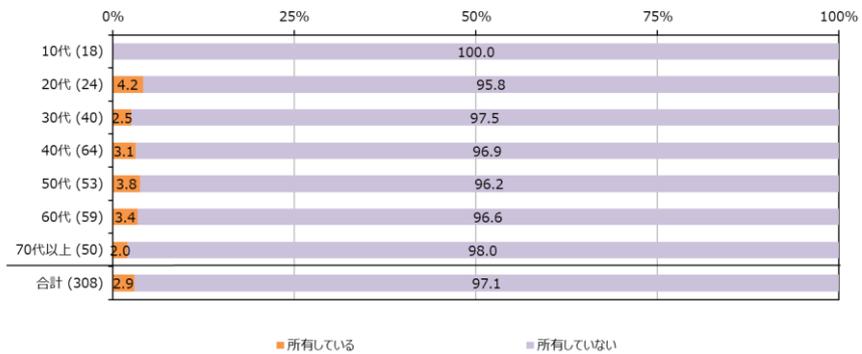
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-130 問 19-I (ガソリン車(軽)) のクロス集計結果 (年代別)



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-131 問 19-I (ハイブリッド車) のクロス集計結果 (年代別)



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-132 問 19-I (電気自動車) のクロス集計結果 (年代別)

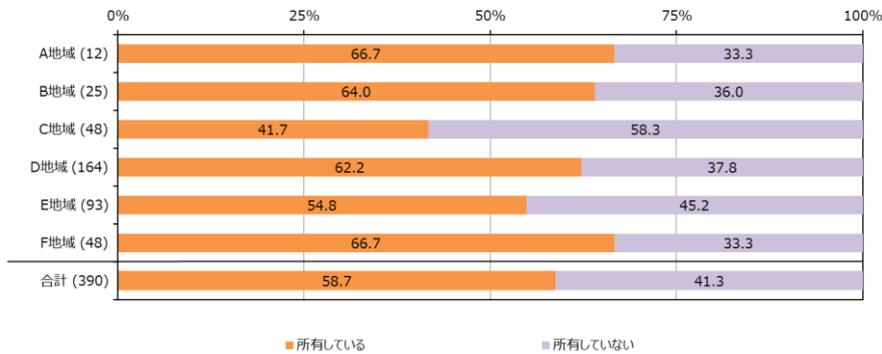


( )内数値：有効回答者数

図 2-4-133 問 19-I (燃料電池自動車) のクロス集計結果 (年代別)

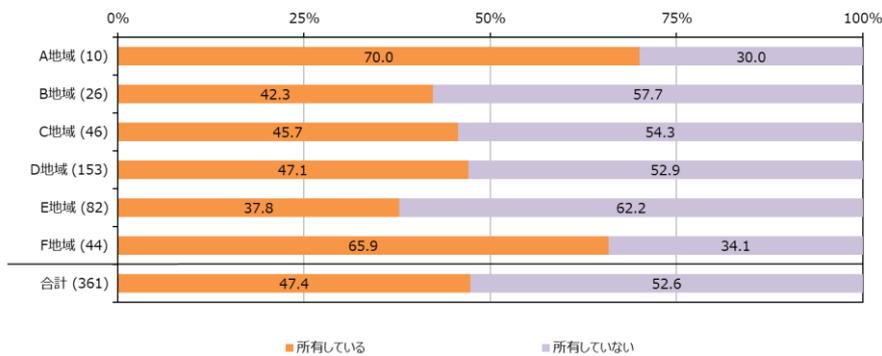
## ■地域別クロス集計

地域別では、A 地域、F 地域でガソリン車（軽）の所有率が高く、電気自動車は F 地域で特に所有率が高い。



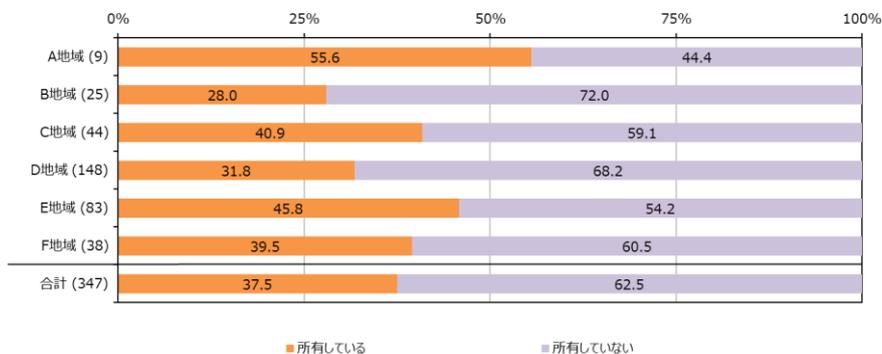
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-134 問 19-I (ガソリン車(普通)) のクロス集計結果 (地域別)



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-135 問 19-I (ガソリン車(軽)) のクロス集計結果 (地域別)



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-136 問 19- (ハイブリッド車) のクロス集計結果 (地域別)



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-137 問 19-I (電気自動車) のクロス集計結果 (地域別)



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-138 問 19-I (燃料電池自動車) のクロス集計結果 (地域別)

## II. 現在の保有台数と将来の予定台数

### <単純集計>

現在の保有台数では約80%がガソリン・ディーゼル車であるのに対し、将来の保有台数ではハイブリッド車、電気自動車、燃料電池自動車の割合が増加しており、これらの次世代自動車への買い替えが進むと推測される。

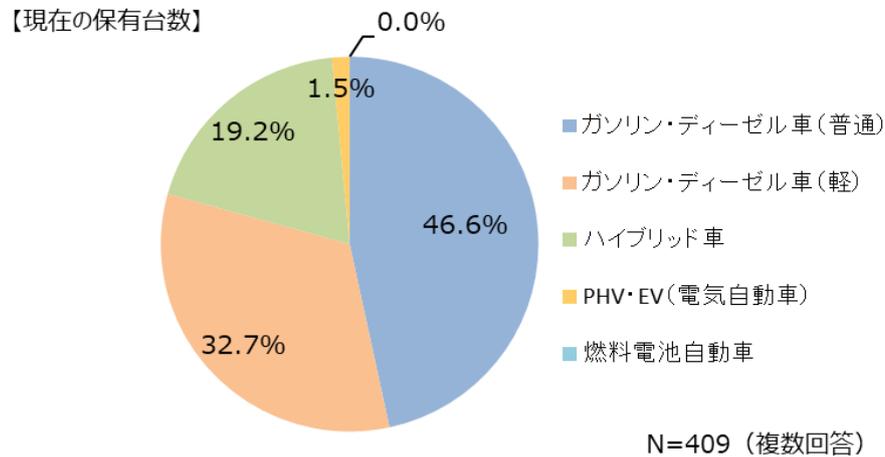


図 2-4-139 問 19-II の単純集計結果 (現在の保有台数)

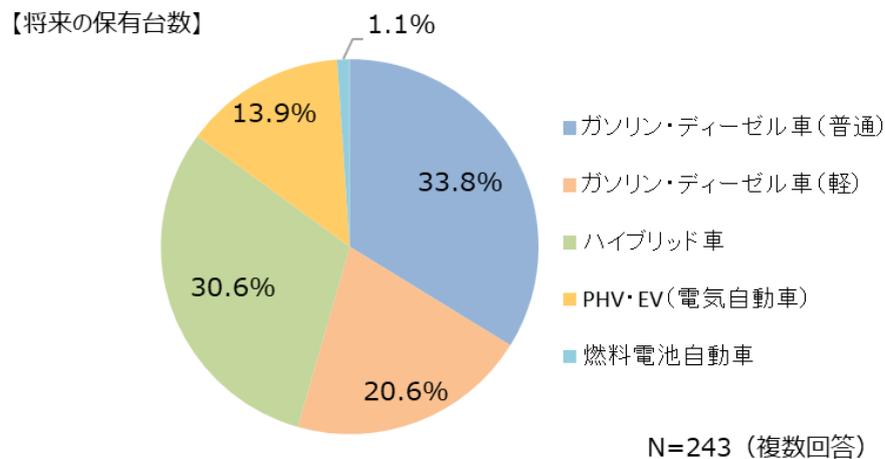


図 2-4-140 問 19-II の単純集計結果 (将来の保有台数)

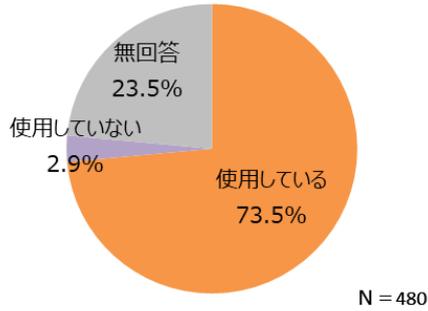
問 20 家庭の電気やガス等のエネルギー使用状況【単独回答】

I. 家庭のエネルギー使用状況

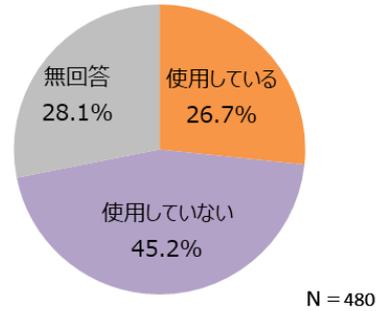
<単純集計>

電気、ガソリンの使用率が高く、ガスについては市の一部が都市ガスの供給エリアとなっているため、都市ガスの利用者とプロパンガスの利用者が混在している。また、灯油の利用者も一部存在している。軽油については、高齢者を中心に6%が「使用している」と回答している。

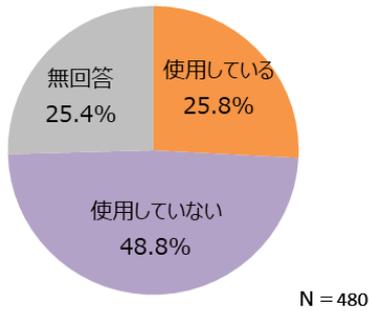
【電気】



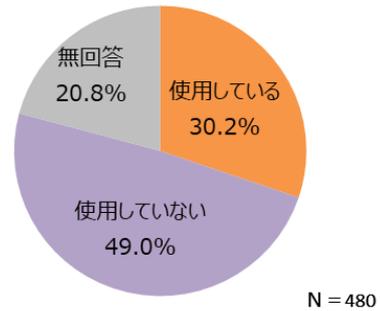
【都市ガス】



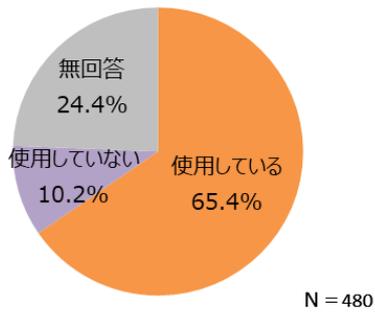
【プロパンガス】



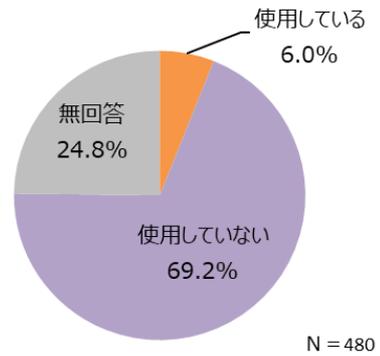
【灯油】



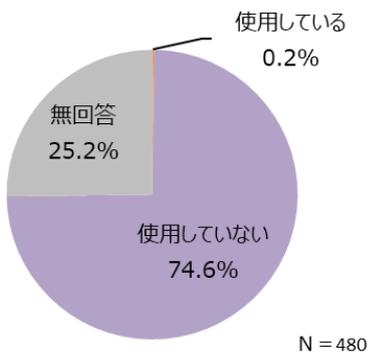
【ガソリン】



【軽油】



【重油】



【木材(薪・ペレット)】

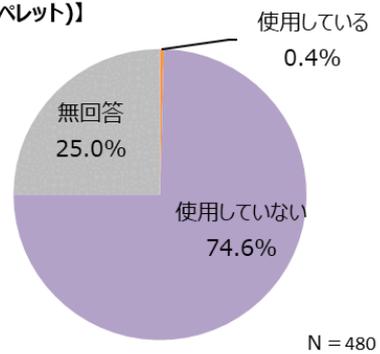


図 2-4-141 問 20-I の単純集計結果

<クロス集計>

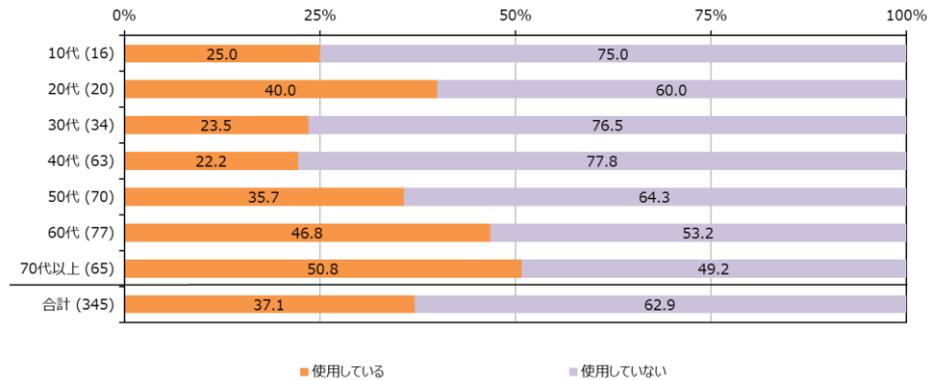
■年代別クロス集計

年代別では、灯油、軽油、重油、木材（薪・ペレット）について、高齢者層で利用者が他の年代よりも多い傾向が見られた。



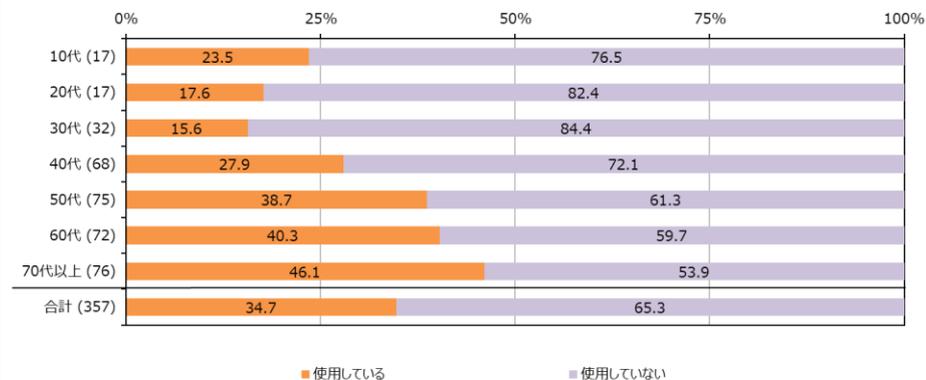
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-142 問 20-I（電気）のクロス集計結果（年代別）



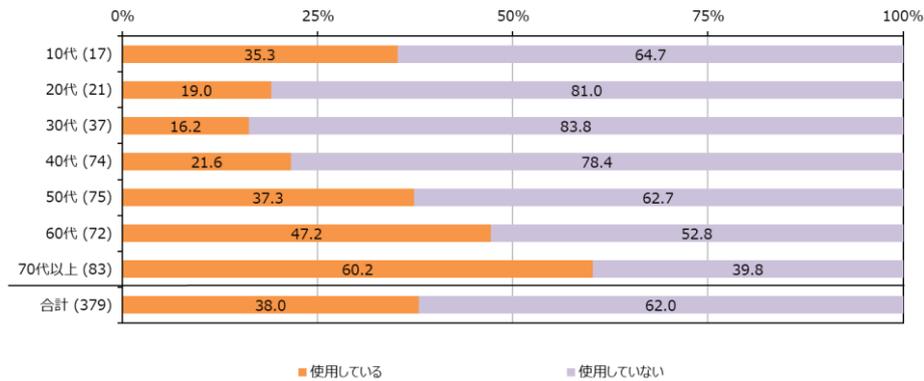
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-143 問 20-I（都市ガス）のクロス集計結果（年代別）



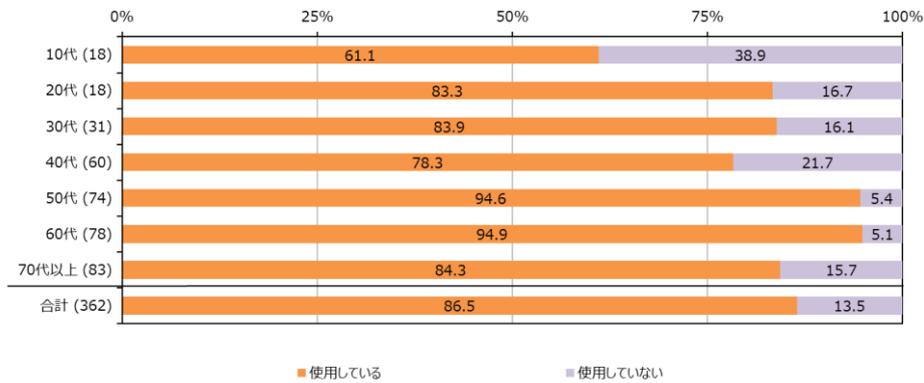
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-144 問 20-I（プロパンガス）のクロス集計結果（年代別）



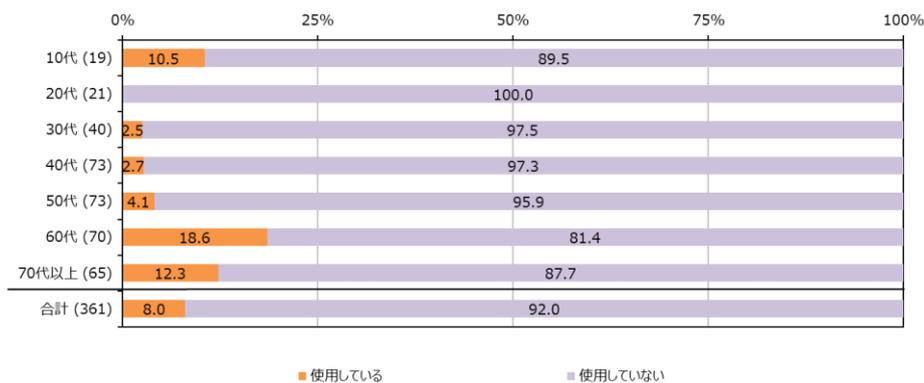
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-145 問 20-I (灯油) のクロス集計結果 (年代別)



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-146 問 20-I (ガソリン) のクロス集計結果 (年代別)



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-147 問 20-I (軽油) のクロス集計結果 (年代別)



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-148 問 20-I (重油) のクロス集計結果 (年代別)



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-149 問 20-I (木材) のクロス集計結果 (年代別)

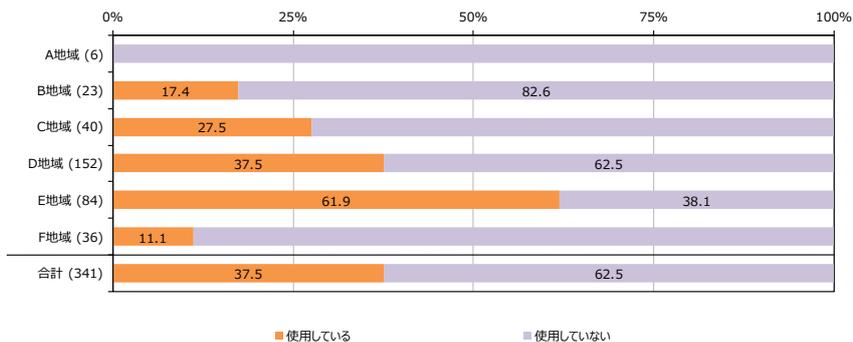
## ■地域別クロス集計

地域別では、A、C、F 地域ではプロパンガスを使用している割合が高く、軽油については、A 地域、F 地域で他地域よりも使用している割合が高い。



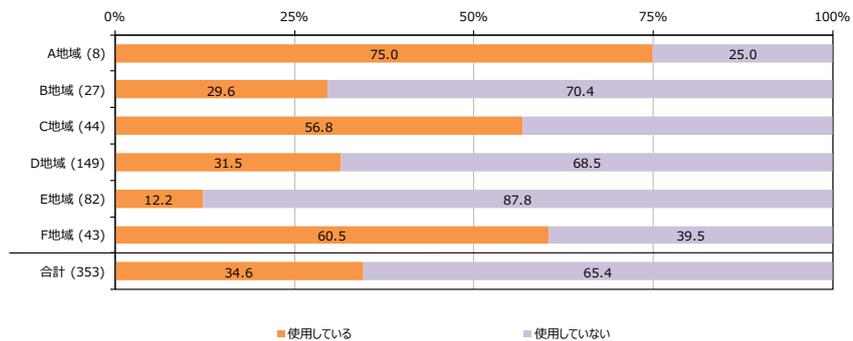
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-150 問 20-I (電気) のクロス集計結果 (地域別)



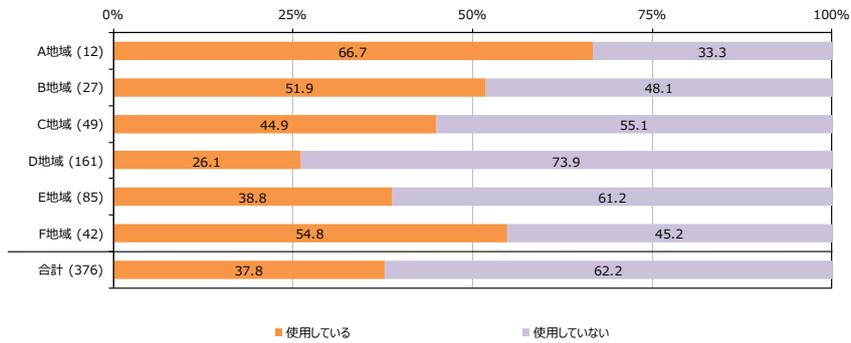
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-151 問 20-I (都市ガス) のクロス集計結果 (地域別)



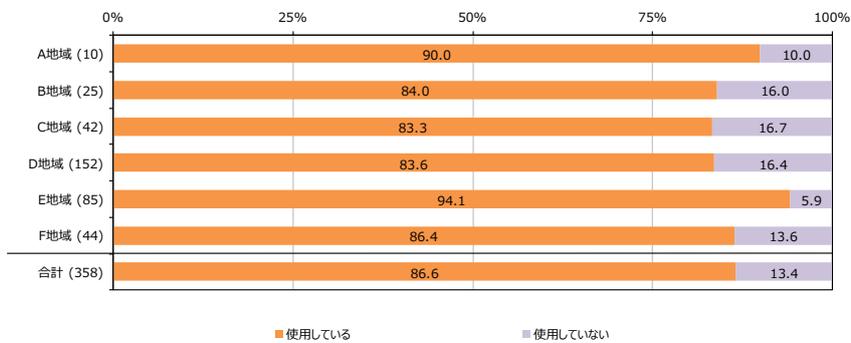
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-152 問 20-I (プロパンガス) のクロス集計結果 (地域別)



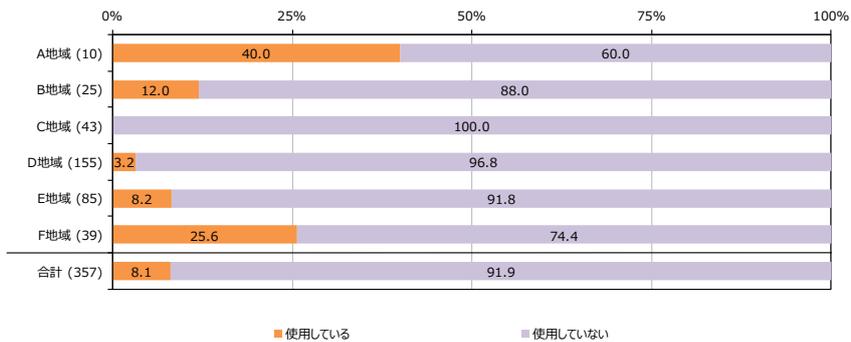
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-153 問 20-I (灯油) のクロス集計結果 (地域別)



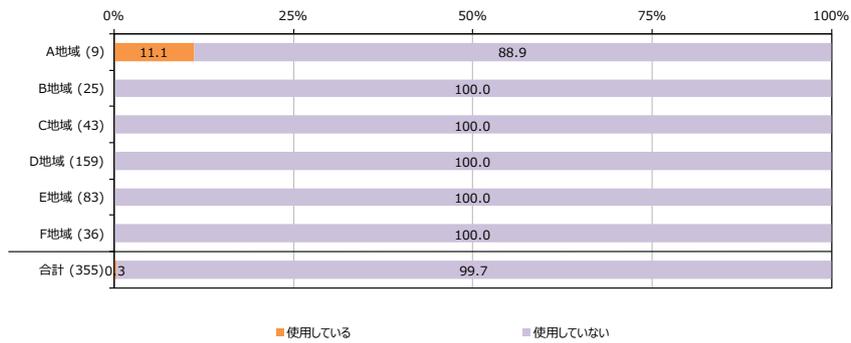
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-154 問 20-I (ガソリン) のクロス集計結果 (地域別)



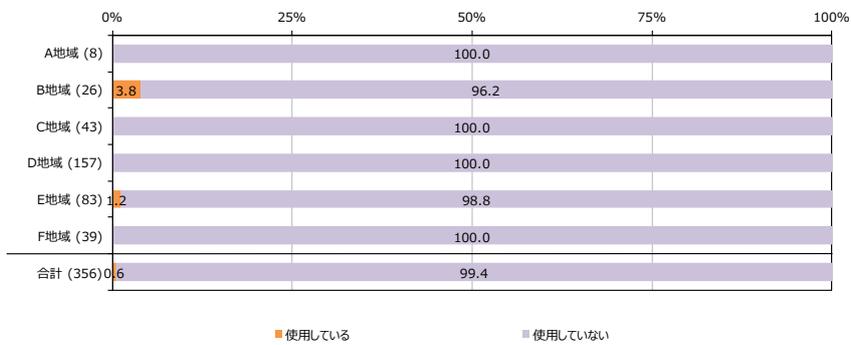
( )内数値：有効回答者数

図 2-4-155 問 20-I (軽油) のクロス集計結果 (地域別)



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-156 問 20-I (重油) のクロス集計結果 (地域別)



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-157 問 20-I (木材) のクロス集計結果 (地域別)

## II. エネルギー使用状況

### <単純集計>

電気については関東地方平均よりも使用量が多く、節電の取組強化が課題となる。また、エネルギー消費量をGJ換算すると、関東地方平均よりもガス使用量が少なく、電化が進んでいると推察される。

表 2-4-5 白岡市のエネルギー使用量の平均値と関東地方の平均値

エネルギー種	白岡市 平均	関東地方 平均値※1	単位
電気	4,296	3,531	kWh
都市ガス	166	250	m <sup>3</sup>
プロパンガス	39	22	m <sup>3</sup>
灯油	84	65	ℓ
ガソリン	557	299	ℓ
軽油	21	14	ℓ

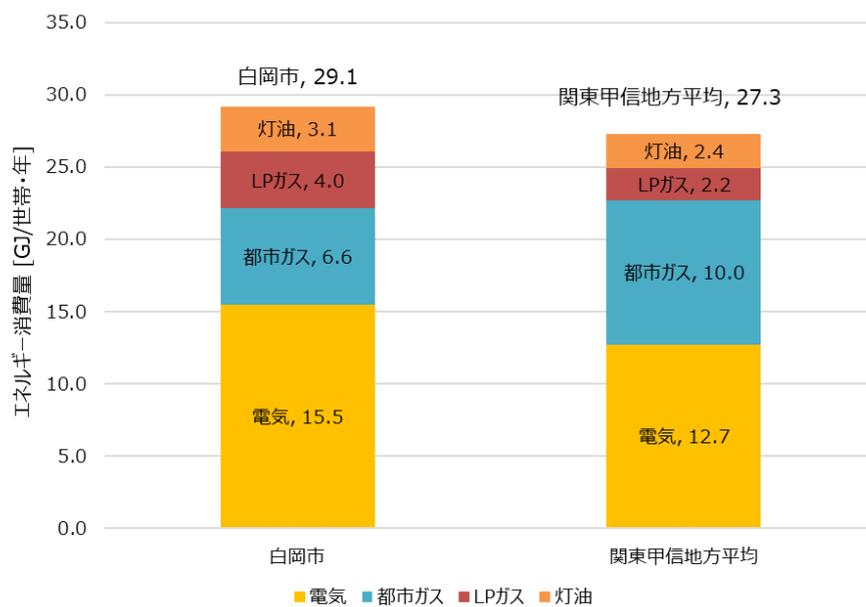


図 2-4-158 白岡市のエネルギー使用量の平均値と関東地方の平均値

※1：環境省「令和3年度家庭部門のCO2排出実態統計調査 資料編（確報値）」p.39～40

## 問 20 市で実施している補助メニューの認知度【単独回答】

### I. 白岡市住宅用創エネ・省エネ機器設置補助金

#### <単純集計>

白岡市住宅用創エネ・省エネ機器設置補助金について「知っている」と回答した割合は 37.7% となっている。そのうち、「利用したことがある」と回答した市民は 19.9% に当たる 36 人、「利用してみたい」と回答した市民は 50.3% に当たる 91 人となっている。また、「知らない」と答えた市民のうち、38.8% に当たる 108 人と合わせて 199 人が「利用してみたい」と回答している。

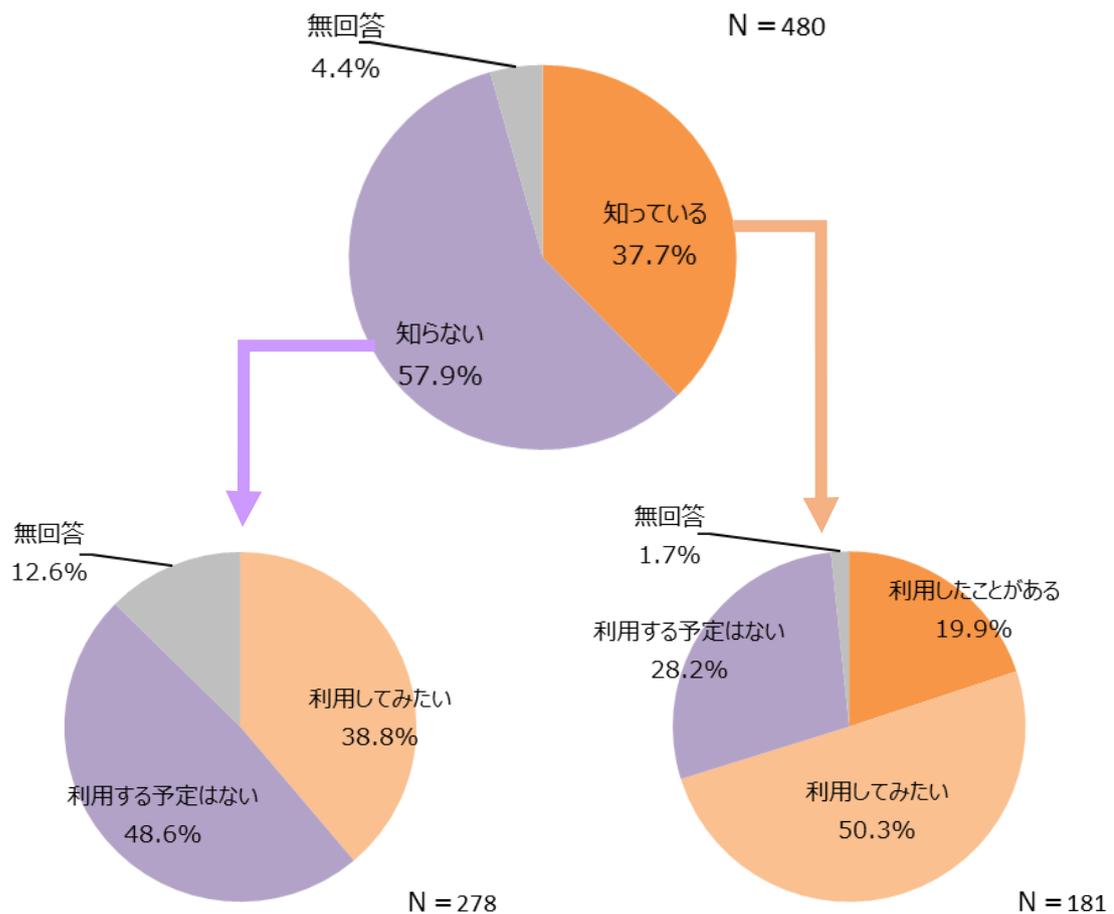
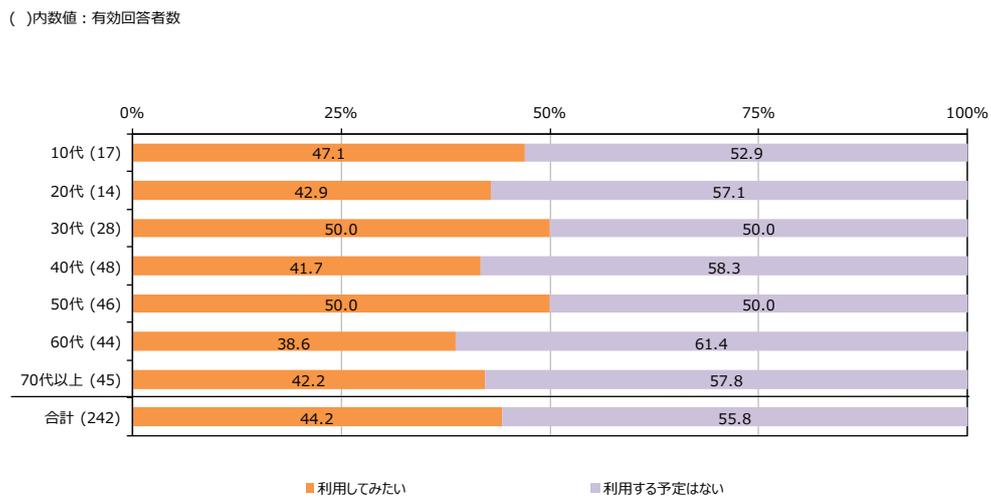
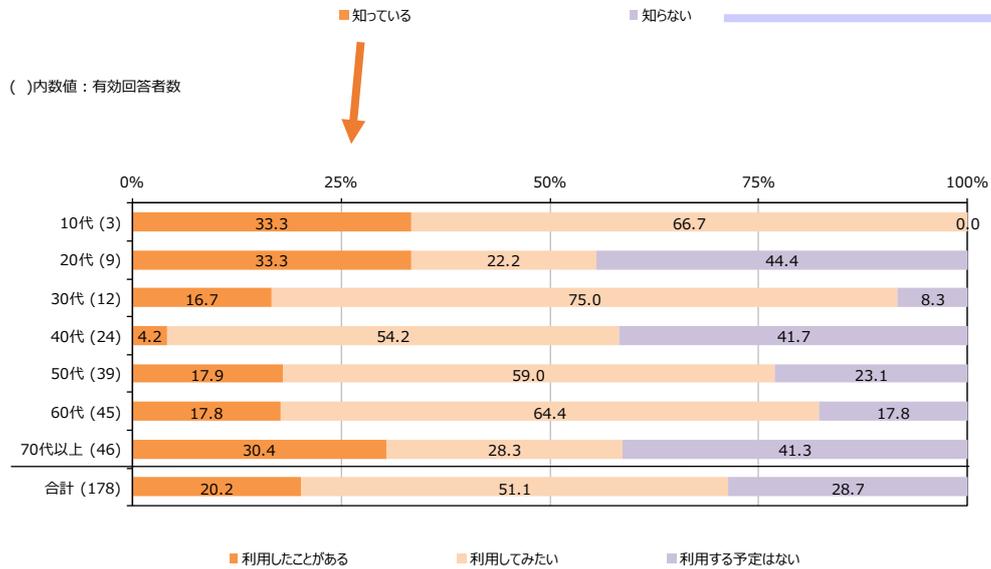
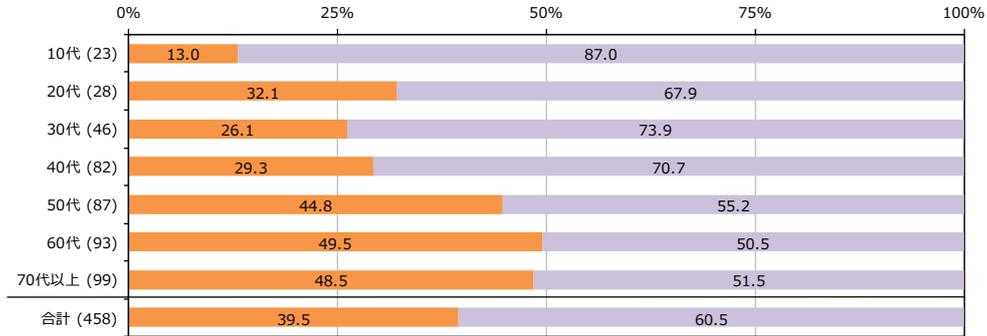


図 2-4-159 白岡市住宅用創エネ・省エネ機器設置補助金の認知状況

<クロス集計>

■年代別クロス集計

年代別では、認知度について高齢者層ほど「知っている」と回答した高い傾向が見られた。

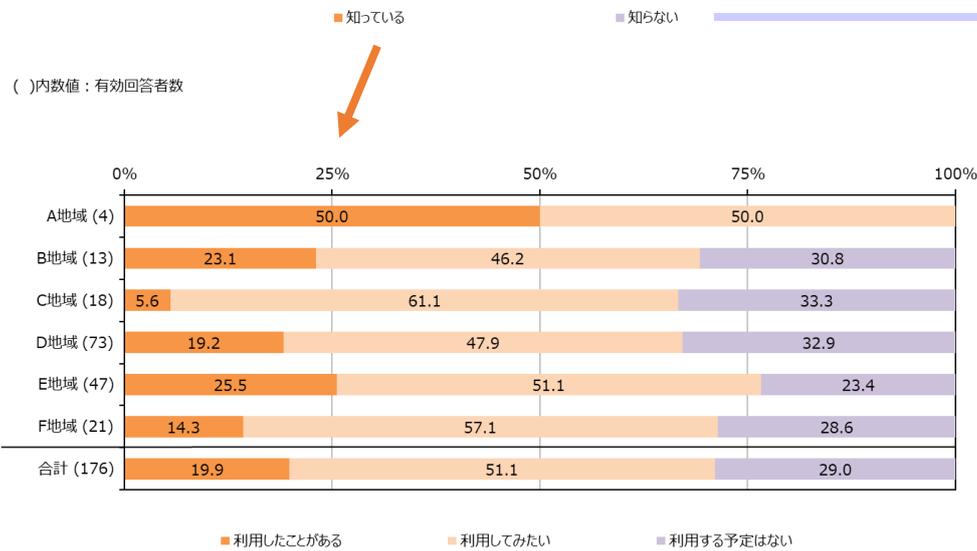
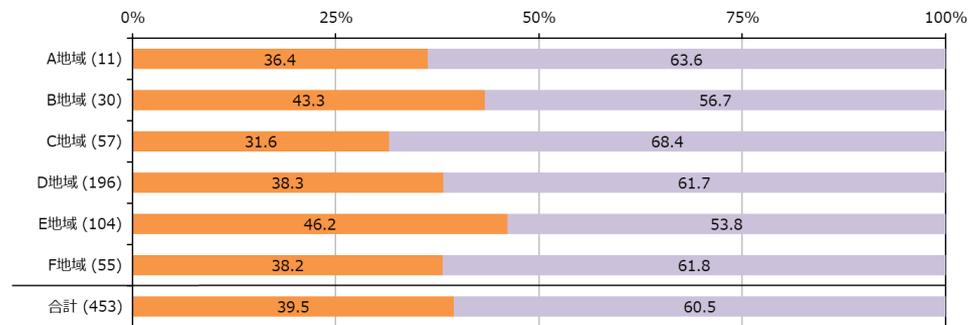


( )内数値：有効回答者数

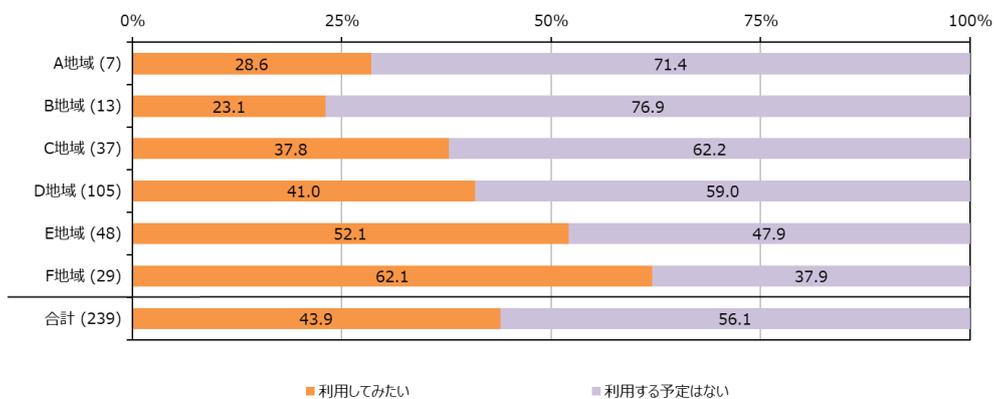
図 2-4-160 問 20-I のクロス集計結果 (年代別)

## ■地域別クロス集計

地域別では、認知度については大きな差異は見られなかったが、「知らない」と回答したうち、「利用してみたい」と回答した割合はB地域で低く、F地域で高い傾向が見られた。



( )内数値：有効回答者数



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-161 問 20-I のクロス集計結果 (地域別)

## II. 重点対策加速化事業 太陽光発電設備等設置費補助金

### <単純集計>

重点対策加速化事業の太陽光発電設備等設置費補助金について「知っている」と回答した割合は31.0%となっている。そのうち、「利用したことがある」と回答した市民は12.8%に当たる19人、「利用してみたい」と回答した市民は24.8%に当たる37人となっている。また、「知らない」と答えた市民のうち、26.8%に当たる83人と合わせて120人が「利用してみたい」と回答している。

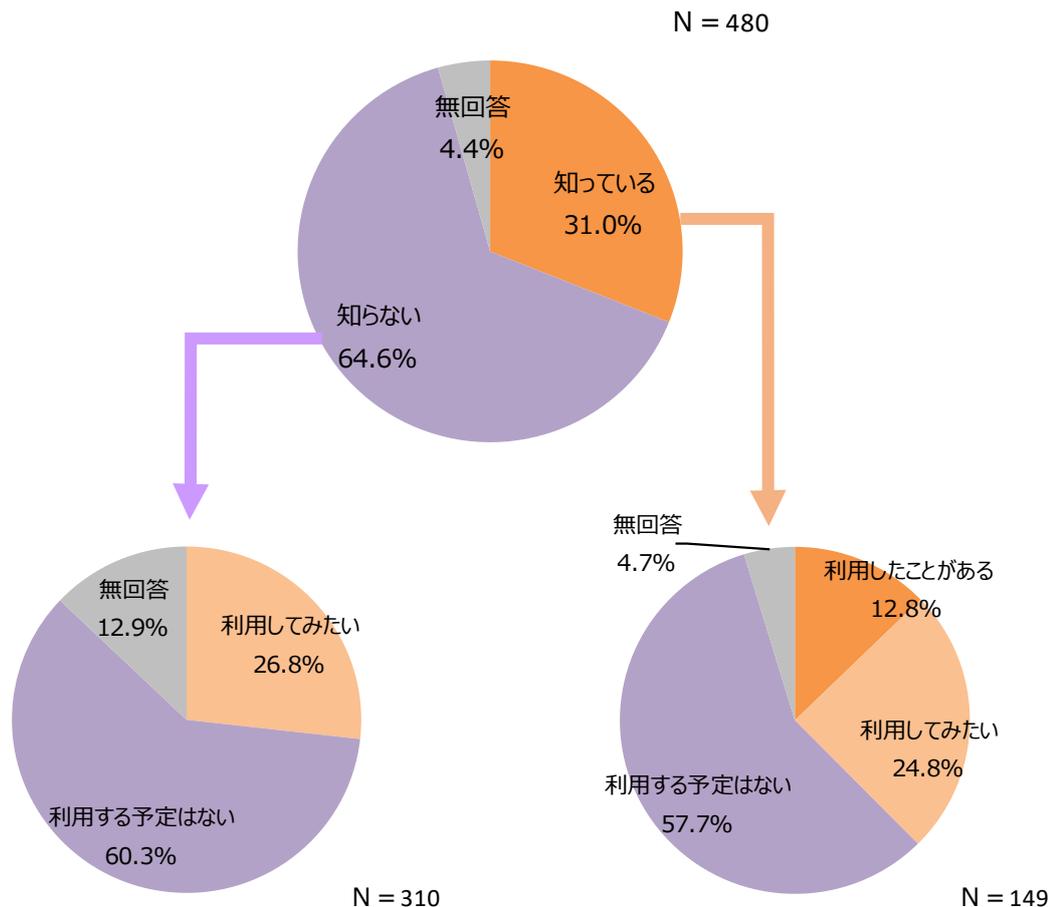


図 2-4-162 白岡市住宅用創エネ・省エネ機器設置補助金の認知状況

<クロス集計>

■年代別クロス集計

年代別では、認知度について高齢者層ほど「知っている」と回答した割合が高い。「知っている」と回答した内、「利用したことがある」と回答した割合は30代が高い。

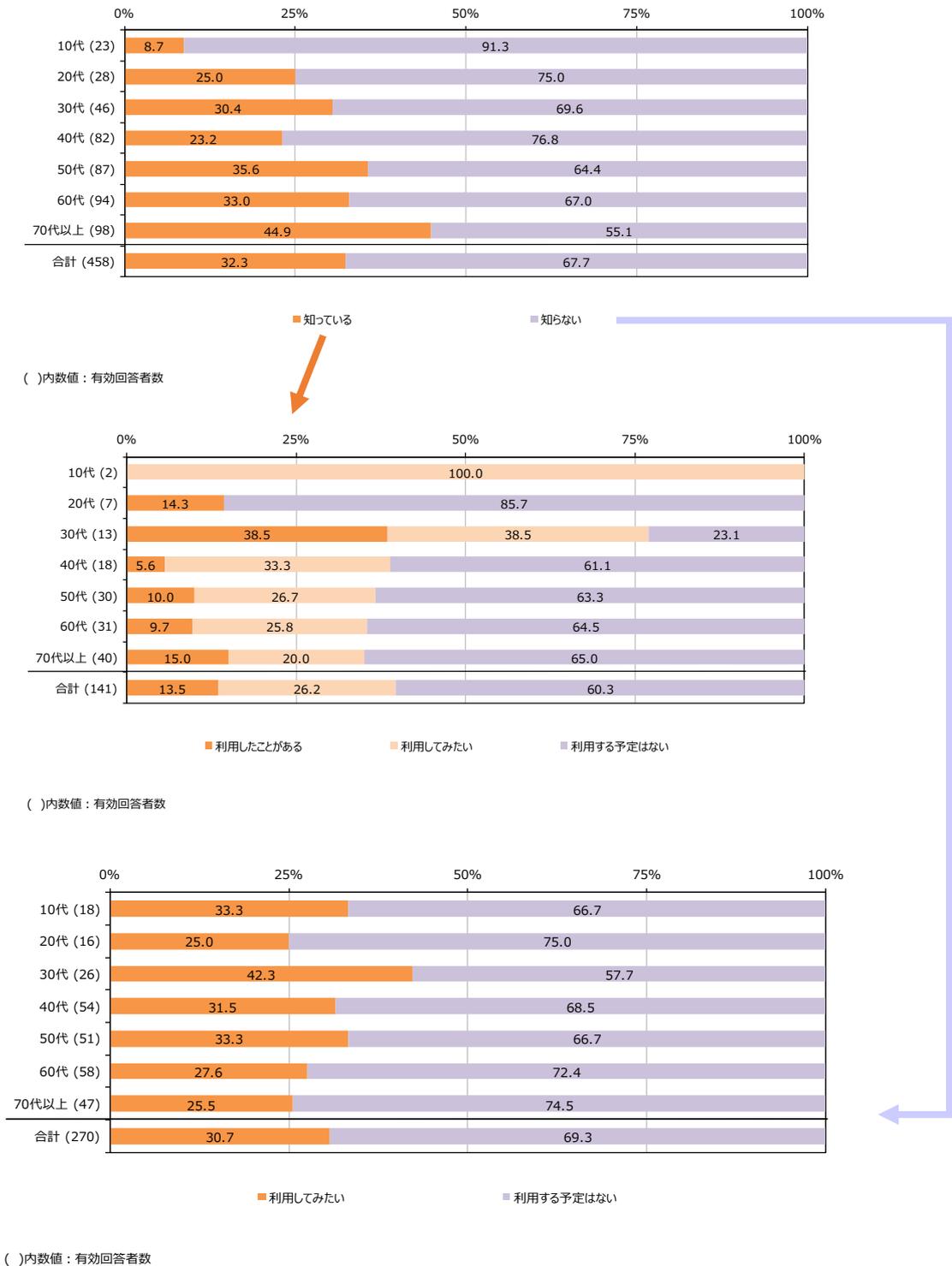
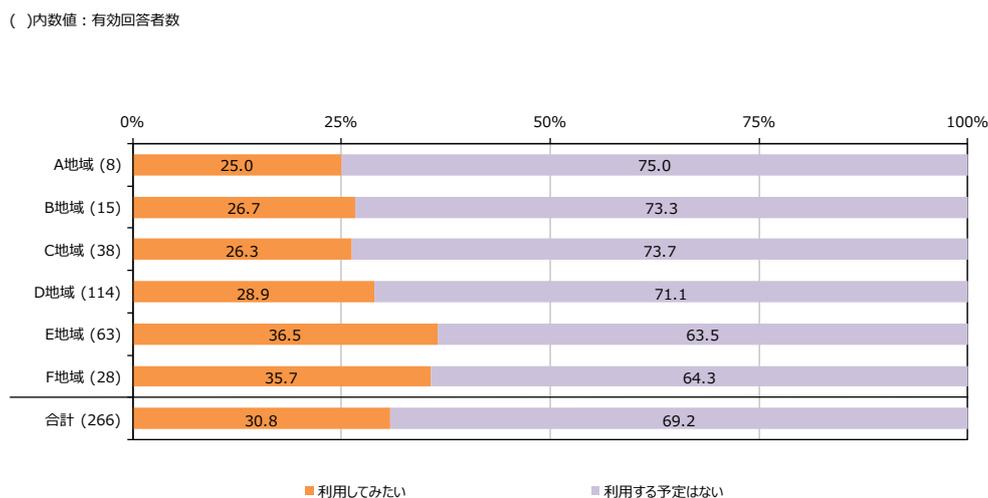
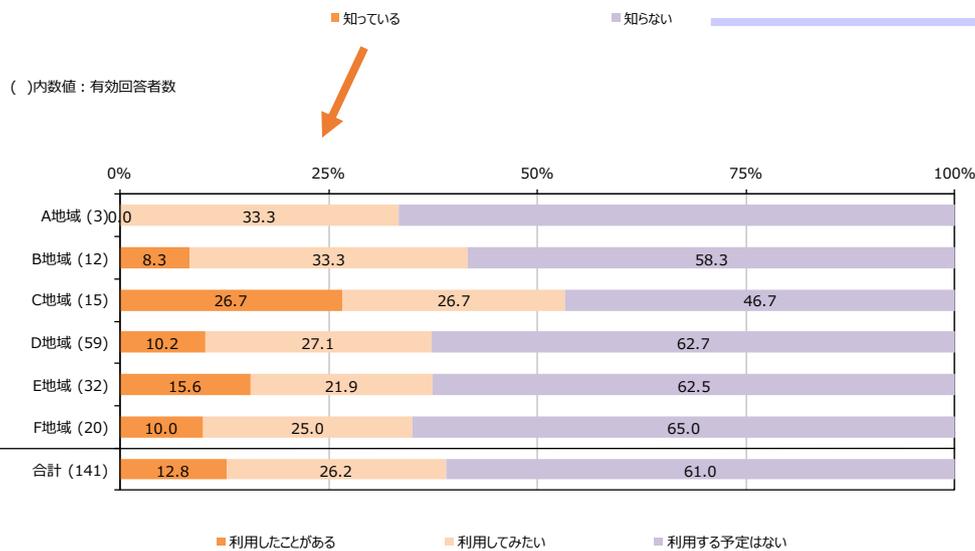
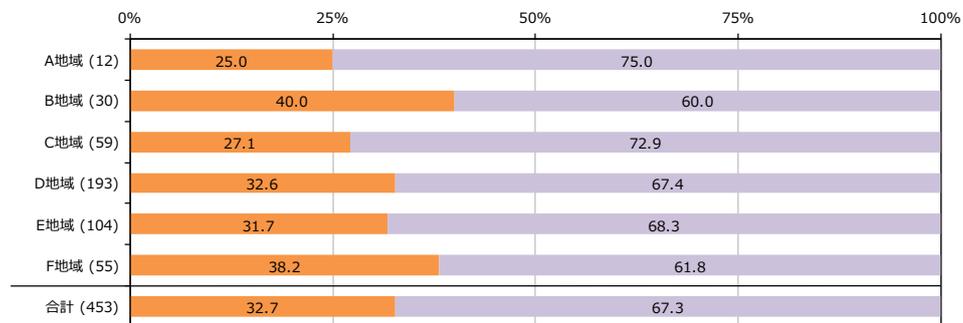


図 2-4-163 問 20-II のクロス集計結果 (年代別)

## ■地域別クロス集計

地域別では、認知度については大きな差異は見られなかったが、「知っている」と回答した内、「利用したことがある」と回答した割合はD地域が高い。



( )内数値：有効回答者数

図 2-4-164 問 20-II のクロス集計結果 (地域別)

## (6) 自由記述

誤字脱字については一部修正済

1 自然環境	道の雑草をもう少し除草してほしい。
	長い年数をかけて緑を増やしてほしい。近隣のクリニックの混みかたがおびただしい
	東北自動車道の側道のゴミが気になる。東北自動車道の側道の木が伸びすぎている。タイルを敷いたような歩道の雑草が気になる。
	春日部の向こうに行かないと買い物できない。篠津は自然だけど不便。
	市に緑を増やしたい（木や草花など）
	道路脇の清掃を定期的に行ってほしい。
	街路樹などもっと緑を増やしてほしい。
	市がビオトープ公園（既存の川や森を利用して）などを計画し、市民がボランティア活動できるとよいのではないのでしょうか。※既に取組んでいらっしゃるすみません。
	植樹活動も取組んでほしい（野鳥や昆虫の生態系の保全、夏場の木陰を増やすため）
	個人所有の樹木の維持管理が経済的理由で継続できなくなっている。相続等も含めて「緑地」面が減少し、生活環境での温度上昇に繋がっている。照り返しが強くなり、免許返納した高齢者が買い物に汗だくで出なければならなくなり、犬が靴を履かないと散歩に出られなくなりと温暖化の進行と共に生活環境の悪化の要因になっているように思う。
	昔はこの家も生け垣が緑で囲まれていましたが今は皆ブロックにかわってしまいました。それならば敷地内に緑のスペースを作るなどしたら少しでも自然環境がよくなるのではないのでしょうか。
	PFAS、PFOA など飲料水に混ざっていると思うと不安です。大気汚染も気になります。
	雑木林や河川などの樹木などはなるべく保存し、緑を大切にしたい街づくりを希望します。
	散歩で古代蓮付近通りますが昨年と今年、特に蓮の花が見られず池の水も汚い。遠くから見学に来られた方々が以前はきれいだったのに・・・どうして？？とおっしゃっていました。高岩公園、東側の用水路の水が汚い。草と亀。低木とはいえ、道路側にはみ出ている危険かと。対策をよろしく願いいたします。
	防災、川ざらいなどが必要
	緑をもっと増やして日陰を多くし、夏でも暮らしやすい環境があると良い。
	以前より夏にカブト虫やクワガタを見る数が減ったと聞きます。自然環境に何らかの変化があるからだと思います。自然を守りながら快適な暮らしが送れるよう過度な自然の破壊には反対です。
	夏場の道路脇の除草をこまめにやってほしい。道路にまではみ出している対向車とのすれ違いが危険な時がある。水辺（川・池・沼）の緑化、公園化を行ってほしい。河川敷もなく、川の近くに行ける場所がない。
安全に歩行できる歩道の整備と美化（草でふさがれている等）。用水路などに水草やゴミが浮いているところは対策して欲しいです。	
白岡中央病院移転建設の状況、具体的な内容を早く近隣住民に公開してもらいたい。道路工事が始まってアオサギ、シラサギ、ヨシキリ、キジ、タヌキ、オナガドリ等何もなくなった。篠津押出地域の田んぼ用地転用の早期進展を待っている	
緑をもっと増えたら良いと思う	
2 生活環境	4月に越してきたばかりですが、静かで住みやすいです。
	ムクドリのおんに悩んでいるので対応してください
	ゴミ捨て場をきれいに整えて欲しい
	生活環境についてですが、ご近所の方で未だ野焼きをされている方が数件あり、日々不満に思っています。もっと注意喚起してほしいです。
野焼きや家庭ゴミを敷地内で燃やしている家庭がまだあります。禁止されている事を市から広めて欲しいと	

	<p>思います。</p> <p>ゴミ収集が各班工夫されていますが市として同一のものを用意して頂けたら美化になるのでは？</p> <p>他の市に比べて水道水が美味しくなくて飲めない</p> <p>道路脇の雑草の除去（←道路幅が狭く散歩通学困難。）市道はもちろんだが私道も個々が美観に感心を持ち家の回りをきれいにしてもらいたい。側溝に蓋が無く清掃が大変なもの困る。</p> <p>近所で、毎日ドラム缶で家庭ごみ、ボトル、草すべてのものを燃やし困っています。必要以外でも車のクラクションを鳴らす人がいる。</p> <p>野牛地区の下水道工事</p> <p>新築住宅が増えたがゴミ出し場がなく既存置場がオーバーフロー状態。新築する前にゴミステーションを作るルールを決めて下さい。</p> <p>白岡市は自然も多いが場所によっては高速道路、電車、新幹線などの箇所の騒音、大気汚染は気になっている。また、耕作放棄地、空き家なども増加するので、対策は必要かと思う。</p> <p>野焼きは禁止であることを広報や看板で知らせてほしいです。煙でのが痛く洗濯物も干せません。風で広い範囲に迷惑がかかっている。地主が多いです。理解してもらう方法はないでしょうか。</p> <p>近所の道路の側溝に毎日のようにゴミを捨てる人がいる。夜間に捨てているようなのでパトロール等してほしい。野焼きをやめてほしい。</p> <p>まだ下水の整備されてない地域も多いです。市内全て下水を早く通してほしいです。</p>
3 快適環境	<p>空き家があり防犯の面でも心配です。今にも崩れそうな塀があります。家を建てる前からの塀なので持ち主、修繕費等どうして良いかわかりません。他にも、南小学校駅西口地区の通学路に信号機の無い横断歩道がありますが、車の通行量も何十年前に比べれば多いです。見通しも悪い為危険です。最近では、新しい住宅も増え、以前より子供が増えています。白岡は昔ながらの良さもありますが、現状に合わせた早急な対応が必要だと思います。押しボタン式の信号機を付けていただきたいです。</p> <p>駅までの道路整備が早く整い、駅前の施設が充実し、人々が白岡市をたくさん利用し、住むことで、活気にあふれ、人々の意識改革にもつながり、安全で快適な生活に繋がればと思います。</p> <p>住みやすい町です</p> <p>災害時の避難場所が少なく、高い建物が無い。駅周辺に広場もない。現在指定されている避難場所へ行く歩道が整備されていないのでいざという時に安全に避難できると思えない。歩道がない上に側溝があり街灯もない。日常生活にあまり不便は感じないが、災害にはかなり脆弱なまちだと感じている。</p> <p>新白岡駅周辺について居住地は多いものの、スーパーが少ないため、老後の買い物に気がかりです。市民バスあるいはスーパーの誘致なども検討してほしいです。</p> <p>横断歩道の設置、歩道の整備をお願いします。</p> <p>キレイな街に人は住みたがり、そして満足度も高くなります。美観を損ねる張り紙、ポスターや、サビや、ヒビや汚れだらけの供用施設ばかりの街には、住みたがらないと思います。駅や、道路や、街路樹等、美観の整った街づくりと自然とのマッチングを期待します。</p> <p>この様な活気の無い、不便な場所に転居して来て後悔しています。車が2台通過できない場所は一通りにしてほしいです。南小周辺は交通量もあり本当に危険だと思います</p> <p>白岡市は埼玉県内でも屈指の治安の良さだと誇りに思っておりますが、昨今不法投棄があつと絶たない印象です。市として今後どのように防犯対策、対処していくのでしょうか。</p> <p>住みやすい町づくりをしてほしい。例えば、人が集まりやすいレストランやカフェをつくってもらって魅力的な町にしてほしい。自家用車が無くても移動がしやすくしてほしい。小さいタイプの車のバスのようなものはいかがでしょうか。</p> <p>自転車と徒歩で利用する道をきれいにしてほしいです。丸亀製麺の前のローソンからセブンイレブンに向かう道が草ボウボウです。八幡神社の参道をキレイにしてほしい、道がボコボコのところがある。</p> <p>街歩きや散歩できれいだなと感じることが出来る風景が長く続くこと。</p> <p>交通量の多い道路には防音壁の設置をお願いします。（西地区さいたま栗橋線）</p>

キレイな街づくりを市が積極的にやってほしい。
朝、夕方、駅（東口）周辺に歩きタバコをしている人が多すぎ、駅近くの排水溝にタバコを捨てています。見ない日は無い。自転車で乗りながら吸っている人もいる。図書館の前で集団で吸っている野球？の人もいました。子供にそんなみっともない姿を見せたくないのでもすぐに対策してほしいです。
道路わきの草を刈ってほしい。特に高速道路脇、草が道に出ている。
道幅の狭い道路なのに交通量が多く、子供たちの登校時間とても心配です。子供が安全に過ごせる環境整備をお願いいたします。
年配者が集まる場所が欲しい。図書館が必要以上に広すぎ。子供ばかりでなくお年寄りに優しく。
河川の周りの雑草を対応して欲しい。杉の木の伐採。
白岡、新白岡駅周辺の駐輪場・駐車場があつという間にいっぱいになってしまい。電車で出かける際に困ってしまうことがよくあります。住宅が増えているため、利用する人も増えているのではないかと思います。駐車場、駐輪場を増やしてほしいです。道路にはみ出ている植木や木を切るようにしていただきたいです。避けるために車道に出ることもあるため、危険です。
空き家が増えていて雑草など近所迷惑
白岡市の顔である駅前環境を良くして頂きたい。何十年も住んでいるが一向に変わらず生きているうちに変わることはないのではないかと考えている。駅前を歩いていて「駅はどこですか？」と尋ねられ「ここです」と答え、お互いに苦笑いした思い出である。駅がどこにあるか分からないくらいしょぼい。早くしないと死んでしまいます。
歩道の雑草がすごいので刈ってほしい
本アンケートとは誤差はありますが、常々思うところは、駅周りの歩道です。危険でハラハラすることが多々あります。安全な歩道の整備を希望します。
若い人が住みたくなるような魅力のある環境が足りない。大型商業施設もない。駅周辺に便利な施設が必要。
東北道をまたぐ高架橋が出来ましたが、この工事は着工から何年経っているのだろうか、最低でも 20 年ではないだろうか。そして駅周辺、宮代側と家まで何年かかるのだろうか。もしかしたらコンクリートの劣化も始まるのではないだろうか。限られる予算の中での工事なのは十分分かりますが集中しての工事を望みます。
新白岡駅にコンビニを併設してほしいです。
タバコのポイ捨てが多い。道から庭に風で入ってくるのがしばしばあり、困ったものです。
自動車を使わずに移動をしようと思っても歩道が整備されていないがために、自転車や徒歩だと危険なのでやむを得ず車で移動している。住んでいてそのような道がとても多いと感じる。改善を求めます。
道路整備を基本とした街づくりを推進し、併せて快適な環境を整えて行くべきである。
町で受けられる婦人科健診で近くの病院がないので困っています。異常が見つければ通い続けることになるので近くではなく知らない病院ばかりなのでもっと情報が欲しいです。
テラス 10F に住んでいる者ですがエアコン等は 3 年前に買い替えたり、お風呂、トイレなどリフォームも終わりましたので、家の中はものすごく快適で中央通りなど木々の緑に癒されています。ただ、梅雨の時期から夏場はセミなど害虫に悩まされています。
ふれあいロードの整備、名所政区の育成・指導の徹底
道路整備に伴い、大型車、他地区乗用車が増えているので高齢者増加もあり、信号機・ミラー等の安全策が急務と思う。大型車増加に伴い、道路状況悪化が顕著であるので対策を。
自宅付近の側溝に蓋をしてほしいです。風で流れ着いたゴミ、缶、袋などがたまって困ります。車同士のすれ違いも非常に気を使います。
県道の歩道にまたがる雑草の処理を穏便にしてほしい。すぐに生えてきてしまうので道がなくなってしまう。
空き地、空き屋対策。特に空き地は管理されていないものが多くあり、雑草が生い茂り見通しが悪く、害虫も出てきています。犯罪が起きないように市が指導して頂きたい。
草が多く道の見通しが悪く危ないので草刈りして下さい。除草剤をふってほしいです。

<p>ゴミ回収車のオルゴールは継続してほしい</p> <p>家の周りの空き地の雑草に困っている</p> <p>白岡市内への商業施設の誘致（大きな買い物は他市町まで車で移動しないとけない。ガソリン使用が増える）、新白岡駅ホームの屋根増設（太陽光発電パネルを活用した整備）</p> <p>①耕作放棄地の対策②用水路、街路樹の実生木の対策③不法投棄の対策④街灯の設置</p> <p>不要な建物・大きな看板（葬儀場）が出来て景観が最悪になってしまった。1 つも市民のことを考えていない市の対応にがっかりしている。これ以上、このような事のないようにして頂きたい。</p> <p>子供の遊び場をきれいにしてほしい。草の手入れなど。</p> <p>駅前（東口）のロータリー、公共施設の草むしりをちゃんとして欲しい。市そのものは、ゴミも落ちていないからきれいだと思うが、特徴的な木、花など何も無い市だから草だけでもとってみたらどうか。市庁隣接の図書館の建物はきれいだが、中身が（本の種類やサービス）整っていないと電車の中で話をしていた人がいた。多くは期待していない。</p> <p>彦兵衛区にケンちゃんバス復活望む</p> <p>店舗が足りなくて不自由さを感じる。無料バス、移動図書館があればいい。図書館まで遠くトンネルが怖い。</p> <p>新白岡駅前通りの歩道の修理。新白岡から市役所へ行くための道路←車以外で行く場合、白岡市内の安全な道路作りに期待しています。</p> <p>街路樹が無いため、道路歩行する際に日影が無い、今日の猛暑下では道路歩行が大変厳しい。</p> <p>今年の春、高岩公園の桜が蕾を持ち、こらから花見を楽しみにしていた矢先に通路側の桜をバツリ切って、あまりにも無惨な姿にガッカリ。公園は人が集い、癒しの空間、せめて花が終えてから切ってほしかった。植える時に予算をかけ、無惨な姿に予算をかけ、どうなっているのか？安全を優先か難しい問題です。</p> <p>西地区にバスを通してほしい、通勤（朝と夜）バスで駅に行きたい。</p> <p>もうすでに開発が始まっているが駅前の商店が閑散とし残念ながら魅力がない。また農地保有の地域では古い規制、慣習により人は減り、売るに売れない。悪の状況を良く考え改善をお願いしたい</p> <p>動物（野生含む）たちとの共存ができる環境＝良い人間を育む環境となるのでは？と思う。ドッグラン、散歩コースなどといった空間もあると嬉しい。自然と現代的なバランスの良い空間もあると嬉しい。空き家、空き地を市で施設などとして利用できないか。良かった森林などがどんどん住宅地化されていくのもさみしく感じる</p> <p>一人暮らしのため庭の雑草も取り切れない。田畑の雑草をシルバー人材に依頼すると 10 万円以上となり、とても大変である。広く立地の良い所は借り手もいるが、何か利用できるようなことはないか</p> <p>白岡駅前の開発・整備・福祉、医療機関の充実。災害時に機能する自治体。自治体も被災や混乱が生じます。現在のマニュアル通りに対応できますか？危機管理は重要です！！市民が健康で快適に安全安心して生活できる、そんな街づくりを計画的に推進して頂きたいと思います。よろしくお願ひいたします。</p> <p>ゴミ出しのルールを守らず収集後に残っていたり部外者が捨てたりして、集積所の真向いのお宅が嫌な思いをしているところがあります。夏は掃除当番の方が水を撒いてくれればいいのですが、臭いがきつくなります。庭木が道路にはみ出しているところや、側溝にゴミやタバコのポイ捨てをしたり、犬のふん尿の処理をしないなどモラルの低さに悲しくなることがあります。市内で地区によって大分差があります。</p> <p>都市計画？（区画整理）事業の進行が遅い。将来性が見えない。</p> <p>街路樹が少ないので新道路は並木道にして散歩できるように。</p> <p>電線にかかっている樹木の伐採（強制）→電線が切れて停電する事故防止</p> <p>U 字溝の上を市民が利用できるようにする。プランター等を置いて①土が下に落ちる→災害（大雨の時など）が起きやすくなる。②歩行の邪魔→まちの安全対策推進</p> <p>買い物ができるイオンのような施設の導入を検討してほしい。車で遠くへ買い物に行く機会が減ればガソリンの利用も減るため。</p> <p>数年前他県から転入してきた。小さな子供含む家族世帯ということもあり、買い物や公園等、便利で過ごしやすいまちづくりに期待している</p>
--

	<p>少子化問題への取組</p> <p>駅前整備をお願いしたい</p> <p>寺塚セブンイレブンから市役所までの側道の草について、特にふれあい公園の信号付近、夏は草がぼうぼうでせっかく歩道みたいなガードがあり、自転車で通学するのにすごく危ないため何とかしてほしい。毎年思っている</p> <p>道路の凸凹を直してほしい。(ロジック白岡の広い通り全部) ①カーブミラーのサイズ見直しと清掃(白岡市白岡: 小山接骨院近くの用水路上にある 3 つのミラーが小さくて分かりづらい+ミラーに写り込む葉っぱで見づらいので何とかしてほしいです) ②白岡駅近くのクリーニング屋(ホワイト急便)のT字路のミラー</p> <p>地域の活動にもっと若い世代を呼び込みながら活性化に努めていく必要がある。若者がこれからもっと住み良い街づくりを目指してほしい。</p> <p>自転車を利用して感じております、栗橋線交差点を渡り、元荒川まで行く道路の状態がよくないですね。段差も気になります(マツキヨ)。西(六)のトップ(スーパー)から幹線道路から一本入った道路は路面がボコボコで通行しにくいです。敷設工事等の跡が悪いのでしょうか、危険ですね。自動車で通行していると気づかないと思うのですが点検してみてください。</p> <p>道路計画は苦勞されていると思います。都内の港区に勤務していましたが歩道での自転車がとても恐いです。車道と歩道を分けると自転車は歩道を通るので交通量の多い道路では無理に歩道は作らない方が良いと思います。</p>
4 地球環境 ・脱炭素	<p>太陽光発電を推進している東京都に賛成できない。白岡市で進めてほしくない。ソーラーパネルの維持を考えると子供たちの未来、環境破壊につながると考える。</p> <p>地球温暖化が一番の問題化と思いますがまずは身近な処から出来る範囲で一人一人がエコな生活を心がければ少しは良いかなと思います。</p> <p>人口増加、発展が望める白岡、創エネが普及し終わる前に理想の型へ環境行政の対応が展開できると良いと思います。分散型電源を主としてスマートグリッド白岡構想などが始まるといいですね。V2Hは水素やガソリン代替などの選択があるバスなので定置用としての蓄電システムを組み込むスマートグリッドを希望します。昔、古河市のアシスト自転車レンタルシステムなどに関与しましたが関連する企業の力を借り、実証実験の範疇で始めてもらうのも一つのやり方かもしれません。</p> <p>ゴミの分別を細かく分別するために(3R)各ゴミ収集所に分別籠などの設置、サンプル表示して置いて収集してほしい(袋に入れることで正しく分別されているか分からないから)。市民が家庭から出すときに分別することで意識レベルが上がる。ガラス・ビン、ペットボトル、缶、電池、古紙、全てがかごに入るわけではないのでリユース・リサイクル用かごから始める。</p> <p>白岡市への要望ではないがエコキュートの点検? だかよく分からないような営業の人が時々まピンポンと訪ねてくる。高齢の方とかだいじょうぶかな・・・と心配になる。</p> <p>自然災害が温暖化により年々増えている。国任せではなく地方でできること、頑張らないと未来が危ない! ボランティア・・・何かあれば手伝いたい。</p> <p>温暖化が進行していくと、住めなくなるのではと危機感を抱いています。一人一人が危機感を持ち、二酸化炭素を減らす取組をしていくことが必要だと考えます。</p> <p>地球温暖化など白岡市だけの問題ではないけれど、一人一人が意識していかなければならない問題なのでまず家庭でできることは何があるのか示してほしい。省エネ機器など補助金もあるけれど実際設置するにはとても費用がかかるので設置することは前向きに考えるのは難しい。</p> <p>以前、近隣の耕作放棄地の雑草がひどいので環境課へ対応をお願いしに行ったところ、「何か実害があったのか?」ということで受け付けてもらえなかった。環境にかかわる問題は常に現状の把握とそれに対応し、適切な予防措置をとることが重要だと思います。</p> <p>別の件でお願いします。空き家が多く屋敷の草伸び放題で困ります。何とかならないでしょうか。道路も草が倒れて車が傷つき通れません。</p> <p>エコシステムの構築に個人が介入するのは行政の怠慢だと思う。太陽光パネルが本当にエコだとも思わな</p>

	<p>い。減農薬や無農薬に振り切った方がよっぽど環境保全が高く評価されると思う</p> <p>2017年2月2日(木)の15時ごろ、自宅に隣接する耕作放棄地から出火しました。今現在も自宅に隣接する耕作放棄地は荒れ放題のままです。さて、そこで提案です。自宅斜め裏の道を隔てる耕作放棄地には、本年初めごろに「太陽光発電所」が設置されました。これにより、その耕作放棄地だけは荒地になることはなく、しかも、耕作地であるに農作物はおろか、何も生み出していなかった土地が電気をつくっているのです。こういう耕作放棄地を活用する太陽光発電所の設置を白岡市が主体となって取組んでいくべきではないでしょうか。白岡市が主体となって「耕作放棄地の活用による太陽光発電所」を設置して市内の家庭向けに安く売電することで、市民は安く買電でき、耕作放棄地の所有者は適正管理の煩わしさから解放され、白岡市にも事業収入があり、そして、日本の社会が目指すSDGsやカーボンニュートラルによるサステナブルな社会の実現に向けて、大きな効果が期待できると思うのです。ぜひ、白岡市が主体となって「耕作放棄地を活用する太陽光発電所の設置」に取組まれることを望みます。</p> <p>スーパーマーケットはプラスチックトレイの回収リサイクルを行う(未実施店1店あり)。環境センター焼却炉の排熱活用→電気(発電)または農業ハウス熱利用。または有料にて地域暖房に利用。放置田畑の利用→農業法人、または耕作希望者に有料で貸し出す。放置空き家の活用、または解体撤去←法律を改訂して市の権限を強める。</p>
5 人づくり (普及啓発等)	<p>元荒川の護岸を散歩できる道路環境整備。環境の大切さを小中学生に正しく教える機会を設けて下さい。</p> <p>私は35年前に上尾市役所で環境分野の仕事をしたことがあります。その時でさえ地球を覆うオゾン層に大きな穴が空いている状況に唖然としました。ゴミは燃やせば無くなるという認識が強くあり、焼却灰として残り、それが他県の最終処分場に埋められるということを知り、小学生あたりから学ぶ必要があると思います。そして「第2次白岡環境基本計画・子ども版」は立派な物で、もっと市民の手の届く多くの場所において普及されればと思います。頑張ってください!</p> <p>簡単ではないが環境問題はそこに住んでいる人々の美意識とも相関にあるので啓発に力を入れて維持に努めて欲しい。</p> <p>個人がしっかり意識を持って考えていかなければと思う。</p> <p>清い行も汚い行も人!もっと整備させ自らよき行動をさせる所業を促しては?</p> <p>人と人との絆がない</p> <p>環境問題は市で出来ることは限られるけれど、ちいさなことをやっていくようにする。やる人とやらない人の二極化しているように思うので、やってない人、ポイ捨てする人をなくして行くようにする。</p> <p>引っ越ししてきたばかりで白岡市のことがよくわからない</p>
6 環境づくり	<p>環境の専門家も住民にいますので、環境活動に参加しやすい情報伝達をお願いします。</p> <p>何かするにも自治会中心になるため参加しづらい。自治会を嫌で辞めてしまったので市報も届かず何をしているのか分からない。</p> <p>土地等、市で環境づくり積極的活動している。倉庫、イチゴ農園を今年中に実施する予定であるが、これから地区において市で積極的に実施してもらいたい(前市長は何も実施していなかった、憤りを感じる)</p>
7 補助金	<p>どんな補助金制度があるのか、自分が対象かどうか全く知らない、調べる余裕や時間もない状態。ごく一部のしか受けられない助成や補助金ではなく、市民税を収めている市民全員が等しく平等にサービスや恩恵を受けられる施策を実施して欲しい。もしくは、助成、補助金を必要としない人へ納付税の還付をして欲しい。</p> <p>手続きがわかりにくく、又、すぐ買い換えが必要など等は利用できない内容</p> <p>税金を無駄遣いが無いよう大切に使ってください。</p> <p>生ゴミ乾燥機の補助金を検討して欲しいです</p> <p>省エネ機器に関する個人への補助金は必要だと思うが、大きな効果を発揮するためには事業所(大規模な工場など)にも補助金を出すことも必要だと思う。</p>

	補助金の額を挙げてほしいです。又、節電効果のある家電に買い替えた場合の補助金もあると嬉しいです。
	家電リサイクル法対象物は年齢の高い方には捨てる方が難しく、又、業者に依頼すると費用負担が大きい。亡くなった方や諸事情により家のエアコン、冷蔵庫など捨てる場合には何とかしてあげられないのでしょうか。(10年以上住んでいた人で65才以上は一部市で補助金を出すとか)
	住宅リフォーム事業補助金について市内施工業者に問い合わせたら知らないと言われた。リフォーム補助金について市内施工業者が知らないのはなぜ?
	個人のゴミ拾いや不法投棄の片付け、除草などに補助申請しやすいうようにしてほしい。
	太陽光設備等の補助金の額をもう少し上げてほしい。
	以前、太陽光発電の設置では補助金をいただきありがとうございました。現在、売電価格が大きく下がり蓄電池購入を検討しました。100万円以上するので設置していませんがどうか補助金の増額と対象社○名までと少ないので金額や対象者への助成を増やして頂きたい。
	どのような場合だと補助金が出るのか分かりやすく説明してほしい。
	省エネ家電買換え補助の実施を願います。(エアコン、給湯器、冷蔵庫)
	何で補助金が使えないのか分からない。やった後に気が付く。
	带状疱疹ワクチンの補助(都内などは既に始まっている)65才以上ではなく、年齢枠の引き下げ(都内は65才以下も適応されている)
	電気、水道、ガス、ガソリンなどの補助金(年金生活はつらいです)
	太陽光発電の設備等を設置する時に補助金が出たとしても、設備が経年劣化したとき屋根をふき替える時など、大掛かりな修繕が必要になった場合、当然ながら自己負担で費用を捻出することになる。将来的なことを考えると金銭面で余裕がないと設置する気持ちになれない。特に学費の支出が大きくなる時期を迎えた我が家にとっては難しい
	生ごみ処理機の助成金を検討してほしい
	補助金制度の詳細な説明が欲しい。予算の進捗具合や申請方法、条件などの説明がないと申請してもらえないのではないかと感じてしまう。
	各家庭で使用する物に(一部の家庭)全市民からの税金で補助するのはいかなるものかと思う。特に太陽光パネルはほぼ中国製(ウイグルの強制労働により作られている)で、火事になった時に水はかけられない。寿命が来て廃棄する時有害ごみとなるなどいいことが一つもない。再エネ賦課金により電気代も高くなり庶民の暮らしは圧迫するばかりだ。市の補助金については検討を望む
	白岡市では車無き生活は無理なので、EV、FCV自動車の購入時補助金等を要望します。
	太陽光発電はパネルの廃棄で電気用品のようなリサイクルの仕組みが無く、パネル廃棄で環境を悪化させるのではとの心配があり、できれば避けたいと思います。太陽光発電以外の他の再生可能エネルギーについても補助金の検討をお願いします。尚、他の再エネで低価格で仕組みのあるものは現在なく将来のご検討依頼です。
	補助金はあるらしいということは知っていましたが詳しくは全く分かっていません。調べない私も悪いのですが、どういったものが使えるのか、補助金はいくらで自己負担はいくらくらいか、使える条件などを分かりやすく回覧板やお店などで分かるかと有難いと思いました。
	駅西口の開発を進めてほしい。家電買い替えの際に市から援助が欲しい。篠津や大山地区にCostcoなどができると良い、市が潤う。働く場所の確保
	雨水貯留設備設置費補助金を出してほしい。温暖化で節水を心がけていますが、緑化の為に水まきに雨水を利用したい(蓮田市にはある制度)をぜひ検討をお願いしたい。
	生ごみ処理機の補助金があれば有難いと思います。キジや鳩などの鳥類、セミやバッタの昆虫類が多く見られ、自然が身近にあると感じています。次世代に残していきたいと思っています
8 市の環境行政	引越して来たばかりであり政策について知る機会がありません。白岡市のLINEは登録しているためそういったものを活用してみてもどうかと思います。

	過度な業務負担にならないことを願います。
	白岡市へ要望があります。私たちは能登半島から来ましたが何の説明も有りません。よろしく願いいたします。
	住みやすい環境づくりを要望したい。個々で出来ることを市でまとめリードし推進伝達
その他 アンケートについて	マンション在住のため正しく回答出来ない項目あり。
	アンケートが長かった
	改めて、環境についてじっくりと振り返るきっかけになりました
	アンケートの設問が多すぎる
	市民のより良い生活の為に多種多様な仕事をさせていただき、感謝しております。ですが、その事に市民（自分も含まれます）が気づかずに過ごしてしまっているようにこのアンケートを通じて思いました。
	誰もがパソコンを使えるわけではないのでこのようなアンケートは良いと思います。
	このアンケートのウェブサイトが見づらさを乗り越えて回答欄が見えなかったため紙で回答するしかなかった。自宅が賃貸の場合はやりたくてもやれないので回答するのがつらい。一人暮らしの場合は「家族で話し合っ
	て」が難しい。
	宛名が次男の名前で送付されてきました。中を開けてみたら大人向けだと思ったので回答しました。次男は12才です。
質問の内容が同じような言葉で難しかった。環境について考えることはできた。生活している自分の周りの事くらいしか知らない。小さい町白岡でもすごく広く思う。市が発信してくれないとわからない	

### 3. 事業者アンケート調査

#### 3-1 アンケート調査票の作成

調査票の作成に当たり、市民アンケートと同様に過年度（H22～R2）のアンケート実施状況を整理し、今年度（R6）において「継続的に実施する設問」、「継続の実施を再検討する設問」を検討した。また、現行計画の改訂版では地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を追加するため、脱炭素に関連するEVや再エネ発電設備等の導入状況に関する設問の追加を行った。

下表に示すように、「問12 市民・事業者の連携による自主的な環境づくりへの参加意欲」について、年々参加意欲の低下が見られたため、どのような環境づくり活動が事業者に求められているのかを把握し、関連する施策の検討に活用できるよう、参加してみたい自主的な環境づくり活動は何かを問う設問への変更を行った。また、地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の追加を見据え、「(6) 地球温暖化対策について」という項目を新設し、下記の問20から問23までを追加した。

表 3-1-1 設問の実施状況と追加・変更理由

設問	内容	R6	R2	H27	H22	追加・変更理由/アウトプットイメージ
(1) 属性	問0 業種、事業形態、従業員数	継続	○	○	○	
(2) 事業所における環境問題への取組状況について	問1 事業所から出る廃棄物の処理状況	継続	○	○	○	
	問2 事業所から出る廃棄物のリサイクル実施状況	継続	○	○	○	
	問3 リサイクルを実施する上での問題点	継続	○	○	○	
	問4 事業所における省エネルギー化の進捗状況	継続	○	○	○	
	問5 省エネルギー化を実施する上での問題点	継続	○	○	○	
	問6 現在、実施している環境保全対策	継続	○	○	○	
	問7 今後、実施を予定している環境保全対策	継続	○	○	○	
	問8 SDGs の認識	継続	○			
(3) 事業所の環境保存に対する考え方について	問9 環境保全に対する企業の役割	継続	○	○	○	
	問10 事業所が環境保全対策を一層進めていくための課題	継続	○	○	○	
	問11 白岡市の環境を改善していくための今後の姿勢	継続	○	○	○	
(4) 環境づくりへの参加について	問12 市民・事業者の連携による自主的な環境づくりへの参加意欲 ⇒変更案：参加してみたい自主的な環境づくり活動	変更	○	○	○	年々参加意欲が低下しているため、どのような環境づくり活動が事業者に求められているのかを把握し、関連する施策の検討に活用
	問13 市民・事業者の連携による自主的な環境づくりに参加したいと思わない理由	継続	○	○	○	
	問14 市民や事業者が環境づくりに参加するために、市が重点的に取り組むべきこと	継続	○	○	○	
	問15 脱炭素化の取組を推進する上で、市に期待する施策	新規				市追加設問
	問16 白岡市の環境を守り改善していくために望ましい役割分担	継続	○	○	○	
(5) 市の環境行政の在り方について	問17 環境基本条例及び環境基本計画の認知度	継続	○			
	問18 環境基本計画の取組の効果	継続	○			
	問19 重点的に取り組むべき環境基本計画の施策	継続	○			
(6) 地球温暖化対策について	問20 省エネ機器や設備の導入状況	新規				現在の省エネ機器・設備、再エネ設備等の保有状況と、今後の導入の意向を把握し、特に区域施策編の目標設定や施策の検討に活用
	問21 再エネ設備の導入状況	新規				
	問22 次世代自動車（ハイブリッド車、PHV・EV、FCV）への買い替えの意向	新規				
	問23 事業所の電気やガス等のエネルギー使用状況	新規				エネルギー使用量の実績値を把握することで、統計データでは得られない市の実態を把握し、課題抽出や目標設定に活用
(7) 自由記述		継続	○	○	○	

#### 3-2 アンケート調査票

次頁以降にアンケート調査票を示す。なお、アンケートは、回答率向上を狙い、郵送とWEBを併用した。

## 環境に関する事業者アンケート調査のお願い

日頃、市政に深いご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

本市では、水と緑が織りなす恵まれた自然環境を次世代に引き継ぎ、持続可能な社会を構築するため、「白岡市環境基本条例」に基づく「第2次白岡市環境基本計画」を策定し、環境保全の取組を推進しています。現在は、脱炭素社会の実現に向けた機運の高まりやライフスタイルの変化に対応するため、計画の見直しの基礎調査等の準備作業を進めております。

環境基本計画は、市民・事業者・行政が協力し、協働によって、誰もが住みやすい快適な環境を築き上げるための、本市における環境行政の根幹となる計画となります。このため、策定・見直しに当たっては、皆様の貴重なご意見やご要望を計画に反映させていただきたいと考えております。

つきましては、本調査の趣旨をご理解の上、今回の事業者アンケート調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和6年8月 白岡市長 藤井 栄一郎

### <本アンケートについて>

- ・このアンケートは、本市の「環境基本計画」に、事業者の皆さまのご意見を反映するために行うもので、他の目的に使用することは一切ありません。
- ・すべての調査は無記名で行います。事業者のお名前や情報が外部に公表されることはありません。

### <アンケートのご記入に当たって>

- ・ご回答方法は、「①本アンケート用紙に直接ご記入」または、「②ウェブでのご入力」のどちらか一方をお選びください。

#### 【①本アンケート用紙に直接ご記入いただく場合】

- ・アンケートにお答えいただき、**8月23日(金)**までに、ポストへ投函するか、市役所2階の環境課までお持ちください。

#### 【②ウェブでのご入力いただく場合】

- ・右のQRコードから、**8月23日(金)**までに、回答してください。



#### ■問合せ先

担当課 白岡市 生活経済部 環境課  
電話番号 0480-92-1111 (内線: 284・285)

【参考】

## 第2次白岡市環境基本計画の概要

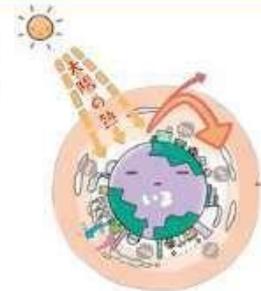
第2次白岡市環境基本計画では、望ましい環境像として、『**青空が広がる自然と豊かな心を育む “持続可能” なまち しらおか**』を定め、その達成に向け3つのプロジェクトを推進しています。



白岡市では、この望ましい環境像を目指し、「市・市民・事業者」の三者協働により、持続可能な環境づくりに取り組んでいます。

## ゼロカーボン（脱炭素）とは？

近年、猛暑日の増加や、大型台風・ゲリラ豪雨の頻発などの気候変動が問題となっています。このような気候変動は、私たちが排出した二酸化炭素による地球温暖化が原因とされています。



地球温暖化のイメージ図  
(環境省 こども環境白書を編集)

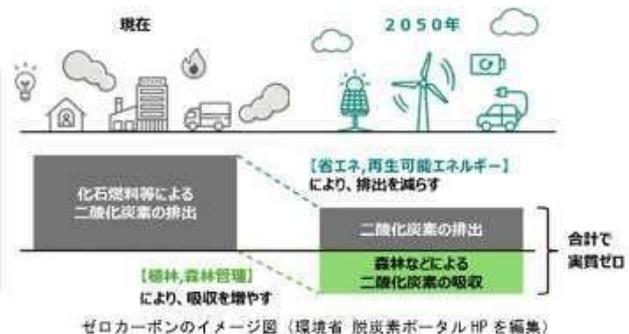
### ＜地球温暖化のメカニズム＞

- ① 太陽からの熱で地上が温まり、一部は宇宙に反射する
- ② 反射した熱を二酸化炭素などが吸収・再反射する（温室効果）
- ③ 二酸化炭素などが増えると、地球に跳ね返る熱が増え、気温が上がる

白岡市では、地球温暖化を抑制するために、令和5年6月に『**白岡市ゼロカーボンシティ宣言**』を行い、2050年までに温室効果ガスの排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を実現するための取組を推進しています。

### ＜ゼロカーボンシティとは＞

図のように二酸化炭素の排出量から吸収量を差し引いて合計が実質ゼロになった状態を**ゼロカーボン（脱炭素）**と呼びます。市の全域でこの状態を達成することを、『**ゼロカーボンシティ**』と呼びます。



温室効果ガスは、日常生活や経済活動に伴って排出されるため、ゼロカーボンの実現に向けては、**私たち一人ひとりの取組が大切です。**

1. はじめに貴事業所のことについてお伺いします。あてはまる番号を○で囲んでください。

業種（兼業の場合は、売上の最も多いもの）	1：農林水産業	2：鉱業	3：建設業	4：製造業	5：卸売業
	6：小売業	7：飲食業	8：金融・保険業、不動産業	9：運輸業	
	10：通信業	11：電気・ガス・水道・熱供給業	12：サービス業		
	13：その他（				
事業形態（複合の場合は、主たる事業形態）	1：工場	2：事業所（オフィス）	3：店舗		
	4：その他（				
貴事業所全体の従業員数	1：1～4人	2：5～9人	3：10～19人	4：20～29人	5：30～49人
	6：50～99人	7：100～199人	8：200～299人	9：300人～	

2. 貴事業所における環境問題への取組状況についてお伺いします。

問1：貴事業所から出る廃棄物の処理状況について、次の中から該当する番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

- |                               |
|-------------------------------|
| 1：ほとんどの廃棄物は、ごみとして処理している       |
| 2：極力リサイクルに回し、廃棄物の量を減らす努力をしている |
| 3：その他（                        |

問2：貴事業所から出る廃棄物のリサイクルの実施状況について、次の中から該当する番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

- |                                    |
|------------------------------------|
| 1：市のごみ分別方法や法令にしたがって、分別またはリサイクルしている |
| 2：独自のリサイクルの体制を確立し、または既に実施している      |
| 3：現在、独自のリサイクル方法を検討中である             |
| 4：その他（                             |

問3：問2に関連してお伺いします。リサイクルを実施する上での問題点について、次の中から該当する番号を全て選んで○で囲んでください。

- |                          |
|--------------------------|
| 1：費用がかかる                 |
| 2：手間や時間がかかる              |
| 3：効率が上がらない、あるいは成果を期待できない |
| 4：社員の協力が得られない            |
| 5：引き取ってくれる業者が確保できない      |
| 6：実施方法がわからない             |
| 7：当事業所には関係ない             |
| 8：特に問題はない                |
| 9：その他（                   |

問4：貴事業所における省エネルギー化の進捗状況について、次の中から該当する番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

- 1：節電、節水など簡易に実行できるものはルール化し実施中
- 2：節電、節水など簡易に実行できるもののルール化について検討中
- 3：ISO14000 シリーズ等の環境マネジメントシステムを取得、環境報告書の公開等、事業所独自のルールや対策を実施中
- 4：ISO14000 シリーズ等の環境マネジメントシステムを取得、環境報告書の公開等、事業所独自のルールや対策について検討中
- 5：特に行っていない

問5：問4に関連してお伺いします。省エネルギー化を実施する上での問題点について、次の中から該当する番号を全て選んで○で囲んでください。

- 1：費用がかかる
- 2：手間や時間がかかる
- 3：効率が上がらない、あるいは成果を期待できない
- 4：社員の協力が得られない
- 5：実施方法がわからない
- 6：当事業所には関係しない
- 7：特に問題はない
- 8：その他（ )

問6：貴事業所では、どのような環境保全対策を現在、実施していますか。次の中から該当する番号を全て選んで○で囲んでください。

- 1：排ガスや排水の処理施設の整備と管理体制の確立
- 2：排水の再利用システムなどの節水対策
- 3：低公害車の導入
- 4：事業所内の緑化
- 5：温室効果ガスの排出削減など、地球温暖化防止対策の推進
- 6：研修生の受入れや環境保全技術の提供など、開発途上国の公害防止への協力
- 7：環境基金への寄付など、環境保全活動に対する資金的な援助
- 8：地域の環境保全活動への企業としての参加、協力
- 9：不必要な照明を消したり、冷暖房などの省エネ運転などの推進
- 10：消費者等に対する、環境に関わる情報の提供
- 11：環境会計の導入
- 12：簡易包装や梱包材の再利用による包装材廃棄物の減量化
- 13：リサイクルを考慮した製品設計やリサイクルしやすい材料の使用
- 14：取扱い商品・容器等の消費者からの回収の実施
- 15：事業所で使用する用紙などの再生紙の使用
- 16：環境憲章や環境保全ガイドラインの遂行
- 17：社員の環境行動に対する顕彰制度の遂行
- 18：事業活動に伴う環境問題を専門的に担当する部門や組織の設置
- 19：ISO14000 シリーズ等の環境マネジメントシステムの取得
- 20：環境保全に関する従業員研修の実施
- 21：その他（ )





4. 市民・事業者・市の連携による環境づくりへの参加についてお伺いします。

問 12: 市民・事業者の連携による自主的な環境づくり活動が実践された場合、どのような活動に参加したいと思いますか。次の中から該当する番号を全て選んで○で囲んでください。

- |                             |   |               |
|-----------------------------|---|---------------|
| 1 : 自然観察会や環境学習会             | } | 問 14 へ進んでください |
| 2 : 環境保全団体等が主催する自然保護活動      |   |               |
| 3 : 田畑の管理・保全や農業体験           |   |               |
| 4 : 植樹やガーデニング等の地域の緑化活動      |   |               |
| 5 : 河川等の水辺周辺の保全やボランティア活動    |   |               |
| 6 : ごみゼロ・クリーン運動等の地域の清掃・美化活動 |   |               |
| 7 : 文化財保護活動や学習会             |   |               |
| 8 : 脱炭素社会構築のためのキャンペーンへの参加   |   |               |
| 9 : グリーンツーリズムなどのエコツアー       |   |               |
| 10 : 地域の防災活動                |   |               |
| 11 : その他 ( )                |   |               |
| 12 : 参加したいとは思わない            | } | 問 13 へ進んでください |

問 13: 問 12 で「12. 参加したいとは思わない」と回答した事業所にお伺いします。それはどのような理由によるものですか。次の中から該当する番号を 1 つだけ選んで○で囲んで ください。

- |                             |
|-----------------------------|
| 1 : 経営内容と無関係であるから           |
| 2 : 協力できる人員や資金が確保できないから     |
| 3 : 協力しても収益にはつながらないから       |
| 4 : 事業者よりも市や市民が解決すべき問題であるから |
| 5 : その他 ( )                 |

問 14: 貴事業所を含め、様々な市民や事業者が環境づくりに参加 するためには、市はどのようなことに重点的に取り組むべきだと思いますか。次の中からお考えに近い番号を 1 つだけ選んで○で囲んで ください。

- |  |
|--|
| 1 : 事業者の環境への取組に関する情報公開                     |
| 2 : 環境問題に関する講演会や学習講座の開催                    |
| 3 : 各行政区や自治会等によるごみゼロ・クリーン運動などの清掃活動、美化活動の促進 |
| 4 : 環境活動のリーダーとなる人材の育成や協力                   |
| 5 : 自主的に環境問題に取り組む組織や、サークル等への積極的支援          |
| 6 : 市民が集まったり、活動できる場の提供                     |
| 7 : 環境問題を討議するため市民、事業者、市からなる活動組織の構築         |
| 8 : その他 ( )                                |

問 15: 「貴事業所で脱炭素化の取組を推進」 する上で、市に対してどのような施策を期待していますか。あてはまる番号を 3 つまで選んで○で囲んで ください。

- |  |
|--|
| 1 : 脱炭素化の取組に関する情報提供                              |
| 2 : 脱炭素化の取組に関する相談窓口の設置                           |
| 3 : 再エネ（太陽光発電、バイオマス資源等）の導入に対する補助金制度等による支援        |
| 4 : 次世代自動車（ハイブリッド車、電気自動車等）の導入に対する補助金制度等による支援     |
| 5 : 地域活性化に繋がるエネルギーの地産地消に向けた仕組みづくり                |
| 6 : 官民が連携して取り組むための体制づくり（事業の安定化・市場拡大・地域貢献等の効果が期待） |
| 7 : 脱炭素化に積極的に取り組む事業者に対する市独自の認定制度の創設              |
| 8 : その他 ( )                                      |



問 19：「白岡市の環境基本計画の主な施策」について、市が重点的に取り組むべきだと思う番号を3つまで選んで○で囲んでください。

- |                      |                            |
|----------------------|----------------------------|
| 1：歴史に息づく緑の保全と創造      | 12：まちの安全対策の推進              |
| 2：生活とともに育まれた水路の保全と創造 | 13：ごみの不法投棄の防止              |
| 3：健全な生物多様性の保全        | 14：環境美化活動の推進               |
| 4：大気環境の保全            | 15：温暖化対策に向けた緩和策の推進         |
| 5：水質環境の保全            | 16：温暖化対策に向けた適応策の推進         |
| 6：騒音・振動の防止           | 17：3R（リユース、リデュース、リサイクル）の推進 |
| 7：総合的な公害の防止          | 18：安心安全で環境にやさしいごみ処理の推進     |
| 8：すぐれた景観の確保          | 19：環境教育・学習の推進              |
| 9：快適でくつろげる空間の確保      | 20：環境保全のための意識啓発活動の推進       |
| 10：歴史・文化の保護          | 21：その他（                    |
| 11：計画的なまちづくりの推進      | ）                          |

6. 最後に、地球温暖化対策についてお伺いします。

問 20：貴事業所の省エネ機器や設備の導入状況について、次の中から該当する番号を全て選んで○で囲んでください。

- |   |
|---|
| 1：コージェネレーションシステム（熱電併給システム）※ <sup>1</sup>      |
| 2：高性能ボイラーなどの高効率機器                             |
| 3：空調・OA機器などの省エネ型業務用機器                         |
| 4：省エネナビ※ <sup>2</sup> ・スマートメーター※ <sup>3</sup> |
| 5：断熱材・ペアガラス※ <sup>4</sup>                     |
| 6：LED照明やHf型照明※ <sup>5</sup> などの高効率照明          |
| 7：屋上緑化・壁面緑化                                   |
| 8：その他（  |
| ）   |

※1：1つのエネルギー源から電気と熱などを同時に供給する、エネルギーの利用効率が高いシステム。例えばガスを燃料として発電し、排熱を回収して給湯に利用するシステムなどがある。

※2：現在のエネルギーの消費状況を量や金額で表示し、利用者自身が決めた目標値と比較しながら見せる機器。目標値を超えると警報ブザーなどで知らせてくれる。

※3：通信機能を備えた電力メーターで、家庭などと電力会社との間をつなぎ、電力使用量などのデータをやり取りしたり、家電製品などと接続してそれを自動でコントロールすることができる機器。

※4：ガラスを二重にしたガラス窓で、防音効果だけでなく断熱効果にも優れている。

※5：高周波点灯蛍光灯とも呼ばれ、電子安定器により電源高周波数を高周波に変換しランプを点灯させる事により、ランプ自体の性能アップが見込めるほか、省電力化などものぞむことができる新しい方式の蛍光灯。

問 21：貴事業所の再生可能エネルギー等の設備に関して、現在の導入状況や今後の導入予定について、該当する番号を1つだけ選んで○で囲んでください。

設備	すでに導入済み	今後導入予定	予定はないが導入してみたい	導入するつもりなし
①太陽光発電	1	2	3	4
②蓄電池	1	2	3	4
③太陽熱温水器	1	2	3	4
④小型風力発電・風力発電	1	2	3	4
⑤バイオマス発電・熱利用（木質系・廃棄物系）	1	2	3	4

問 22：貴事業所の車両について、現在の所有状況に該当する番号を1つだけ選んで○で囲んでください。また、現在の所有台数と将来の予定台数がわかる方は、台数をご記入ください。（将来については、予定を含めた希望的観測でも構いません。わからない場合は空欄のままご提出ください。）

車両	所有している	所有していない	現在の保有台数 (2024年)	将来の予定台数 (2030年頃)
例) ガソリン・ディーゼル車 (普通)	①	②	2 台	1 台
①ガソリン・ディーゼル車 (普通)	1	2	__ 台	__ 台
②ガソリン・ディーゼル車 (軽)	1	2	__ 台	__ 台
③ハイブリッド車	1	2	__ 台	__ 台
④PHV・EV (電気自動車)	1	2	__ 台	__ 台
⑤燃料電池自動車 (FCV)	1	2	__ 台	__ 台

問 23：貴事業所で使用しているエネルギーについてお聞きします。エネルギーの使用状況について、該当する番号を1つだけ選んで○で囲んでください。また、直近の年間使用量（1月～12月）がわかればご記入ください。（直近の月明細からおおよその年間使用量を計算して記入いただいても構いません。わからない場合は空欄のままご提出ください。）

エネ種	使用状況		年間使用量 【1月～12月】
	使用している	使用していない	
例) 電気	①	②	約 10,000 kWh
①電気	1	2	約 _____ kWh
②都市ガス	1	2	約 _____ m <sup>3</sup>
③プロパンガス	1	2	約 _____ m <sup>3</sup>
④灯油	1	2	約 _____ ㍓
⑤ガソリン	1	2	約 _____ ㍓
⑥軽油	1	2	約 _____ ㍓
⑦重油	1	2	約 _____ ㍓
⑧木材(薪・ペレット)	1	2	約 _____ Kg

●最後に、白岡市の環境へのご要望や、貴事業所のお考えをご自由にお聞かせください。

該当する番号を選んで○で囲み、余白にご要望やお考えをご記入ください。

①：自然環境                      ②：生活環境                      ③：快適環境                      ④：地球環境・脱炭素  
 ⑤：人づくり（普及啓発等）   ⑥：環境づくり活動           ⑦：補助金                      ⑧：市の環境行政

これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

### 3-3 調査概要

#### ■調査対象

・調査対象地域	白岡市全域
・調査対象	市内に事業所を構える企業・商店等
・サンプル数	150 票
・抽出方法	無作為抽出
・調査方法	郵送配送・郵送回収 + web アンケート方式
・調査期間	令和 6 年 7 月 31 日～8 月 23 日
・調査結果（回収数）	55 票（紙:50 + web:5） / 150 票【前回(R2) : 51 票/150 票】
・調査結果（回収率）	36.6%【前回(R2) : 34.0%】

#### ■調査内容（設問項目）

<p><b>(1) 属性</b> 業種、事業形態、従業員数</p>
<p><b>(2) 事業所における環境問題への取組状況について</b> 問 1 事業所から出る廃棄物の処理状況 問 2 事業所から出る廃棄物のリサイクル実施状況 問 3 リサイクルを実施する上での問題点 問 4 事業所における省エネルギー化の進捗状況 問 5 省エネルギー化を実施する上での問題点 問 6 現在、実施している環境保全対策 問 7 今後、実施を予定している環境保全対策 問 8 SDGs の認識</p>
<p><b>(3) 事業所の環境保全に対する考え方について</b> 問 9 環境保全に対する企業の役割 問 10 事業所が環境保全対策を一層進めていくための課題 問 11 白岡市の環境を改善していくための今後の姿勢</p>
<p><b>(4) 環境づくりへの参加や役割について</b> 問 12 参加してみたい自主的な環境づくり活動 問 13 市民・事業者の連携による自主的な環境づくりに参加したいと思わない理由 問 14 市民や事業者が白岡市の環境づくりに参加するために、市が重点的に取り組むべきこと 問 15 脱炭素化の取組を推進する上で、市に期待する施策 問 16 白岡市の環境を守り改善していくために望ましい役割分担</p>
<p><b>(5) 市の環境行政の在り方について</b> 問 17 環境基本条例及び環境基本計画の認知度 問 18 環境基本計画の取組の効果 問 19 重点的に取り組むべき環境基本計画の施策</p>
<p><b>(6) 地球温暖化対策について</b> 問 20 省エネ機器や設備の導入状況 問 21 再エネ設備の導入状況 問 22 次世代自動車（ハイブリッド車、PHV・EV、FCV）への買い替えの意向 問 23 事業所の電気やガス等のエネルギー使用状況</p>
<p><b>(7) 自由記述</b></p>

### 3-4 集計結果

#### (1) 属性

##### ■業種 【単独回答】

- ・ 回答事業者は建設業が 10 事業者と最も多く、サービス業が 9 事業者、製造業が 7 事業者となっている。
- ・ 鉱業、卸売業、通信業からは回答を得ることができなかった。

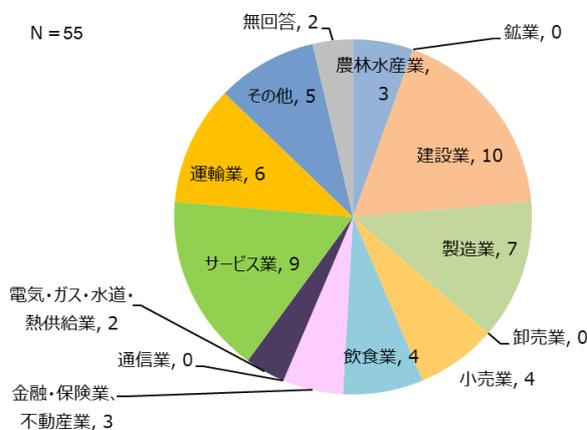


図 3-4-1 回答事業者の業種

##### ■業種（統合）

各産業の特性や日本標準産業分類等を参照して、12 業種を以下の表のとおり 3 部門にまとめて集計した。以降、部門別のクロス集計を行う場合、この 3 部門でのクロス集計を行う。

表 3-4-1 地域区分

業種	部門分類方法
農林水産業、鉱業、建設業、製造業	産業部門に分類
卸売業、小売業、飲食業、金融・保険業、不動産業、電気・ガス・水道・熱供給業、サービス業	業務部門（民生業務）に分類
運輸業	運輸部門に分類
その他、無回答	コメント、業態、従業員数から、日本標準産業分類等を参照し上記 3 部門に分類 例) 医療→サービス業

- ・ 部門別では、業務部門が最も多く 27 事業者、次いで産業部門が 21 事業者、運輸部門が 6 事業者となっている。

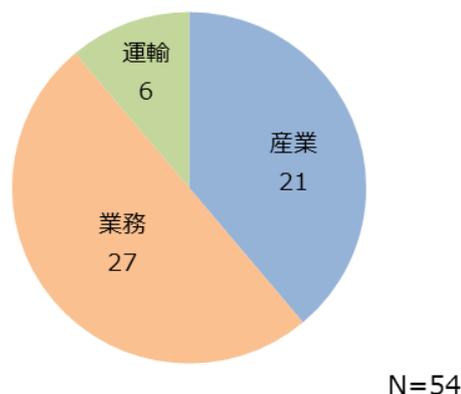
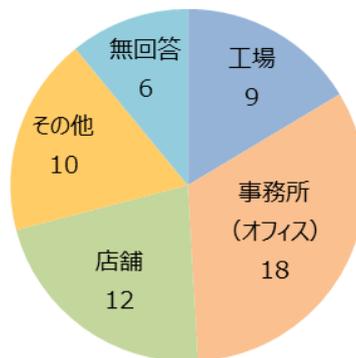


図 3-4-2 回答事業者の業種(部門別)

■事業形態【単独回答】

- ・業態別では、事務所が最も多く18事業者、次いで店舗が12事業者、工場が9事業者となっている。
- ・その他としては、自宅事業所や保育園、スポーツ施設が挙げられた。

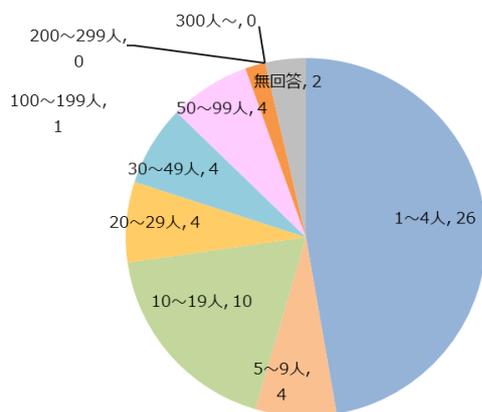


N = 55

図 3-4-3 回答事業者の業態

■従業員数【単独回答】

- ・従業員数では、5人未満の零細企業が26事業者と約50%を占めており、次いで10人以上20人未満が10事業者となっている。
- ・100人以上の事業者からは回答を得ることができなかった。



N = 55

図 3-4-4 回答事業者の業種(部門別)

(2) 事業所における環境問題への取組状況について  
 問1 事業所から出る廃棄物の処理状況【単独回答】

<単純集計>

61.8%の事業者が「極力リサイクルに回し、廃棄物の量を減らす努力をしている」と回答している。

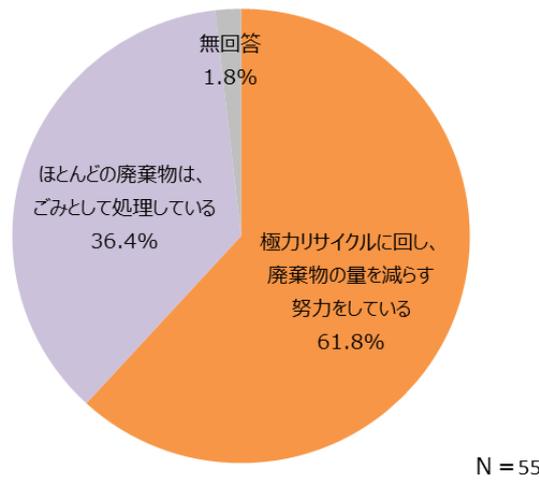
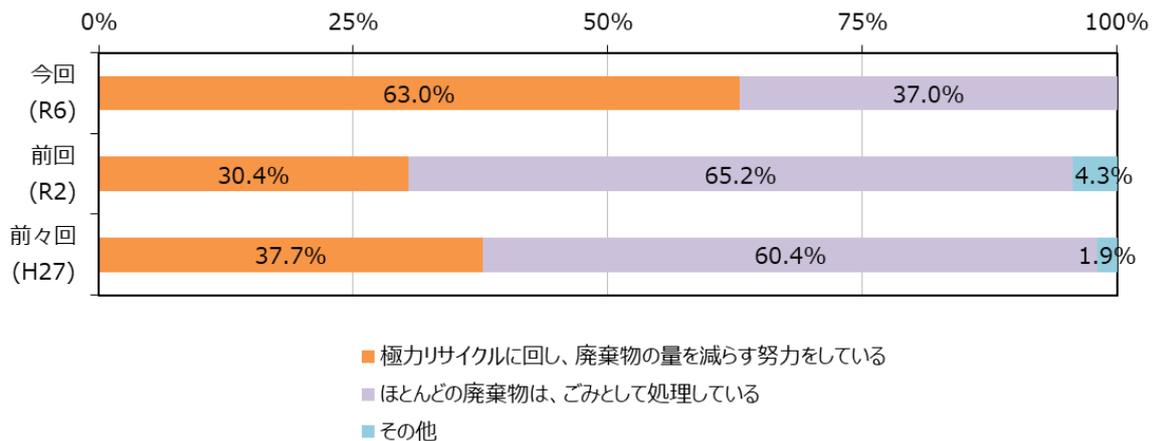


図 3-4-5 問1の単純集計結果

<経年比較>

前回、前々回と比較すると、「極力リサイクルに回し、廃棄物の量を減らす努力をしている」と回答した事業者が増加している。



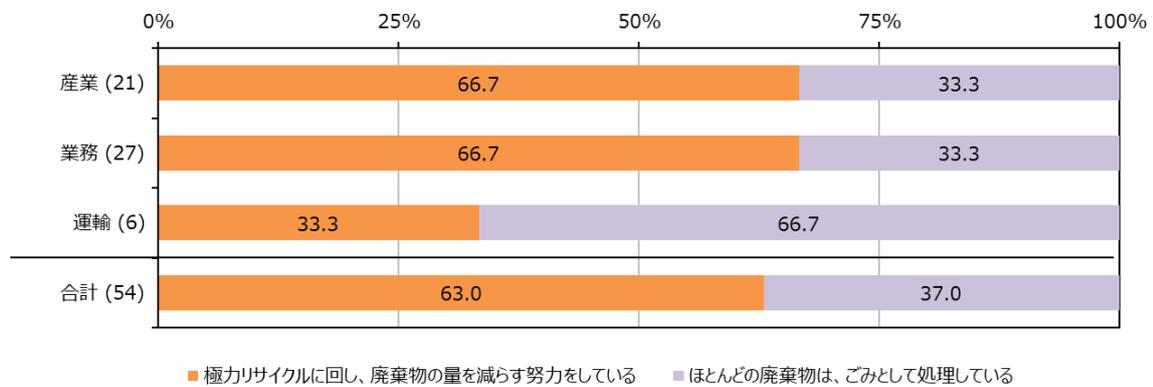
有効回答者数：今回54 前回46 前々回53

図 3-4-6 問1の過年度比較

### <クロス集計>

#### ■部門別クロス集計

部門別では、運輸部門において「極力リサイクルに回し、廃棄物の量を減らす努力をしている」と回答した割合が低い。



( )内数値：有効回答者数

図 3-4-7 問1のクロス集計結果（部門別）

## 問 2 事業所から出る廃棄物のリサイクル実施状況【単独回答】

### <単純集計>

無回答の1事業者を除き、全ての事業者が何らかのリサイクル体制を構築している。

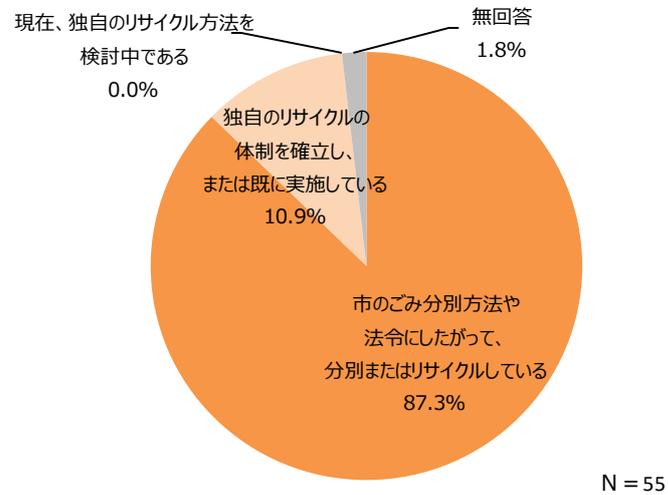
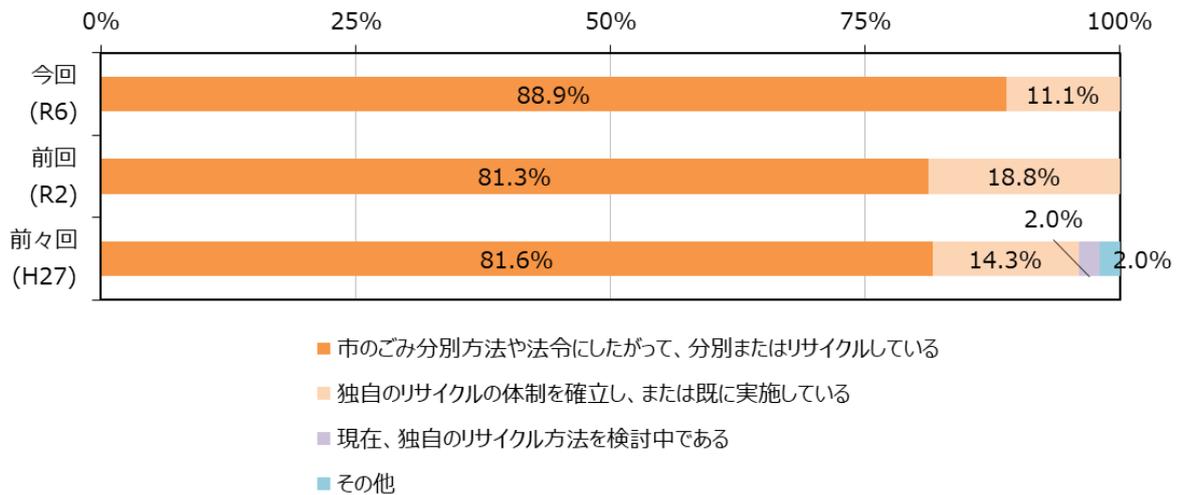


図 3-4-8 問 2 の単純集計結果

### <経年比較>

前回と同様に、全ての事業者が何らかのリサイクル体制を構築している。



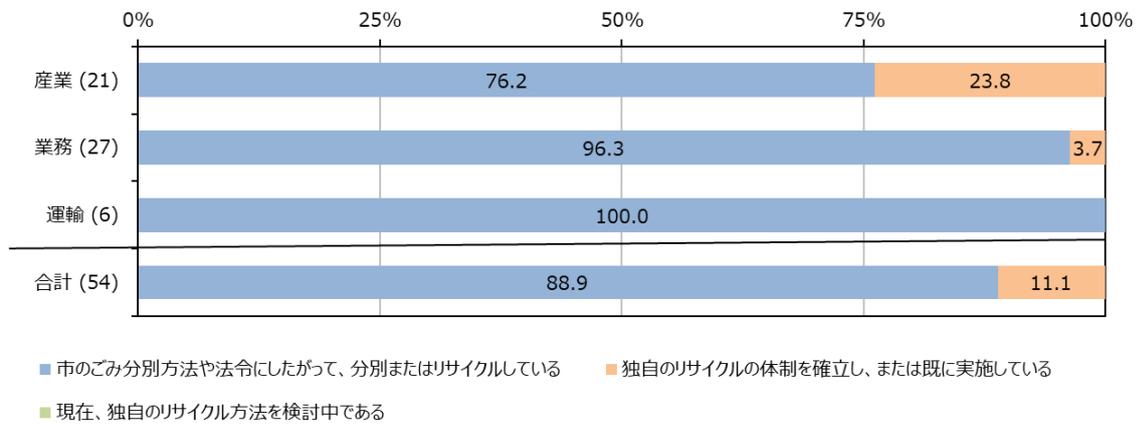
有効回答者数：今回54 前回48 前々回49

図 3-4-9 問 2 の過年度比較

### <クロス集計>

#### ■部門別クロス集計

産業部門では、「独自のリサイクルの体制を確立し、または既の実施している」と回答した事業者の割合が高い。



( )内数値：有効回答者数

図 3-4-10 問 2 のクロス集計結果 (部門別)

### 問3 リサイクルを実施する上での問題点【複数回答】

#### <単純集計>

リサイクルを実施する上での問題点は、38.2%の事業者が「特に問題はない」と回答しているが、問題点としては「費用が掛かる」、「手間や時間がかかる」が多く挙げられている。

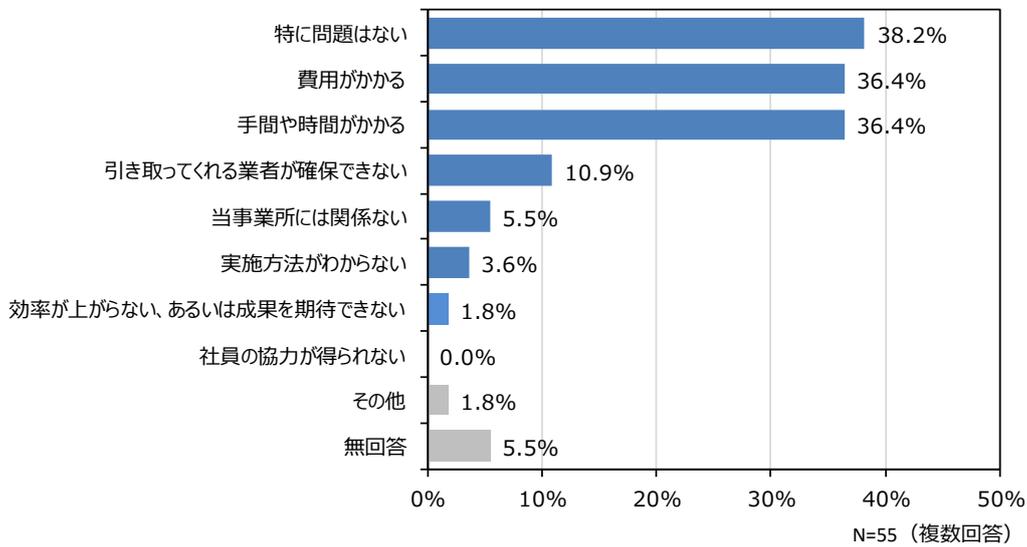


図 3-4-11 問3の単純集計結果

#### <経年比較>

前回から「特に問題はない」が減少し、「費用が掛かる」、「手間や時間がかかる」が増加した。

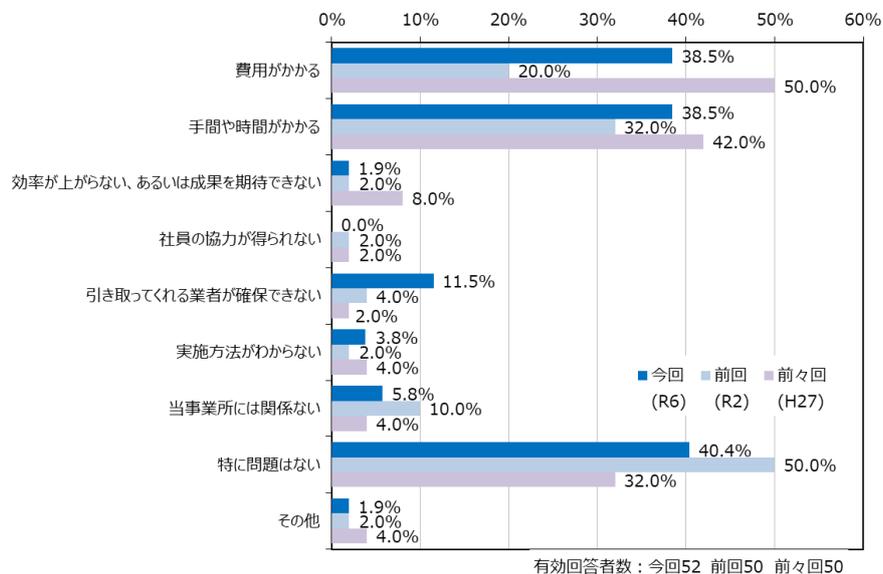
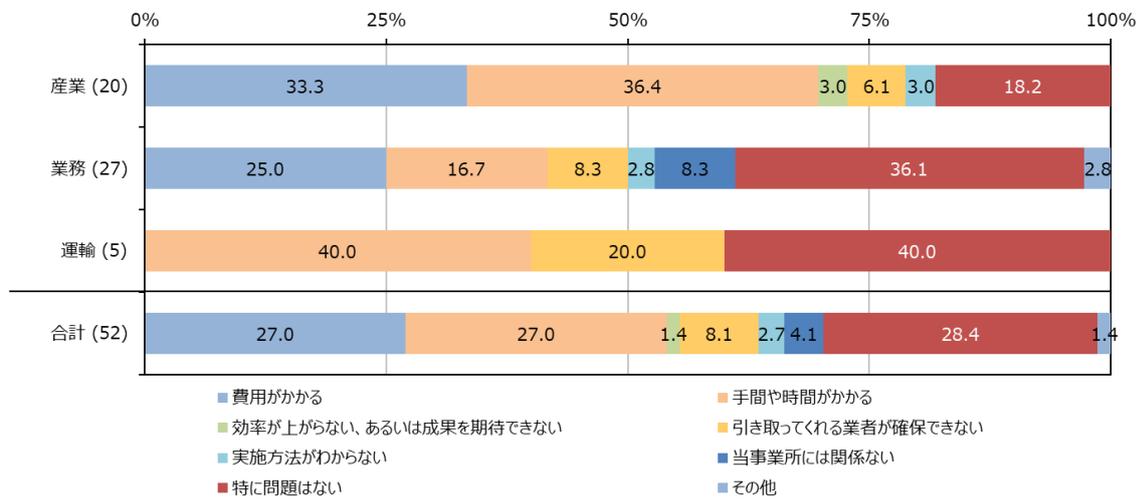


図 3-4-12 問3の過年度比較

## <クロス集計>

### ■部門別クロス集計

産業部門では、「特に問題はない」と回答した事業者の割合が他の部門よりも低く、「費用が掛かる」、「手間や時間がかかる」と回答した事業者の割合が高い。



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 3-4-13 問3のクロス集計結果（部門別）

#### 問 4 事業所における省エネルギー化の進捗状況【単独回答】

##### <単純集計>

9.1%の事業者が「ISO14000 シリーズ等の環境マネジメントシステムを取得、環境報告書の公開等、事業所独自のルールや対策を実施中」と回答している。また、45.5%の事業者が「節電や節水などをルール化し実施中」と回答している。

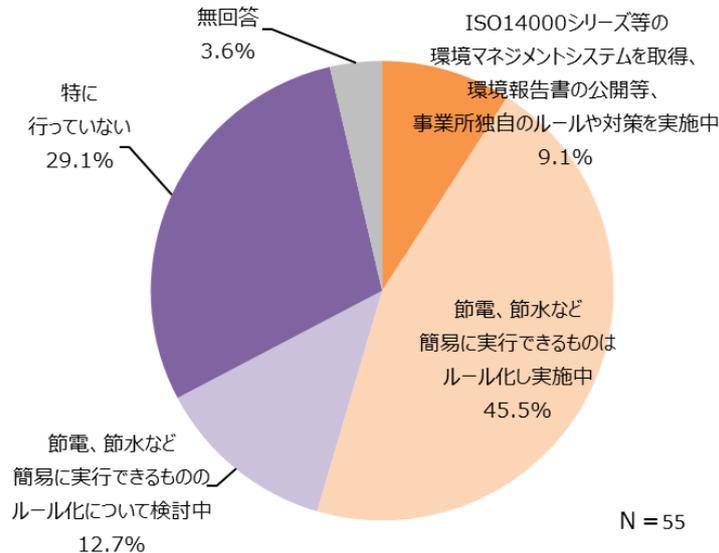
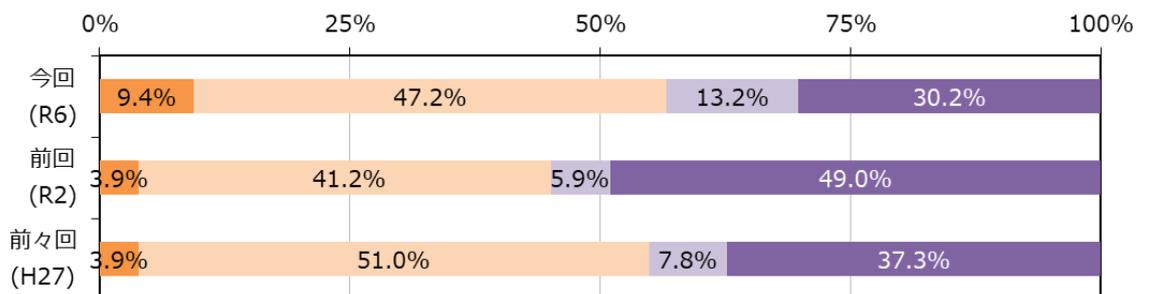


図 3-4-14 問 4 の単純集計結果

##### <経年比較>

前回から「ISO14000 シリーズ等の環境マネジメントシステムを取得、環境報告書の公開等、事業所独自のルールや対策を実施中」と回答した事業者が増加したが、事業者全体に占める割合は少ない。



- ISO14000シリーズ等の環境マネジメントシステムを取得、環境報告書の公開等、事業所独自のルールや対策を実施中
- 節電、節水など簡易に実行できるものはルール化し実施中
- 節電、節水など簡易に実行できるもののルール化について検討中
- 特に行っていない

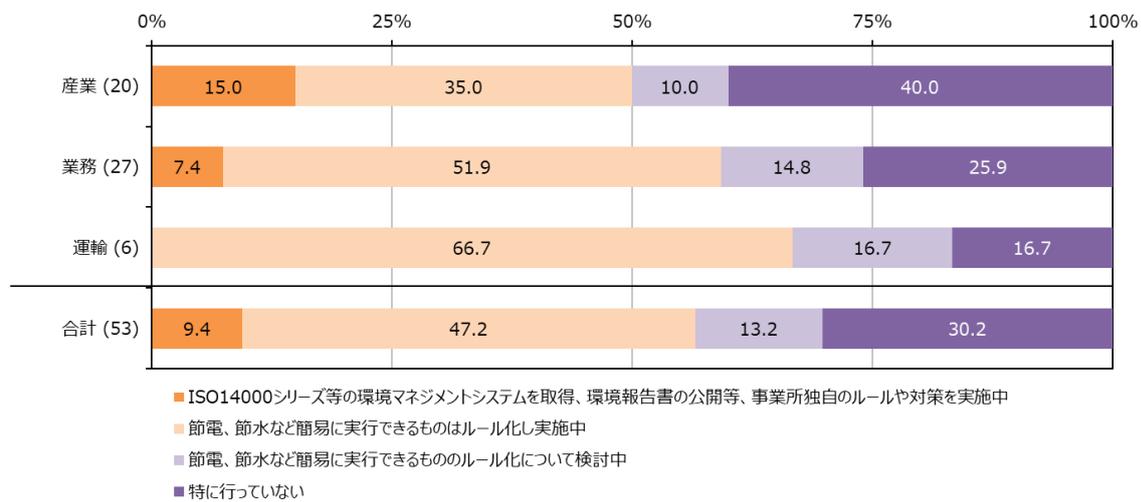
有効回答者数：今回53 前回51 前々回51

図 3-4-15 問 4 の過年度比較

## <クロス集計>

### ■部門別クロス集計

産業部門では、「ISO14000 シリーズ等の環境マネジメントシステムを取得、環境報告書の公開等、事業所独自のルールや対策を実施中」と回答した事業者の割合が高いが、「特に行っていない」と回答した事業者の割合も高く、二極化が進んでいる。



( )内数値：有効回答者数

図 3-4-16 問4のクロス集計結果（部門別）

### 問5 省エネルギー化を実施する上での問題点【複数回答】

#### <単純集計>

省エネルギーを実施する上での問題点は、38.2%の事業者が「特に問題はない」と回答しているが、「費用が掛かる」、「手間や時間がかかる」ことが問題点となっている。

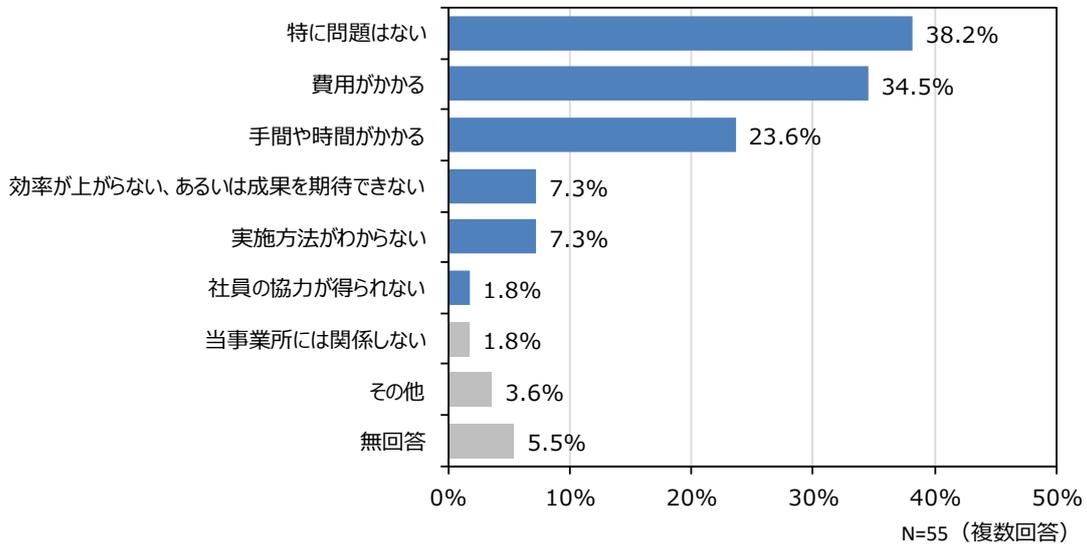


図 3-4-17 問5の単純集計結果

#### <経年比較>

前回から「特に問題はない」が減少し、「費用が掛かる」、「手間や時間がかかる」が増加した。

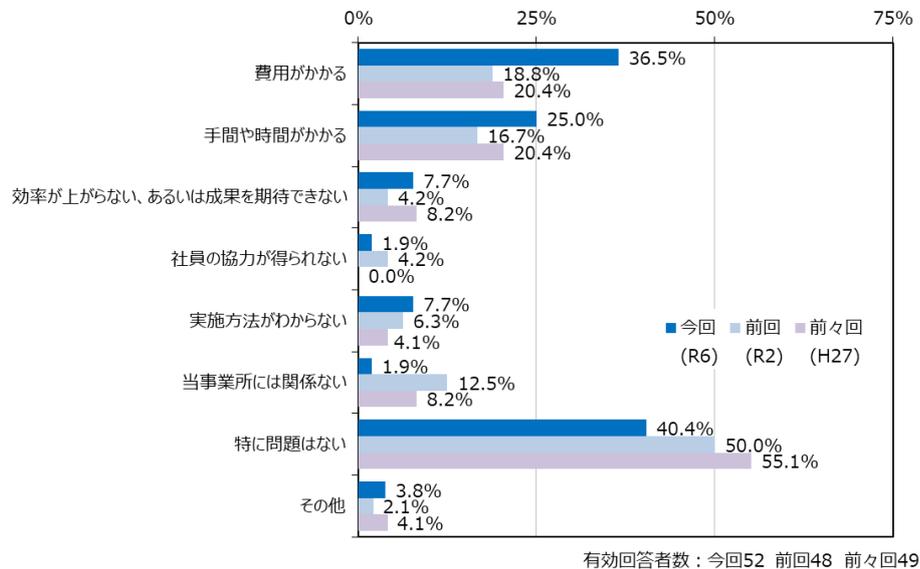
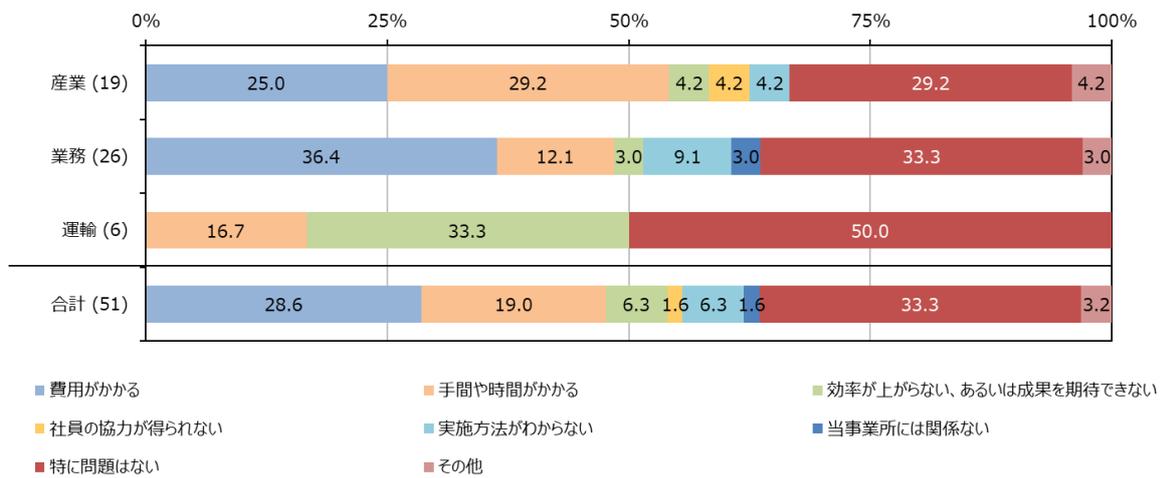


図 3-4-18 問5の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

どの部門においても約30%の事業者が「特に問題はない」と回答しているが、業務部門では「費用がかかる」、産業部門では「手間や時間がかかる」と回答している事業者も同程度存在する。



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 3-4-19 問5のクロス集計結果（部門別）

## 問 6 現在、実施している環境保全対策【複数回答】

### <単純集計>

「 unnecessaryな照明を消したり、冷暖房などの省エネ運転などの推進」や、「事業所で使用する用紙などの再生紙の使用」などハードルが低い取組が多くの上業者で行われている。一方で、「環境会計の導入」、「環境憲章や環境保全ガイドラインの遂行」、「事業活動に伴う環境問題を専門的に担当する部門や組織の設置」などの専門知識が必要な取組を行っている事業者は見られなかった。

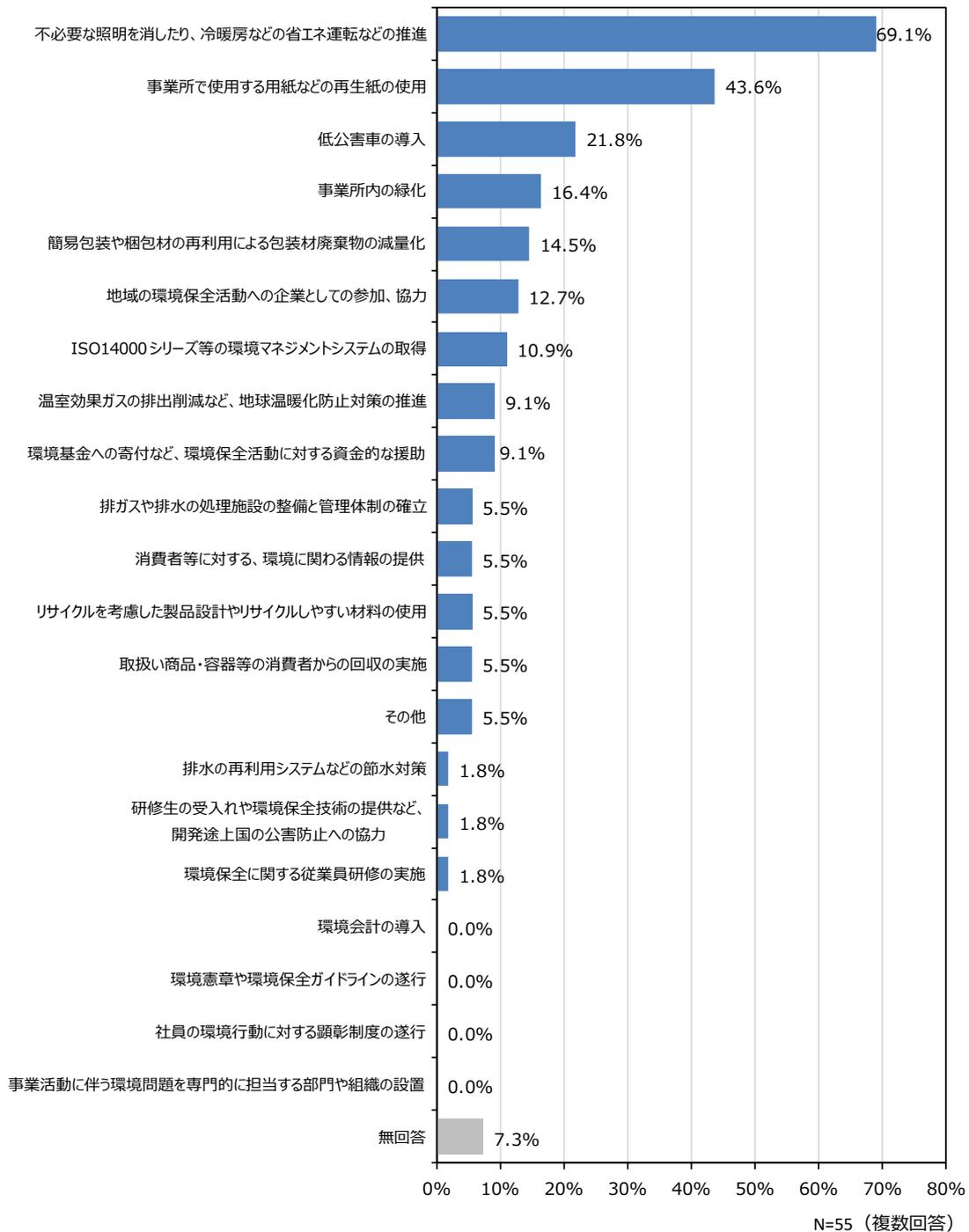
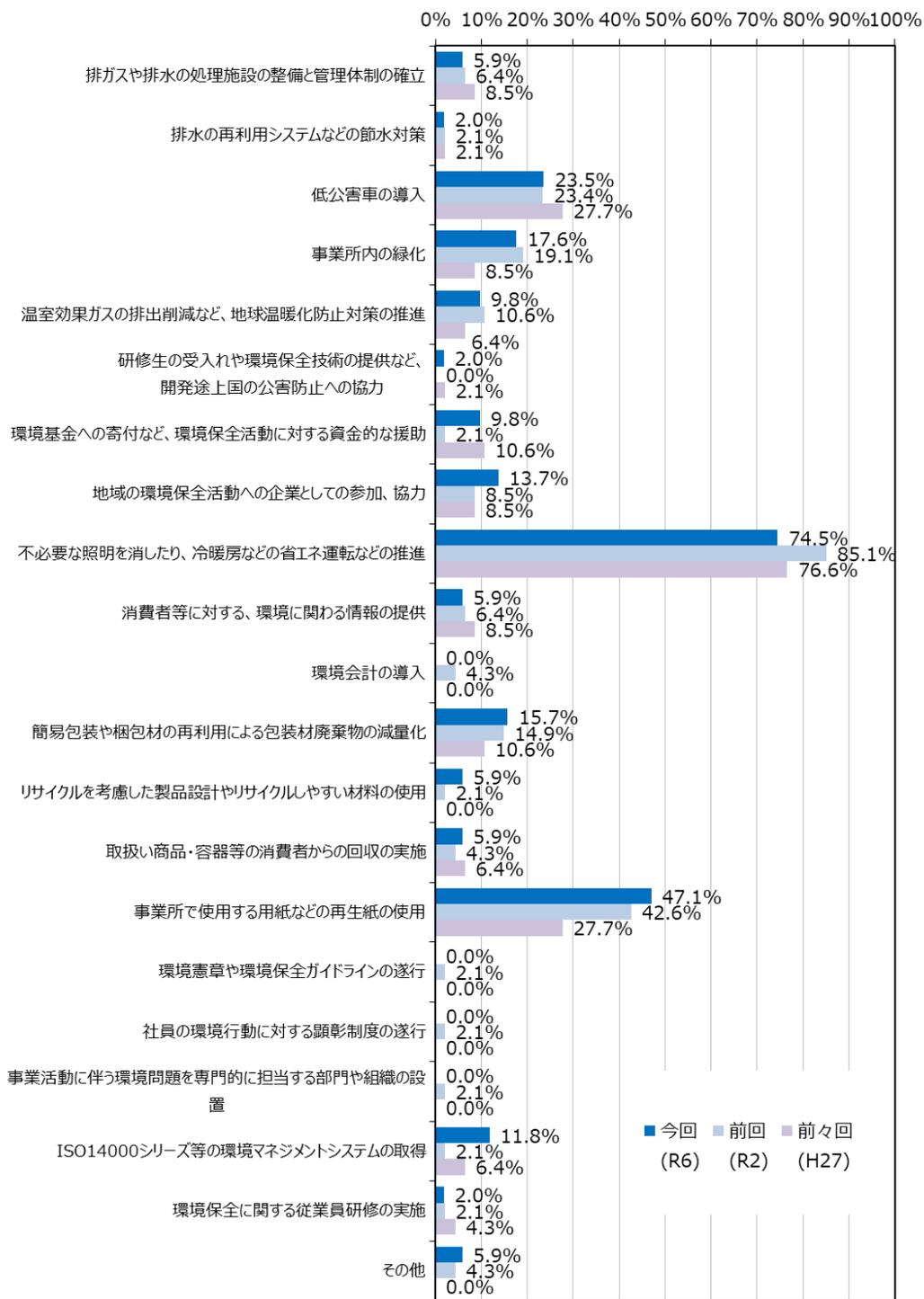


図 3-4-20 問 6 の単純集計結果

<経年比較>

「事業所で使用する用紙などの再生紙の使用」に取り組む事業者が増加し、「ISO14000 シリーズ等の環境マネジメントシステムの取得」については大幅に増加している。



有効回答者数：今回51 前回47 前々回47

図 3-4-21 問5の過年度比較

## <クロス集計>

### ■部門別クロス集計

部門別では、どの部門も共通して「 unnecessary照明を消したり、冷暖房などの省エネ運転などの推進」、「事業所で使用する用紙などの再生紙の使用」と回答した事業者の割合が高いが、運輸部門では「低公害車の導入」と回答した事業者の割合が高い。

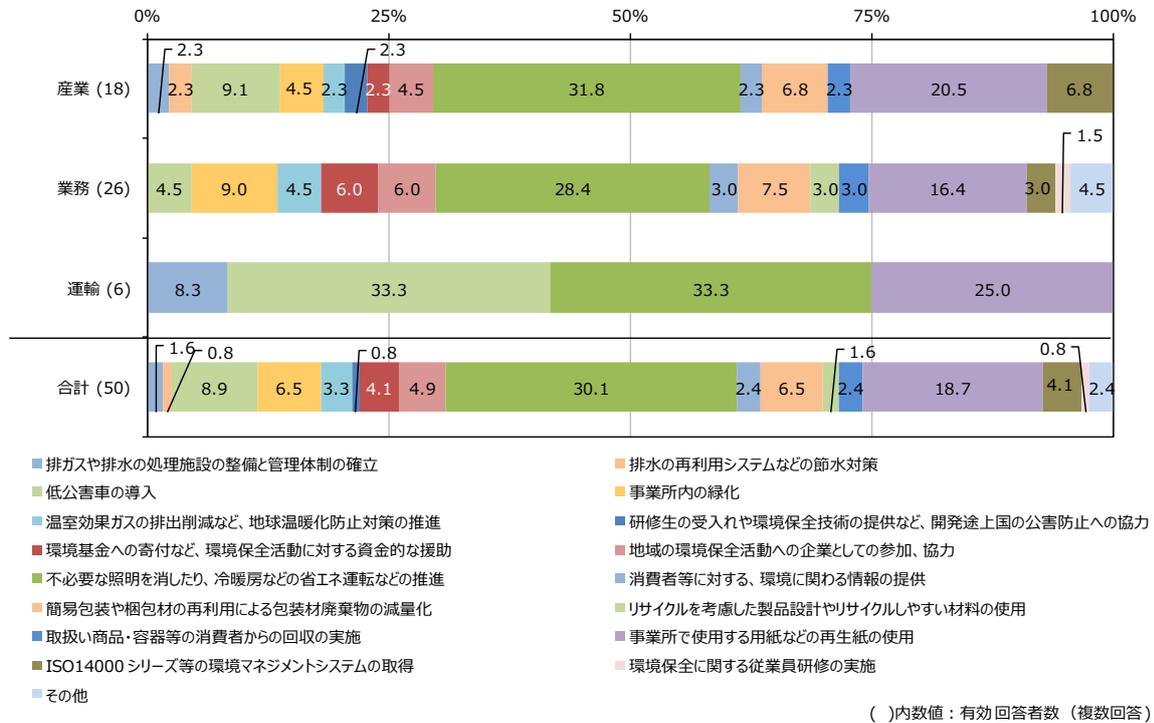


図 3-4-22 問 6 のクロス集計結果（部門別）

## 問 7 今後、実施を予定している環境保全対策【複数回答】

### <単純集計>

問 6 と同様に、「不必要な照明を消したり、冷暖房などの省エネ運転などの推進」や、「事業所で使用する用紙などの再生紙の使用」などハードルが低い取組が多く事業者で予定されている。また、「環境会計の導入」、「環境憲章や環境保全ガイドラインの遂行」、「事業活動に伴う環境問題を専門的に担当する部門や組織の設置」などの専門知識が必要な取組を予定している事業者は少なく、行政の支援や事業者間でのノウハウの共有が期待される。

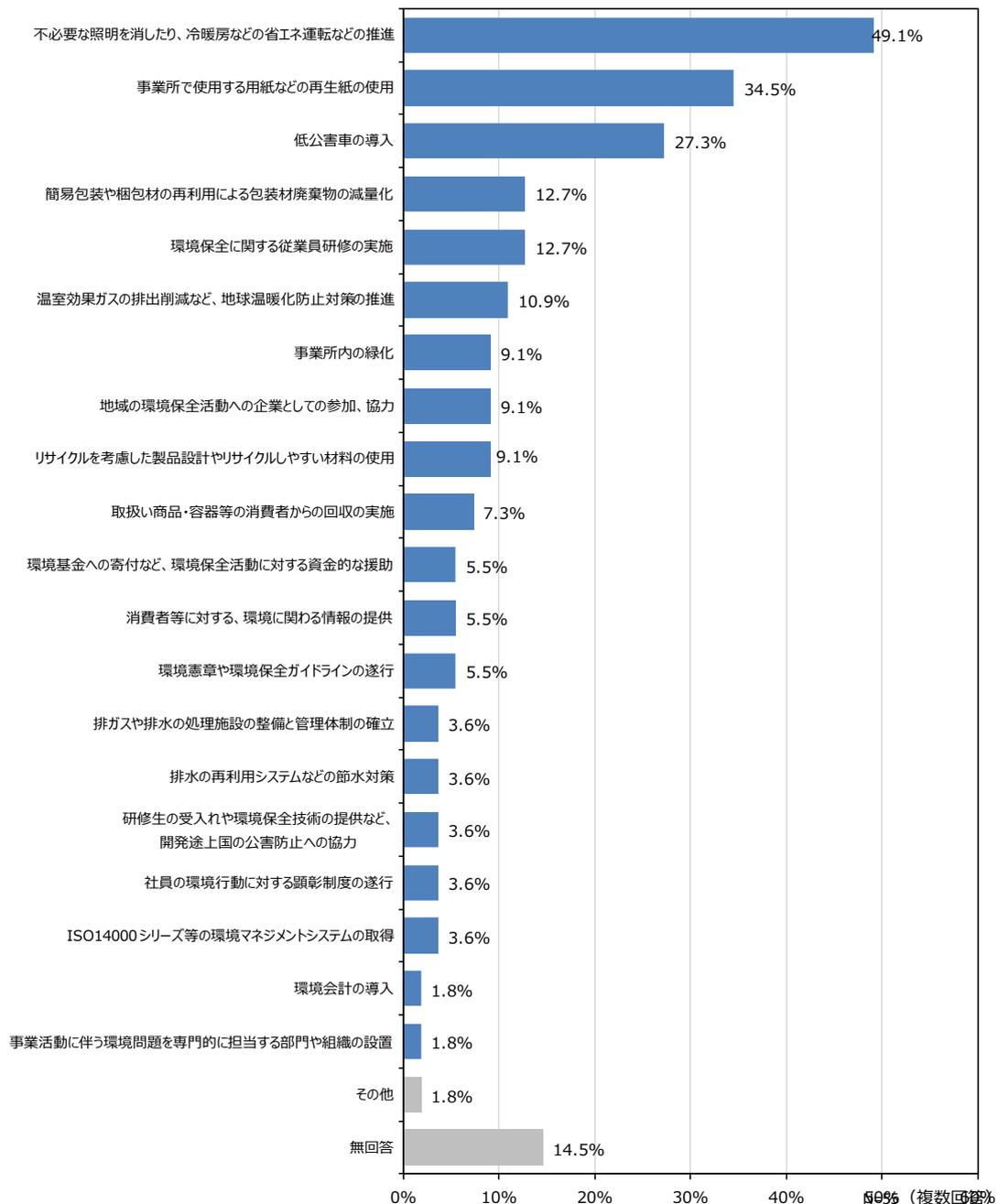
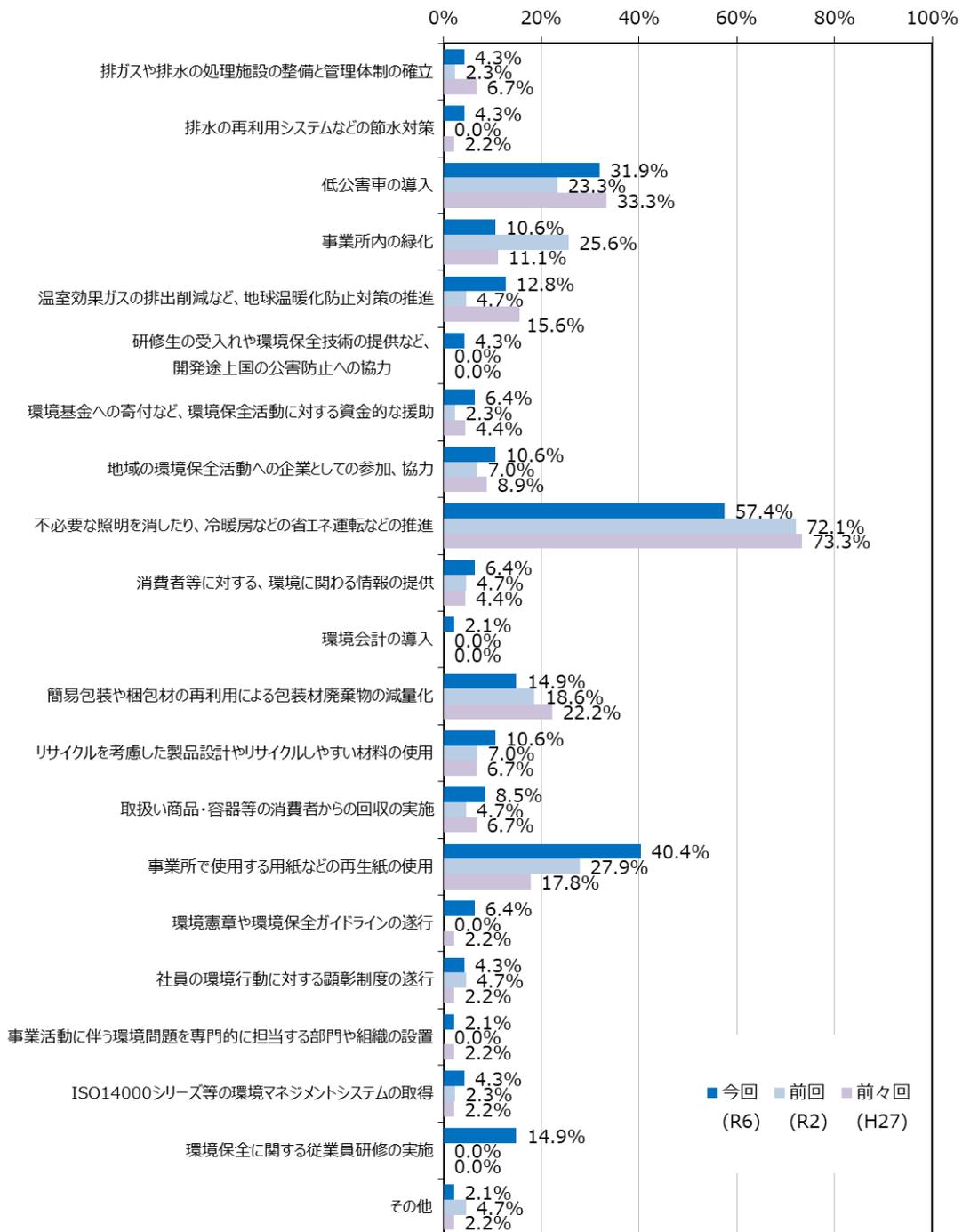


図 3-4-23 問 7 の単純集計結果

### <経年比較>

「事業所で使用する用紙などの再生紙の使用」や、「環境保全に関する従業員研修の実施」を行う事業者は増加した。「 unnecessaryな照明を消したり、冷暖房などの省エネ運転などの推進」では、問6よりすでに取り組んでいる事業者が多く、予定している事業者が減少した。「低公害車の導入」と回答した事業者に関しては、前々回と比較して増加しておらず、より導入促進を行うには補助金の適用が考えられる。



有効回答者数：今回47 前回43 前々回45

図 3-4-24 問7の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

部門別では、問6と同様にどの部門も共通して「 unnecessary照明を消したり、冷暖房などの省エネ運転などの推進」、「事業所で使用する用紙などの再生紙の使用」と回答した事業者の割合が高い。一方で、「低公害車の導入」に関しては運輸部門のみならず業務部門でも回答した事業者の割合が高い。

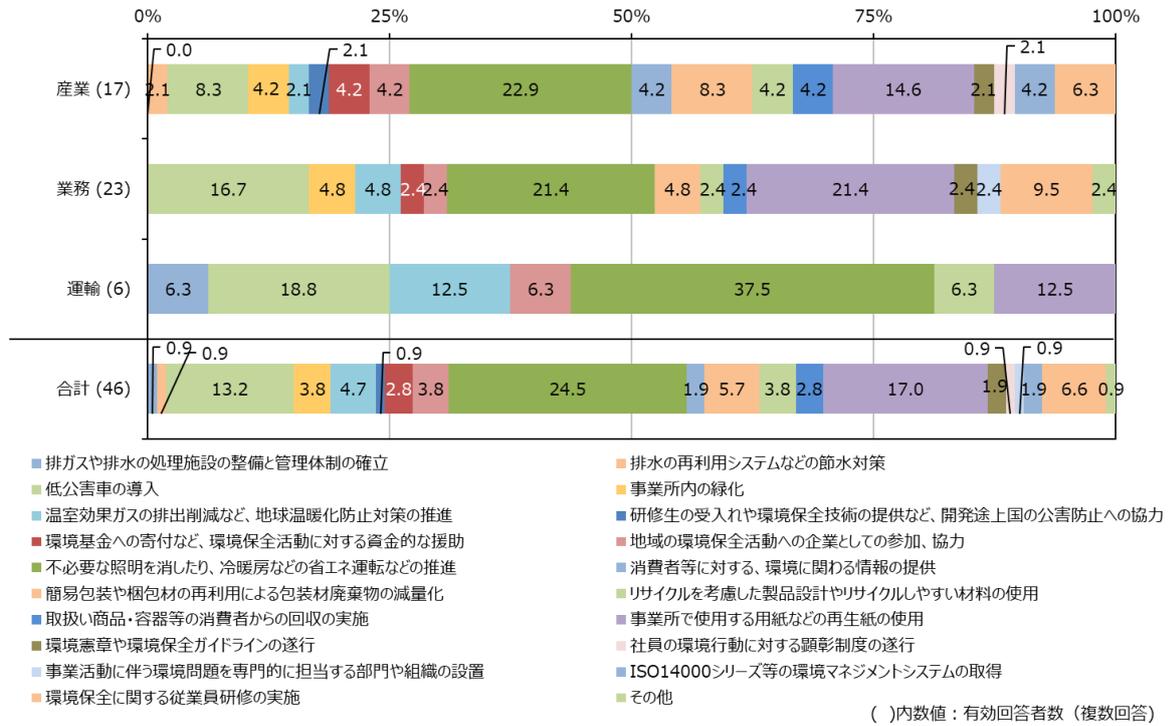


図 3-4-25 問7のクロス集計結果（部門別）

## 問 8 SDGs の認知度【単独回答】

### <単純集計>

32.7%の事業者が「認識しており、SDGsに関連する取組を行っている」と回答しており、何らかのSDGsに関する取組を実施している。一方で36.4%の事業者が、「認知しているが特にSDGsに関する取組は行っていない」と回答しており、環境経営やそのメリットなどの普及啓発が課題となる。

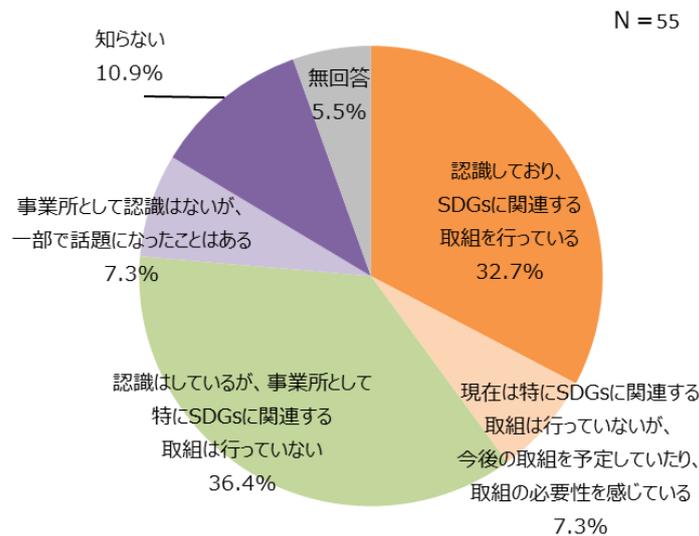
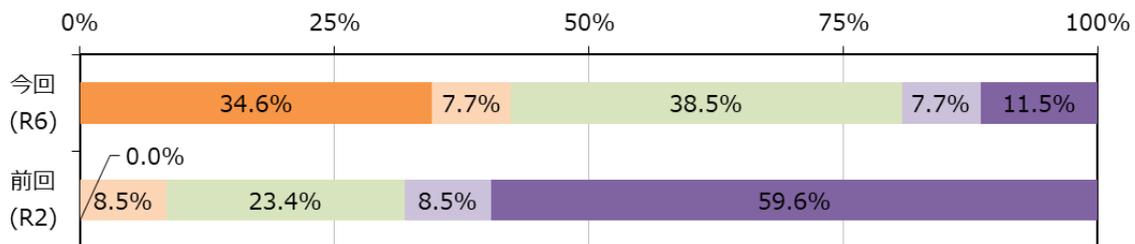


図 3-4-26 問 8 の単純集計結果

### <経年比較>

前は「認識しており、SDGsに関連する取組を行っている」と回答した事業者はいなかったが、今回は約35%の事業者が回答しており、SDGsに関連する取組を行う事業者が急速に増加している。

※前々回は未実施



- 認識しており、SDGsに関連する取組を行っている
- 現在は特にSDGsに関連する取組は行っていないが、今後の取組を予定していたり、取組の必要性を感じている
- 認識はしているが、事業所として特にSDGsに関連する取組は行っていない
- 事業所として認識はないが、一部で話題になったことはある
- 知らない

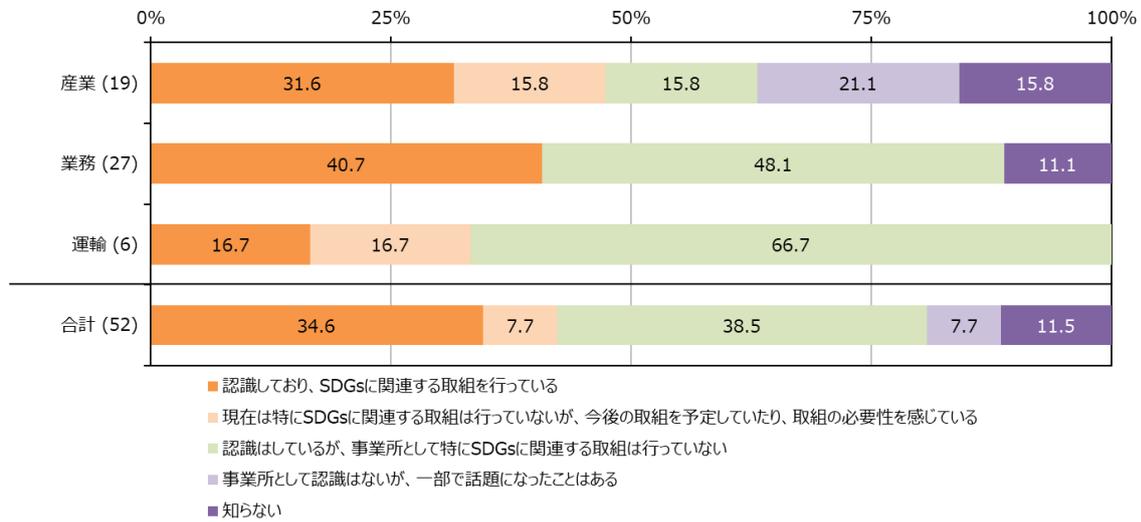
有効回答者数：今回52 前回47

図 3-4-27 問 8 の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

産業部門では、「事業所として認識はないが、一部で話題になったことはある」、「知らない」の割合が高い。



( )内数値：有効回答者数

図 3-4-28 問 8 のクロス集計結果（部門別）

### (3) 事業所の環境保全に対する考え方について

#### 問9 環境保全に対する企業の役割【複数回答】

##### <単純集計>

「事業活動に伴う環境への影響(排ガスや排水、廃棄物)の可能な限りの低減」について54.5%の事業者が企業の役割と認識している。

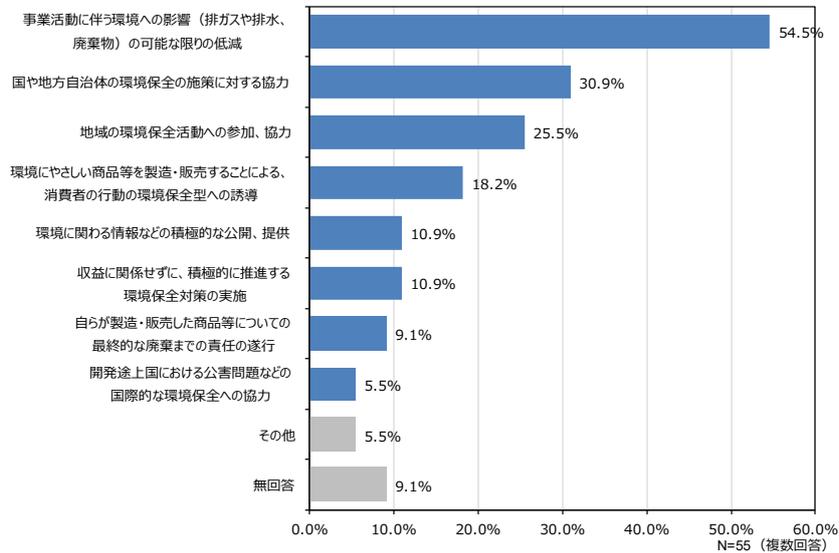


図 3-4-29 問9の単純集計結果

##### <経年比較>

「収益に関係せず、積極的に環境保全対策の実施」と回答した事業者が年々増加しており、環境問題の自分事化が事業者に広がっている。

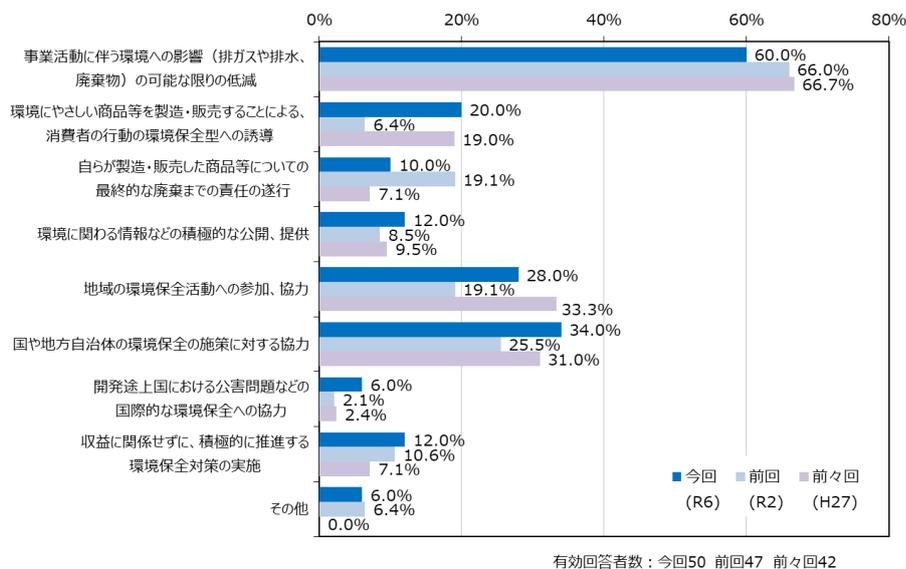


図 3-4-30 問9の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

全部門で「事業活動に伴う環境への影響（排ガスや排水、廃棄物）の可能な限りの低減」の割合が高いが、産業部門では「環境にやさしい商品等を製造・販売することによる、消費者の行動の環境保全型への誘導」、「国や地方自治体の環境保全の施策に対する協力」と回答した事業者の割合が高い。

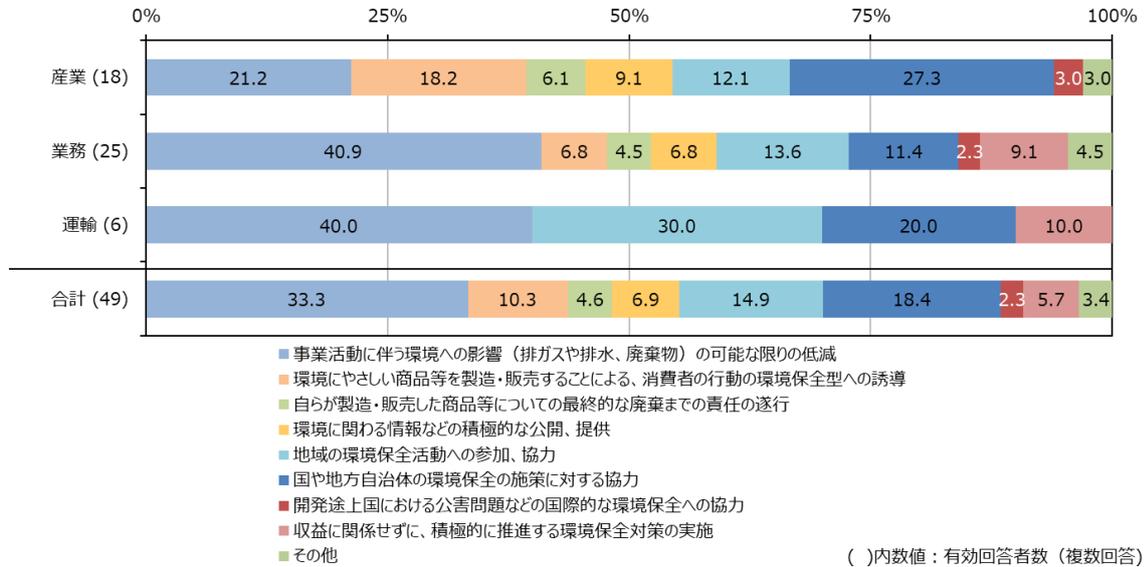


図 3-4-31 問9のクロス集計結果（部門別）

問 10 事業所が環境保全対策を一層進めていくための課題【単独回答】

＜単純集計＞

環境保全対策を実施する上での問題点は、「特に障害はない」と回答する事業者も 23.6%と多いが、「対策を行うための資金が不足している」と回答している事業者は 32.7%と多く、「環境問題の現状や具体的対応策に関する情報がない」と回答している事業者もある程度存在し、これらのギャップを行政が支援していくことが求められている。

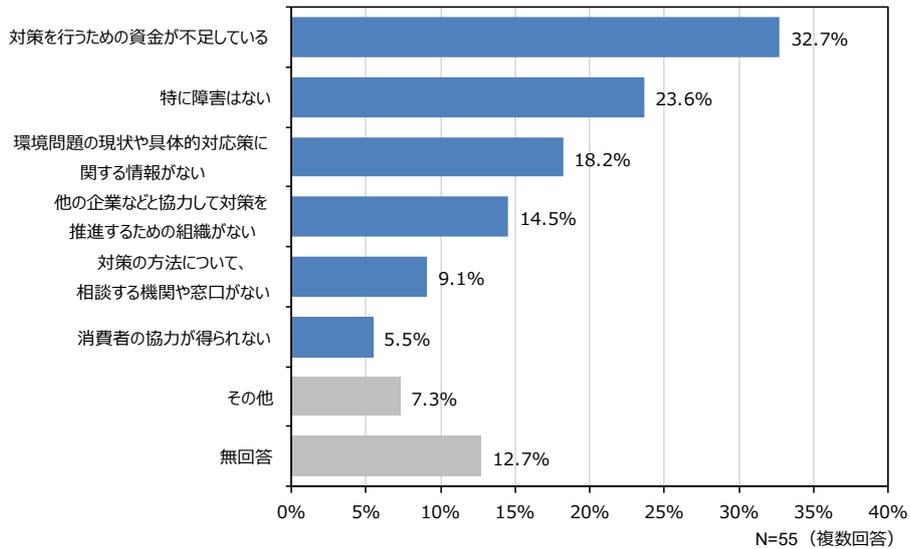


図 3-4-32 問 10 の単純集計結果

＜経年比較＞

前回と比較し、「特に障害はない」と回答する事業者が大幅に減少した。一方で、「対策を行うための資金が不足している」や「対策の方法について、相談する機関や窓口がない」や「消費者の協力が得られない」といった回答が前回から増加している。

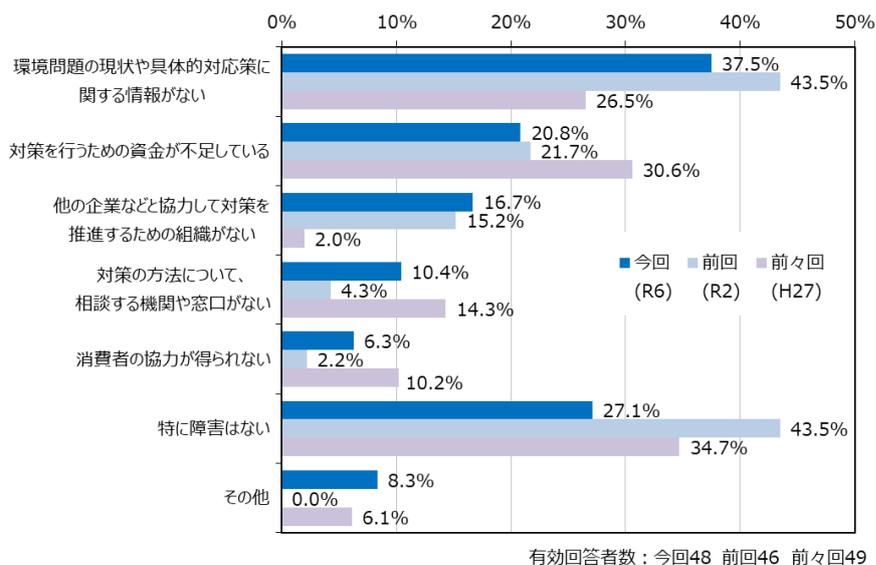
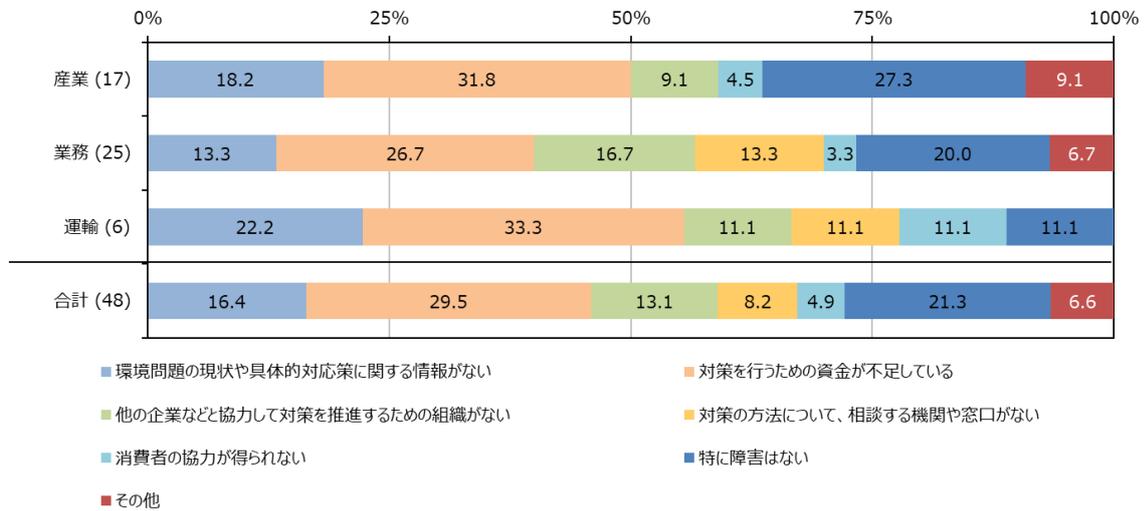


図 3-4-33 問 10 の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

産業部門では「特に障害はない」と回答した事業者の割合が高く、「対策の方法について、相談する機関や窓口がない」の回答は無い。一方で運輸部門では「特に障害はない」と回答した事業者の割合が低く、「対策を行うための資金が不足している」と回答した事業者の割合が高い。



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 3-4-34 問 10 のクロス集計結果（部門別）

問 11 白岡市の環境を改善していくための今後の姿勢【単独回答】

＜単純集計＞

21.8%の事業者が、「金銭的な負担や規制が増えたり不自由さを感じるようになったりしてもかまわない」と回答しているが、残りの事業者は金銭的な負担が増えることに抵抗感を示している。

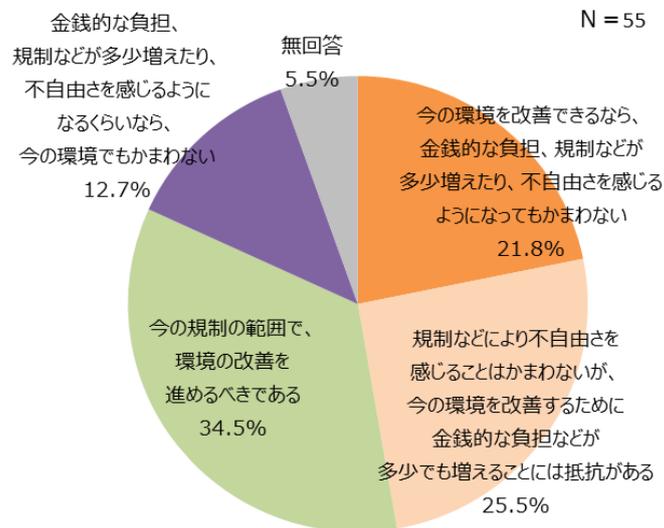


図 3-4-35 問 11 の単純集計結果

＜経年比較＞

「金銭的な負担や規制が増えたり不自由さを感じるようになったりしてもかまわない」と回答している事業者が増加しているが、「金銭的な負担や規制が増えたり不自由さを感じるなら今の環境のままでも構わない」という否定的な意見も増加しており、二極化が進んでいる。



- 今の環境を改善できるなら、金銭的な負担、規制などが多少増えたり、不自由さを感じるようになってもかまわない
- 規制などにより不自由さを感じることはかまわないが、今の環境を改善するために金銭的な負担などが多少でも増えることには抵抗がある
- 今の規制の範囲で、環境の改善を進めるべきである
- 金銭的な負担、規制などが多少増えたり、不自由さを感じるようになるくらいなら、今の環境でもかまわない

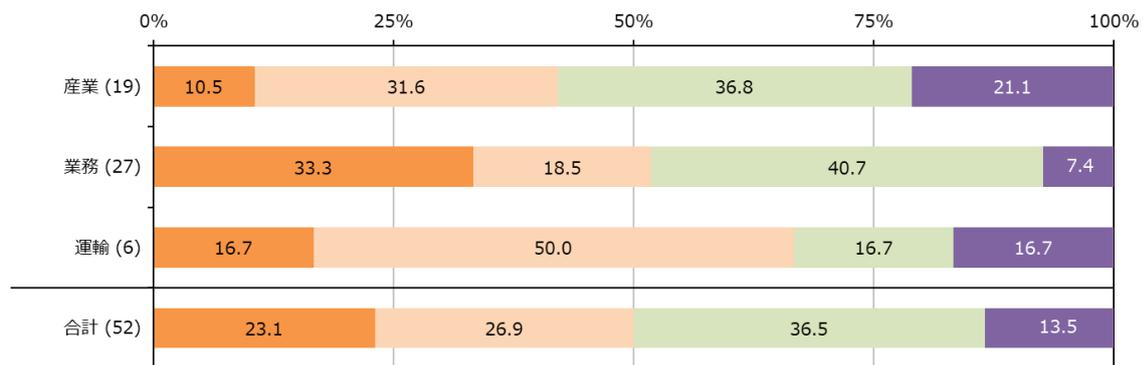
有効回答者数：今回52 前回49 前々回48

図 3-4-36 問 11 の過年度比較

## <クロス集計>

### ■部門別クロス集計

産業部門では、「今の環境を改善できるなら、金銭的な負担、規制などが多少増えたり、不自由さを感じるようになってもかまわない」と回答した事業者の割合が低く、「金銭的な負担、規制などが多少増えたり、不自由さを感じるようになるくらいなら、今の環境でもかまわない」と回答した事業者の割合が高い。運輸部門では「規制などにより不自由さを感じることはかまわないが、今の環境を改善するために金銭的な負担などが多少でも増えることには抵抗がある」と回答した事業者の割合が高い。



- 今の環境を改善できるなら、金銭的な負担、規制などが多少増えたり、不自由さを感じるようになってもかまわない
- 規制などにより不自由さを感じることはかまわないが、今の環境を改善するために金銭的な負担などが多少でも増えることには抵抗がある
- 今の規制の範囲で、環境の改善を進めるべきである
- 金銭的な負担、規制などが多少増えたり、不自由さを感じるようになるくらいなら、今の環境でもかまわない

( )内数値：有効回答者数

図 3-4-37 問 11 のクロス集計結果（部門別）

#### (4) 環境づくりへの参加について

##### 問 12 参加してみたい自主的な環境づくり活動【単独回答】

###### <単純集計>

市民と同様に、「ごみゼロ・クリーン運動等の地域の清掃・美化活動」、「地域の防災活動」、「植樹やガーデニング等の地域の緑化活動」といった地域に関連した環境づくり活動が求められている傾向が得られた。地域の市民のみならず、事業者を交えた環境づくり活動が求められている。

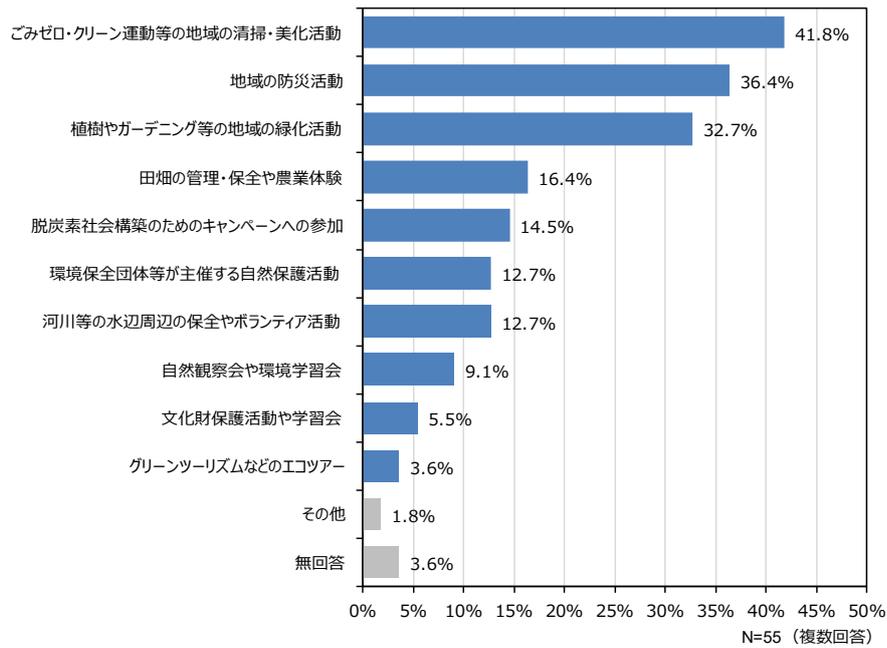
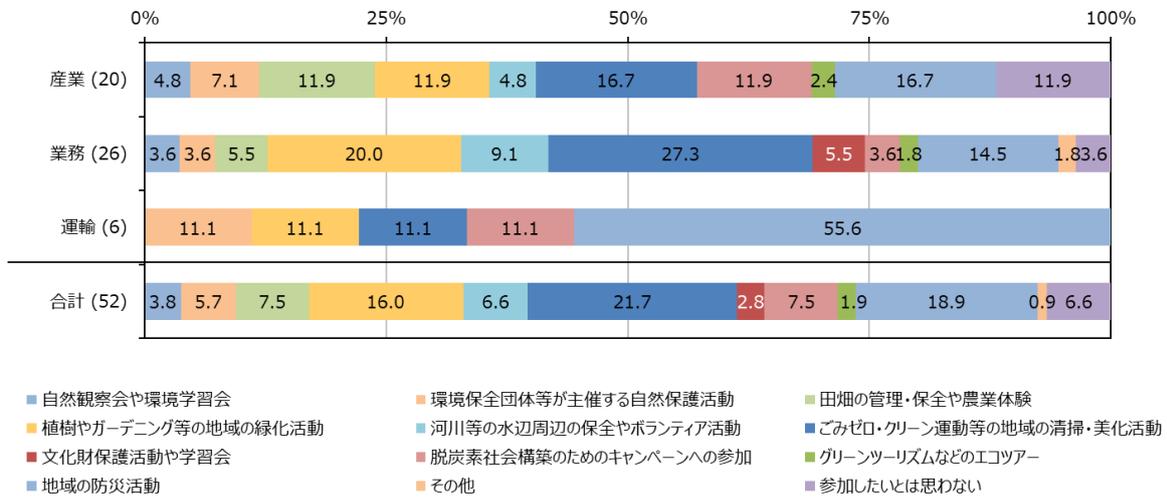


図 3-4-38 問 12 の単純集計結果

<クロス集計>

■部門別クロス集計

産業部門では、「参加したいとは思わない」と回答した事業者の割合が高い。運輸部門では「地域の防災活動」と回答した事業者の割合が高い。



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

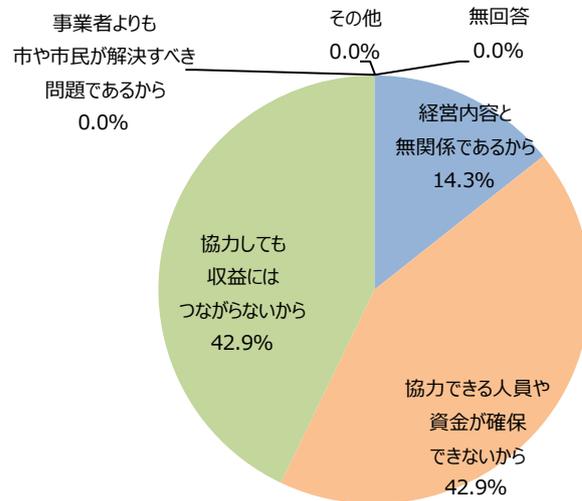
図 3-4-39 問 12 のクロス集計結果（部門別）

### 問 13 市民・事業者の連携による自主的な環境づくりに参加したいと思わない理由【単独回答】

※問 12 で「参加したいと思わない」と回答した場合

#### <単純集計>

参加したくない理由については、約 60%の事業者が経営内容との関係や収益につながらないことを理由としている。

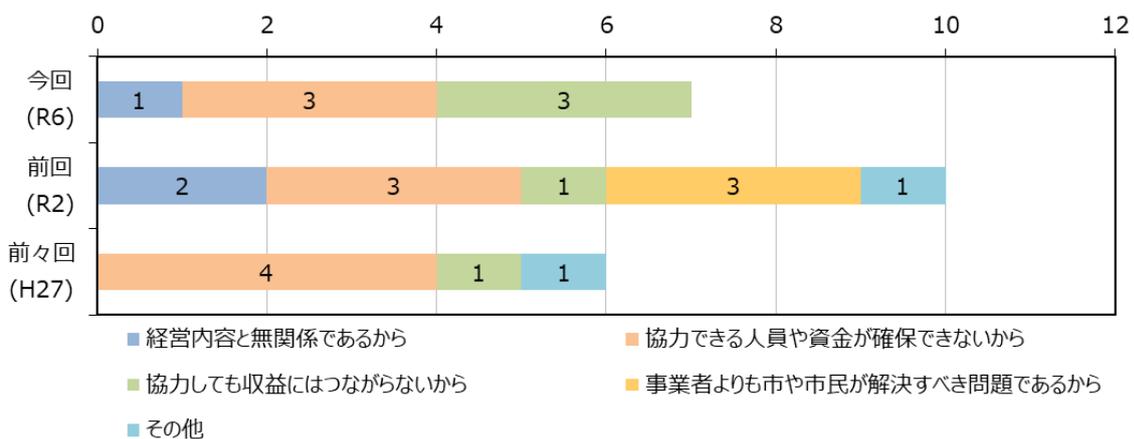


N = 7

図 3-4-40 問 13 の単純集計結果

#### <経年比較>

「参加したくない」と回答した事業者数が少ないため、参加したくない理由は年によって異なるが、人員や資金の確保が主な課題と考えられる。



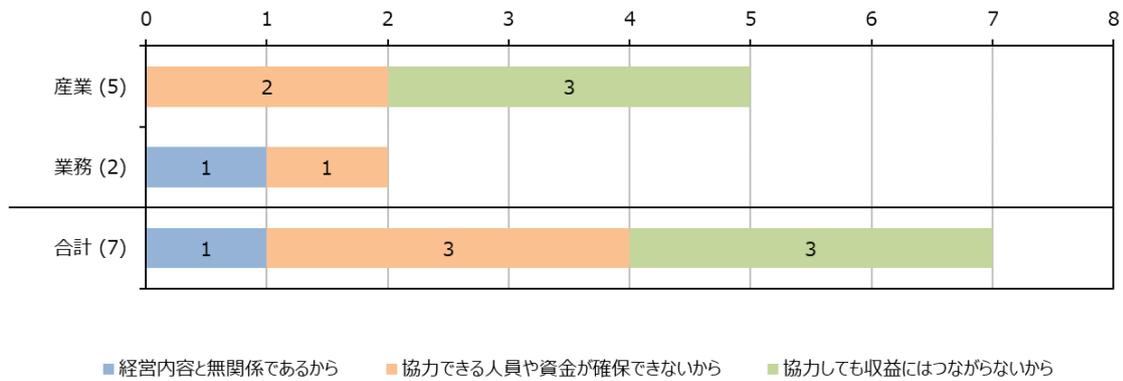
有効回答者数：今回7 前回10 前々回6

図 3-4-41 問 13 の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

部門別では、産業部門では「協力できる人員や資金が確保できないから」の他に、「協力しても収益には繋がらないから」と回答した事業者が見られ、環境づくり活動への参加によるメリット等の啓発が課題となる。



( )内数値：有効回答者数

図 3-4-42 問 13 のクロス集計結果（部門別）

問 14 市民や事業者が白岡市の環境づくりに参加するために、市が重点的に取り組むべきこと  
【単独回答】

<単純集計>

どの選択肢も一定以上の要望があり、情報公開や支援事業等を幅広く取り組んでいくことが求められている。

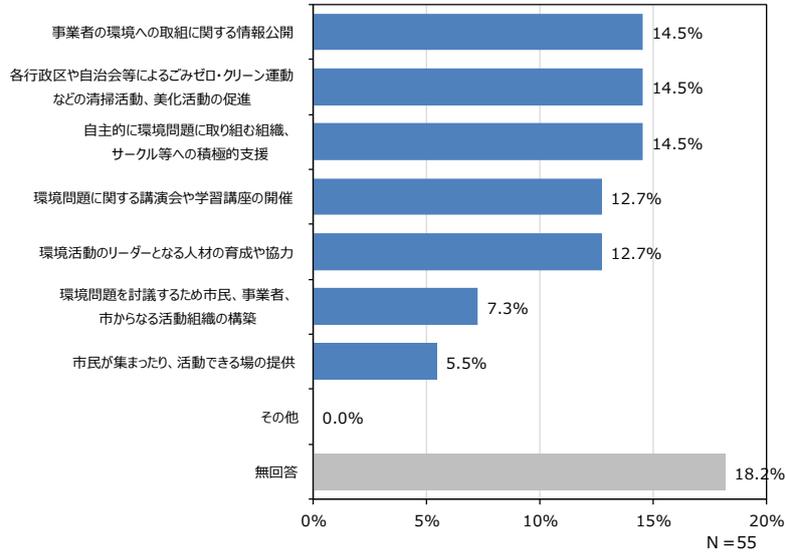


図 3-4-43 問 14 の単純集計結果

<経年比較>

「各行政区や自治会等によるごみゼロ・クリーン運動などの清掃活動、美化活動の促進」について、前回から得票率が大幅に減少している。

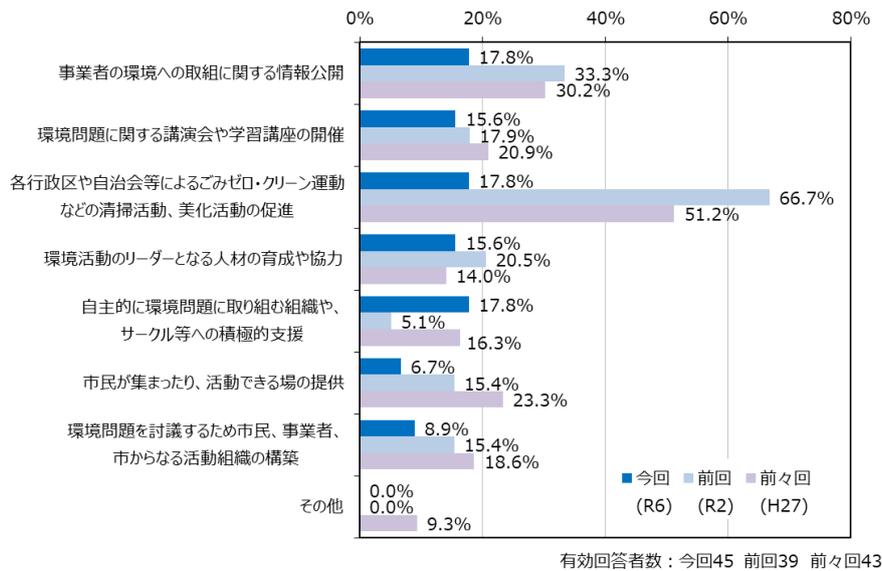
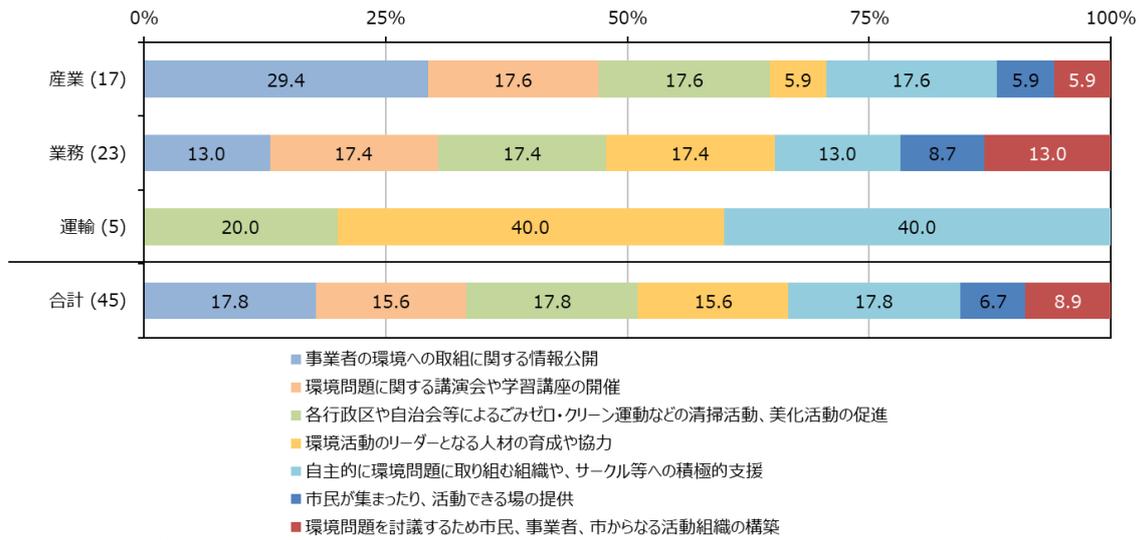


図 3-4-44 問 14 の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

産業部門では、「事業者の環境への取組に関する情報公開」と回答した事業者の割合が高い。運輸部門では「環境活動のリーダーとなる人材の育成や協力」と回答した事業者の割合が高い。



( )内数値：有効回答者数

図 3-4-45 問 14 のクロス集計結果（部門別）

問 15 脱炭素化の取組を推進する上で、市に期待する施策【複数回答（3 つまで）】

＜単純集計＞

「次世代自動車（ハイブリッド車、電気自動車等）の導入に対する補助金制度等による支援」、  
 「再エネ（太陽光発電、バイオマス資源等）の導入に対する補助金制度等による支援」といっ  
 た、市民と同様に補助制度の導入が期待されている。

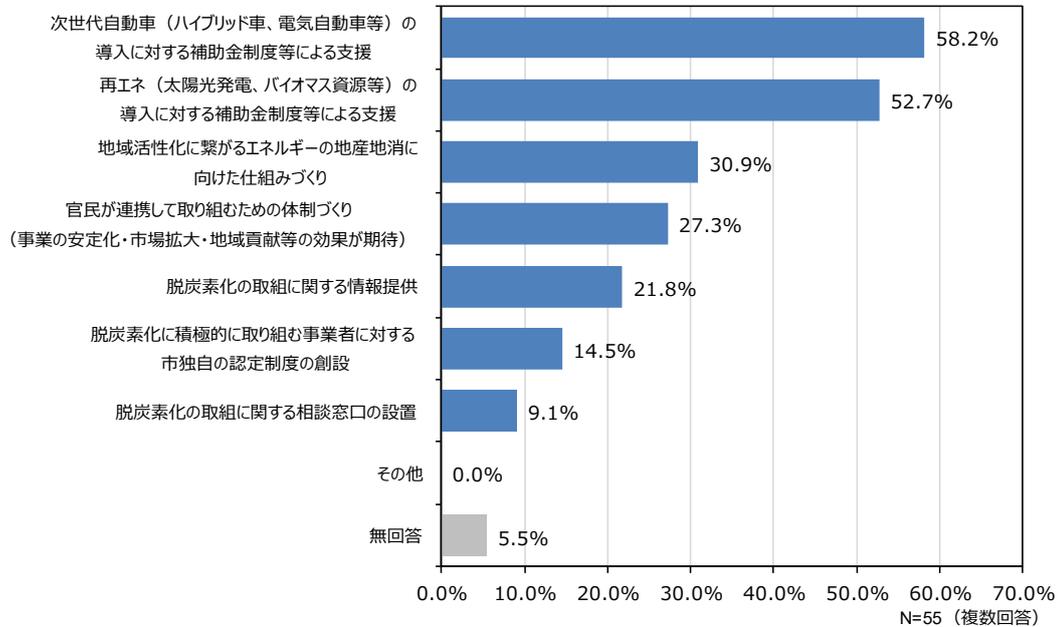
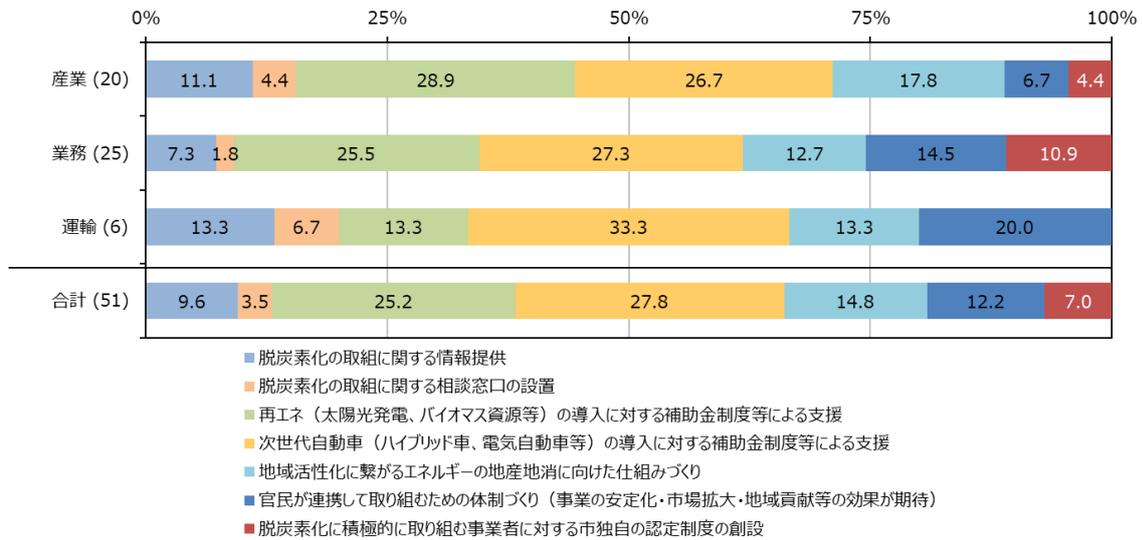


図 3-4-46 問 15 の単純集計結果

<クロス集計>

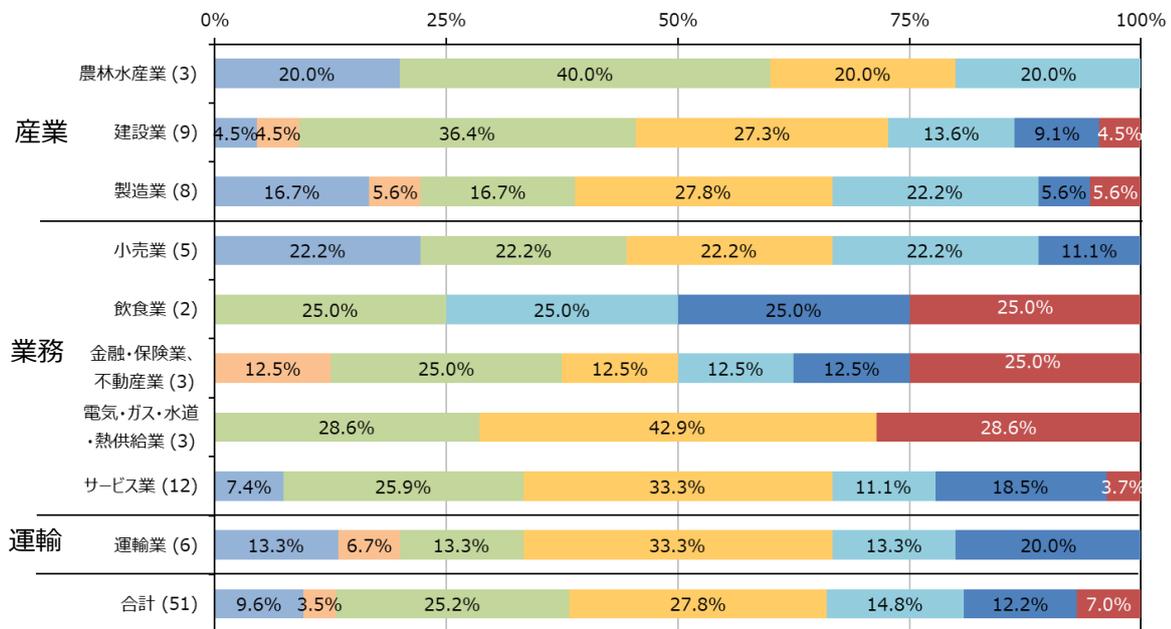
■部門別クロス集計

部門別では、「再エネ（太陽光発電、バイオマス資源等）の導入に対する補助金制度等による支援」に関しては全ての業種で回答した事業者の割合が高く、「次世代自動車（ハイブリッド車、電気自動車等）の導入に対する補助金制度等による支援」は飲食業を除く全ての業種で回答した事業者の割合が高い。



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 3-4-47 問 15 のクロス集計結果（部門別）



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 3-4-48 問 15 のクロス集計結果（部門別,詳細版）

問 16 白岡市の環境を守り改善していくために望ましい役割分担【単独回答】

<単純集計>

45.5%の事業者が「市民、事業者、市がそれぞれの責任を果たすとともに、三者が協力しながら環境を守り、育てる」と回答しており、市民、事業者、市の三者協力を求めている。また、「市が主体となって環境を守るための仕事をし、事業者と市民は協力する」ことも求められており、環境を守り改善していく上で三者の協力が重要となる。

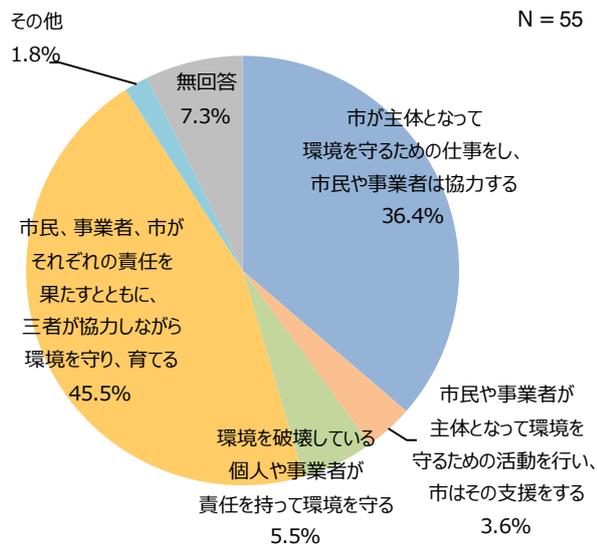


図 3-4-49 問 16 の単純集計結果

<経年比較>

過去 3 回とも、三者の協力が求められており、各主体が取り組んでいく必要があるとの認識が広がっていることが伺える。



- 市が主体となって環境を守るための仕事をし、市民や事業者は協力する
- 市民や事業者が主体となって環境を守るための活動を行い、市はその支援をする
- 環境を破壊している個人や事業者が責任を持って環境を守る
- 市民、事業者、市がそれぞれの責任を果たすとともに、三者が協力しながら環境を守り、育てる
- その他

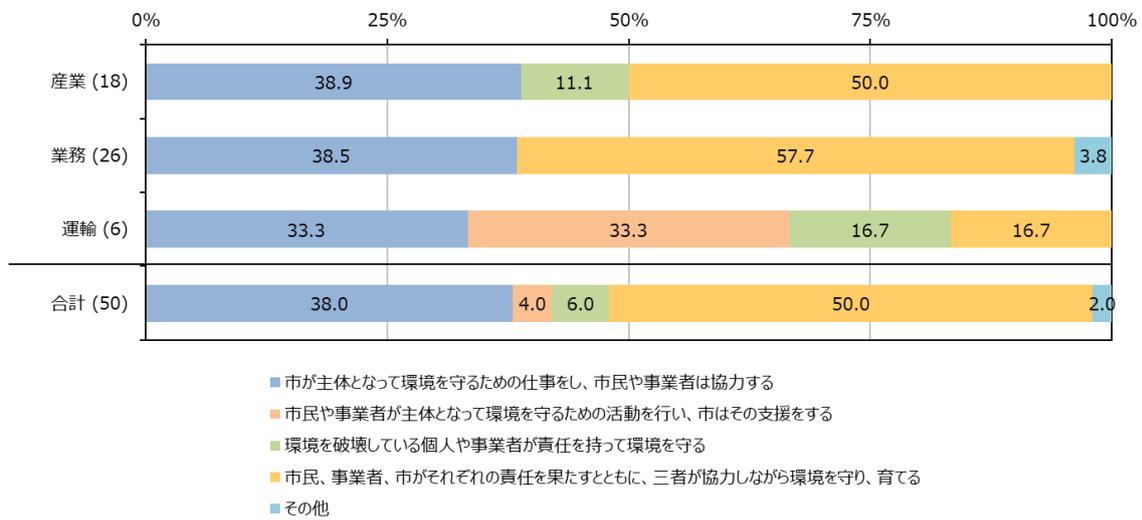
有効回答者数：今回 51 前回 47 前々回 49

図 3-4-50 問 16 の過年度比較

<クロス集計>

■部門別クロス集計

部門別では、運輸部門では「市民や事業者が主体となって環境を守るための活動を行い、市はその支援をする」と回答した事業者の割合が高い。



( )内数値：有効回答者数

図 3-4-51 問 16 のクロス集計結果（部門別）

(5) 市の環境行政の在り方について

問 17 白岡市の環境基本条例や環境基本計画の認知度【単独回答】

<単純集計>

市民アンケートと比較し、「名前は知っているが内容は知らない」と回答した事業者の割合が高いが、「名前も内容も知っている」は市民と同程度であり、施策等の具体的な内容に関する情報発信が課題となる。

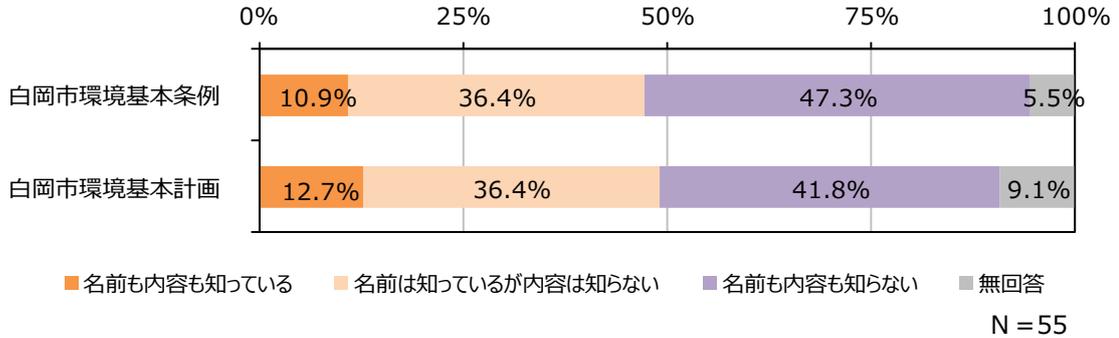
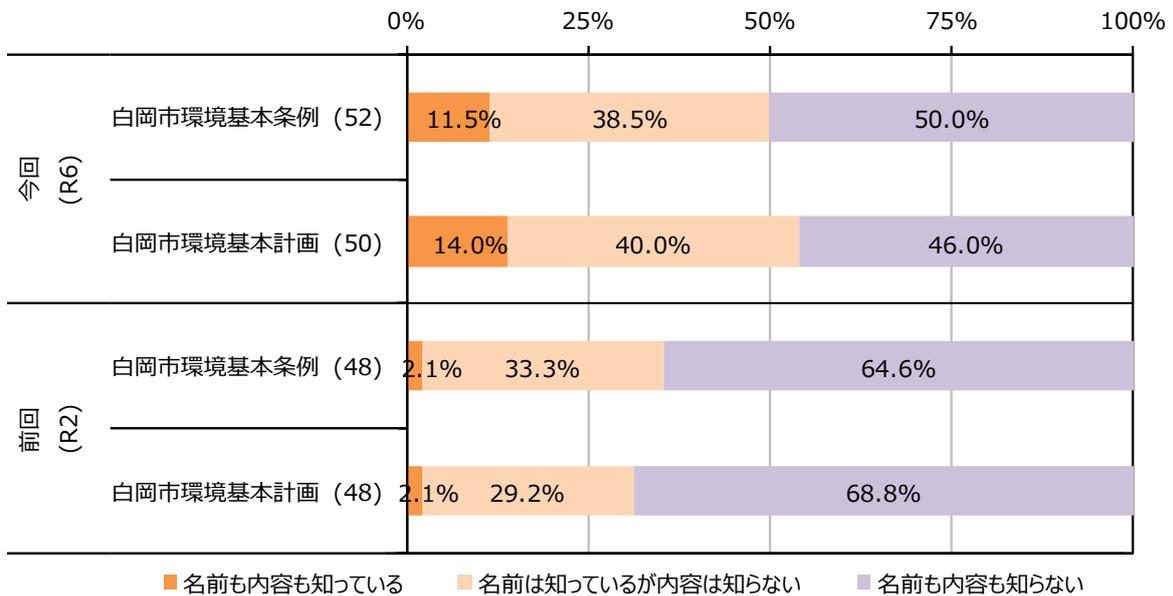


図 3-4-52 問 17 の単純集計結果

<経年比較>

前回と比較し、「名前も内容も知っている」と回答した事業者の割合が増加している。



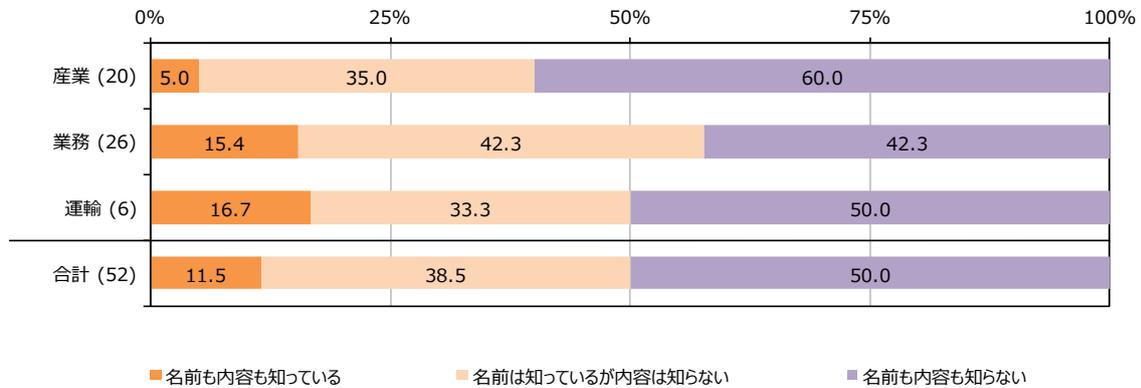
( ) 内数値：有効回答者数

図 3-4-53 問 17 の過年度比較

<クロス集計>

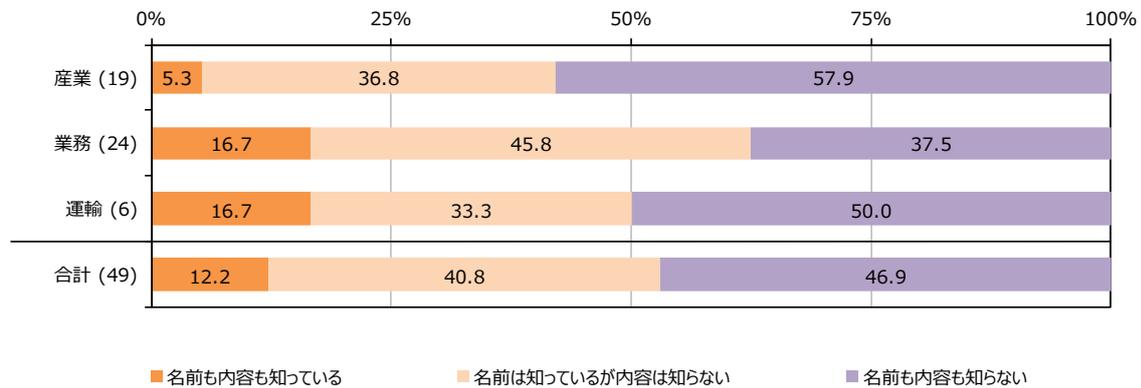
■部門別クロス集計

部門別では、環境基本計画、環境基本条例共に産業部門で「名前も内容も知っている」と回答した事業者の割合が低い。



( )内数値：有効回答者数

図 3-4-54 問 17 のクロス集計結果 (部門別,環境基本計画)



( )内数値：有効回答者数

図 3-4-55 問 17 のクロス集計結果 (部門別,環境基本条例)

問 18 環境基本計画の取組の効果【単独回答】

<単純集計>

ほとんどの項目で「よくわからない」が50%近く占めており、施策の効果に関する情報の周知が課題となる。「3R（リユース、リデュース、リサイクル）の推進」、「まちの安全対策の推進」、「歴史・文化の保護」、「環境美化活動の推進」に関しては、「効果があったと思う」と回答した割合が、「効果があったとは思えない」よりも高い。一方、「騒音・振動の防止」、「すぐれた景観の確保」、「健全な生物多様性の保全」、「快適でくつろげる空間の確保」については「効果があったとは思えない」と回答した割合の方が「効果があったと思う」と回答した割合が15%以上多い。

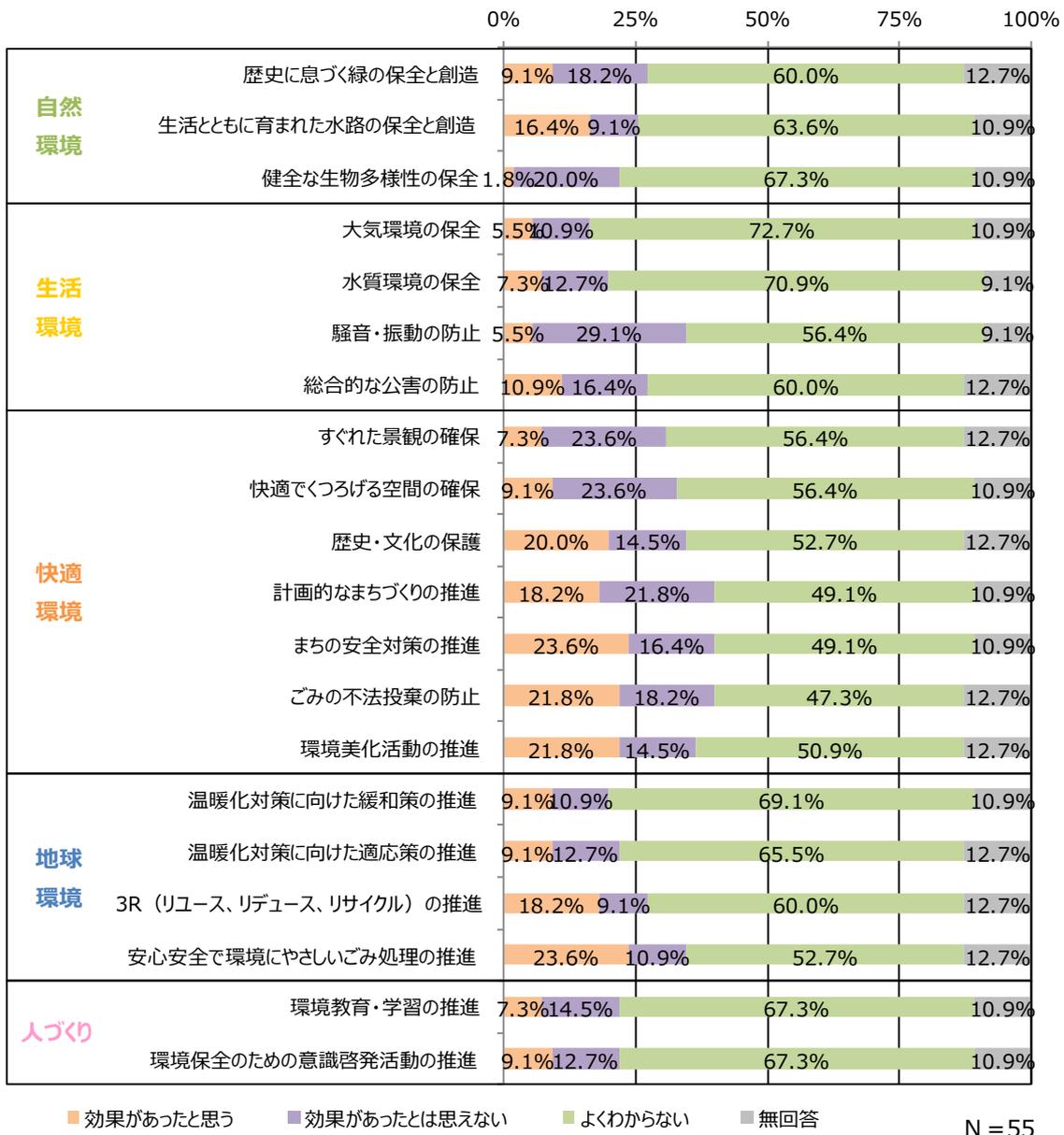
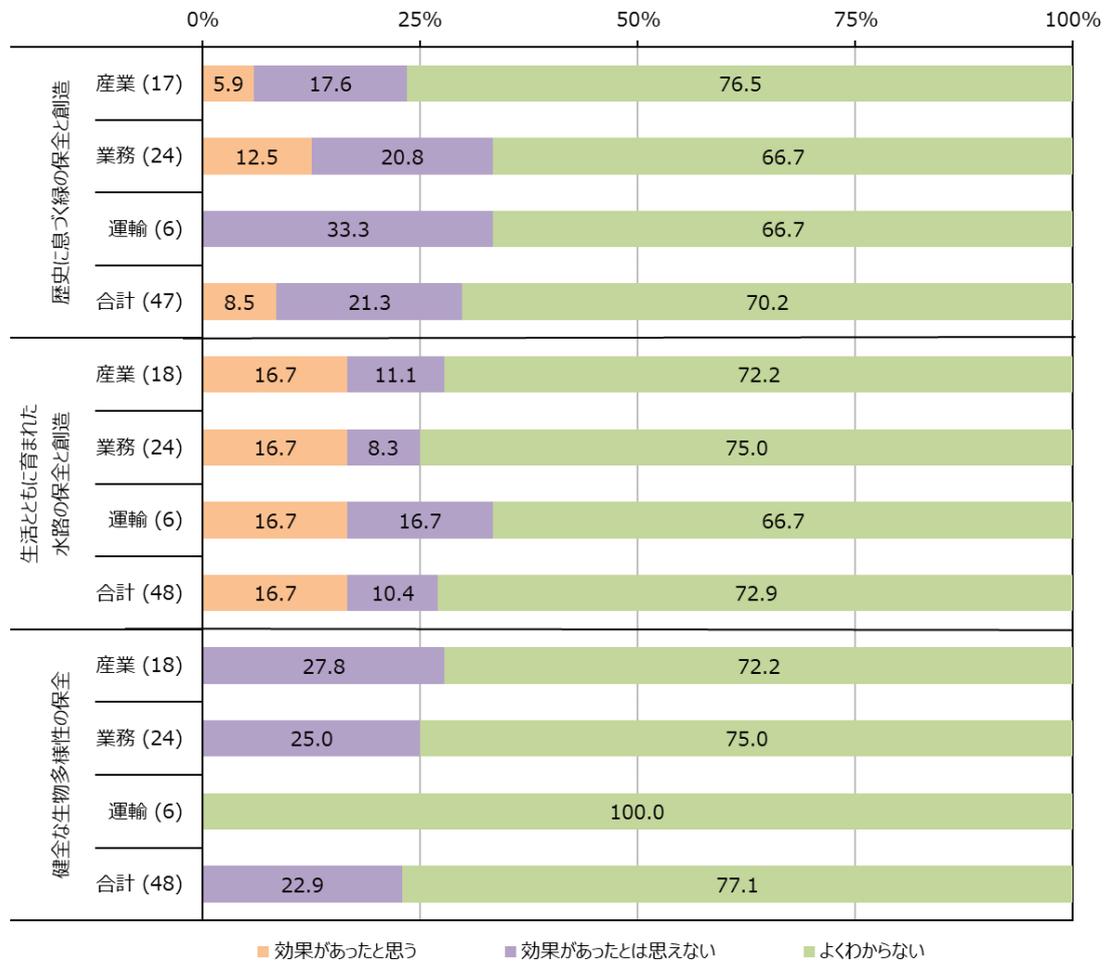


図 3-4-56 問 18 の単純集計結果

<クロス集計>

■部門別クロス集計

部門別では、自然環境については、健全な生物多様性の保全で「効果があったと思う」と回答した事業者がない。



( )内数値：有効回答者数

図 3-4-57 問 18 のクロス集計結果 (部門別,自然環境)

生活環境では、「水質汚染の保全」について、業務部門で「効果があったと思う」と回答した事業者が無く、「効果があったとは思えない」と回答した事業者の割合が高い。「総合的な公害の防止」では、産業部門で「効果があったとは思えない」と回答した事業者の割合が高い。

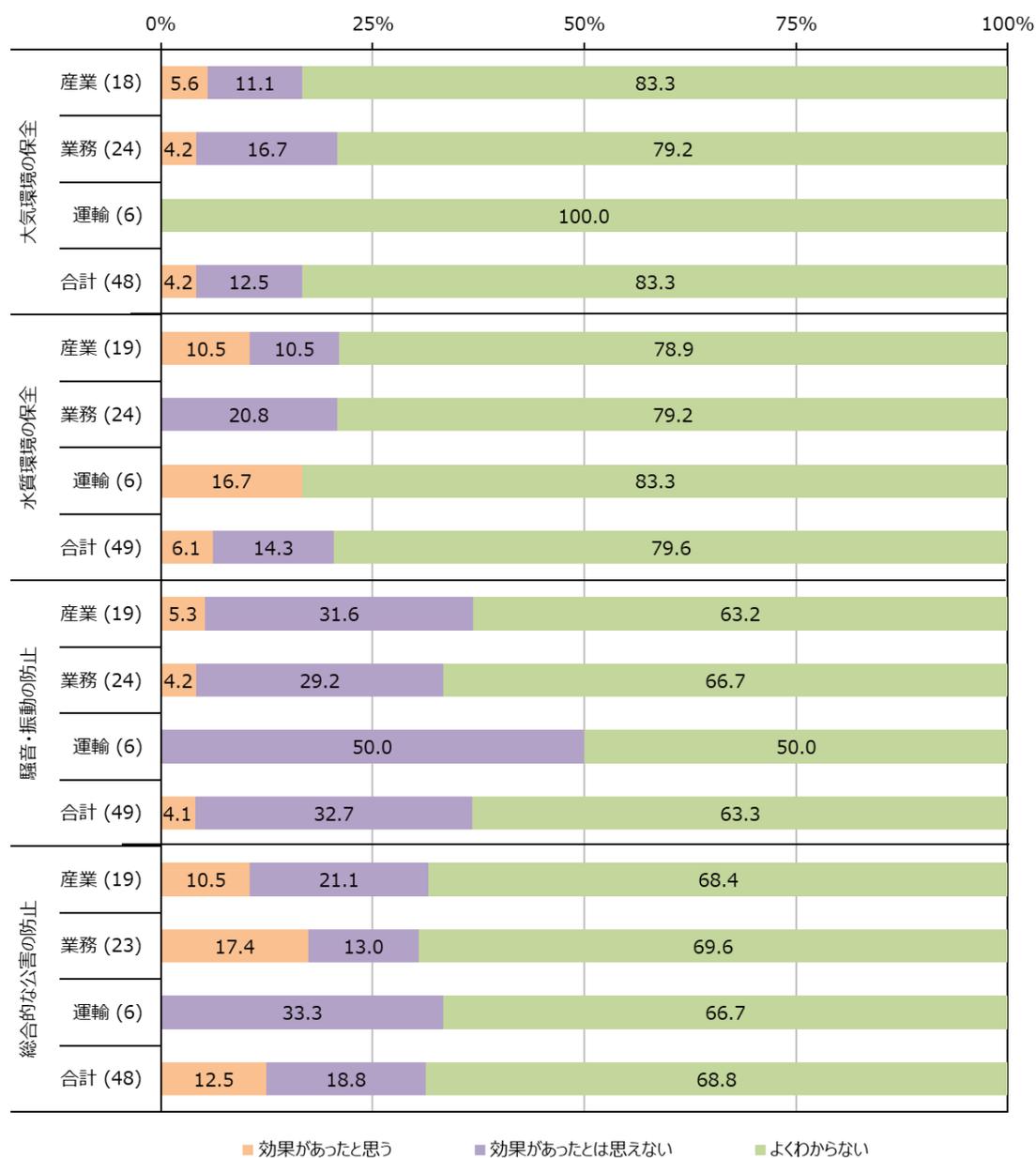
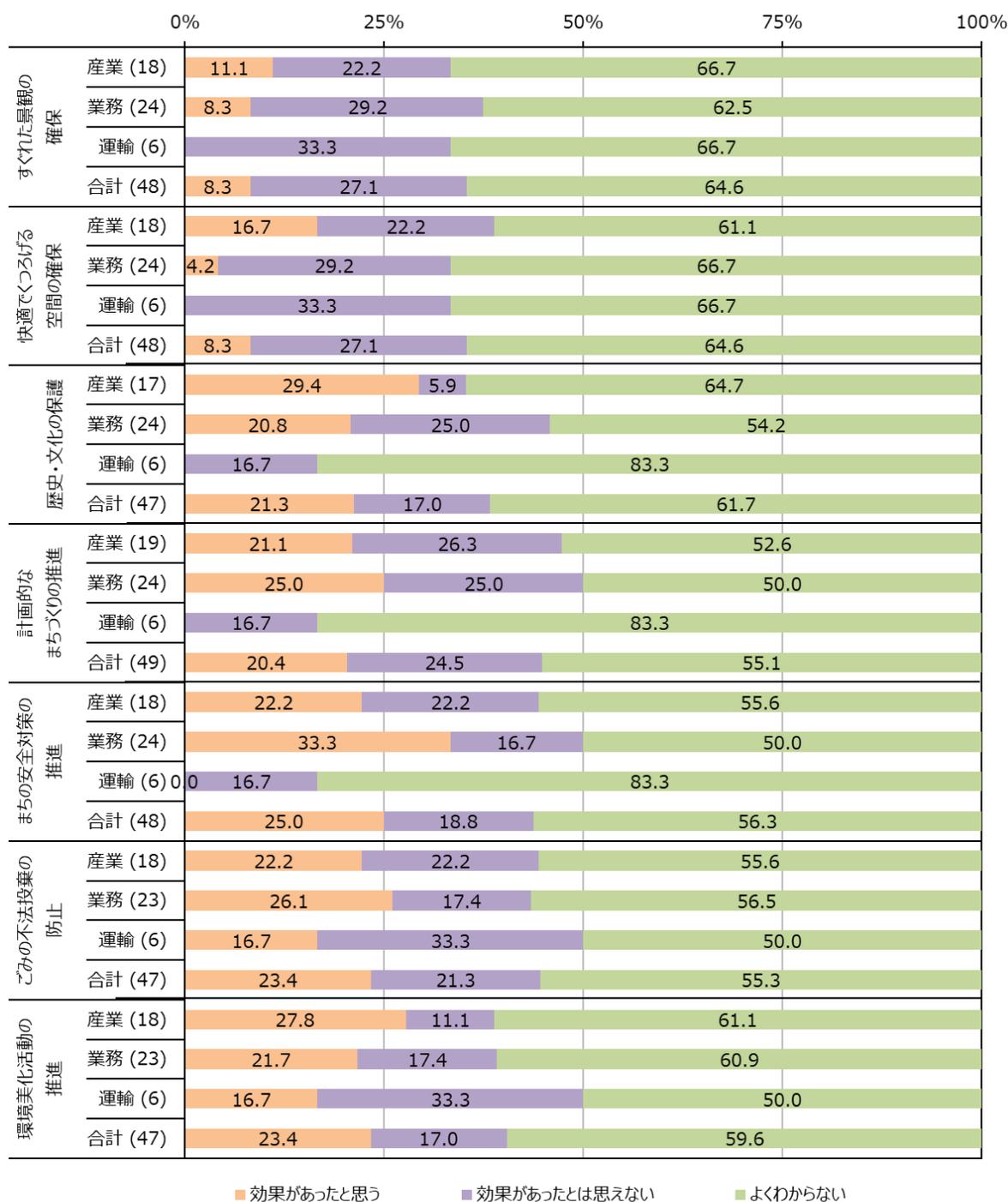


図 3-4-58 問 18 のクロス集計結果（部門別,生活環境）

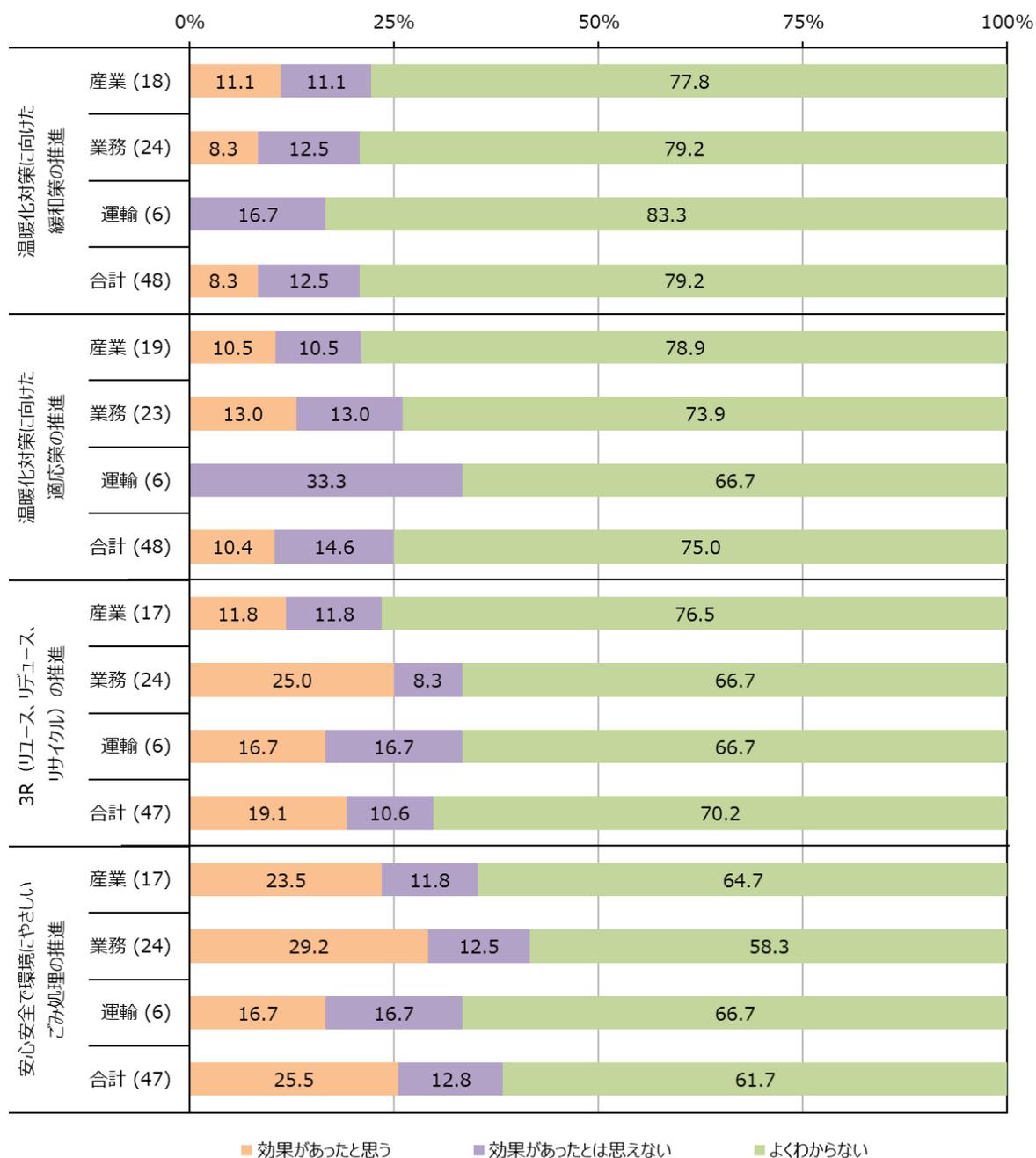
快適環境では、「快適でくつろげる空間の確保」で業務部門の「効果があったと思う」と回答した事業者の割合が低い。運輸部門では、「ごみの不法投棄の防止」、「環境美化活動の推進」を除くすべての施策で「効果があったと思う」と回答した事業者がいない。



( )内数値：有効回答者数

図 3-4-59 問 18 のクロス集計結果 (部門別,快適環境)

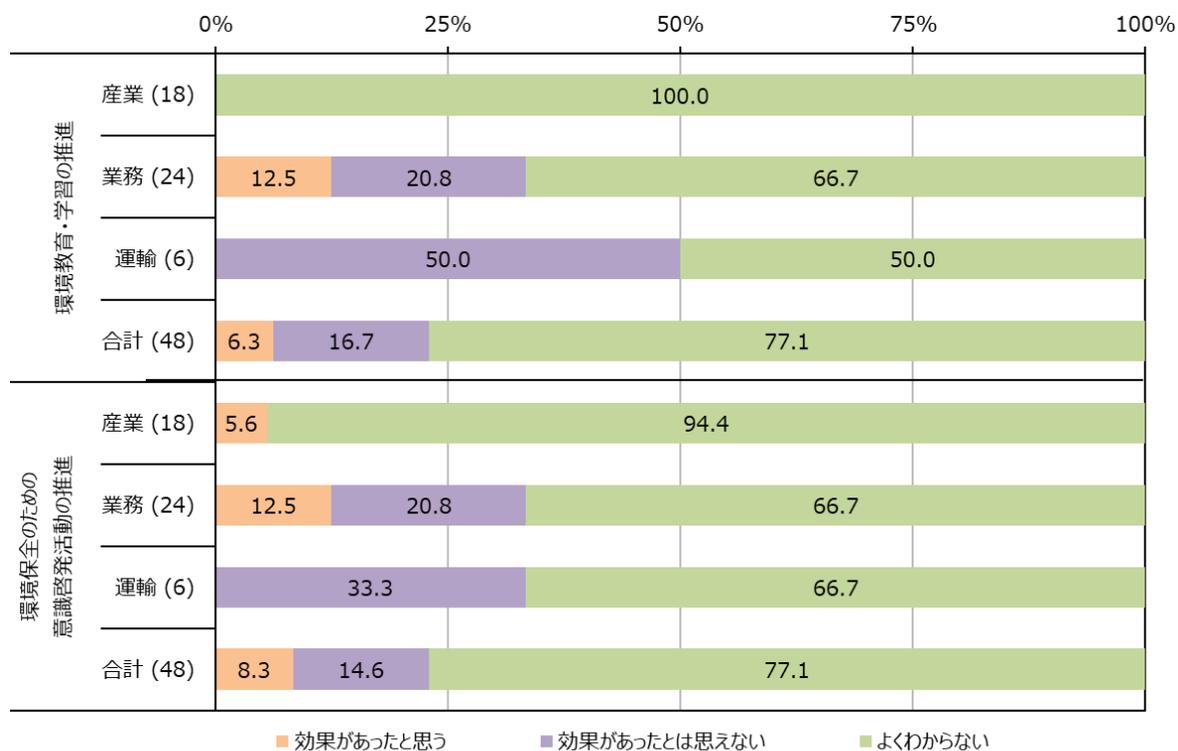
地球環境では、温暖化対策に向けた緩和策の推進、適応策の推進において、運輸部門では「効果があったと思う」と回答した事業者がいない。



( )内数値：有効回答者数

図 3-4-60 問 18 のクロス集計結果 (部門別,地球環境)

人づくりでは、産業部門で「効果があったと思う」と回答した事業者の割合が低く、ほとんどが「よくわからない」と回答している。運輸部門では、「効果があったと思う」と回答した事業者がいない。



( )内数値：有効回答者数

図 3-4-61 問 18 のクロス集計結果 (部門別,人づくり)

問 19 重点的に取り組むべき環境基本計画の施策【複数回答（3 つまで）】

<単純集計>

「計画的なまちづくりの推進」が最も多く、次いで「ごみの不法投棄の防止」、「生活とともに育まれた水路の保全と創造」となった。市民と同様に上位には快適環境や水環境に関する施策が多いが、「温暖化に向けた緩和策の推進」や「安心安全で環境にやさしいごみ処理の推進」といった事業継続に関わる地球環境に関心が高い。一方で、緩和策や大気環境の保全、人づくりに関する施策について下位となっており、これらの分野に関する施策の周知や事業者の関心の向上が課題となる。

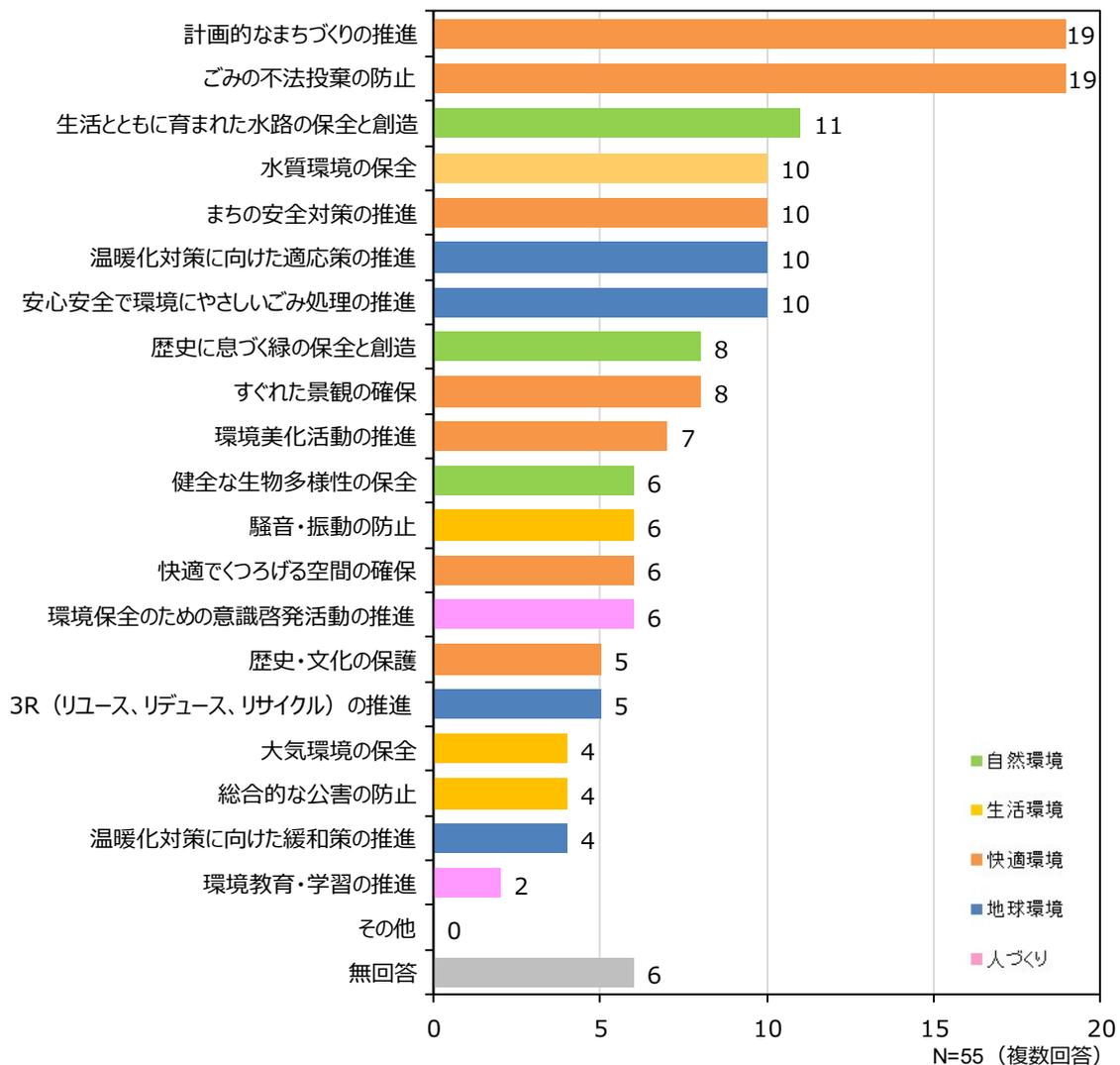
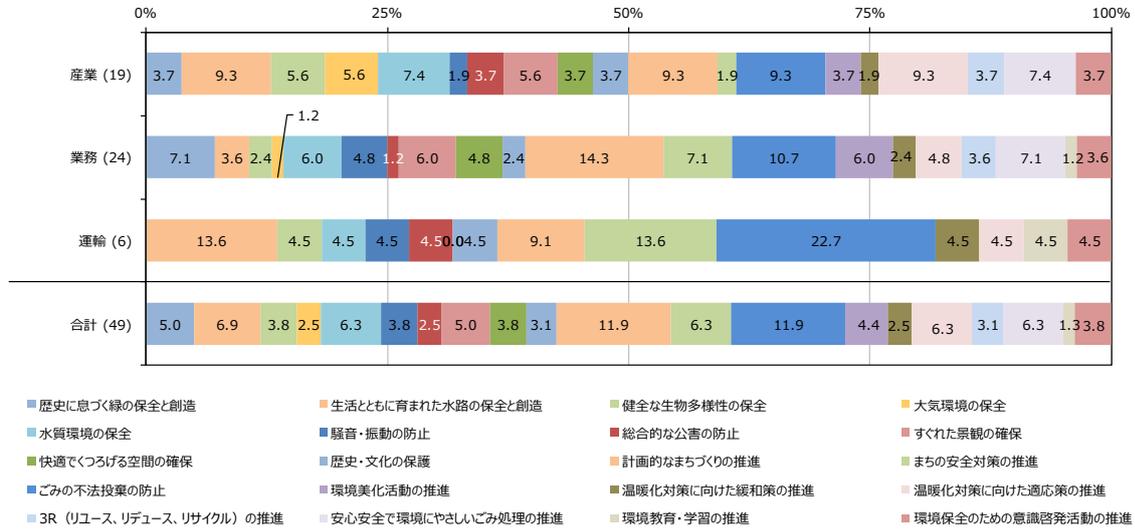


図 3-4-62 問 19 の単純集計結果

<クロス集計>

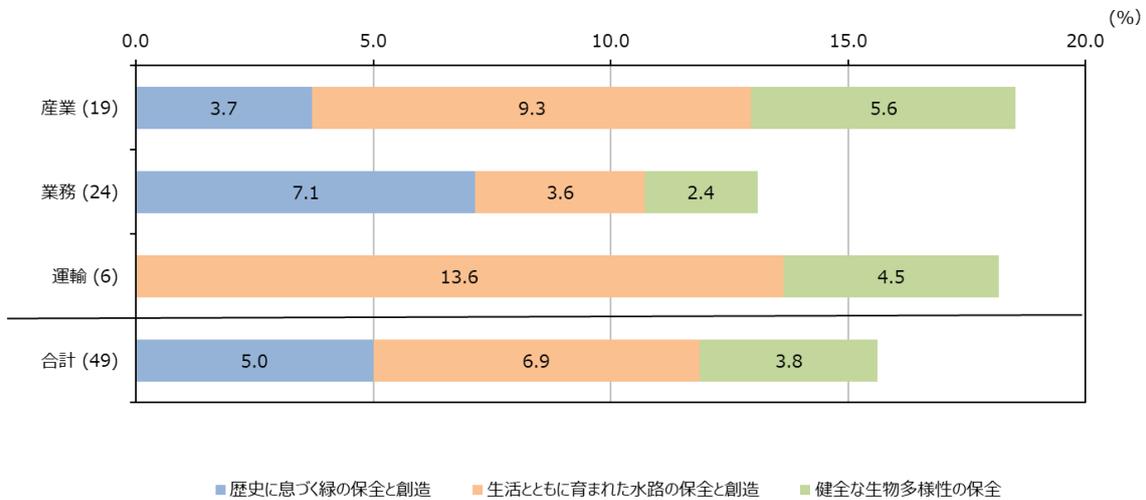
■部門別クロス集計

部門別では、自然環境に着目すると、運輸部門では、「歴史に息づく緑の保全と創造」と回答した事業者がない。



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

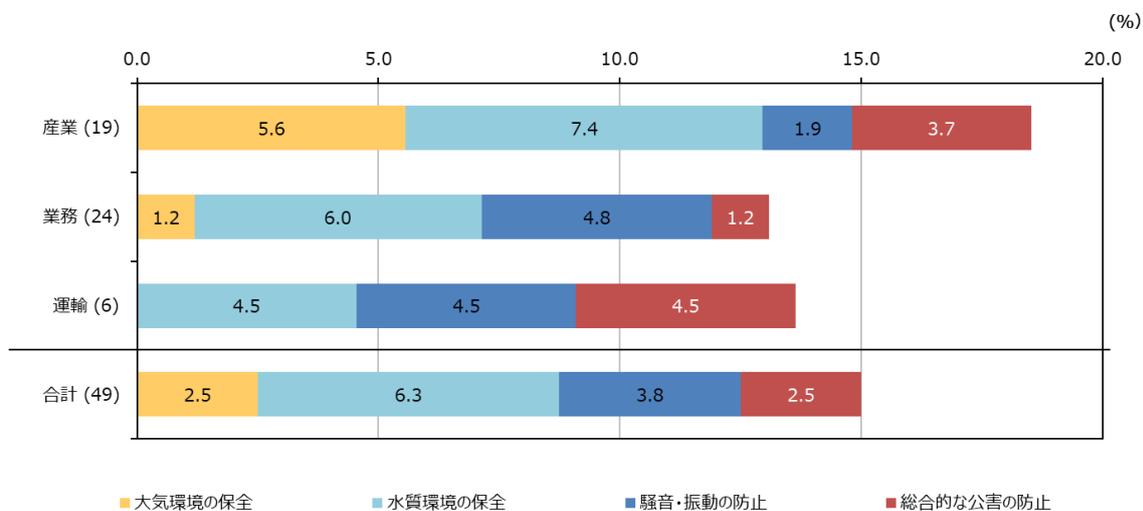
図 3-4-63 問 19 のクロス集計結果（部門別）



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

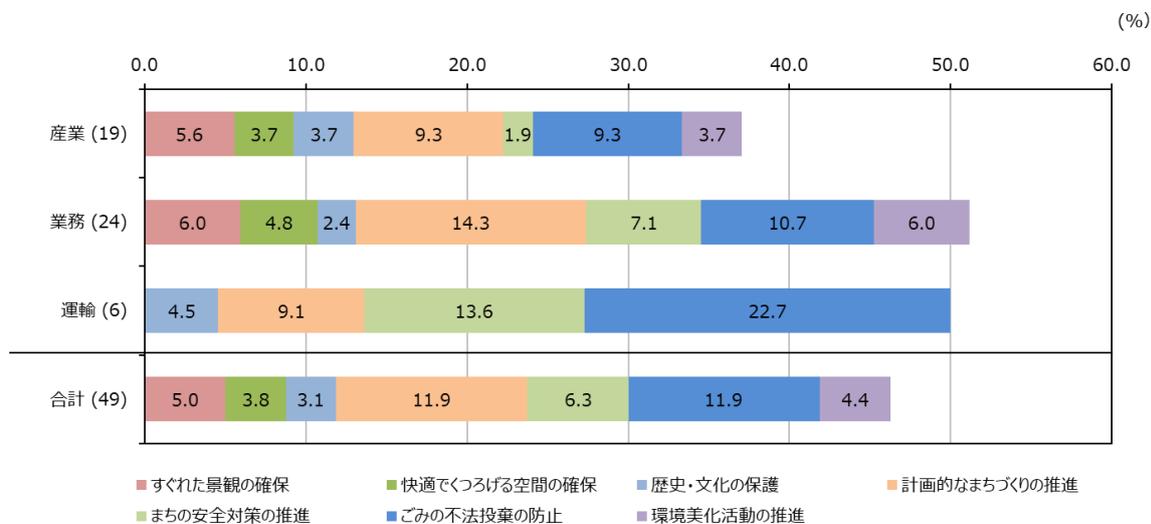
図 3-4-64 問 19 のクロス集計結果（部門別,自然環境）

生活環境に着目すると、大気環境の保全で産業部門の回答率が高い。快適環境に着目すると、運輸部門では、ごみの不法投棄の防止と回答した事業者の割合が高い。



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

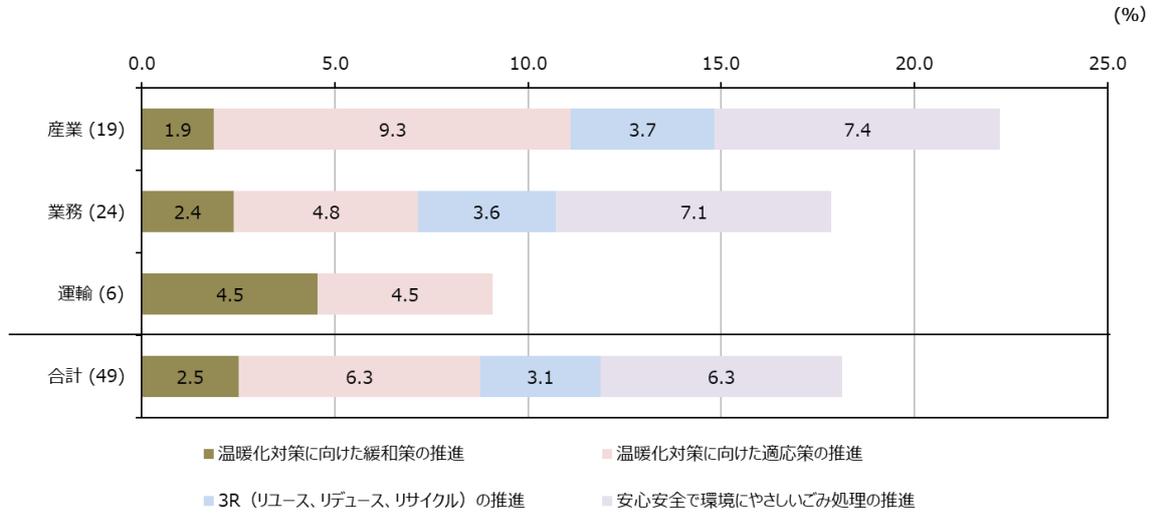
図 3-4-65 問 19 のクロス集計結果（部門別,生活環境）



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

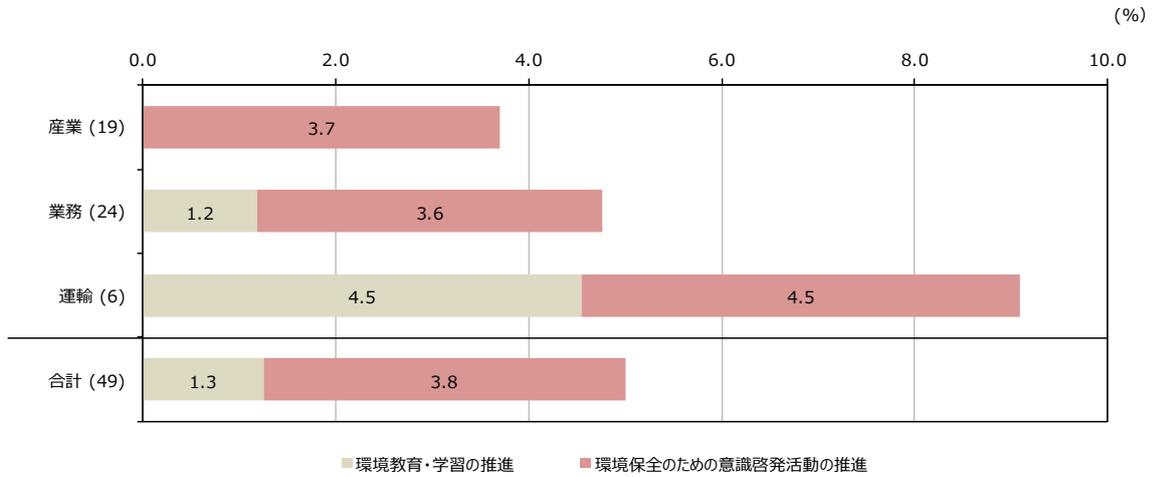
図 3-4-66 問 19 のクロス集計結果（部門別,快適環境）

地球環境に着目すると、適応策の推進については、産業部門で回答率が高い。また、人づくりに着目すると、産業部門では環境教育・学習の推進と回答した事業者はいない。



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 3-4-67 問 19 のクロス集計結果（部門別,地球環境）



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

図 3-4-68 問 19 のクロス集計結果（部門別,人づくり）

### ■環境基本計画の取組の効果（問 18）とのクロス集計

市民アンケートと同様に、環境基本計画のそれぞれの施策について、重要度と満足度の分布から、今後重点的に改善すべき施策やそのまま維持していくべき施策を分析するため、問 19 におけるそれぞれの施策の得票数を「重要度」、問 18 においてそれぞれの施策について「効果があったと思う」と回答した割合を「満足度」とし、それぞれの平均値を赤破線で示した。

下図より、おおむね市民アンケートと同様の傾向が得られたが、大気環境の保全、快適でくつろげる空間の確保については市民よりも満足度と重要度が下がり、適応策の推進、ごみ処理の推進については重要度が高い。

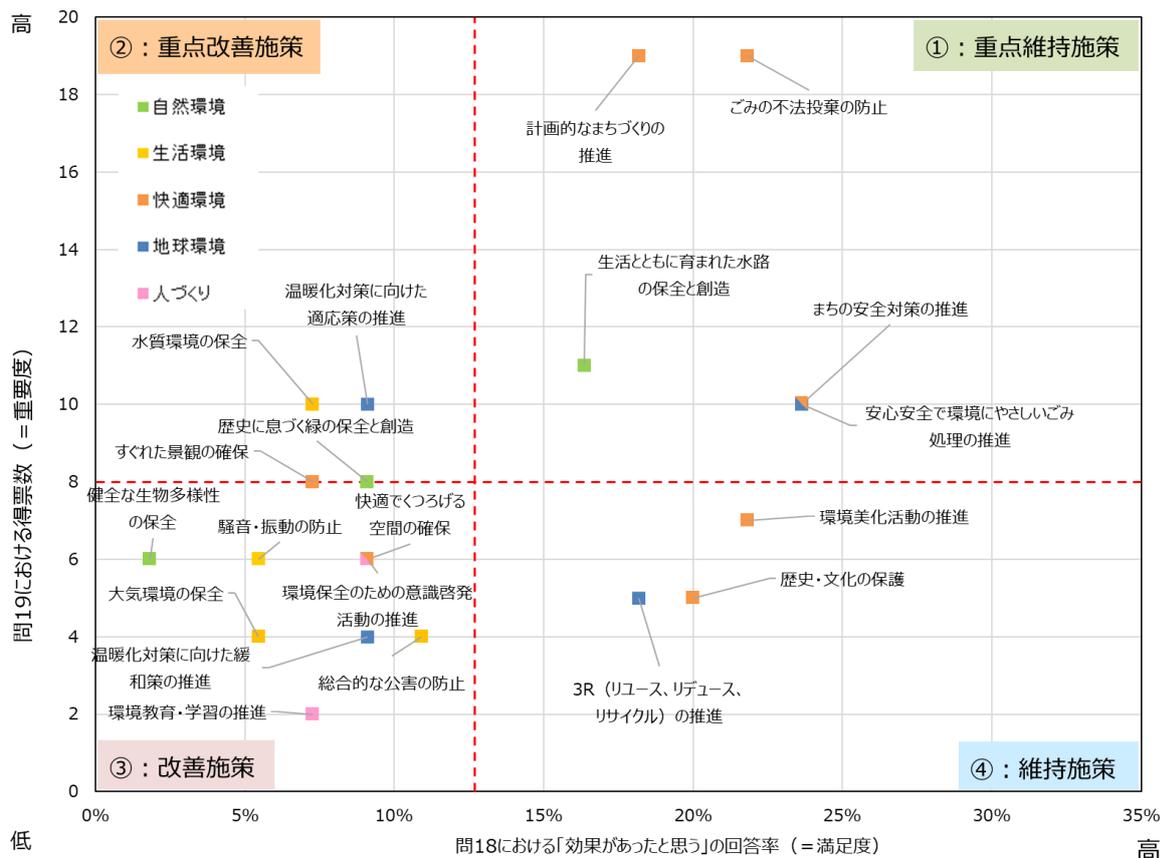


図 3-4-69 施策の満足度（問 18）と施策の重要度（問 19）のクロス集計結果

## (6) 地球温暖化対策について

### 問 20 省エネ機器や設備の導入状況【複数回答】

#### <単純集計>

「LED 照明や Hf 型照明などの高効率照明」は 69.1%、「空調・O A 機器などの省エネ型業務用機器」は 30.9%の事業者が設置している。また、「高性能ボイラーなどの高効率機器」や「コージェネレーション（熱電併給システム）」といったエネルギー消費量の多い業種業態向けの設備も少ないながらも導入されている。

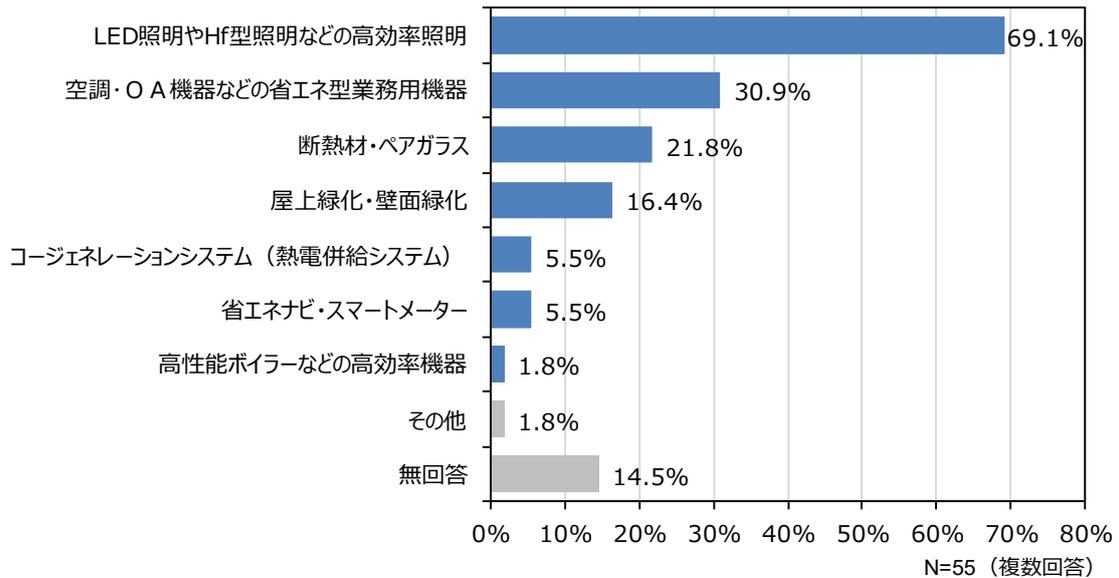
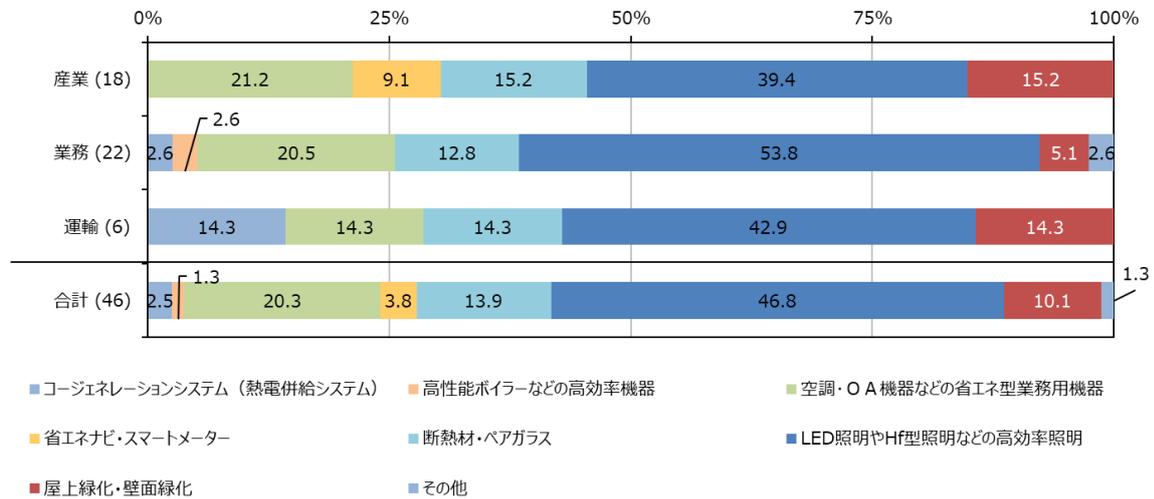


図 3-4-70 問 20 の単純集計結果

## <クロス集計>

### ■部門別クロス集計

部門別では、「高性能ボイラーなどの高効率機器」や「コージェネレーション（熱電併給システム）」といったエネルギー消費量の多い業種業態向けの設備は業務部門、運輸部門で導入されている。「省エネナビ・スマートメーター」は産業部門のみ設置している。



( )内数値：有効回答者数（複数回答）

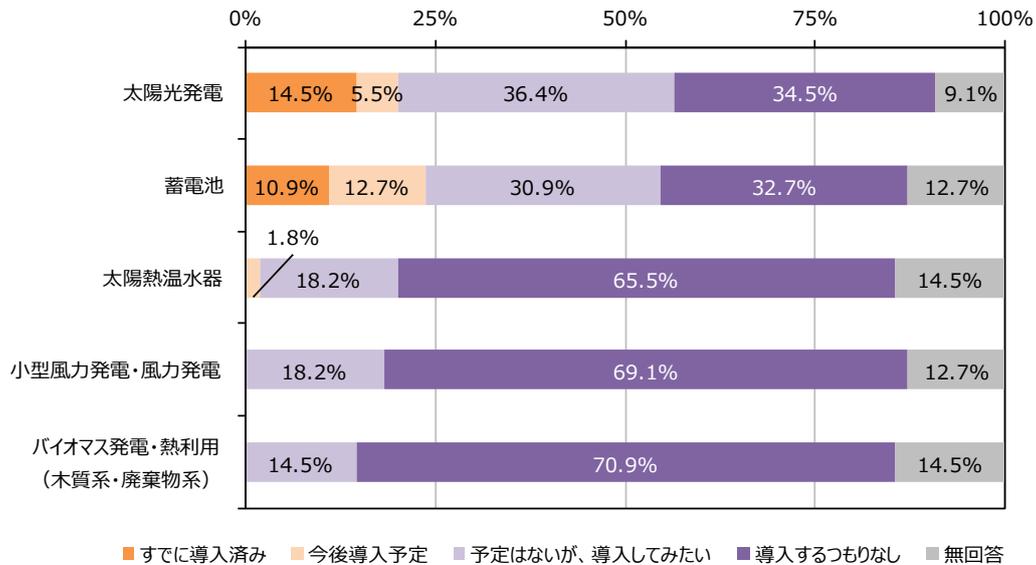
図 3-4-71 問 20 のクロス集計結果（部門別）

## 問 21 再エネ設備の導入状況【単独回答】

### <単純集計>

14.5%の事業者が太陽光発電を、10.9%の事業者が蓄電池を導入しているが、その他の設備の導入率は0%となっている。太陽光発電、蓄電池は30.9%の事業者が導入検討の意思を示しており、この層に補助制度などの周知を行うことが課題となる。

小型風力発電、バイオマス発電・熱利用については、初期投資額や燃料の調達が難しく、導入を計画している事業者は少ないが、15%程度の事業者が興味を示している。



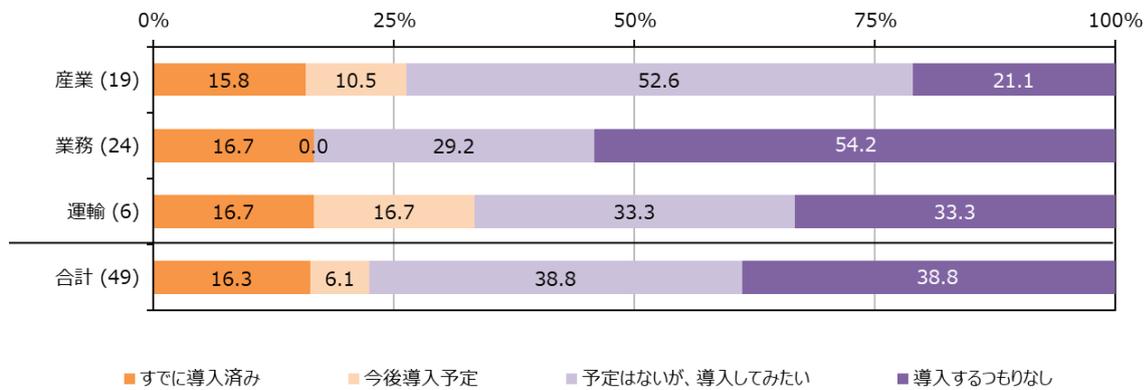
N = 55

図 3-4-72 問 21 の単純集計結果

## <クロス集計>

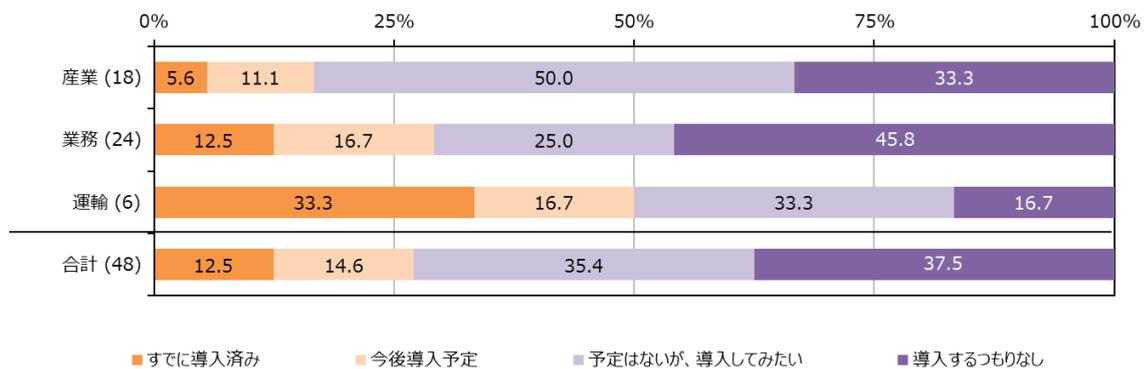
### ■部門別クロス集計

部門別では、蓄電池以外は大きな差異は見られなかったが、蓄電池では、業務部門、運輸部門で「すでに導入済み」と回答した事業者の割合が高い。



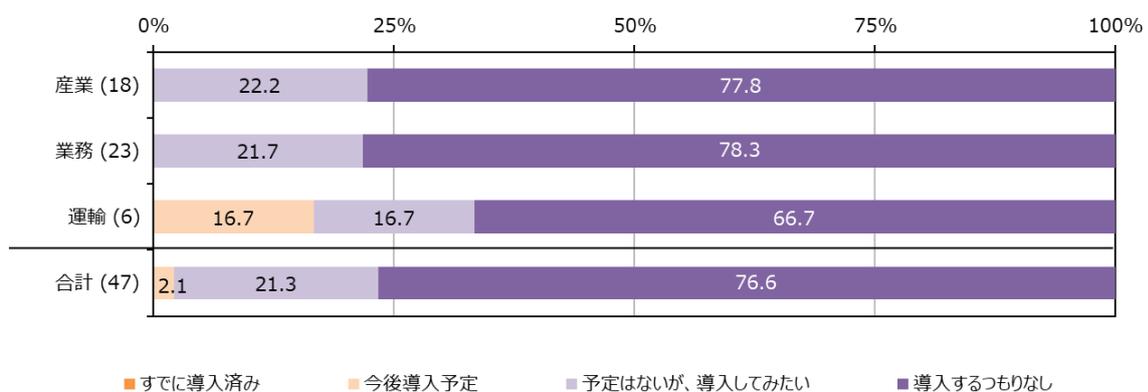
( )内数値：有効回答者数

図 3-4-73 問 21 (太陽光発電) のクロス集計結果 (部門別)



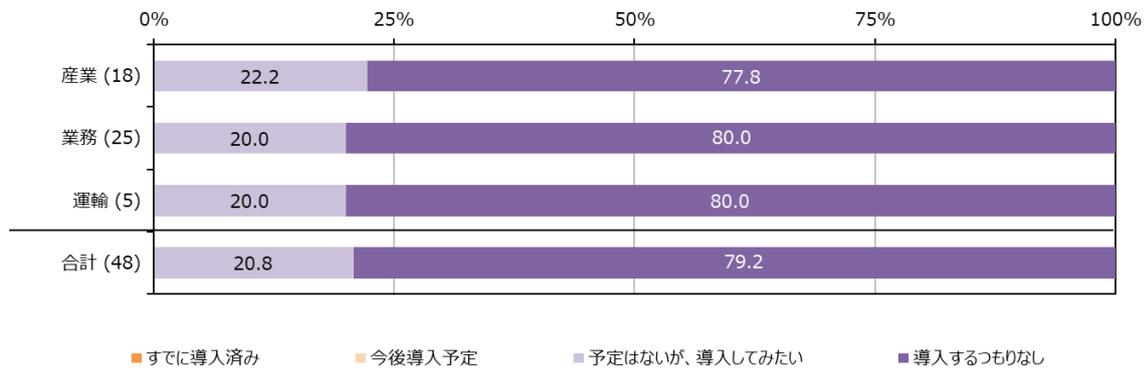
( )内数値：有効回答者数

図 3-4-74 問 21 (蓄電池) のクロス集計結果 (部門別)



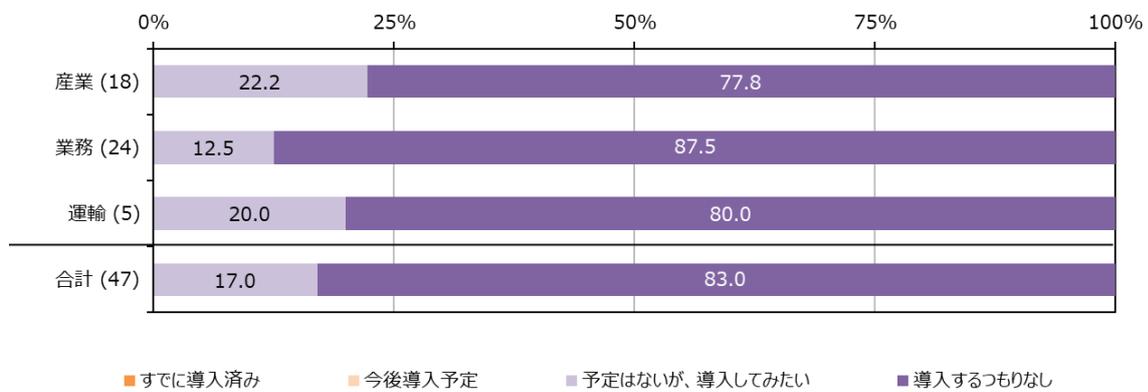
( )内数値：有効回答者数

図 3-4-75 問 21 (太陽熱温水器) のクロス集計結果 (部門別)



( )内数値：有効回答者数

図 3-4-76 問 21 (小型風力発電・風力発電) のクロス集計結果 (部門別)



( )内数値：有効回答者数

図 3-4-77 問 21 (バイオマス発電・熱利用) のクロス集計結果 (部門別)

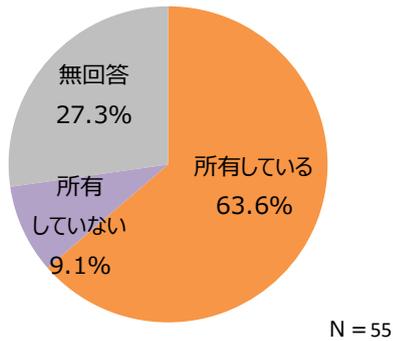
問 22 次世代自動車（ハイブリッド車、PHV・EV、FCV）への買い替えの意向

I. 所有状況

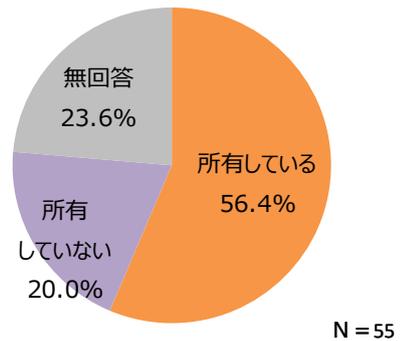
<単純集計>

ガソリン・ディーゼル車、ハイブリッド車の所有率は比較的高いが、産業用次世代自動車の普及の遅れもあり、電気自動車、燃料電池自動車といった次世代自動車の所有率は非常に低い。

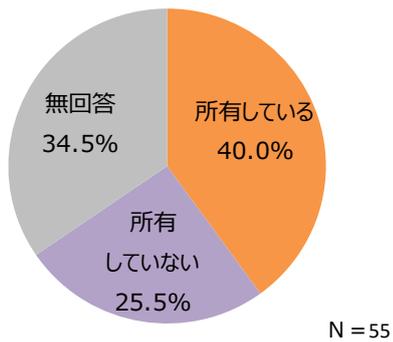
【ガソリン・ディーゼル車（普通）】



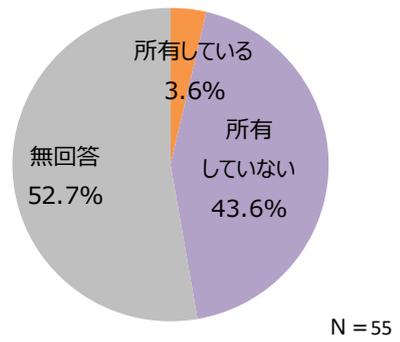
【ガソリン・ディーゼル車（軽）】



【ハイブリッド車】



【PHV・EV（電気自動車）】



【燃料電池自動車】

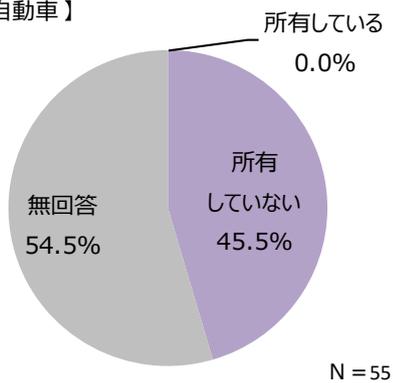
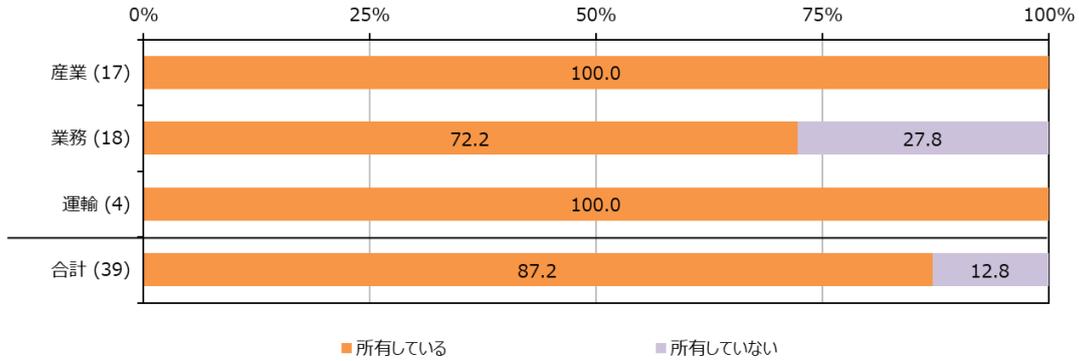


図 3-4-78 問 22-I の単純集計結果

<クロス集計>

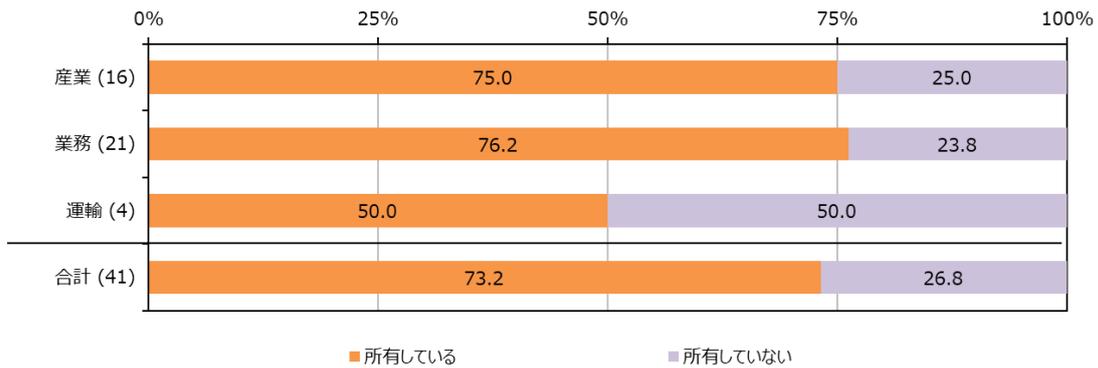
■部門別クロス集計

部門別では、大きな差異は見られなかったが、業務部門では電気自動車を所有していると回答した事業者はいない。



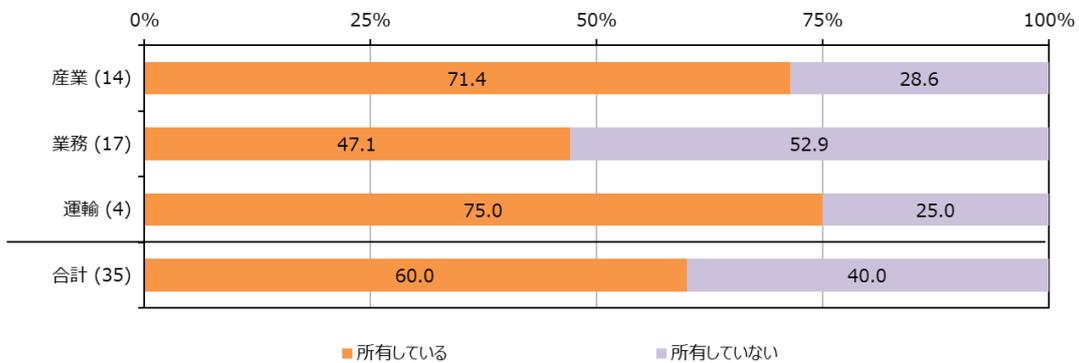
( )内数値：有効回答者数

図 3-4-79 問 22-I (ガソリン車(普通)) のクロス集計結果 (部門別)



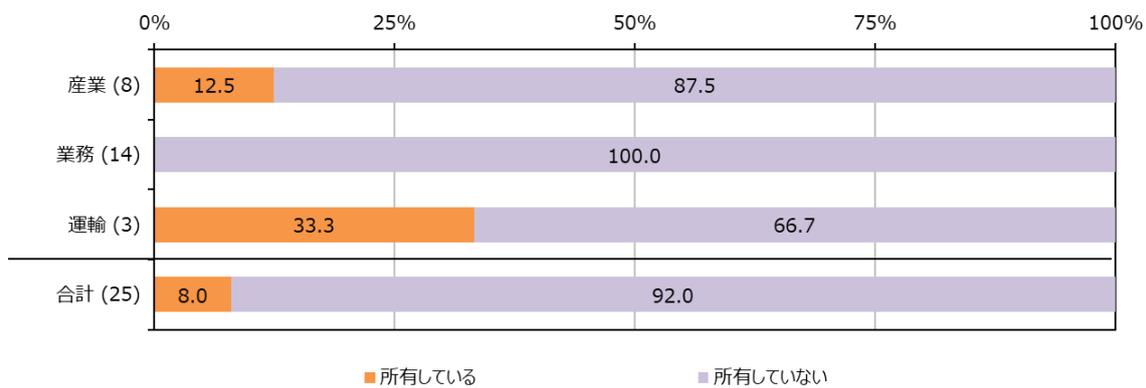
( )内数値：有効回答者数

図 3-4-80 問 22-I (ガソリン車(軽)) のクロス集計結果 (部門別)



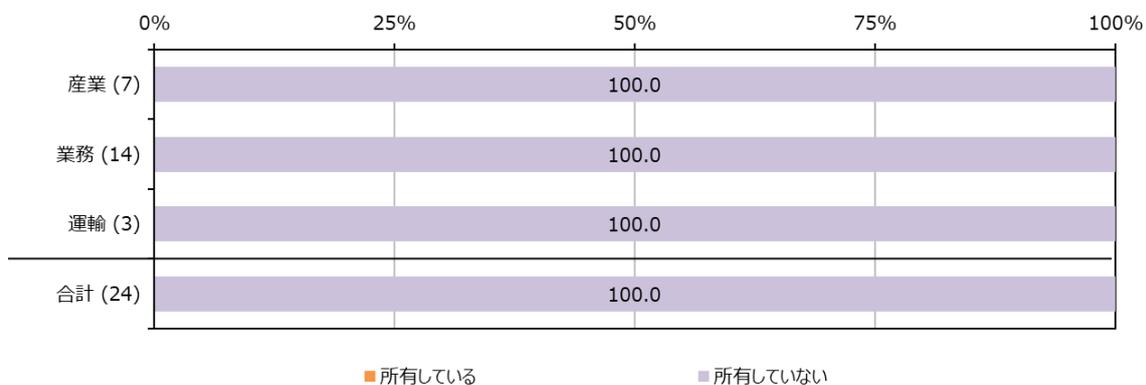
( )内数値：有効回答者数

図 3-4-81 問 22-I (ハイブリッド車) のクロス集計結果 (部門別)



( )内数値：有効回答者数

図 3-4-82 問 22-I (電気自動車) のクロス集計結果 (部門別)



( )内数値：有効回答者数

図 3-4-83 問 22-I (燃料電池自動車) のクロス集計結果 (部門別)

## II. 現在の保有台数と将来の予定台数【複数回答】

### <単純集計>

現在の保有台数では80%以上がガソリン・ディーゼル車であるのに対し、将来の保有台数ではハイブリッド車、電気自動車、燃料電池自動車の割合が増加しており、これらの次世代自動車の買い替えが進むと推測される。

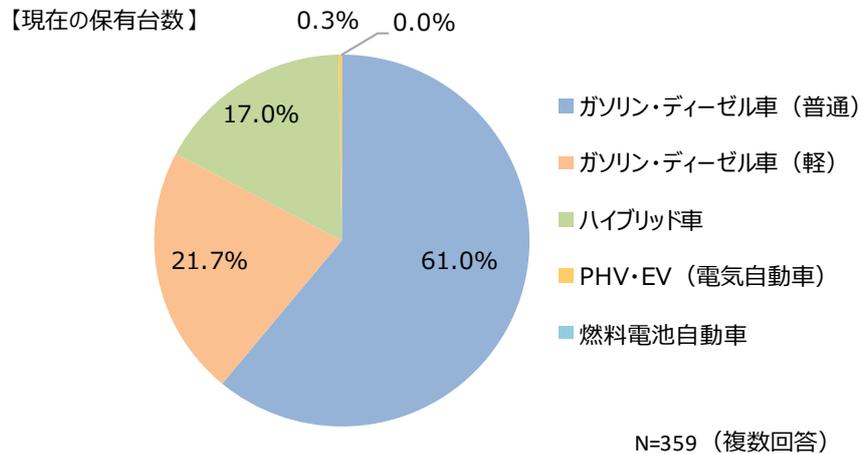


図 3-4-84 問 22-II の単純集計結果（現在の保有台数）

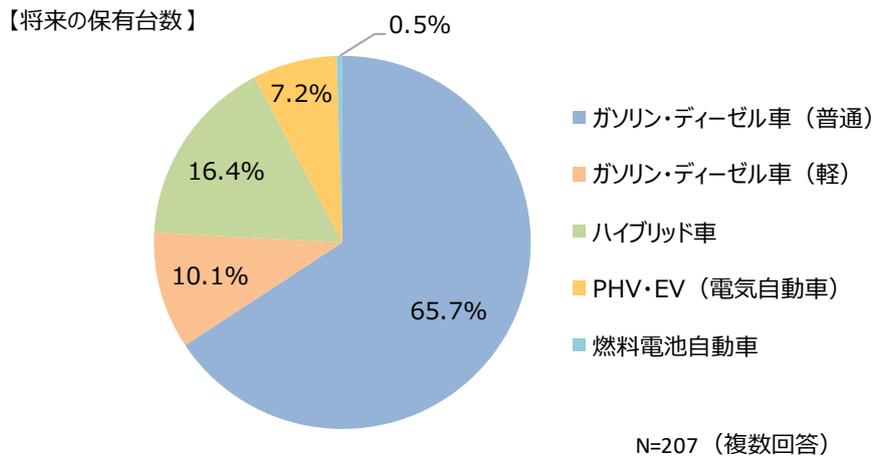


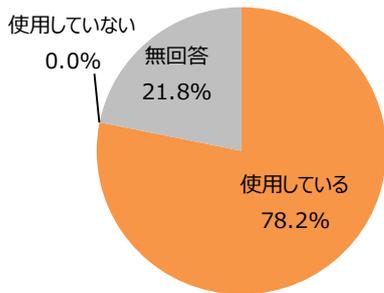
図 3-4-85 問 22-II の単純集計結果（将来の保有台数）

問 23 事業所の電気やガス等のエネルギー使用状況【単独回答】

<単純集計>

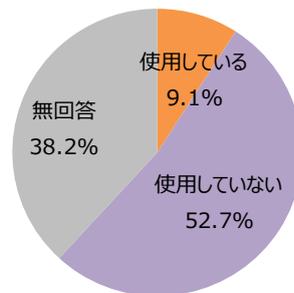
電気、ガソリンの使用率が高く、ガスについては市の一部が都市ガスの供給エリアとなっているため、都市ガスの利用者とプロパンガスの利用者が混在している。また、灯油の利用者も30%近く存在している。

【電気】



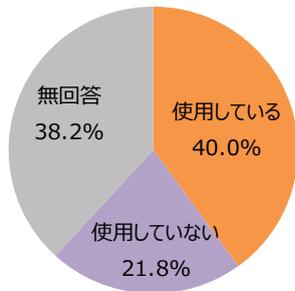
N = 55

【都市ガス】



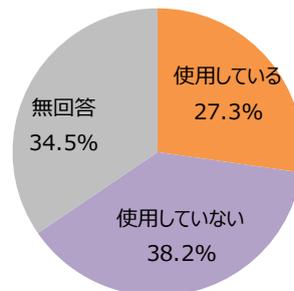
N = 55

【プロパンガス】



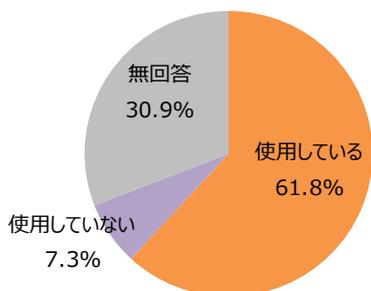
N = 55

【灯油】



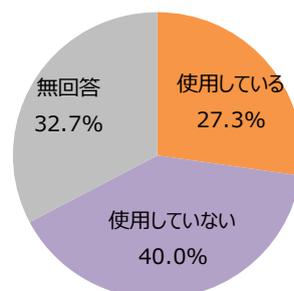
N = 55

【ガソリン】



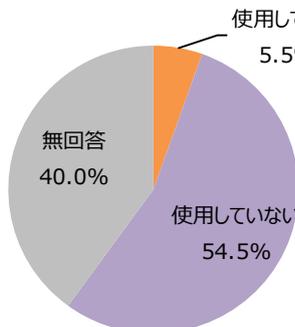
N = 55

【軽油】



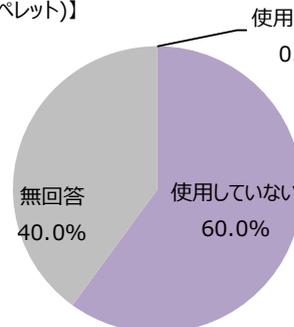
N = 55

【重油】



N = 55

【木材(薪・ペレット)】



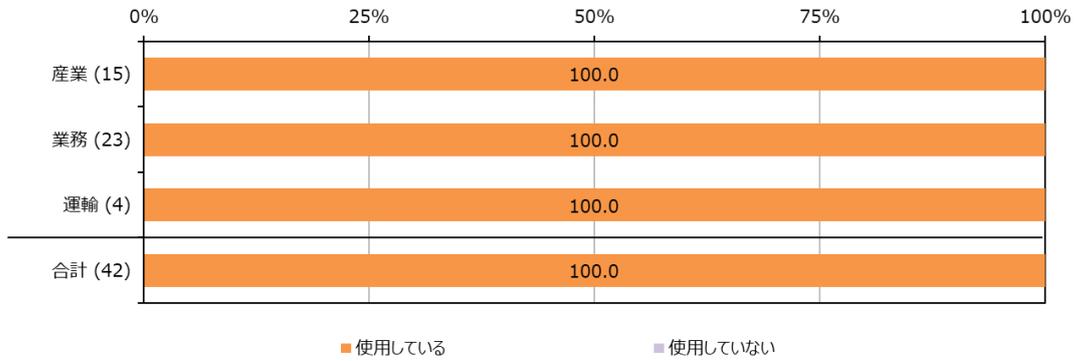
N = 55

図 3-4-86 問 23 の単純集計結果

<クロス集計>

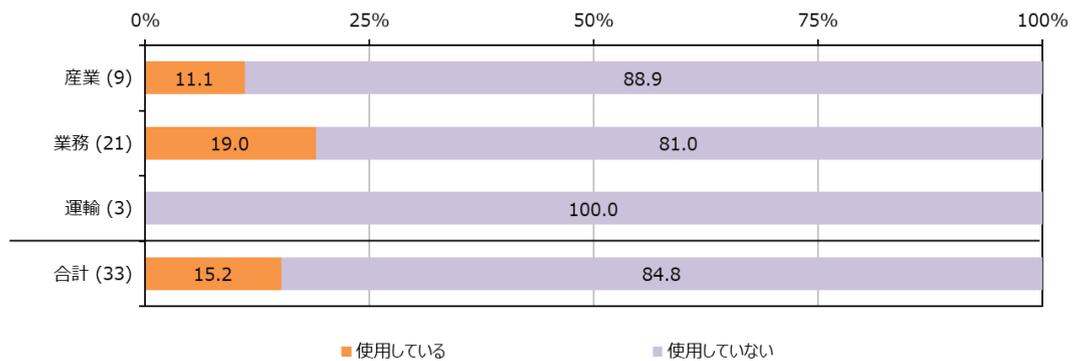
■部門別クロス集計

部門別では、灯油、軽油、重油については、産業部門、運輸部門で使用していると回答した事業者の割合が高い。



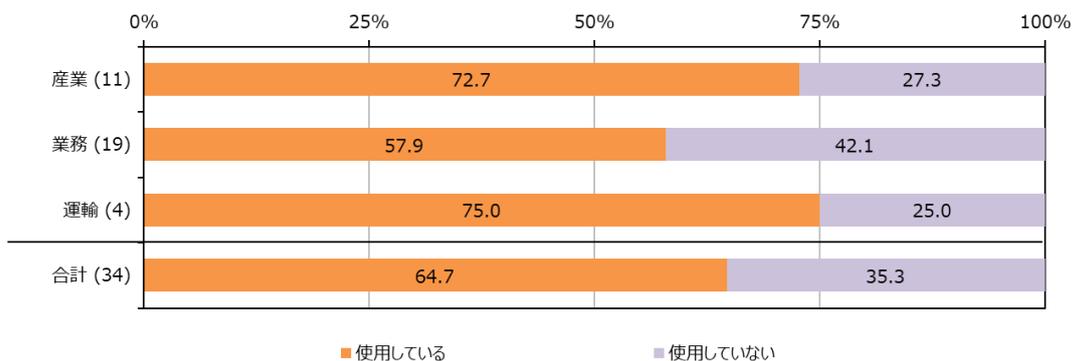
( )内数値：有効回答者数

図 3-4-87 問 23 (電気) のクロス集計結果 (部門別)



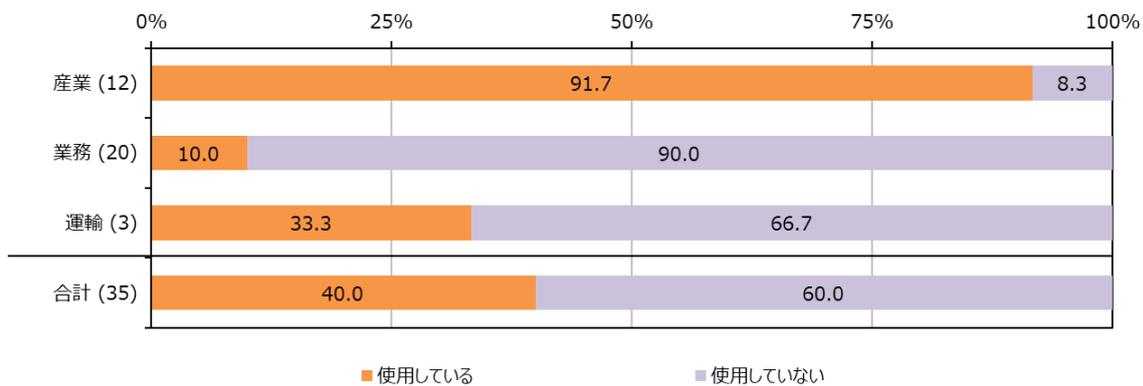
( )内数値：有効回答者数

図 3-4-88 問 23 (都市ガス) のクロス集計結果 (部門別)



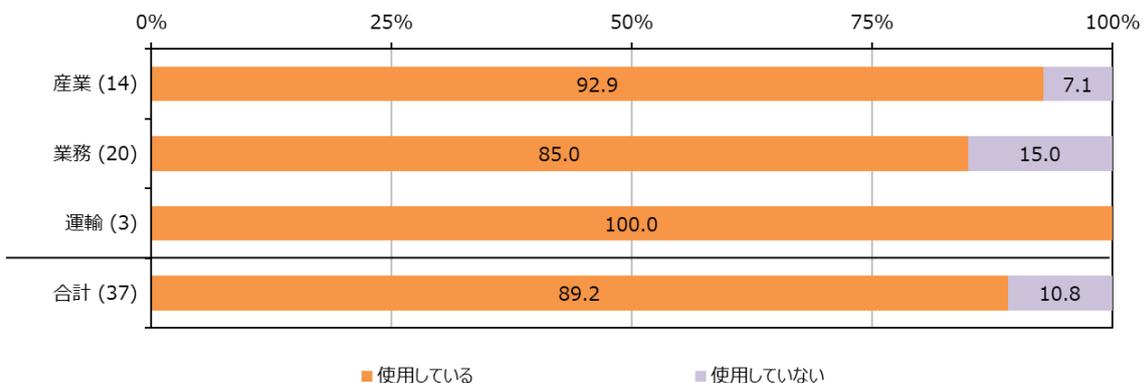
( )内数値：有効回答者数

図 3-4-89 問 23 (プロパンガス) のクロス集計結果 (部門別)



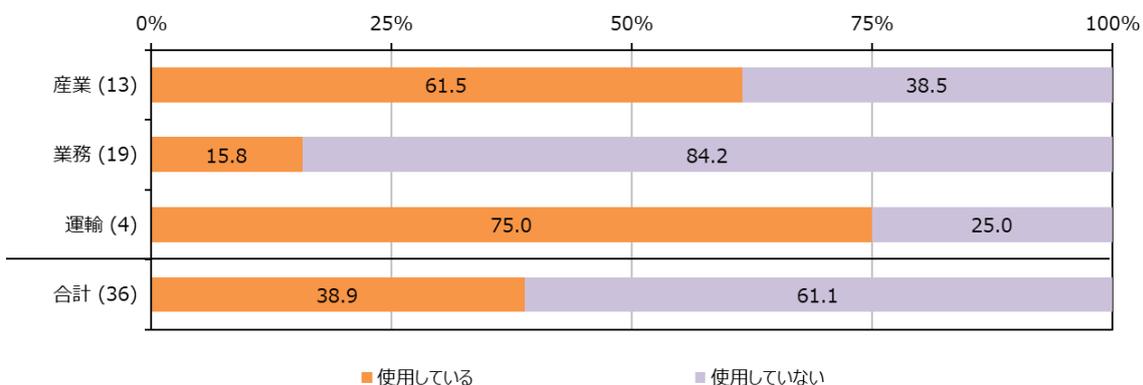
( )内数値：有効回答者数

図 3-4-90 問 23 (灯油) のクロス集計結果 (部門別)



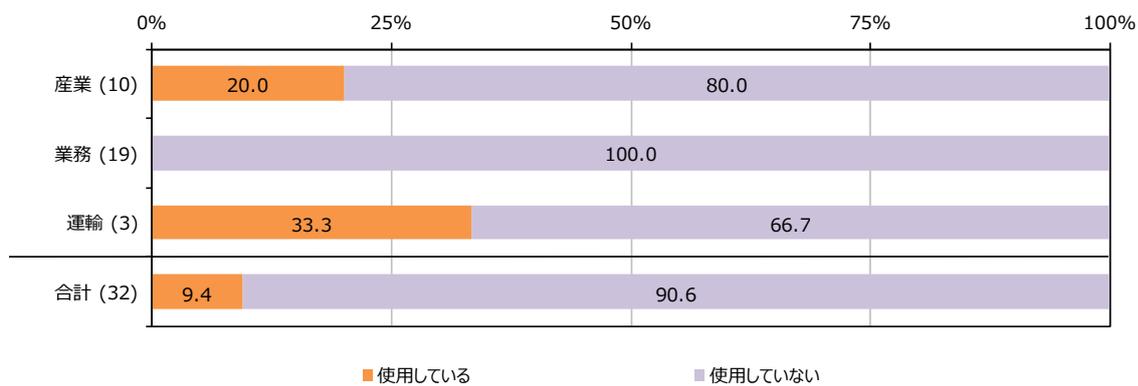
( )内数値：有効回答者数

図 3-4-91 問 23 (ガソリン) のクロス集計結果 (部門別)



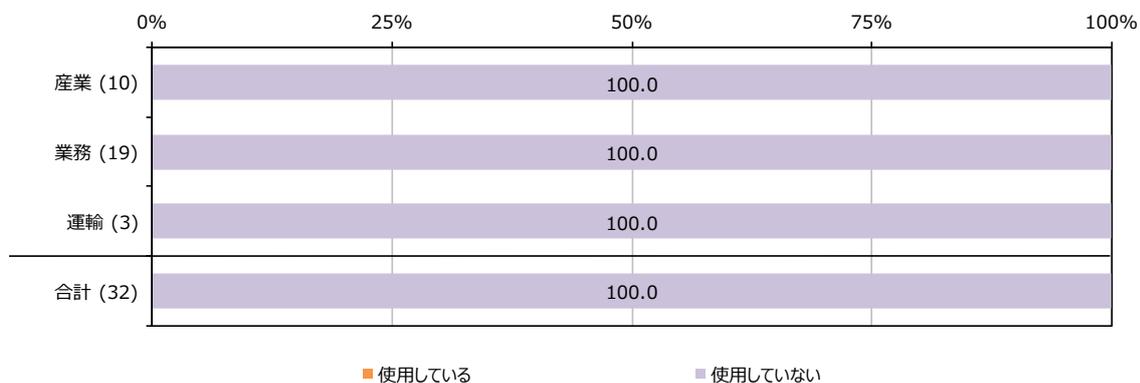
( )内数値：有効回答者数

図 3-4-92 問 23 (軽油) のクロス集計結果 (部門別)



( )内数値：有効回答者数

図 3-4-93 問 23 (重油) のクロス集計結果 (部門別)



( )内数値：有効回答者数

図 3-4-94 問 23 (木材) のクロス集計結果 (部門別)

## (7) 自由記述

誤字脱字については一部修正済

1 自然環境	特になし
2 生活環境	隣市に買い物へ行かなければならないため大型商業施設を作してほしい。仕事場も増え、近くにあればガソリン代もかからずエコに繋がる。歩いて行ければ健康にも繋がる（他県から知り合いを呼ぶのに何もなくて恥ずかしい）
3 快適環境	白岡駅西口周辺の緑化推進をしてほしい。そのために道路整備を進め街路樹を植えること及び駅周辺に公園を整備してほしい。東口駅周辺には緑はあるが、もっと大きな樹を植えて日陰を作ってもらいたい
4 地球環境 ・脱炭素	特になし
5 人づくり (普及啓発等)	特になし
6 環境づくり	柴山沼の周りにあやめ、あじさい等の季節の花木を植えたら良いと思う。
7 補助金	・エコ化するのであれば補助金は不可欠 ・ゴミ処理代が高くなった この地域をより良くしていくことには賛同する。何か協力できることがあれば極力参加もするが、何をするも資金が発生し、何か導入するには資金が必要になるため、補助金等があればより積極的になれる。 白岡市に本店がなくても補助金が受けられると良い。
8 市の環境行政	特になし
アンケートについて	アンケートについて、難しくよく分からない。